

北斗市

館野6遺跡(2)

-高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-

第2分冊

III-2・3 遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

北斗市

館野6遺跡(2)

-高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-

第2分冊

III-2・3 遺構出土の遺物

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

第2分冊（本文III-2・3）目次

目次・挿図目次・表目次

III 遺構の調査と出土遺物（遺構は盛土遺構以外のものをさす　I章参照）	1
2 遺構出土の土器・土製品	1
(1) 竪穴住居	1
(2) 土坑	89
(3) Tビット	89
(4) 焼土	89
(5) 集石	94
(6) 遺物集中	94
3 遺構出土の石器・石製品	98
(1) 竪穴住居	98
(2) 土坑	144
(3) Tビット	144
(4) 焼土	144
(5) 集石	148
(6) 遺物集中	148
4 表	150

第2分冊（本文III-2・3）挿図目次

図III-2-1 遺構出土土器 H18(1~7)	2	図III-2-18 遺構出土土器 H26(1・2)	19
図III-2-2 遺構出土土器 H19(1~6)	3	図III-2-19 遺構出土土器 H26(3)	20
図III-2-3 遺構出土土器 H20(1~4)	4	図III-2-20 遺構出土土器 H26(4~6)	21
図III-2-4 遺構出土土器 H20(5~14)	5	図III-2-21 遺構出土土器 H27(1~8)	23
図III-2-5 遺構出土土器 H20(15~21)	6	図III-2-22 遺構出土土器 H28(1~11)	24
図III-2-6 遺構出土土器 H21(1~5)	7	図III-2-23 遺構出土土器 H29(1~4)	25
図III-2-7 遺構出土土器 H21(6~9)	8	図III-2-24 遺構出土土器 H29(5~8)	26
図III-2-8 遺構出土土器 H21(10・11)	9	図III-2-25 遺構出土土器 H29(9~12)	27
図III-2-9 遺構出土土器 H21(12~20)	10	図III-2-26 遺構出土土器 H29(13~16)	28
図III-2-10 遺構出土土器 H21(21~28)	11	図III-2-27 遺構出土土器 H29(17~24)	29
図III-2-11 遺構出土土器 H21(29~35)	12	図III-2-28 遺構出土土器 H29(25~29)	31
図III-2-12 遺構出土土器 H21(36~40)	13	図III-2-29 遺構出土土器 H29(30~33)	32
図III-2-13 遺構出土土器 H22(1~6)	14	図III-2-30 遺構出土土器 H29(34~37)	33
図III-2-14 遺構出土土器 H23(1~6)	15	図III-2-31 遺構出土土器 H29(38~50)	34
図III-2-15 遺構出土土器 H23(7~21)	16	図III-2-32 遺構出土土器 H30(1)・H31(1~7) ·	
図III-2-16 遺構出土土器 H24(1~11)	17	H32(1~3) · H33(1~3)	35
図III-2-17 遺構出土土器 H25(1~10)	18	図III-2-33 遺構出土土器 H34(1~5)	37

図III-2-34	遺構出土土器	H35(1~8)	38	図III-2-69	遺構出土土器	H58(20~23)・H59(1)	
図III-2-35	遺構出土土器	H36(1~5)	39			83
図III-2-36	遺構出土土器	H36(6~12)	40	図III-2-70	遺構出土土器	H60(1~7)	85
図III-2-37	遺構出土土器	H37(1~2)	41	図III-2-71	遺構出土土器	H62(1~7)・H63(1・2)	
図III-2-38	遺構出土土器	H38(1~5)	43			86
図III-2-39	遺構出土土器	H38(6~9)	44	図III-2-72	遺構出土土器	H64(1~3)・H65(1~3)・	
図III-2-40	遺構出土土器	H38(10~12)	45			H66(1・2)・H67(1)	88
図III-2-41	遺構出土土器	H38(13~20)	46	図III-2-73	遺構出土土器	P45(1・2)・P47(1)	
図III-2-42	遺構出土土器	H39(1~5)	50			90
図III-2-43	遺構出土土器	H39(6~15)	51	図III-2-74	遺構出土土器	P54(1)・P55(1)・	
図III-2-44	遺構出土土器	H39(16~19)	52			P56(1~4)	91
図III-2-45	遺構出土土器	H39(20~23)	53	図III-2-75	遺構出土土器	P60(1)・T P7(1~3)・	
図III-2-46	遺構出土土器	H39(24~27)	54			S5(1)	92
図III-2-47	遺構出土土器	H39(28~33)	55	図III-2-76	遺構出土土器	F65(1・2)	93
図III-2-48	遺構出土土器	H39(34~41)	56	図III-2-77	遺構出土土器	F82(1~9)	95
図III-2-49	遺構出土土器	H39(42~47)	57	図III-2-78	遺構出土土器	F82(10~20)	96
図III-2-50	遺構出土土器	H39(48~51)	58	図III-2-79	遺構出土土器	F82(21~25)	97
図III-2-51	遺構出土土器	H39(52~55)	59	図III-2-80	遺構出土土器	F82(26~33)	98
図III-2-52	遺構出土土器	H39(56~62)	60				
図III-2-53	遺構出土土器	H39(63~65)・		図III-3-1	遺構出土石器	H18(1~6)	99
		H40(1・2)	62	図III-3-2	遺構出土石器	H18(7~12)	100
図III-2-54	遺構出土土器	H41(1~3)	63	図III-3-3	遺構出土石器	H18 挖り上げ土(1~6)	
図III-2-55	遺構出土土器	H41(4~7)	64			101
図III-2-56	遺構出土土器	H41(8~13)	65	図III-3-4	遺構出土石器	H19(1~13)	102
図III-2-57	遺構出土土器	H42(1・2)・H43(1~3)・		図III-3-5	遺構出土石器	H19(14~18)・	
		H44(1・2)・H45(1・2)	66			H20(1~3)	103
図III-2-58	遺構出土土器	H46(1~9)	68	図III-3-6	遺構出土石器	H21(1~7)・H23(1)	
図III-2-59	遺構出土土器	H47(1・2)・H48(1・2)・				105
		H49(1)・H50(1)・H51(1~8)	69	図III-3-7	遺構出土石器	H23(2~10)	106
図III-2-60	遺構出土土器	H52(1・2)・H53(1~3)・		図III-3-8	遺構出土石器	H24(1~4)・H25(1~4)	
		H54(1~3)・H55(1~3)	71			108
図III-2-61	遺構出土土器	H56(1~5)	72	図III-3-9	遺構出土石器	H25(5~7)・H26(1~5)	
図III-2-62	遺構出土土器	H56(6)・H57(1~3)				109
		73	図III-3-10	遺構出土石器	H26(6~9)・H27(1~5)	
図III-2-63	遺構出土土器	H57(4~7)	75			110
図III-2-64	遺構出土土器	H58(1~4)	78	図III-3-11	遺構出土石器	H27(6~8)・H28(1・2)	
図III-2-65	遺構出土土器	H58(5・6)	79			111
図III-2-66	遺構出土土器	H58(7~10)	80	図III-3-12	遺構出土石器	H28(3~11)	112
図III-2-67	遺構出土土器	H58(11~14)	81	図III-3-13	遺構出土石器	H28(12~15)	113
図III-2-68	遺構出土土器	H58(15~19)	82	図III-3-14	遺構出土石器	H29(1~11)	115

图Ⅲ-3-15 造構出土石器 H29(12~16)	116	图Ⅲ-3-30 造構出土石器 H52(4~8)・H53(1・2)	133
图Ⅲ-3-16 造構出土石器 H30(1~8)	117	图Ⅲ-3-31 造構出土石器 H54(1~5)	135
图Ⅲ-3-17 造構出土石器 H31(1~5)	118	图Ⅲ-3-32 造構出土石器 H55(1~5)・H56(1~3)	136
图Ⅲ-3-18 造構出土石器 H31(6~10)・H32(1)	119		
图Ⅲ-3-19 造構出土石器 H33(1~7)	120	图Ⅲ-3-33 造構出土石器 H57(1~3)・H58(1~7)	137
图Ⅲ-3-20 造構出土石器 H34(1~6)・H35(1・2)	122	图Ⅲ-3-34 造構出土石器 H60(1~7)	138
图Ⅲ-3-21 造構出土石器 H35(3)・H36(1~3)・H37(1~6)	123	图Ⅲ-3-35 造構出土石器 H62(1~5)・H63(1)	140
图Ⅲ-3-22 造構出土石器 H37(7~14)・H38(1)	124	图Ⅲ-3-36 造構出土石器 H64(1~4)・H65(1)・H66(1・2)	141
图Ⅲ-3-23 造構出土石器 H38(2~5)・H39(1~12)	125	图Ⅲ-3-37 造構出土石器 H66(3~5)・H67(1~5)	142
图Ⅲ-3-24 造構出土石器 H39(13~16)	126	图Ⅲ-3-38 造構出土石器 H67(6~11)	143
图Ⅲ-3-25 造構出土石器 H39(17~20)・H40(1)	127	图Ⅲ-3-39 造構出土石器 P43(1~17)・P51(1~3)・P55(1~4)	145
图Ⅲ-3-26 造構出土石器 H41(1~7)	129	图Ⅲ-3-40 造構出土石器 P56(1~7)	146
图Ⅲ-3-27 造構出土石器 H43(1~3)・H44(1~3)	130	图Ⅲ-3-41 造構出土石器 P56(8~16)	147
图Ⅲ-3-28 造構出土石器 H45(1・2)・H46(1)・H49(1)・H51(1~4)	131	图Ⅲ-3-42 造構出土石器 P56(17~19)	148
图Ⅲ-3-29 造構出土石器 H51(5~8)・H52(1~3)	132	图Ⅲ-3-43 造構出土石器 F79(1~3)・F82(1~3)・S5(1)	149

第2分冊（本文Ⅲ-2・3）表目次

表Ⅲ-4 造構出土揭載復元土器一覽	150
表Ⅲ-5 造構出土揭載復元土器接合破片一覽	159
表Ⅲ-6 造構出土揭載土器破片拓影化一覽	163
表Ⅲ-7 造構出土石器一覽	171

2 遺構出土の土器・土製品

この項に掲載した土器はいずれも縄文時代の土器である。詳細は「観察表（表III-4 遺構掲載復元土器一覧）」に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊第Ⅲ章1項の遺構図で「掲載番号1の土器・土製品」ならば「土1」のように示した。復元個体については「観察表（表III-4 遺構掲載復元土器一覧）」と別に「接合状況・未接合だが同一個体と思われる破片一覧（表III-5 遺構掲載復元土器接合破片一覧）」を示した。復元に至らなかったもので、破片資料を拓影図化したものについては、両者をまとめた体裁の別表（表III-6 遺構掲載土器破片拓影化一覧）に示した。当調査範囲において地文の縄文の撚りが複雑な縄文土器が多いため拓本による拓影図を多用した。従って復元個体か否かは図上ではわかりにくい側面を持つ。表III-4 復元土器一覧にない個体は表III-6に掲載されている。

本文中でNa付きで示された数字はそれぞれの遺構について遺物出土位置を現場で記録した点取り番号である。特に記載が無いものは掲載番号である。Na数字の後に（）付きで掲載番号を示している場合もある。遺物番号とあるのは遺物収集帳（遺物台帳）上の記録番号である。

（1）堅穴住居

H18：床面直上とベンチ直上から同一個体の円筒下層d式が出土している。1～5は覆土1層出土である。1、2は中期前半の土器、3～5は前期後半の土器である。

1は隆帯区画内に半截竹管によりC字型の刺突列が充填される。2は口縁の残存部からいずれも中期前業、円筒上層a式と考える。1は最初、円筒上層c式の可能性を考えたが、段階H58-1・2と並行する円筒上層a式の最新ものとした。縦区画が横方向に連続する。これが口縁部に上下2段配される。

5は多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を丁寧に擦って円形に成形している。中央に穿孔を持つ。再生土製品と称したものである。3は結束第一種羽状縄文が縦方向に連続してはしる土器である。口縁部文様帯にも結束第一種羽状縄文が2段巡る。4は結束第二種羽状縄文が横回転したものを帶状に3段持つ。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。

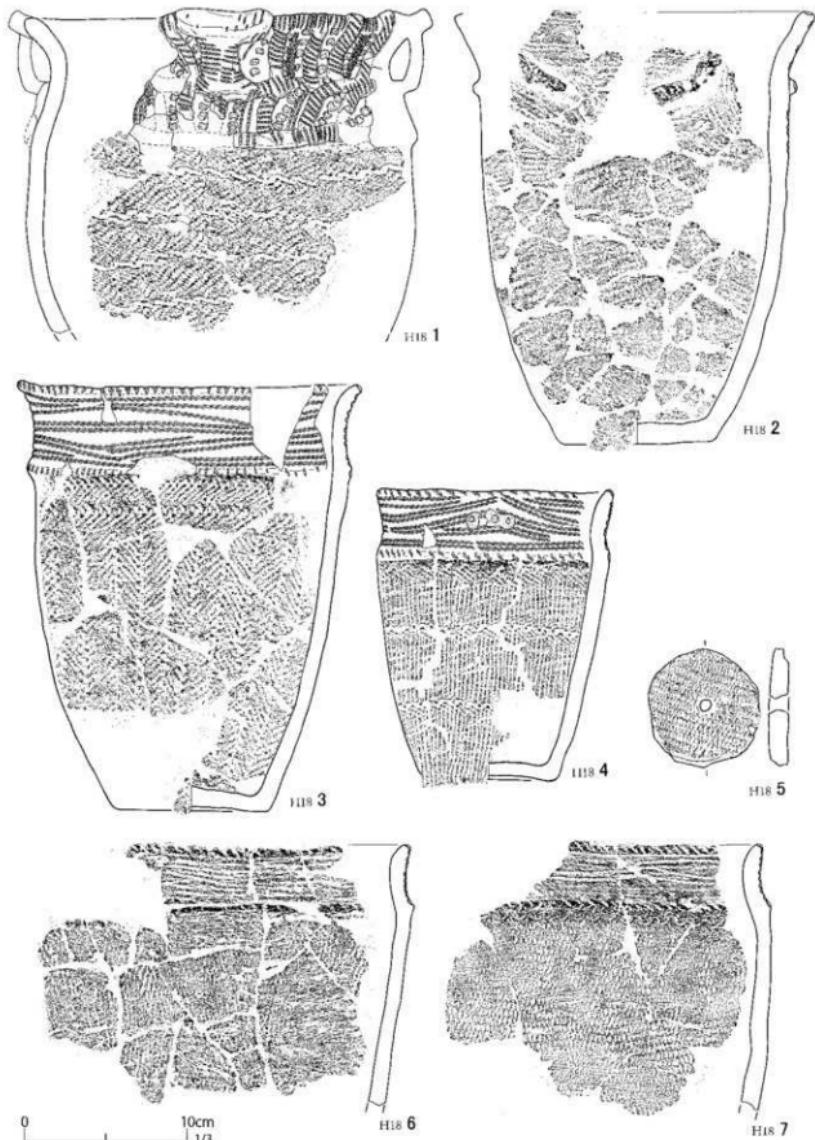
6は床面、7はベンチ上から出土した土器である。いずれも円筒下層d式土器で、同一個体と考える。ベンチと床面で出土土器が共通する事となる。

H19：覆土1層と覆土2層いずれも同一個体のまとまりは無かった。縄文時代前期後半円筒下層b式から円筒下層d式2式、さらに一部は中期円筒上層a式まで出土している。また円筒下層b式については磨滅が著しい破片ばかりである。

覆土2層で円筒下層d式の同一個体のまとまり4が出土している。2は覆土1層、1・3・4は覆土2層からの出土、5は覆土1層と2層出土のものが接合した。2・3は再生土製品である。2は円筒下層d式、3は円筒下層b式の土器片である。1は中期初頭の口縁部破片である。4・5は円筒下層d2式土器である。いずれも口縁部文様帯の幅が広い。5は半截竹管による連続刺突を持ち、4は口縁部文様帯直下に結束第一種羽状縄文が回転する。

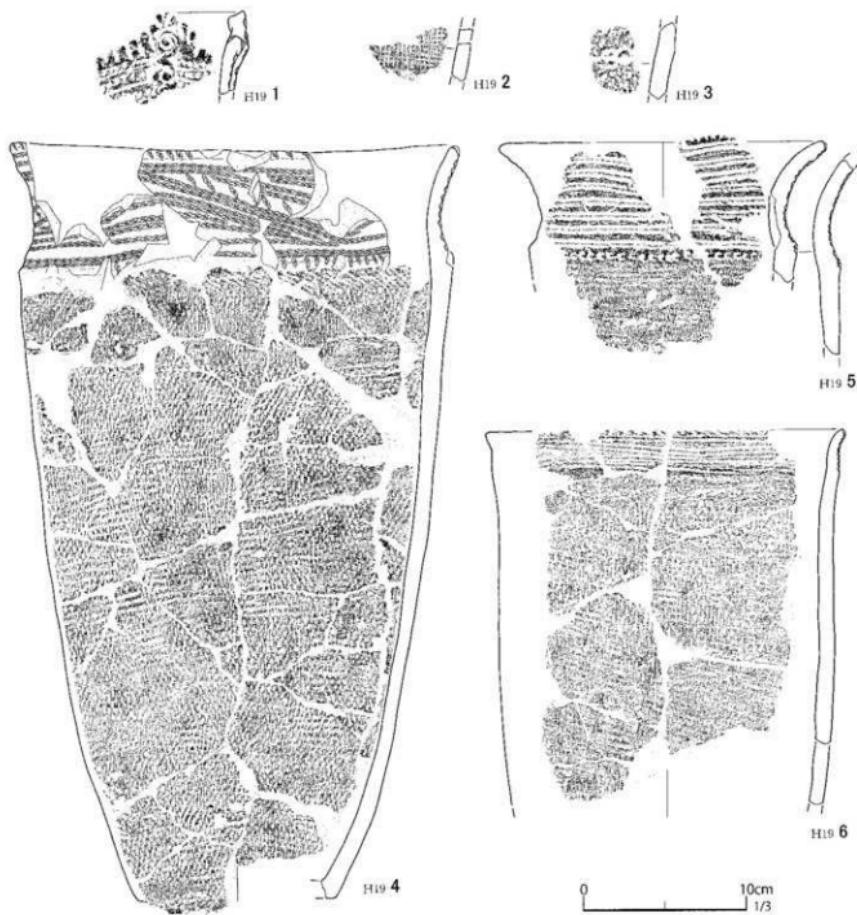
6は床面出土である。口縁部文様帯の幅が狭く、円筒下層d2式最古段階あるいはd1式最新段階と考える。

H18



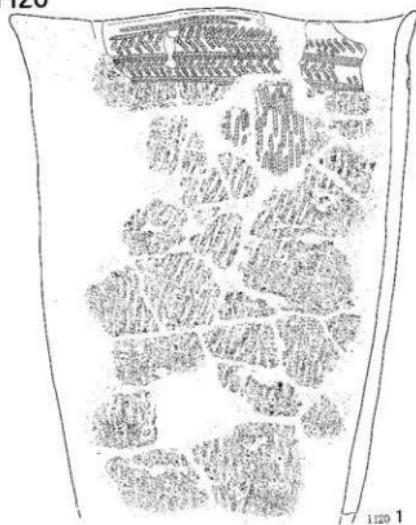
図III-2-1 遺構出土土器 H18(1~7)

H19

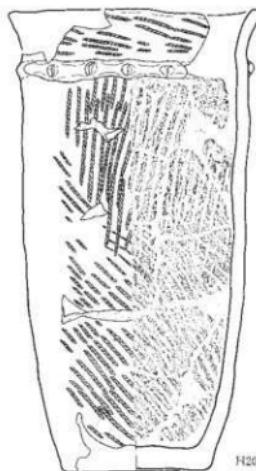


図III-2-2 造構出土土器 H19(1~6)

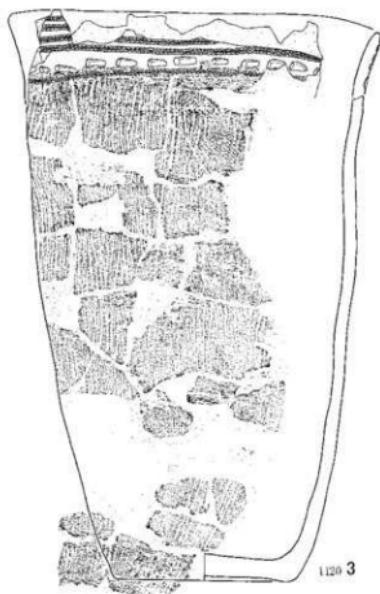
H20



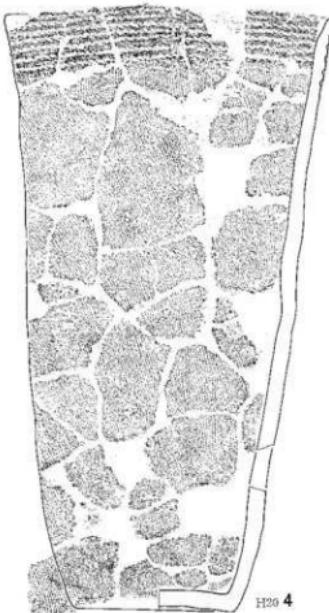
H20 1



H20 2



H20 3

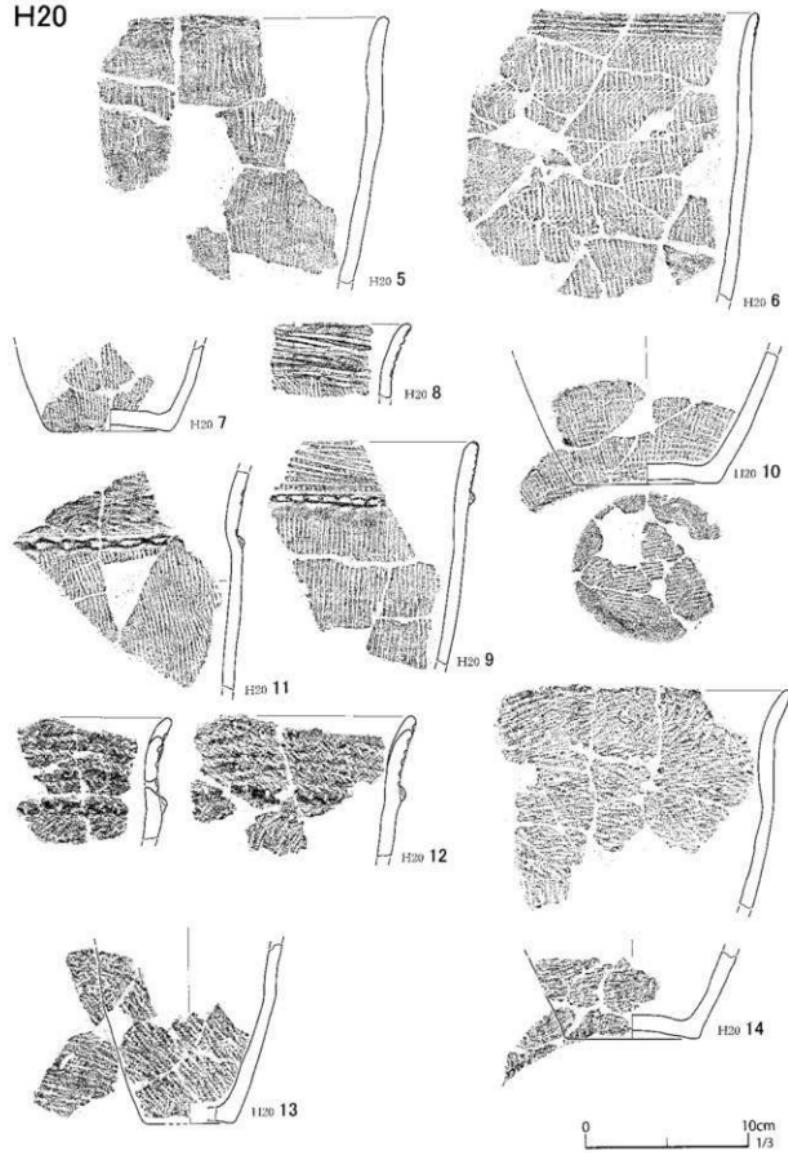


H20 4

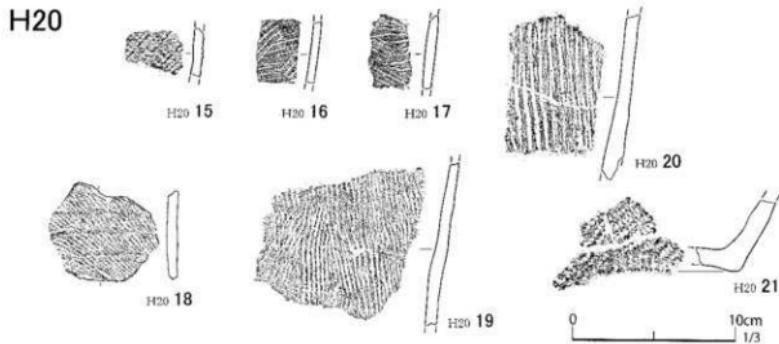
0 10cm
1/3

図III-2-3 遺構出土土器 H20(1~4)

H20



図III-2-4 遺構出土土器 H20(5~14)



図III-2-5 遺構出土土器 H20(15~21)

H20: 底面の点取りどうしは接合しなかった。復元土器1~4は住居廃絶後の窓みの中央部から出土した。円筒下層b2式から円筒下層d1式にかけての時期であった。

1・3は円筒下層d1式古段階、2は円筒下層b2式、4は円筒下層c式である。いずれもベルトやトレーナーといった住居廃絶後、窓みだった場所に廃棄されたものである。撮影図資料についても同様に円筒下層c式から下層d1式までのものが目立つ(5~14)。M4盛土を掘り込んでいる家であり、1・3・4は明らかにM4盛土より新しい。覆土は盛土を掘り返した土の流入土であって縄文時代早期(15~18)から、円筒下層c式(8)、円筒下層d1式(5~7・9・10)までの土器が入り込む。底面からは円筒下層b2~c式(20・21)の破片が出土している。

H21: 円筒下層c式に限りなく近い下層d1式(1・2・5)が出土するが、残存率は良好ではない。H29に比べると円筒下層c式に近い円筒下層d1式が多い7(HP-11・14ほか出土)・3(覆土7層出土)7層を中心として円筒下層d1式がまとまっている(4~7・10・11)。ここからはH39と接合したH39-53の破片も出土している。より下位の9層から円筒下層d1式古段階である8も出土する。点取り番号No.31は6である。胎土に砂粒が多い点で他の円筒下層d1式と異なっている。RL縄自繩自巻縄文が継ぎ足す。然りが他のものと比較してゆるい。

7層北側から出土の復元個体3は円筒下層d1式古段階古。7層東側から出土の復元個体6~10は円筒下層d1式古段階古。7層北側と7層東側が接合した、復元個体4・11は円筒下層d1式古段階古。7層北側と7層東側、HP-11・14とも接合したものは、復元個体7で円筒下層d1式古段階古。7層南側から出土の復元個体1・2・5は円筒下層d1式古段階古。7層中央復元H39-53(H39-点取り番号No.27・28・33・34と接合)H21覆土中には菱形を基調とする直線構成の文様がある円筒下層d1式として、復元出来なかつた26があるのみ。「円筒下層d1式古段階古」とした、H29覆土下位とH21はほぼ同じ時期である。

覆土9層の8、覆土7層南側からは1・2・5など円筒下層d1式最古段階のものが出土しているが、残存状態が悪い。このころの盛土を掘りこんで逆に流入してきた可能性がある。覆土7層北側を中心に出土した3・4・6・7・9~11は円筒下層d1式古段階古である。

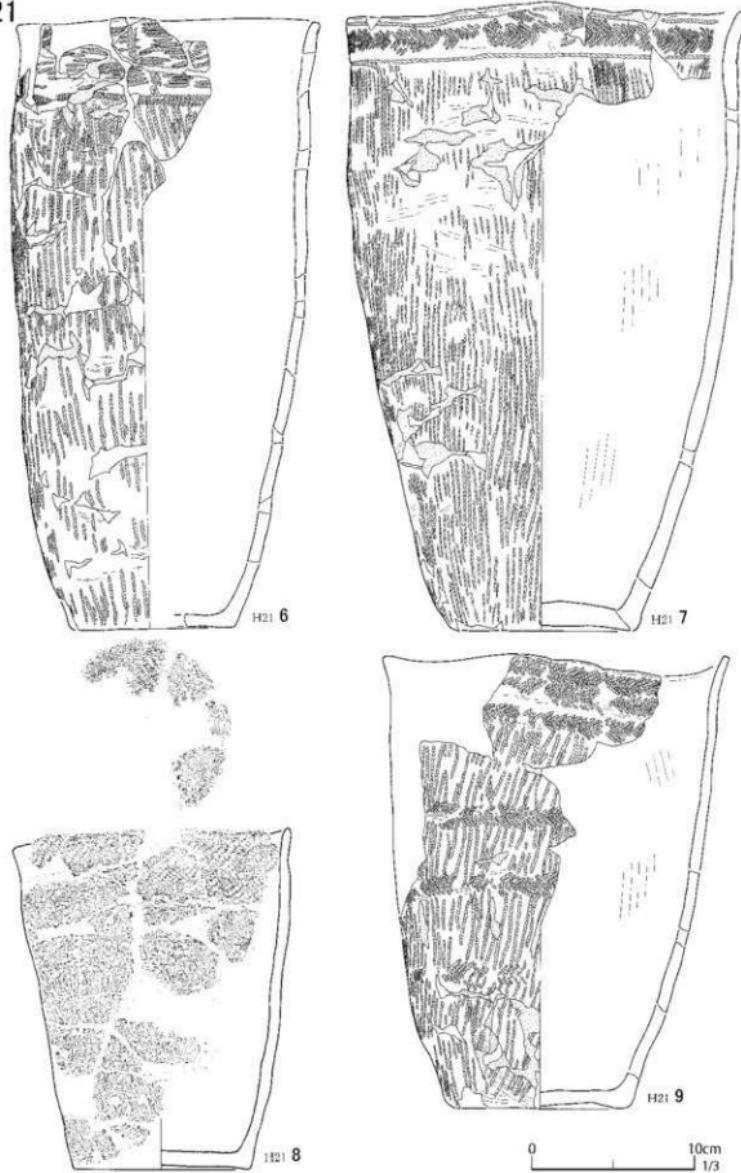
12~14・16・17・26は覆土東側上位から出土した。12は焼成粘土塊である。13・14・16・17・26は円筒下層d1式である。26は中央から東側にかけて覆土上位からの出土である。13のように明瞭な隆帯による口縁部文様帯を区画する個体は調査範囲内では少ない。14の口縁部文様帯には結束第一種羽状縄文の対向がみられる。26は山形文が鋸歯状に連続する。菱形文風である。いずれも円筒

H21

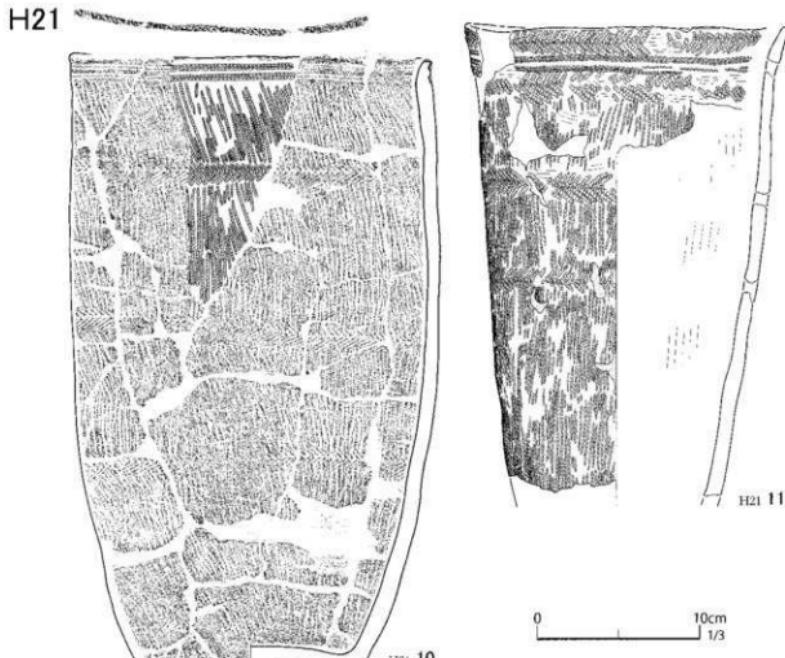


図III-2-6 造構出土土器 H21(1~5)

H21



図III-2-7 遺構出土土器 H21(6~9)



図III-2-8 遺構出土土器 H21(10・11)

下層 b 式起源で円筒下層 c 式にかけて盛行した文様に由来する。

15・18・19は覆土東側壁際から出土した土器片である。15・18は円筒下層 d1式、19は円筒下層 c 式である。地文が合歛りと、古い傾向が残る。肩部で口縁部文様帯を区画するタイプは調査区内では少ない。18は二対の補修孔を持ち、縁辺を四角く成形した、再生土製品の一類という可能性がある。

20・22~25・28は覆土東側下位から出土した。20は東側上位のものと接合した円筒下層 d1式、28は円筒下層 c 式、22~25は焼成粘土塊である。

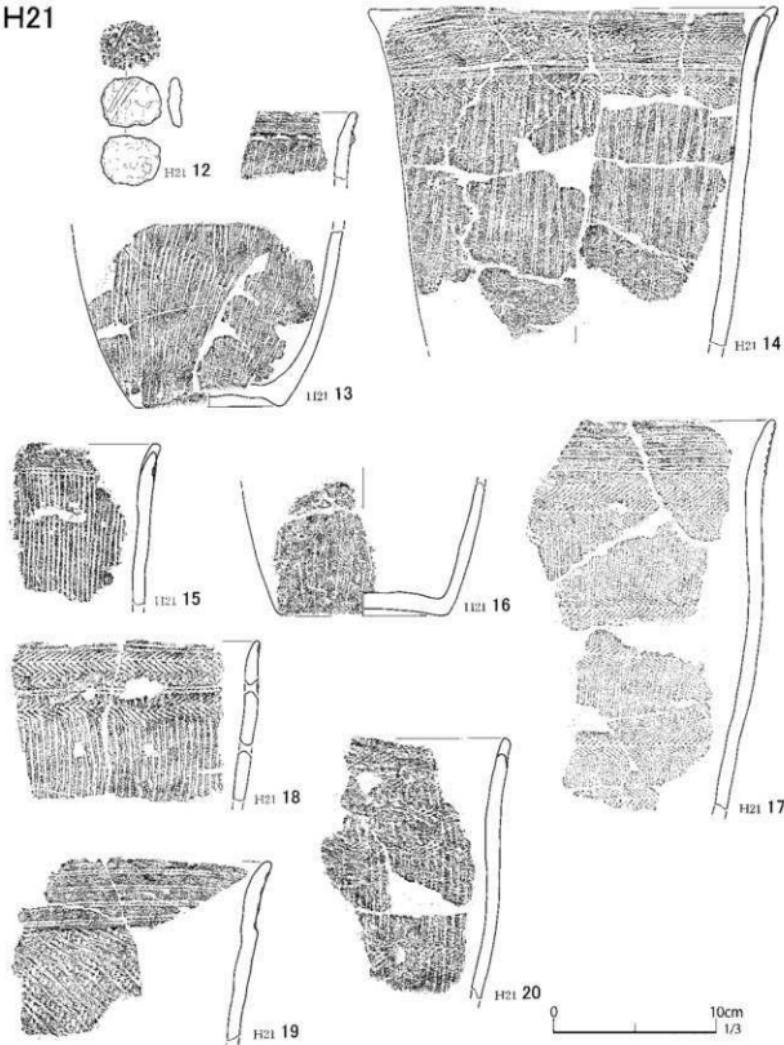
21・27・30・33は覆土7層から出土した。30・33は覆土7層上位からの出土である。30は円筒下層 b2~c式期の胴部片を加工したものである。縁辺を打ち欠きと擦り切りによって円形に成形し、ほぼ中央に穿孔する。21・27・33は円筒下層 d1式である。21は、覆土9層をはじめとして広範間に破片が散らばっていた。33は筒型の深鉢で、一段階前の器形を思わせたが、文様は円筒下層 d1式のそれである。破片数は多かったが、胴部と口縁部の接点はなかった。

29は覆土下位から出土した。円筒下層 b 式の底部際破片を成形した再生土製品の可能性がある。

32・36は覆土9層から出土した。32は円筒下層 d1式である。36は円筒下層 b2式の古段階のものである。縄文地文。隆帶で口縁部を区画する。

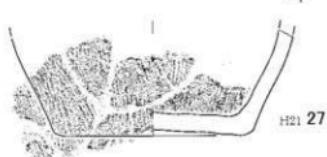
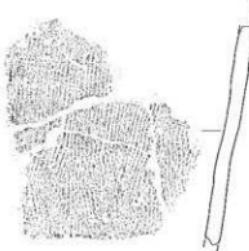
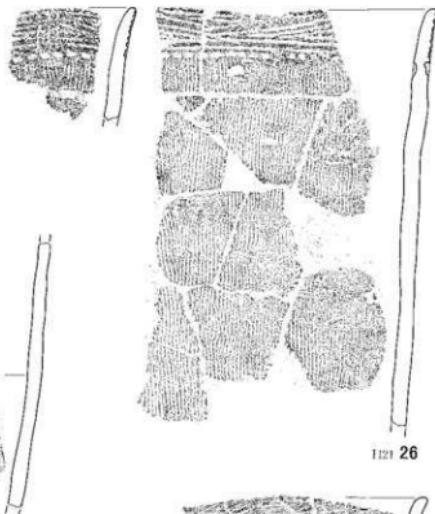
31・35は覆土上位南側から出土した。34は覆土上位から出土した。38は覆土西側から出土した。37・39は覆土からの出土である。Aトレンチからの出土なので住居中央部分である。いずれも円筒

H21



図III-2-9 遺構出土土器 H21(12~20)

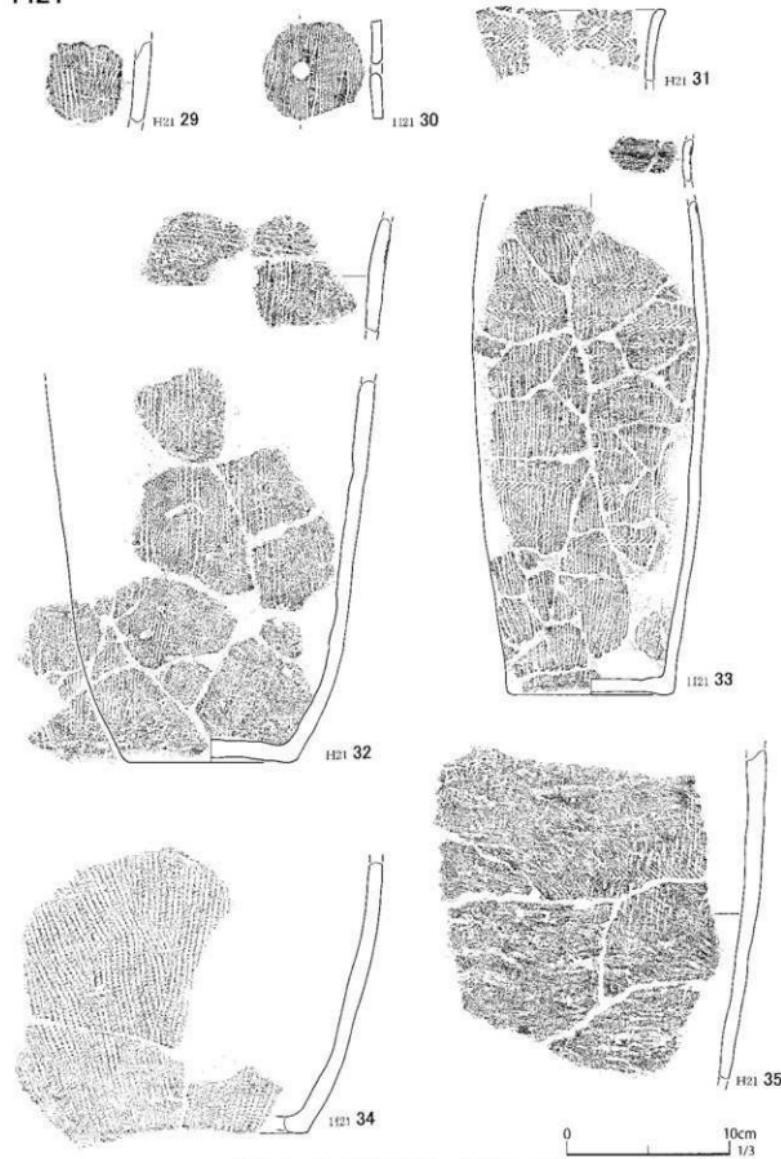
H21



0 10cm
1/3

図 III-2-10 遺構出土土器 H21(21~28)

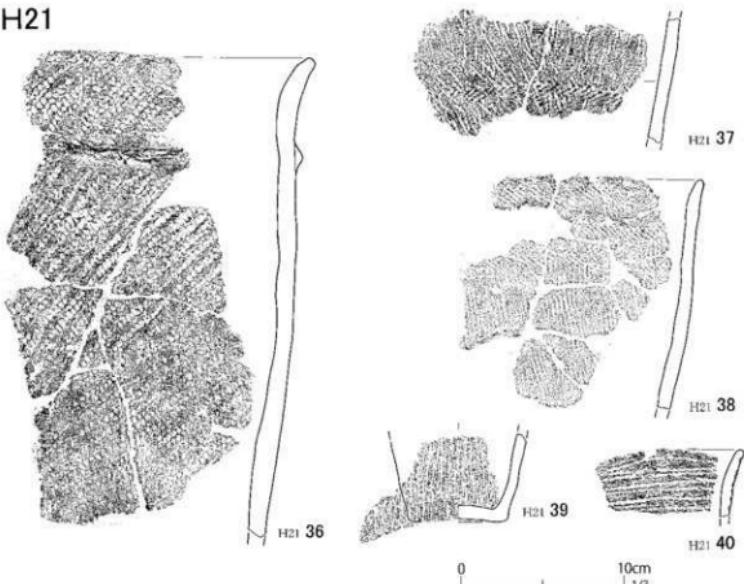
H21



図III-2-11 遺構出土土器 H21(29~35)

0 10cm
1/3

H21



図III-2-12 遺構出土土器 H21(36~40)

下層d1式である。

40は床面から出土した円筒下層c式の口縁部破片である。繩線で加飾する。

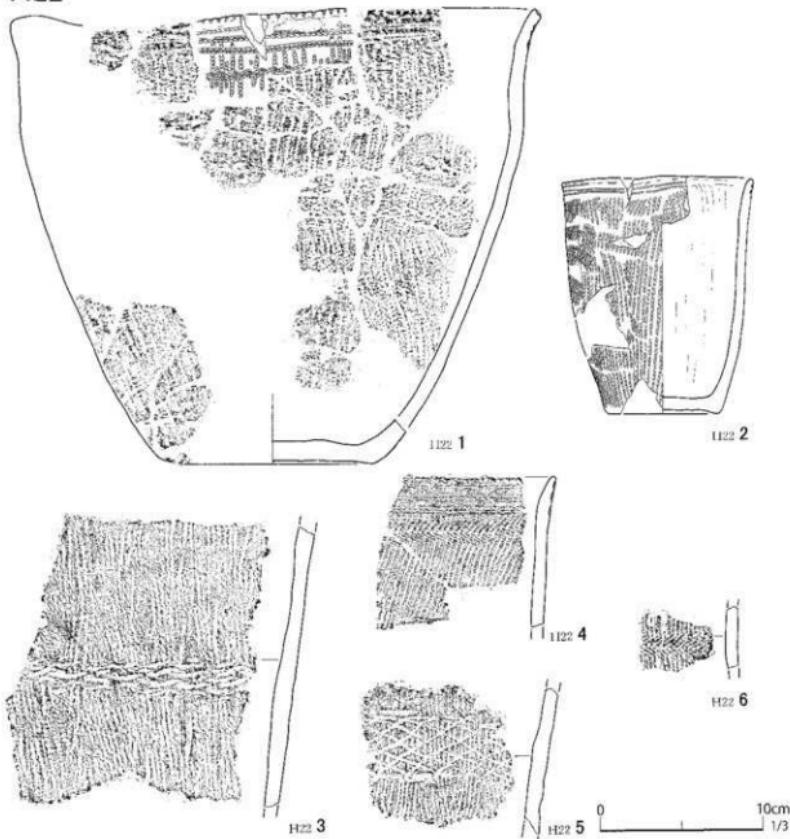
H22：覆土下位から、円筒下層d1式古段階（1・2）およびHP-2から、円筒下層d1式（6）が出土している。1は覆土5層からまとめて出土した。円筒下層d1式で磨滅が著しい。他個体と比較して、器高に比べて径が大きい。2は覆土東側からまとめて出土した。円筒下層d1式で小型の深鉢である。

3・5は覆土中から出土した円筒下層b式の破片である。いずれも胴部中央に帯状の文様帯を持つ。3は結節回転、5は単軸絡条体第5類横回転。4・6は円筒下層d1式である。4は覆土の西側から出土し、古段階の可能性がある。6は付属遺構HP-22覆土中から出土した胴部破片である。

H23：1・5・6は覆土中から出土した円筒下層d式土器である。1は円筒下層d1式の小型深鉢。点取りNo1は円筒下層d1式の複数個体の破片によって構成されているが、このうちに混じっていた。5は円筒下層d2式で点取りNo3である。器壁が厚く、肩部が明瞭に張り出す。6は覆土3層から出土した円筒下層d式で、結節の帶が胴部中央を巡ることから古手のものだが、幅広い口縁部文様帯を持つ。調査区内でまとめて出土した円筒下層d1式よりは新しいあるいは、異系統の土器である。点取りNo3である。

2・3はIV群a類土器である。2は小型深鉢で、口縁部の形態から、涌元式～トリサキ式に並行す

H22



図III-2-13 遺構出土土器 H22(1~6)

る。十腰内式由来の沈線文を持たない。3は高台状の脚である。

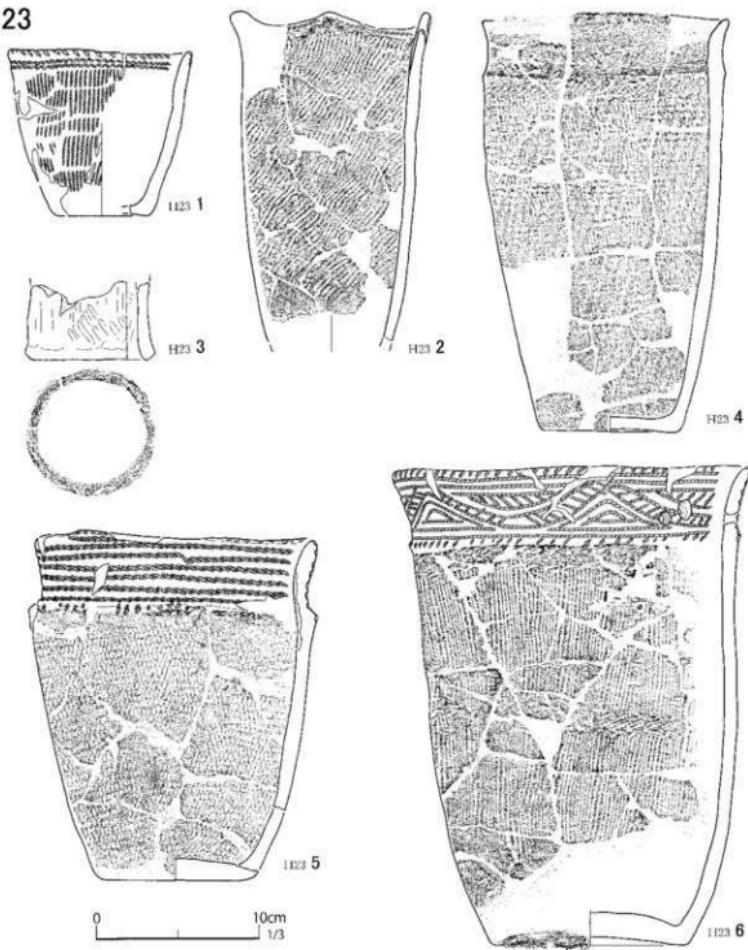
4は覆土2層から出土した円筒下層d1式、円筒下層c式に近い古手のもので磨滅が著しい。点取りNo.2である。多軸絡条体地文を持つ。

7・8・11は点取りNo.1あるいはNo.2に混在していた円筒下層d1式である。7はNo.1、8はNo.2、11はNo.1とNo.2両方の遺物が接合した。

9・12・13は覆土出土点取りNo.3に混在していた。9は円筒下層d1式、12・13は下層d2式の可能性がある。9は胴下半部破片である。12は焼成以前の穿孔を持つ。13は底部から胴部にかけての破片である。

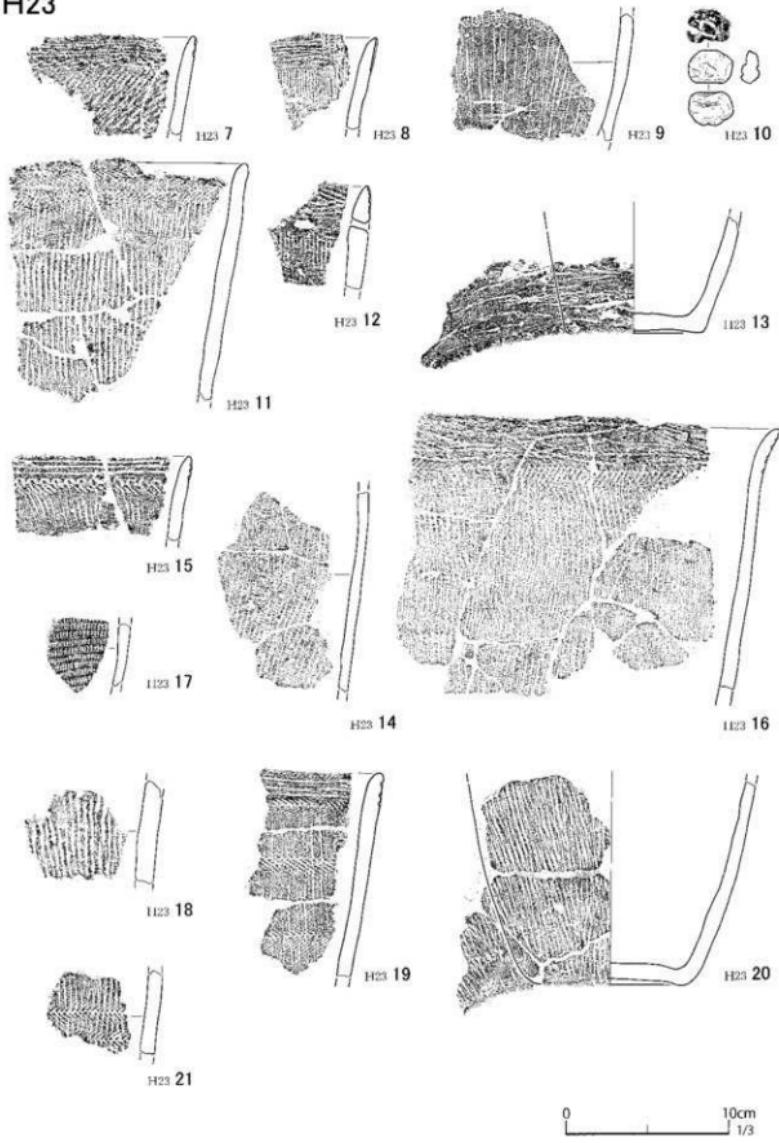
10は覆土出土の焼成粘土塊であり、繊維を含む事から円筒下層式の胎土と共通する。

H23



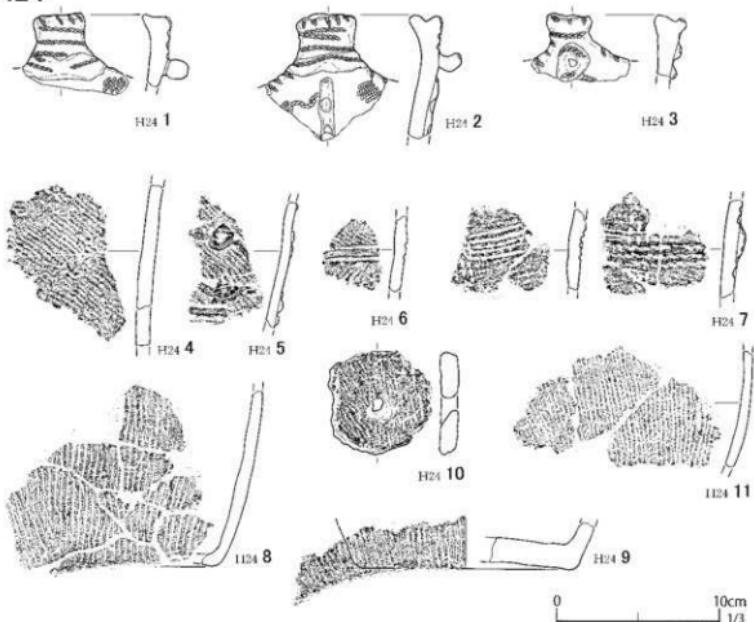
図III-2-14 遺構出土土器 H23(1~6)

H23



図III-2-15 遺構出土土器 H23(7~21)

H24



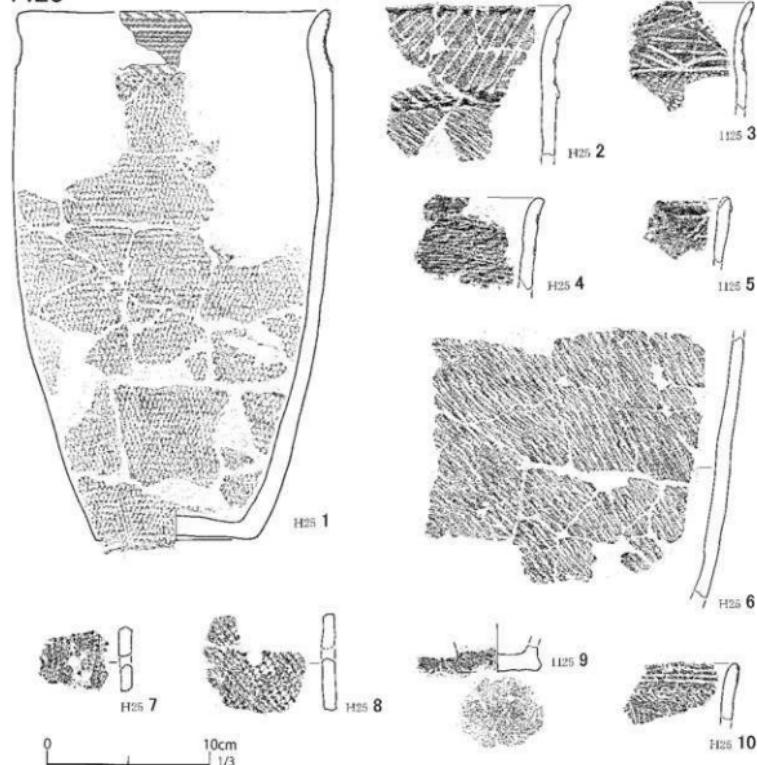
図III-2-16 遺構出土土器 H24(1~11)

14・16は点取りNo.4から抽出した円筒下層d1式である。

17~20は覆土からの出土である19・20は円筒下層d1式である。17は縄文時代早期コッタロ式ないしは中茶路式である。18は円筒下層b式である。21は付属遺構HP-2の覆土から出土した円筒下層d1式土器である。

H24: 1は床面出土のものでサイベ沢Ⅳ式である。2~4・6は覆土2層出土遺物で、サイベ沢Ⅶ式である。5は覆土1層と覆土2層出土遺物が接合したもので、円筒上層d式である。7は覆土1層と覆土2層で同一個体片が出土地した。Ⅲ群b類大安在B式である。8・9は覆土2層出土遺物で、円筒下層d1式である。10は覆土2層出土で、円筒下層b式から円筒下層c式にかけての土器胴部片である。縁辺を打ち欠き、中央に穿孔がある。11は床面遺物と覆土2層出土遺物が接合した。円筒下層b式後半である。

H25



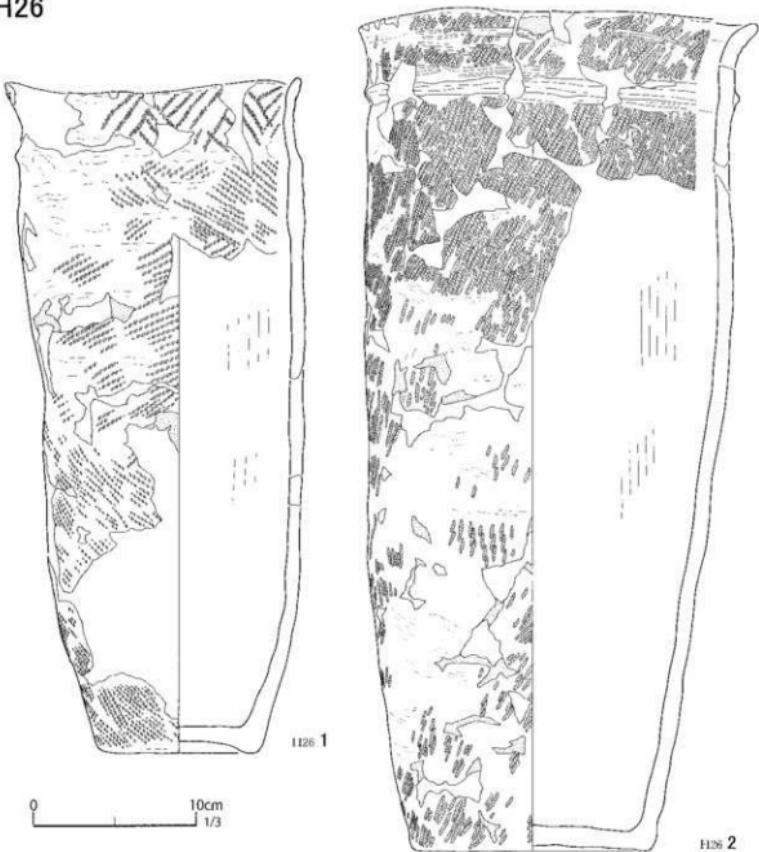
図III-2-17 遺構出土土器 H25(1~10)

H25：1は覆土1層から出土した。円筒下層d2式である。2は覆土1層と覆土2層出土のものが接合した。円筒下層c式である。3・4は覆土1層出土である。円筒下層c式である。5は覆土1層からの出土で、サイベ沢Ⅶ式の口縁部破片である。6は覆土2層出土である。円筒下層c式である。

7は覆土2層出土である。円筒下層b式から円筒下層c式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。8は付属遺構HP-2覆土出土である。円筒下層b式の胴部破片である。縁辺を打ち欠いて中央に穿孔する。再生土製品に関連するものとした。

10は床面出土である。円筒下層d1式の口縁部破片である。9は付属遺構HF-1覆土3層出土である。平底で小型の底部である。円筒下層d1式かⅢ群a類土器の可能性がある。

H26

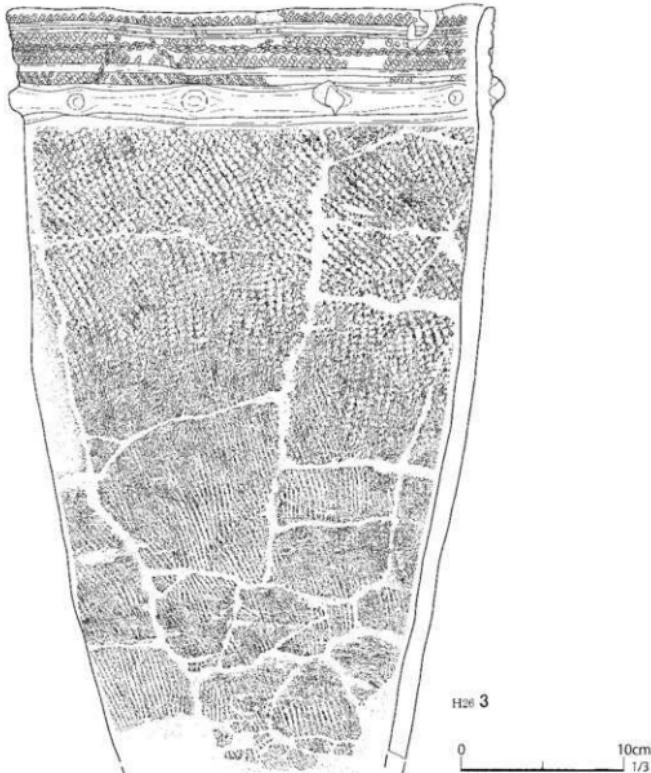


図III-2-18 造構出土土器 H26 (1・2)

H26：床面から円筒下層b式から下層c式にかけての土器が出土している。第Ⅲ章1項「造構の調査」でも述べたが、調査後に写真と図面で検討したところ床面よりやや高い位置でまとまって出土しており、「覆土2層廃棄層出土遺物」である。同じH26廃絶後の窪みから出土したM6-2点取り土器群もこのH26覆土2層のもので、同じまとまりであった。これらのうち復元できた、その場で潰れていた土器群[H26床面出土3~6と、M6-2点取り遺物1(点取りNo.1)と2(点取りNo.2)]は円筒下層c式古段階とでもいうべきまとまりである。沈線と隆帯によって口縁部区画を加飾する。

H26廃絶後、44Y区で取り上げられたM6-2出土遺物はM6に掘り込まれたH26堅穴住居の廃絶後に、その窪みに廃棄された遺物群である。上位は焼土を伴う「H26内廃棄層出土遺物」下位は「H26覆土2層廃棄遺物」後者で、M6から振替可能だったものは先述の点取りされた二個体の土器である。同時に現地で点取りNo.3とした石器はM6盛土関連遺物として石器掲載番号635(第3分冊)

H26

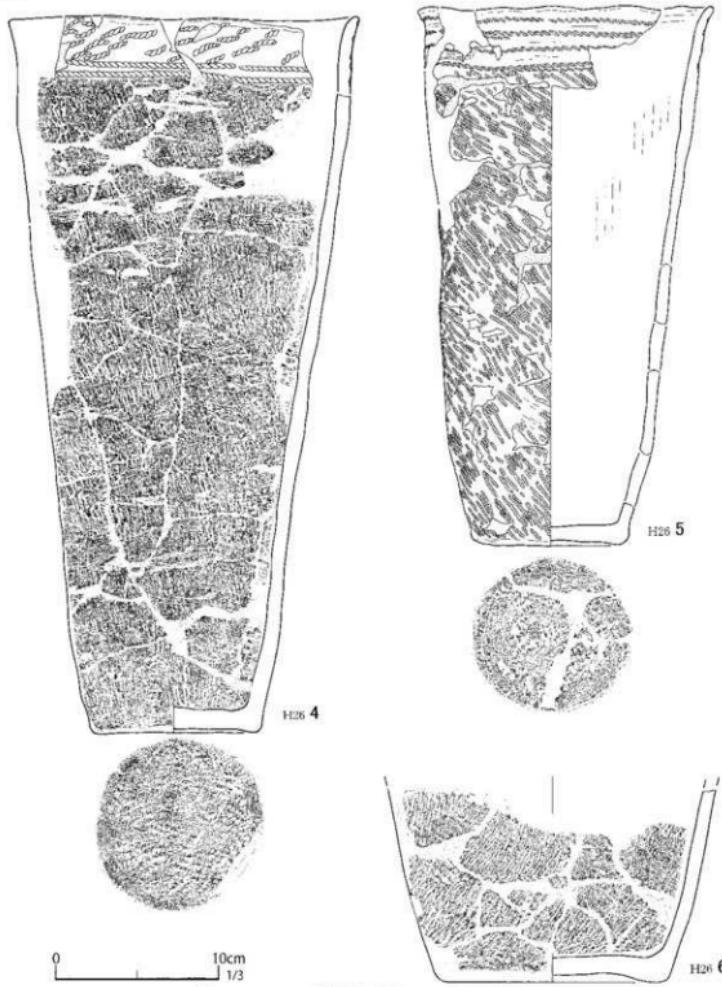


図III-2-19 遺構出土土器 H26(3)

として図化した。これは上の「H26 内廐棄層遺物」と考察した時点で図版を作成したためである。調査時にH26 廃絶後に堆積した44Y区の土層出土遺物はM 6-2 出土として記録した。そのため机上の操作でこれらをH26 廃棄層出土遺物とH26 覆土 2 層出土遺物に振り分けることは不可能であった。

隆帶で口縁部文様帯を区画する2・3がある。隆帶が明瞭な3は上に連続刺突を持つ。2は隆帶の直上直下に沈線文を施す。口縁部文様帯に、4は結節回転文を持ち、1は複数の縄線を鋸歯状に配する。3は縄線で鋸歯状文の一部を施す。さらに3・4が地文に単軸絡条体回転地文を持つ。3は胴部上半が縱走縄文下半が絡条体地文。4は単軸絡条体4類か6A類か判然としなかったが6A類の可能性が高い。器形的には、1・2に対し3・4・5はゆるく胴部中央から外反する筒形である。5が共伴するなど、器形や胎土を考慮すると時間軸的には時期的には一段階古い円筒下層b2～c式に並行すると考える。しかし1～6は円筒下層c式土器の様相が強い土器のまとまりとした。そこで特に「円筒下層c式古段階」とした。

H26



図III-2-20 造構出土土器 H26(4~6)

H27：1は床面出土のものである。円筒下層c式である。波頂部から垂下する擦痕が明瞭である。2は円筒下層b2～c式、口縁部に水平方向に走る繩線が複数設施される。6は円筒下層b2式新段階である。覆土2層出土である。5・8は覆土1層出土である。5は焼成粘土塊である。8は円筒下層d1式である。口縁部に結束第一種羽状繩文が二段施される。

4・7は覆土2層出土である。円筒下層c式である。4は口縁部文様帶の幅が狭く、隆帶上に刺突が連続する。7は器壁が薄く、単軸絹条体地文が密である。円筒下層d1式に近い新しい時期のものである。3は覆土2層出土である。円筒上層a式である。

H28：1・2は覆土出土の円筒下層d1式である。1は覆土3層、2は覆土1層の出土である。

3・5・6・10は覆土1層出土である。3は焼成粘土塊である。5・6は円筒下層2式新段階の土器底部と考える。10は円筒下層bから下層c式の底板部の破片である。縁辺を打ち欠き、中央付近に穿孔する。

4は床面出土である。円筒下層c式である。8は覆土2層出土である。繩文時代早期の土器である。7・9・11は覆土3層出土である。7は円筒下層d1式並行の土器底部と考える。9は円筒下層d1式である。繩線による平行線文を口縁に持ち、刺突列で区画する。H21-26という可能性が高い。11は9と類似した文様構成だが、文様帶が幅広く、胎土の砂粒が少ない。円筒下層c式と考える

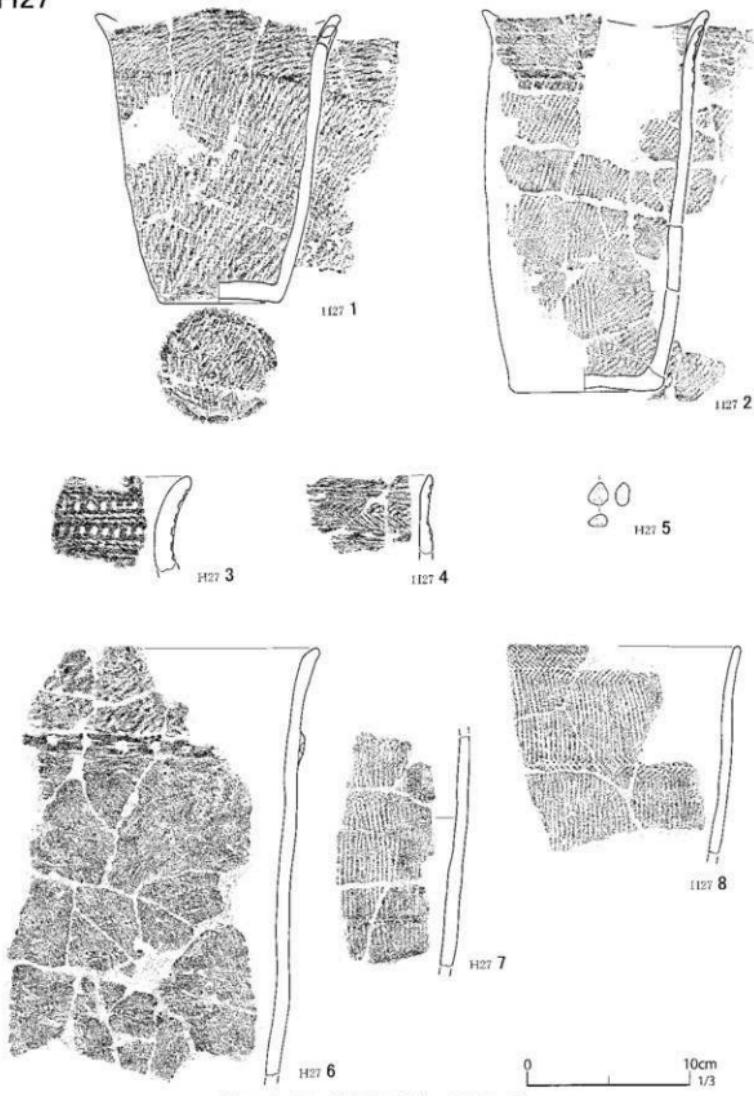
H29：豎穴住居廃絶直後の廃棄としては25が覆土下位No.18と60Q区M2-2出土遺物との接合である。廃絶直後の家の遺物と5m離れた斜面際の遺物が接合した。

1～11・13・14・17は円筒下層d1式古段階新。25～37・38・40は円筒下層d1式古段階古。12・15・16・18～23・41・42・44～46・49は円筒下層d1式。24は円筒下層d2式、43は円筒下層c式、47・48は円筒下層b式、50は焼成粘土塊である。

1～18・22・23は覆土上位出土である。

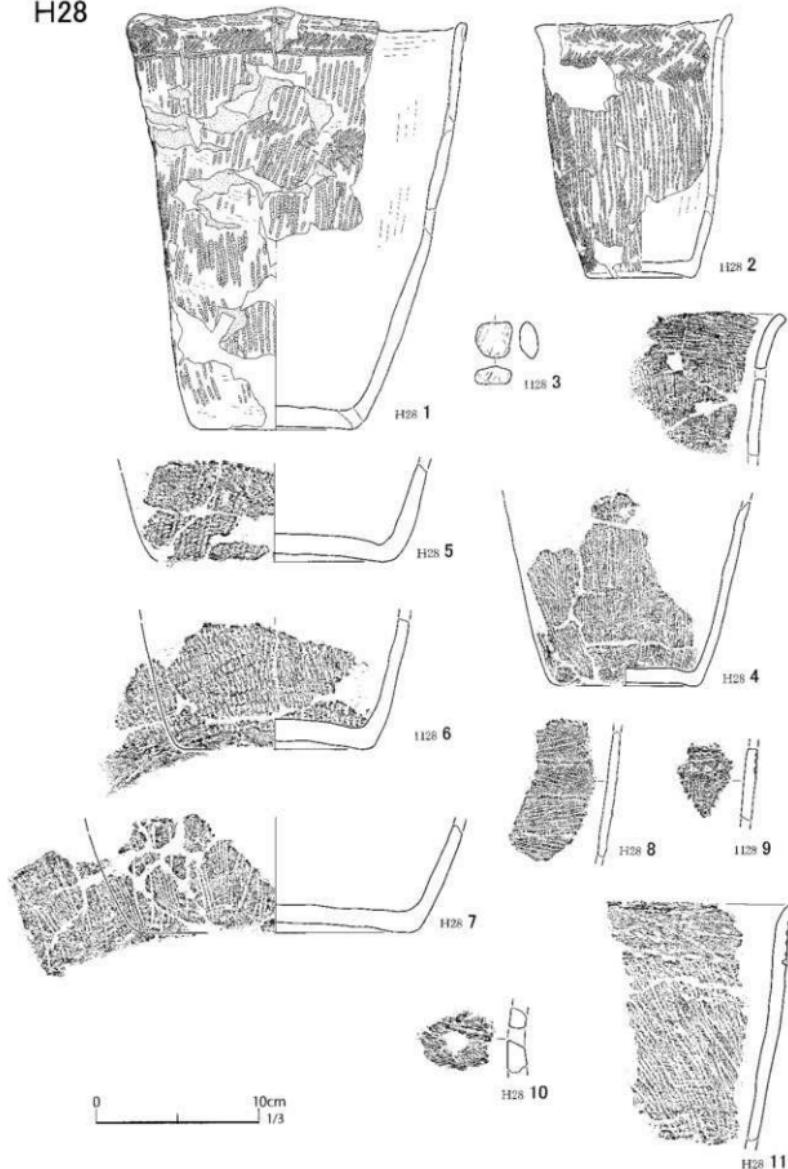
1は点取りNo.30である。単軸絹条体とふたつの結節回転による多段の帯。繩線による口縁部文様。2は点取りNo.4である。自縄自巻とふたつの結節回転による多段の帯。頭部には押し引きが巡る。矢羽繩線による口縁部文様。連続刺突があり、押し引き風である。3は点取りNo.1である。単軸絹条体と結束第一種羽状繩文で多段の帯。結束第一種羽状繩文回転による口縁部文様。4は点取りNo.14である。自縄自巻と結束第一種羽状繩文による多段の帯。口縁部文様帶には繩線による波状文と鋸歯状文の組み合わせ。頭部には連続した円形刺突を持つ隆帶。5は点取りNo.12である。覆土上位No.9や11と接合している。自縄自巻地文。繩線による口縁部文様。6は点取りNo.5である。覆土上位No.4と接合している。小型深鉢、単軸絹条体地文。繩線による口縁部文様。7は点取りNo.5である。自縄自巻地文である。繩線による口縁部文様でところどころ繩線により縱区画。8は点取りNo.13である。覆土上位No.9と接合している。四単位と思われるゆるやかな波頂部を持ち、自縄自巻地文である。繩線による口縁部文様。9は点取りNo.30である。自縄自巻地文。繩線による口縁部文様。10は点取りNo.3である。自縄自巻地文。口唇に爪による刺突、口縁には押し引きが連続する。矢羽繩線による口縁部文様。11は点取りNo.2である。口縁部文様帶には、矢羽繩線によって直線的な山形の連続を施す。自縄自巻地文。矢羽繩線による菱形基調と思われる繩線文。水の影響か、脱色して変形著しい。12は点取りNo.10である。自縄自巻に、結束第一種羽状繩文により多段の帯。胴下半から底部にかけて残存。13は点取りNo.6である。繩文を縱走させる地文。結束第一種羽状繩文を二段口縁部に施す。14は点取りNo.8である。同一個体の可能性がある遺物が覆土下位点取りNo.21に混在していた。口縁部文様帶は複数本のL繩線による曲線構成の文様。自縄自巻を縱走する地文。15は点取りNo.32である。自

H27



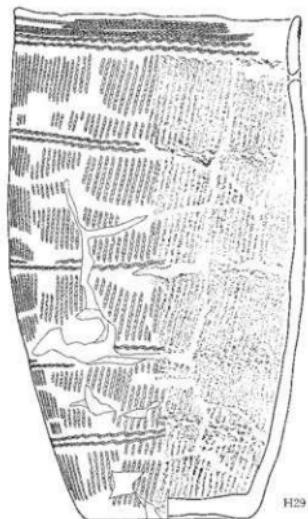
図III-2-21 造構出土土器 H27(1~8)

H28

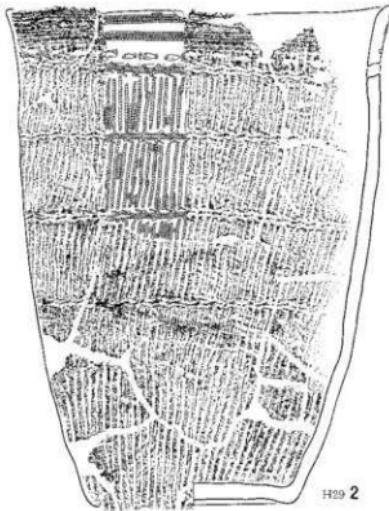


図III-2-22 遺構出土土器 H28(1~11)

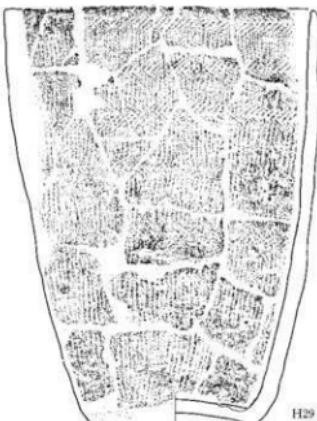
H29



H29 1



H29 2



H29 3

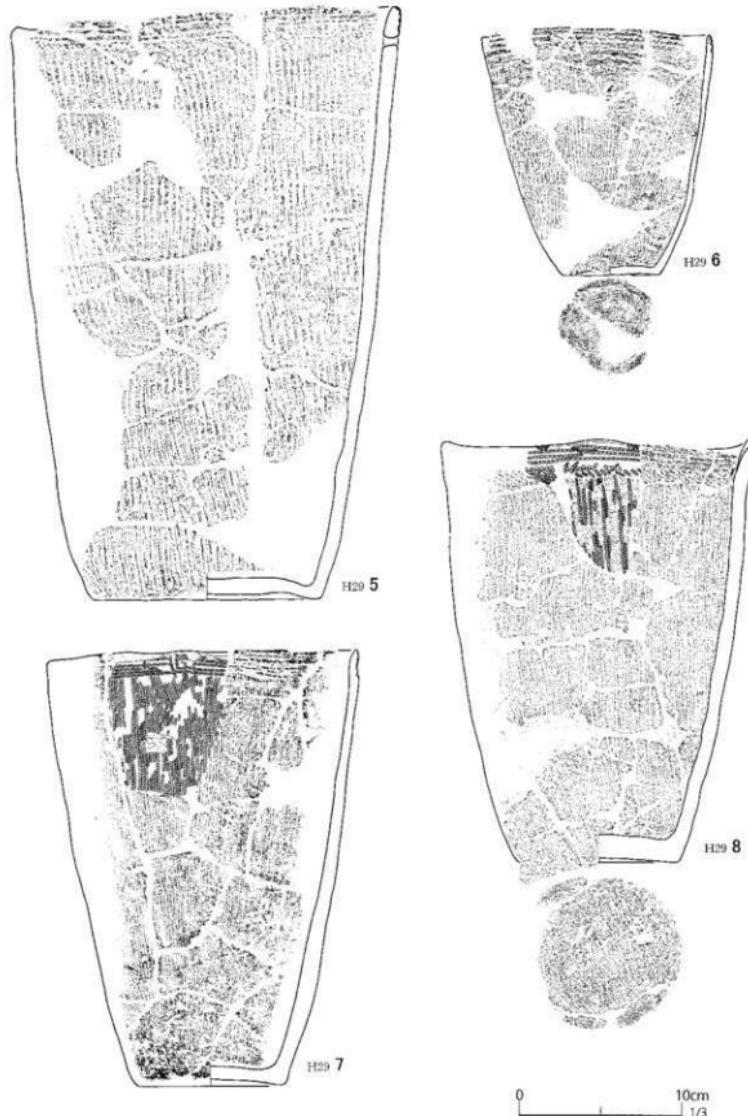


H29 4

0 10cm
1/3

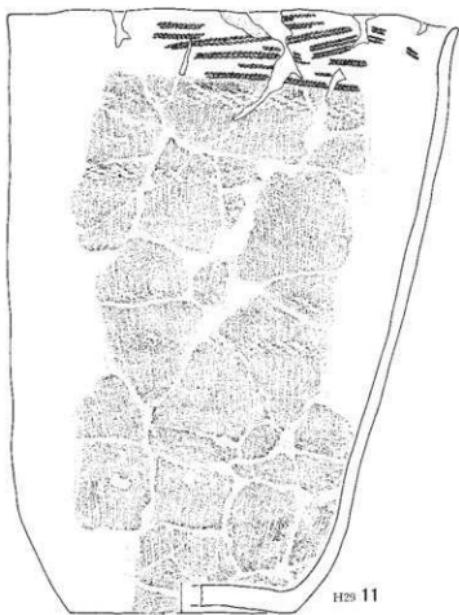
図III-2-23 遺構出土土器 H29(1~4)

H29



図III-2-24 遺構出土土器 H29(5~8)

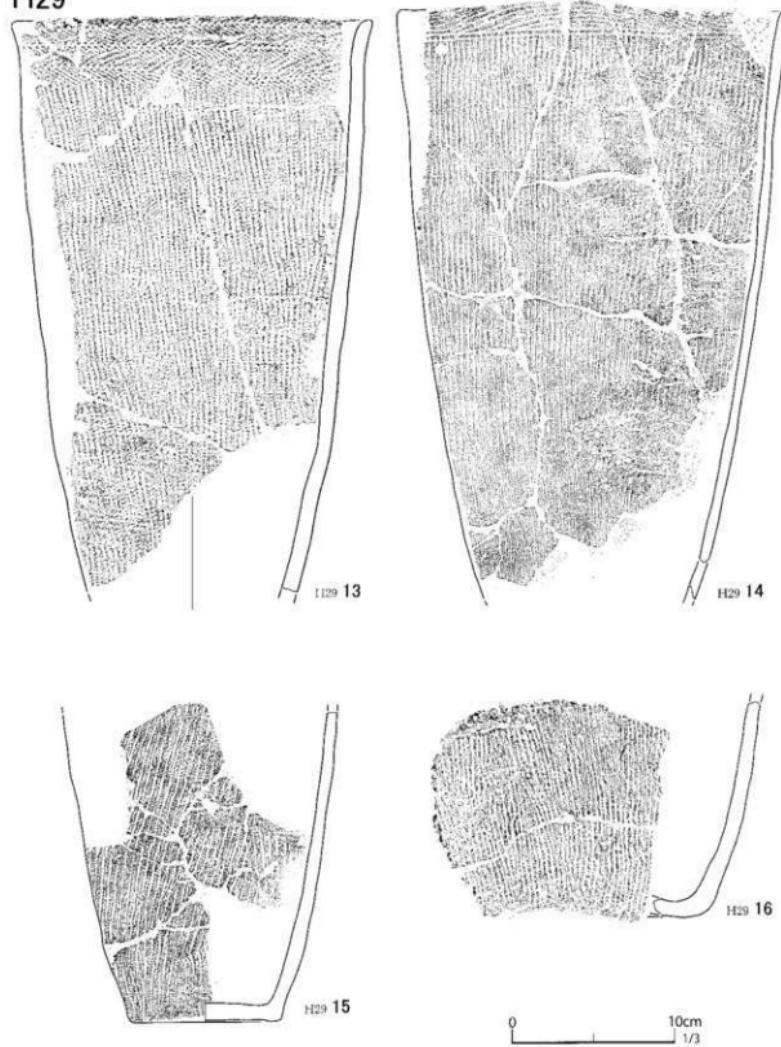
H29



0 10cm
1/3

図III-2-25 造構出土土器 H29(9~12)

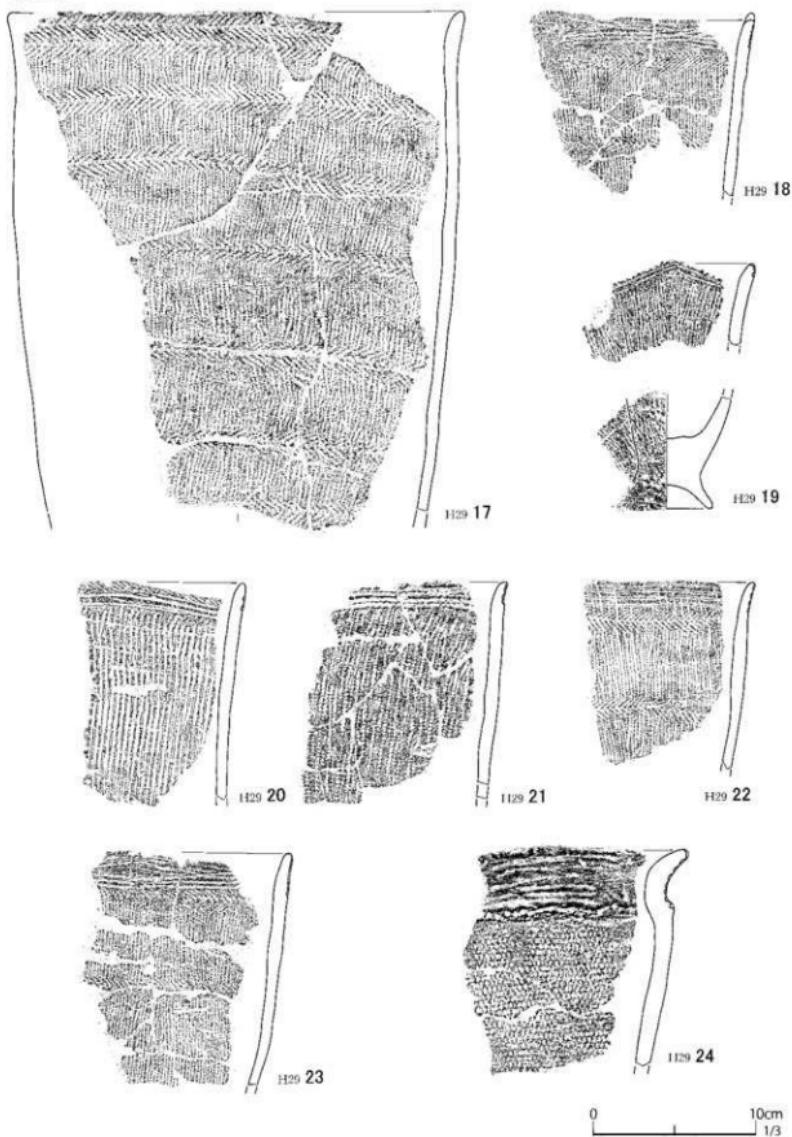
H29



図III-2-26 遺構出土土器 H29(13~16)

縄自巻地文の胴下半から底部にかけて残存。16は点取りNo.7である。単軸絡条体地文を底面にも有する。胴下半から底部にかけて残存。17は点取りNo.9である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文による口縁部文様。その直下には逆回転でもう1段施す。18は点

H29



図III-2-27 遺構出土土器 H29(17~24)

取りNo.32である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によって菱形文様施文。縄線で口縁部文様。19は覆土からの出土である。円筒下層d1式の脚付き小型杯である。単軸絡条体地文。縄線で口縁部施文。トレンチ出土の口縁部と覆土出土底部に接点は無く、地文と径からの推定である。22・23は覆土上位からの出土である。いずれも自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。24は覆土上位出土、円筒下層d2式である。肩部には円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部には縄線文様。

20・21は覆土からの出土である。円筒下層d1式である。いずれも自縄自巻地文である。

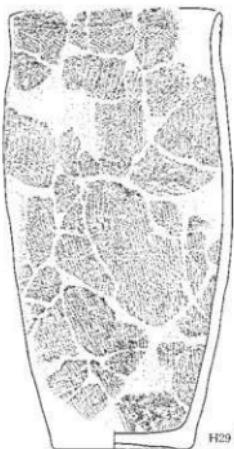
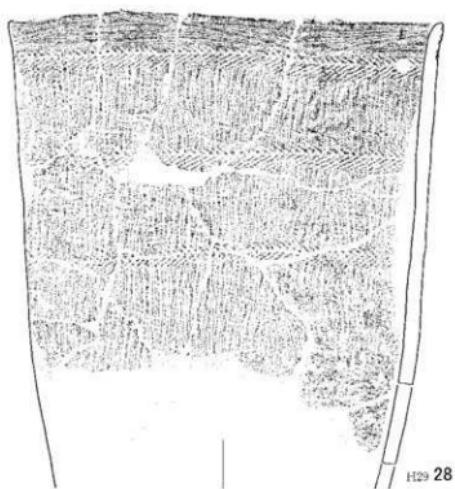
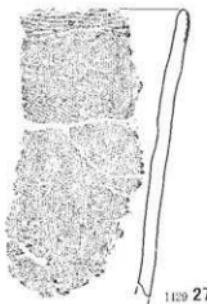
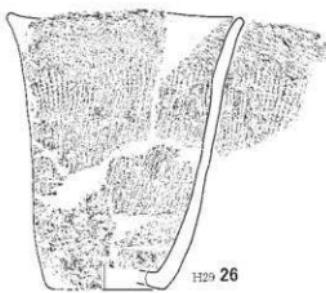
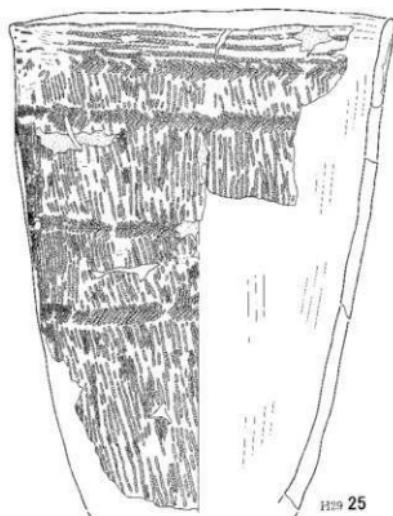
25~40は覆土下位出土である。

25は点取りNo.18である。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯である。矢羽状縄線による口縁部文様。26は点取りNo.17である。小型深鉢で、自縄自巻を口縁部と胴部に施文。自縄自巻を口縁部に横回転。27は点取りNo.16と17が接合した。26と共に併せて出土した。単軸絡条体と結束第一種羽状縄文による多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様構成。28は点取りNo.15である。覆土下位No.16と接合している。自縄自巻と結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状の縄線により山形文様の連続による口縁部文様。29は点取りNo.20である。自縄自巻地文である。縄線による口縁部文様。30は点取りNo.19である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文の回転により口縁部文様を構成。矢羽状風縄線によって口縁部文様を構成する。31は点取りNo.17である。覆土下位No.19と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。縄線による直線構成の口縁部文様。ゆるやかな波頂部の形状も反映する。32は点取りNo.24である。単軸絡条体地文。結束第一種羽状縄文回転後、矢羽状縄線押圧。33は点取りNo.26である。縄文を縱走と結束第一種羽状縄文で多段の帯。34は点取りNo.27である。覆土下位No.20, 29と接合している。付属遺構HP-12出土遺物と接合している。絡条体地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状縄線によってゆるやかな波頂部に対応した、曲線的な縄線文様。35は点取りNo.22である。自縄自巻と結束第一種羽状縄文により多段の帯。撚りの違う縄線を交互に密にして施す。36は点取りNo.15である。付属遺構HP-19覆土出土遺物と接合している。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。矢羽状風の縄線によって直線構成の文様が施される。37は点取りNo.38である。自縄自巻に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文施文後、矢羽状縄線が施文される。38は覆土下位点取りNo.20である。円筒下層d1式である。絡条体地文に結束第一種羽状縄文による多段の帯。菱形を基調とした、直線構成の文様を口縁部に持つ。菱形に対応する縦区画を持つ。39は覆土上位点取りNo.31である。覆土下位点取りNo.19と覆土最下位点取りNo.38に同一と思われる破片が混じる。円筒下層d1式である。自縄自巻に、帯状に2段の結節回転。40は覆土下位点取りNo.23とNo.25が接合した。自縄自巻地文に結束第一種羽状縄文で多段の帯。結束第一種羽状縄文を施文後、矢羽状縄線を施文する。41は覆土最下位出土点取りNo.39である。絡条体地文による底部。42は付属遺構HP-12覆土からの出土である。自縄自巻地文。胎土には砂粒が目立つ。43は床面出土、点取りNo.48である。円筒下層c式である。直前段反撚り地文の底部。

44~49は再生土製品の可能性が高いものである。44~46は覆土上位から出土した。円筒下層d1式の土器片を擦り切りによって短冊状に成形したものである。47~49は土器片の縁辺を打ち欠きによって粗く成形したものである。丸くしようとした可能性がある。3点とも覆土出土で遺物番号179であり同日同時同地点にて取り上げられたものである。同時期の所為とも考えられる。48・47は円筒下層b式、49は円筒下層d1式である。48は中央に穿孔がある。

50は覆土上位から出土した再生土製品である。纖維と海綿骨針を含み、円筒下層式土器の胎土に似ている。竹管背面による押し引きが残る。

H29



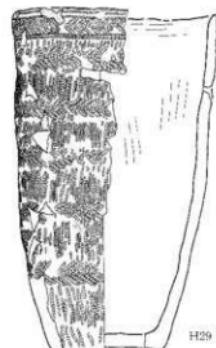
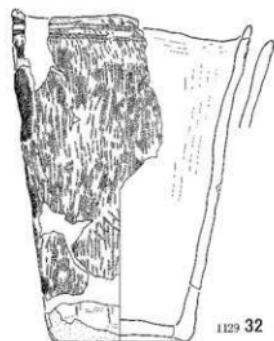
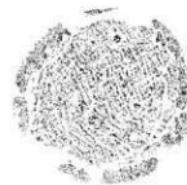
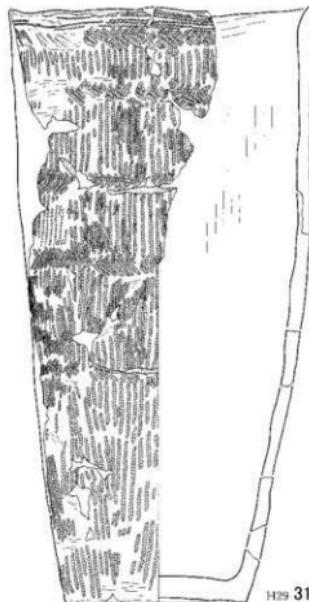
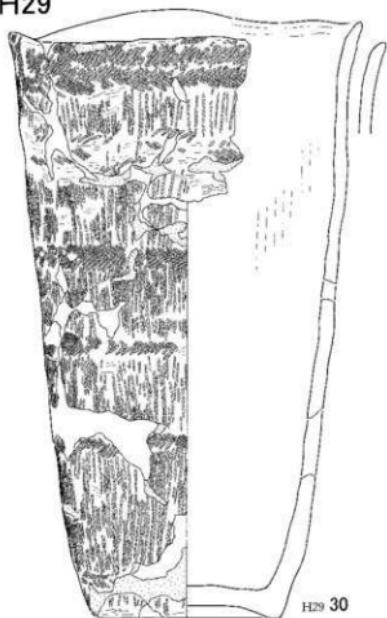
0

10cm

1/3

図 III-2-28 遺構出土土器 H29(25~29)

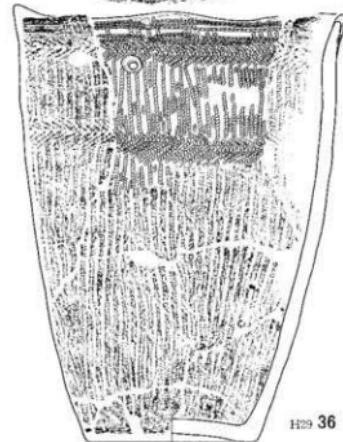
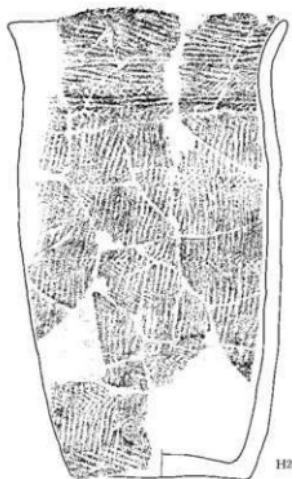
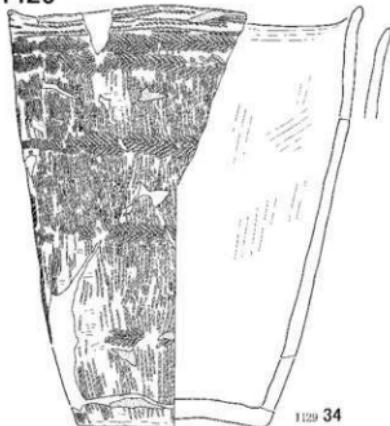
H29



0 10cm
1/3

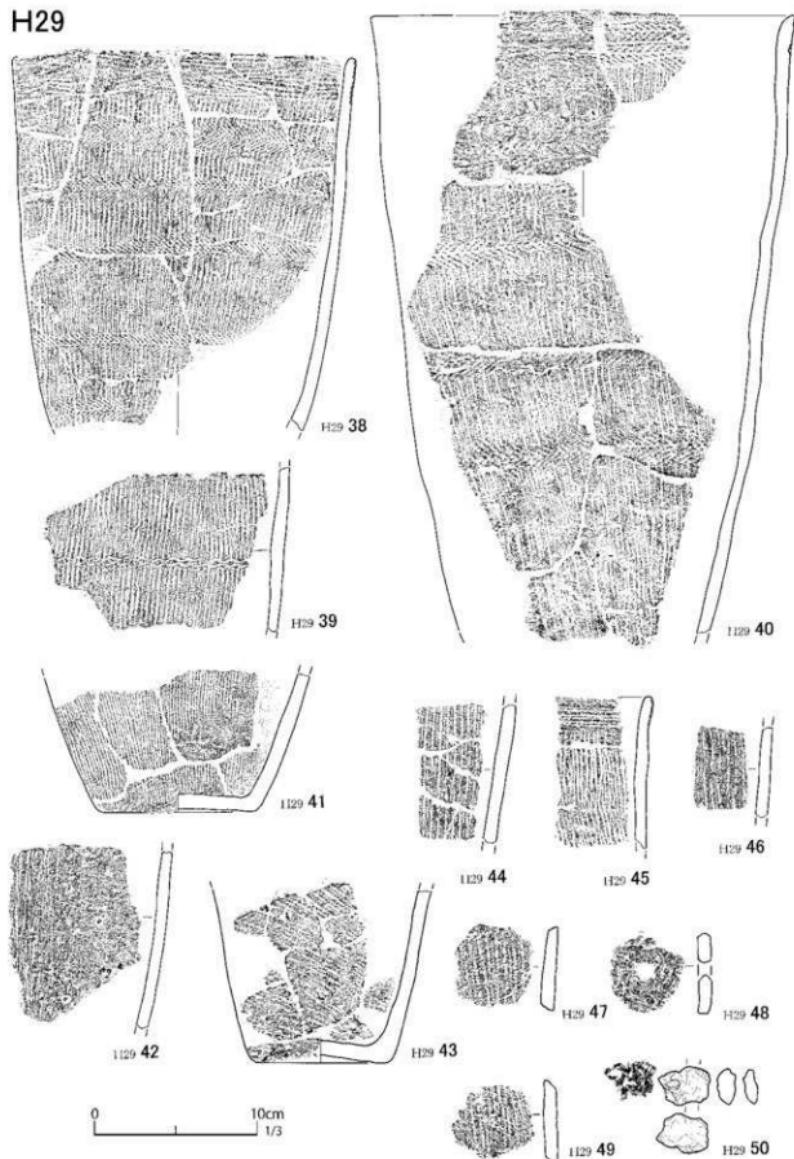
図III-2-29 遺構出土土器 H29(30~33)

H29

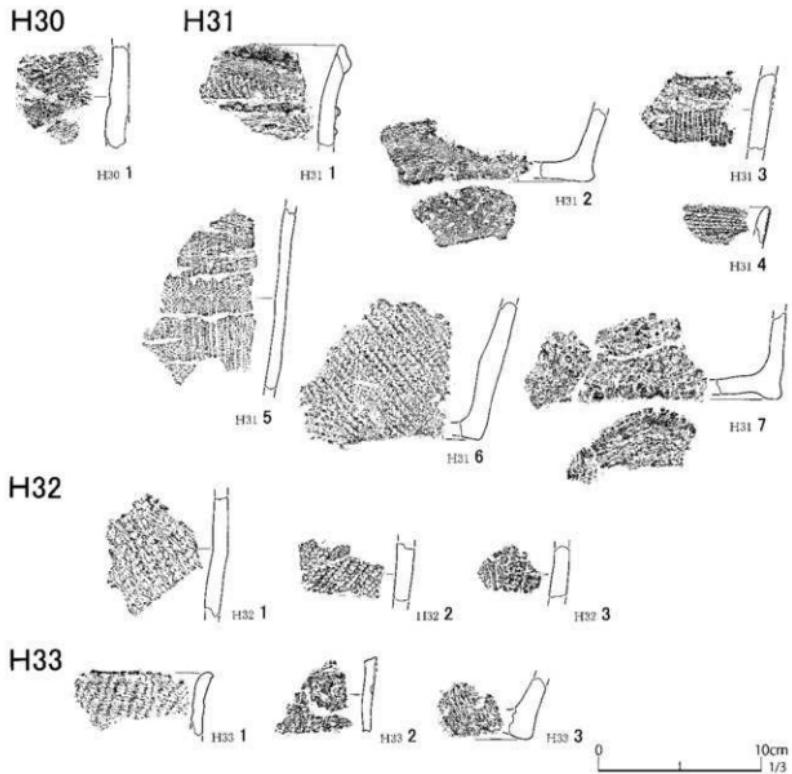


0 10cm
1/3

図 III-2-30 造構出土土器 H29(34~37)



図III-2-31 遺構出土土器 H29(38~50)



図III-2-32 遺構出土土器 H30(1)・H31(1~7)・H32(1~3)・H33(1~3)

覆土下位に無く、上位にある特徴として刺突列、口縁部文様に曲線的な要素が入ってくる点を挙げることができる。

H30：1は床面からの出土である。円筒下層b式である。磨滅が著しく断定できないが縁辺を加工した再生土製品の可能性がある。

H31：1～6は覆土1層出土である。7は床面出土で、点取りNo.17である。1・2は円筒上層d式である。1は細い粘土紐による加飾がある。2は底面には網代様の痕跡があるがミガキにより不明瞭。3は円筒下層d2式、自縄自巻地文である。

4・5は円筒下層d1式、4は矢羽状縄線、5は自縄自巻と結束第一種羽状縄文による多段の帶。6・7は円筒下層b式である。6は複節地文、7は直前段合撫地文。

H32：1～3は円筒下層b式で、1は古段階の可能性がある。直前段合撫地文。1・2は床面から出土

した。3は付属遺構 HF-1 覆土 1層からの出土である。単軸絡条体地文。

H33：1～3は円筒下層 b式である。1は覆土 1層から、2はHF-1 覆土 3層からの出土である。3は床面から出土した。1の地文は縄文が継走する。2は器壁の薄さと内面調整のミガキの丁寧さから円筒下層 c式の可能性もある。3は単軸絡条体地文。

H34：H34は覆土から円筒下層 b式から円筒下層 c式が出る。覆土上部の2層に円筒下層 d1式新段階を廃棄する。1～3は覆土 2層出土である。円筒下層 d1式であるが新段階で円筒下層 d2式に近い。1は点取りNo.7、2は点取りNo.1、3は点取りNo.8である。1の口縁部文様帶は矢羽状縄線で山形文を施す。区画内には縄を曲げた部分を連続押圧する。単軸絡条体地文。2・3は自縄自巻地文。口縁部文様帶について、2は縄線を交差し、3は山形文を鋸歯状に連続する。

4、5は覆土 2層出土破片が接合している。いずれも円筒下層 d式で4・5ともにサルボウ条痕横走後、自縄自巻を継走。1～3に近い時期のものと考える。4は胴部下半分のため、新旧明言し難い。覆土 2層点取りNo.6である。覆土西側のまとまりと接合した。5は磨滅が著しい。覆土 2層点取りNo.1と覆土 1層 No.2が同一個体であると考える。点取りNo.2を図化した。円筒下層 d1式胴部のまとまりである。点取りNo.1と同一と思われるものを図化した。口縁部には縄線により直線構成の文様。点取りNo.4は円筒下層 d1式胴部のまとまりだが、磨滅碎片が主体で接合・図化が出来なかつた。出土する円筒下層 d1式新段階については、口縁部文様帶に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層 d2式により近い時期。

H35：1と2は床面出土、点取りNo.6から立ち上がった復元土器である。二個体の円筒下層 c式土器が、No.6として床面で潰れていたこととなる。

1は半截竹筒の表裏を使った沈線文が描かれる。口縁地文は縄文。胴部地文は絡条体である。ゆるやかな波頂部を持つ。2も同様の器形だが全面縄文地文である。

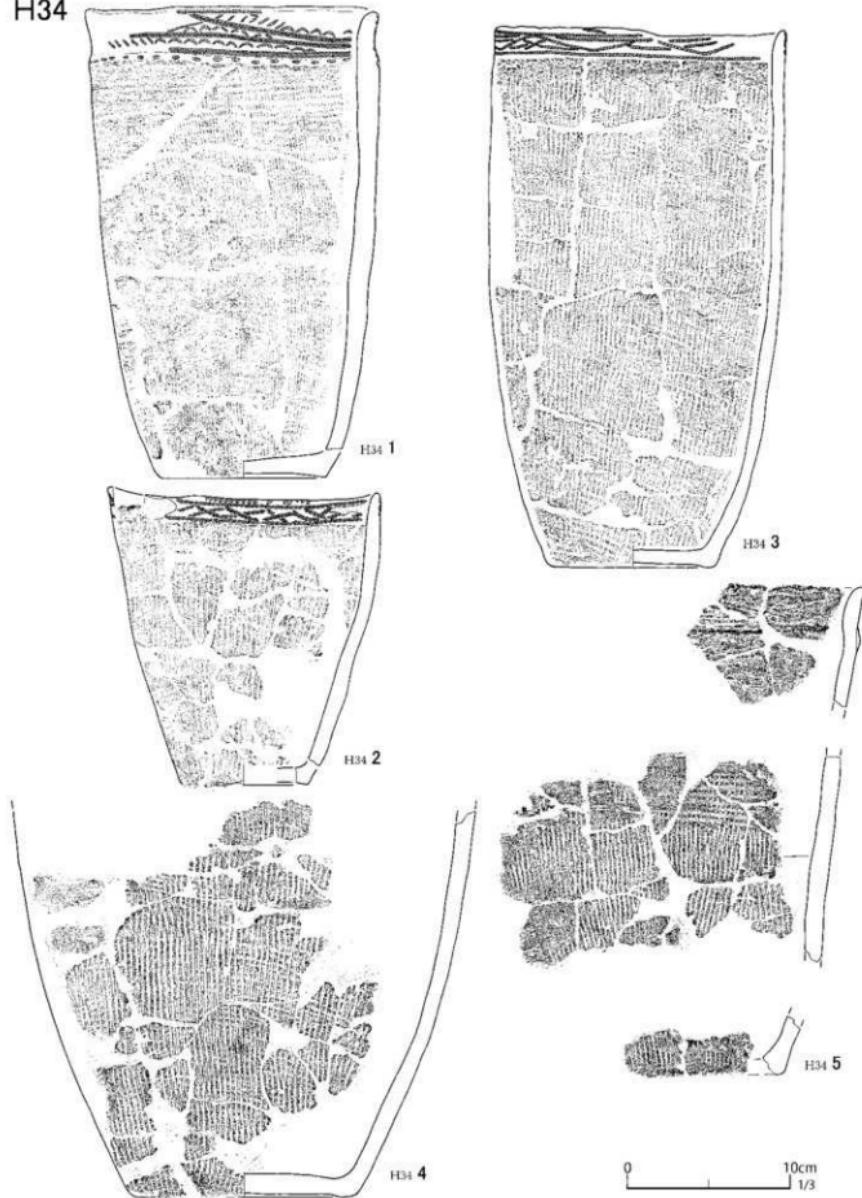
3・4・5は再生土製品の可能性が高いものである。3は床面からの出土で縁辺を成形し、中央に穿孔する。比較的の形状が整う。4と5は覆土からの出土で中央に穿孔がみられるが貫通してない。5は底部際の破片であり、器の形状に即して図化した。

6は覆土 1層下位点取りNo.22である。7は覆土 1層下位点取りNo.18である。8は覆土 1層下位点取りNo.19と20である。上げ底と筒型の胴部から、円筒下層 b2～c式前後の胴部下半から底部にかけてである。

H36：1・2は覆土 2層から二個体まとめて出土した。いずれも六単位の波頂部を持つ又は持ったと推定できる、円筒下層 b2～c式土器である。よく外反する口縁部形態を持ち薄い器壁を持つ。口縁部文様帶の原体は違うが、よく類似した器形である。1は覆土 2層出土No.5を主体として、覆土 2層出土No.4が接合した。No.4の主体は円筒下層 d2式の胴部破片であるため、紛れ込んだものと考える。2は覆土 2層出土No.5が接合した。

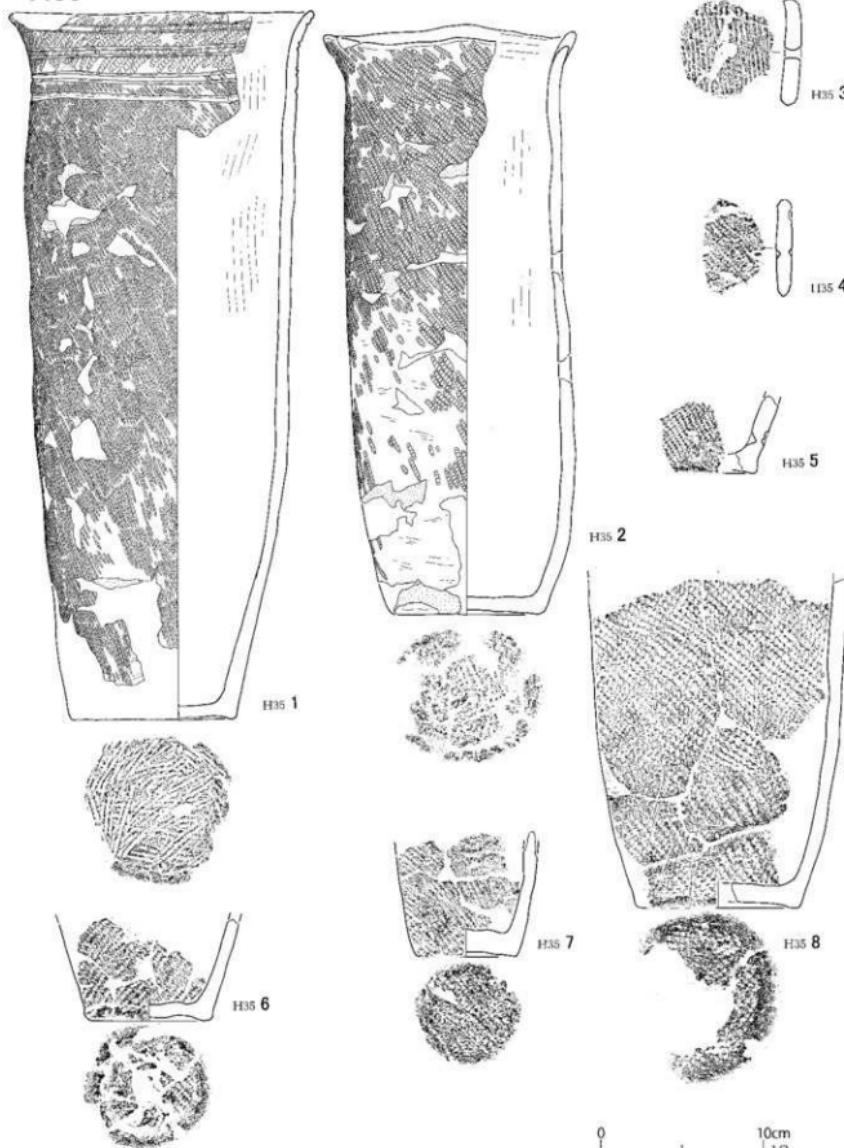
5は覆土 2層から出土した。点取りNo.6とM 4-3. 58 R区から出土した遺物が明らかに同一個体であった。底は見つからず、口縁部から胴部にかけてのまとまりが、縦半分ずつ 8mほど離れた場所から見つかった。円筒下層 b2～c式のころの深鉢と考えられるが、口縁部文様帶直下に文様帶があるといった古い要素も持つ。隆帯上はヘラによる刺突が連続する。三個体とも胎土は円筒下層 c式に近

H34



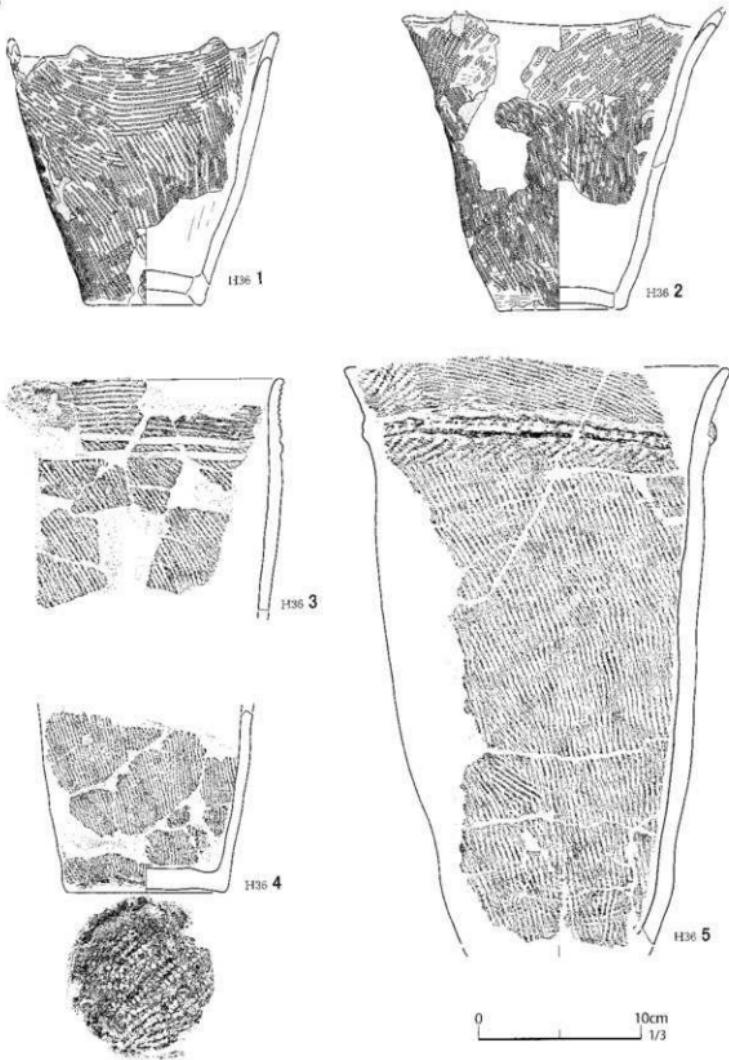
図III-2-33 遺構出土土器 H34(1~5)

H35



図III-2-34 遺構出土土器 H35(1~8)

H36



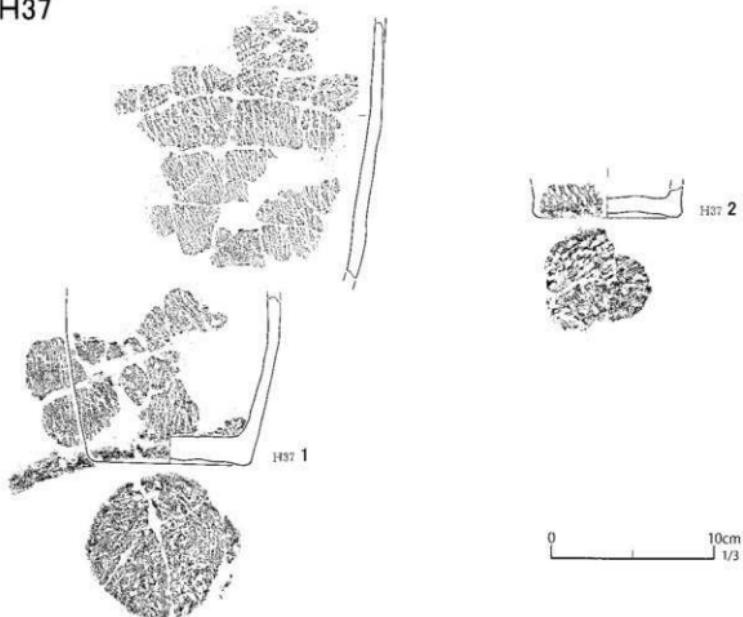
図III-2-35 遺構出土土器 H36(1~5)

H36



図III-2-36 遺構出土土器 H36(6~12)

H37



図III-2-37 遺構出土土器 H37(1~2)

い。H36-5と同様な例としてH29-25がある。住居出土遺物と住居から5m離れたところのまとまつた破片が接合した。このH36-5とH29-25のいずれについて顕著な磨滅も無く、意図的に打ち欠いて別々のところに捨てた可能性がある。「斜面の際」と「住居廃絶後の窪み」に捨て分ける点が共通する。

No.4のほとんどが6の円筒下層d2式となった。口縁部破片はNo.4の出土した58U区M2-3から住居検出前に見つかった破片である。接点はなかった。肩部の文様と径、地文から同一個体と判断した。口縁部文様には縄の屈曲部を対向させる。覆土の西側からは円筒下層b2～c式土器が出土している。

3・4・8～12は覆土西側から出土した。3・4・12は円筒下層b2～c式のもの他は円筒下層b2式相当と考える。

3・4いずれも單軸絡条体地文である。3は口縁部文様帯にサルボウ条痕を施し、沈線で胴部と区画する。4は意図的に穿孔された破片が接合した（左上の破片の孔）。底面には胴部地文と異なり縄文を施す。8～11は縁辺が意図的に成形されている可能性がある。再生土製品として扱った。11は全面が磨滅している。

7と12は比較的破片数が多く残存していたが、復元には至らなかった。7は覆土東側からの出土である。円筒下層d1式の胴下半部である。自縄自巻に結節回転を組み合わせた多段の帶である。円筒下層d1式の可能性がある。12は円筒下層b2～c式である。口縁部文様帯は残存部が少ない。同一原体の縄文を縦回転と横回転を組み合わせて羽状にしているように見える。単軸絡条体地文である。

H37：1は床面出土である。No.24である。2は床面出土のものと接合した。No.81そして83と同一個体である。1と2のいずれも円筒下層d2式と考える。1は単軸絡条体第5類による網目状の地文である。底面には合撫の繩文。2は多軸絡条体地文である。底面も同様である。いずれも上げ底である。

H38：覆土中から円筒下層d1式がところどころまとまって出土する。比較的上部からの出土が目立つ。点取りNo.1(4・5)・No.3(8)(7と9に若干接合)・No.4(12)・No.5(10)・No.6(11)・No.7(6)を記録した。覆土上半部から大型の円筒下層d1式の破片が出土する。口縁部文様帶内に繩線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す円筒下層d2式に近い段階である。床面近くからは口縁部文様帶の幅が狭く、区画帯を持たない円筒下層d1式が出土している。円筒下層d1式と円筒下層d2式では器壁の厚みに大きな差がある。それを判断基準とした。8・10~12・14は意図的に半割に近い形で削られた可能性がある。

1・3は円筒下層d2式。1は覆土上位から最上位にかけての遺物が接合した。多軸絡条体地文。3は覆土上位の遺物が接合した。多軸絡条体地文である。

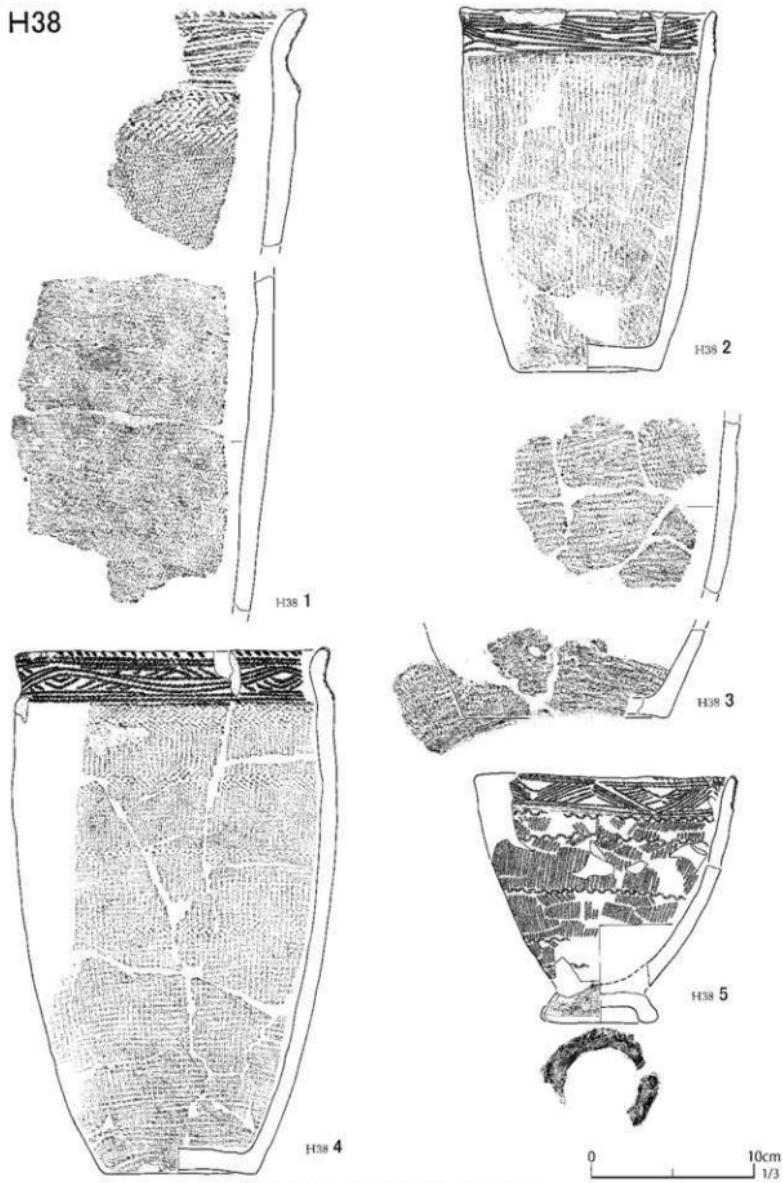
2・4~9は円筒下層d1式新段階。2は覆土最上位で検出された。繩文縱走地文で、口縁部には繩線で直線構成の崩れた菱形文の連続を施す。4は覆土上位出土、点取りNo.1である。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体と結束第二種羽状繩文により多段の帯。口縁部には波状に近いゆるやかな山形の連続を繩線で施す。5は覆土上位および覆土南側、およびM2-2起源とみられるM1盛土遺物が接合した。台付の鉢である。自縄自巻に結合第二種羽状繩文で多段の帯にする。口縁部には複数の繩線で鋸歯状文を施す。6は覆土上位出土、点取りNo.7である。単軸絡条体地文と結合第二種羽状繩文により多段の帯にする。口縁部には繩線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。7は覆土上位出土、点取りNo.1を主体とし、覆土下位のものと接合した。H56覆土最上位遺物とも接合した。M2-2~M2-2下位で62~63R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、単軸絡条体回転と結合第一種羽状繩文の組み合わせで多段の帯にする。口縁部には繩線により菱形の連続と波状文を組み合わせる。8は覆土上位出土で、点取りNo.3である。自縄自巻地文、口縁部には繩線で直線構成の文様。区画には押し引きが連続する隆帯を持ち直下には結合第一種羽状繩文。大型の深鉢破片。9は覆土上位出土、点取りNo.3である。M2-2で63-Q~R区とも接合する。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縱走、結合第一種羽状繩文により多段の帯。口縁部には繩線により山形文の連続。7と9は地文に違いはあるが、節のたった細かい原体を密に使うため、雰囲気が似ている。

10・13~17・20は円筒下層d1式古段階。10は覆土上位出土、点取りNo.5を主体とする。自縄自巻地文。口縁部に繩線と羽状繩文を施す。

13は覆土上位で出土した。13の地文は自縄自巻を縱走。口縁部は繩線を水平方向に平行に施す。14は床面出土、点取りNo.9を主体とする。大型の深鉢破片である。自縄自巻地文。口縁部には水平方向の繩線を押圧し、縦区画を持つ。15~18は円筒下層d1式を擦り切って短冊状の再生土製品を形成しようとしたものである。15は大型破片を擦り切る途中の過程のものである。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縱走。口縁部には繩線による直線構成の文様。16・17は15と同一個体の可能性が高い。18も類似する個体である。20も円筒下層d1式胴部破片の縁辺を擦り切って円形の再生土製品を作ろうとした可能性がある。18・20は口縁部のない胴部破片であるため、円筒下層d1式に分類している。

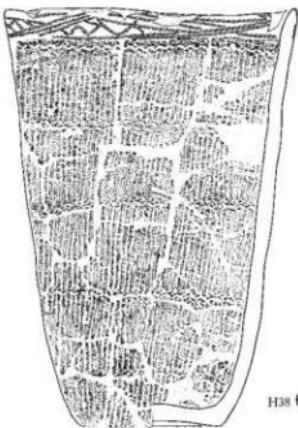
11・12は円筒下層d1式。11は覆土上位出土で、点取りNo.6である。12は覆土上位出土で、点取りNo.4である。いずれも自縄自巻地文で、11は結節回転を組み合わせて多段の帯にする。19は円筒下層b式の破片中央に穿孔して再生土製品にしたものである。

H38



図III-2-38 遺構出土土器 H38(1~5)

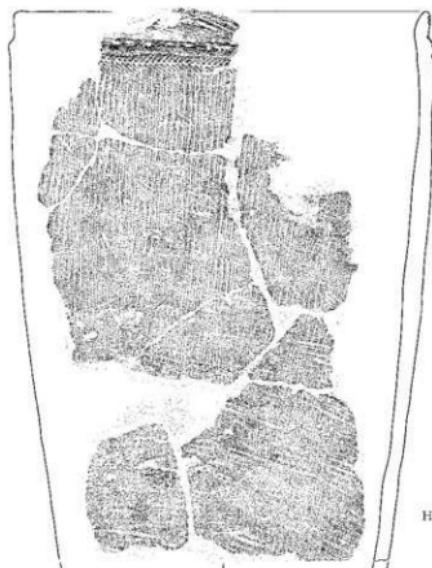
H38



H38 6



H38 7



H38 8

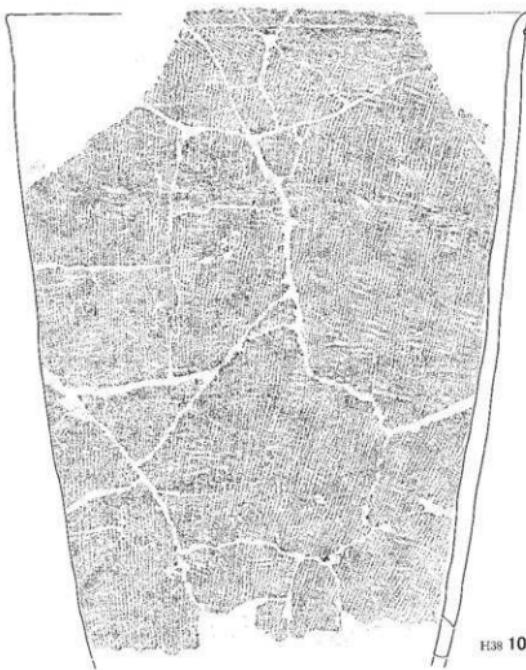


H38 9

0 10cm
1/3

図III-2-39 遺構出土土器 H38(6~9)

H38



H38 10



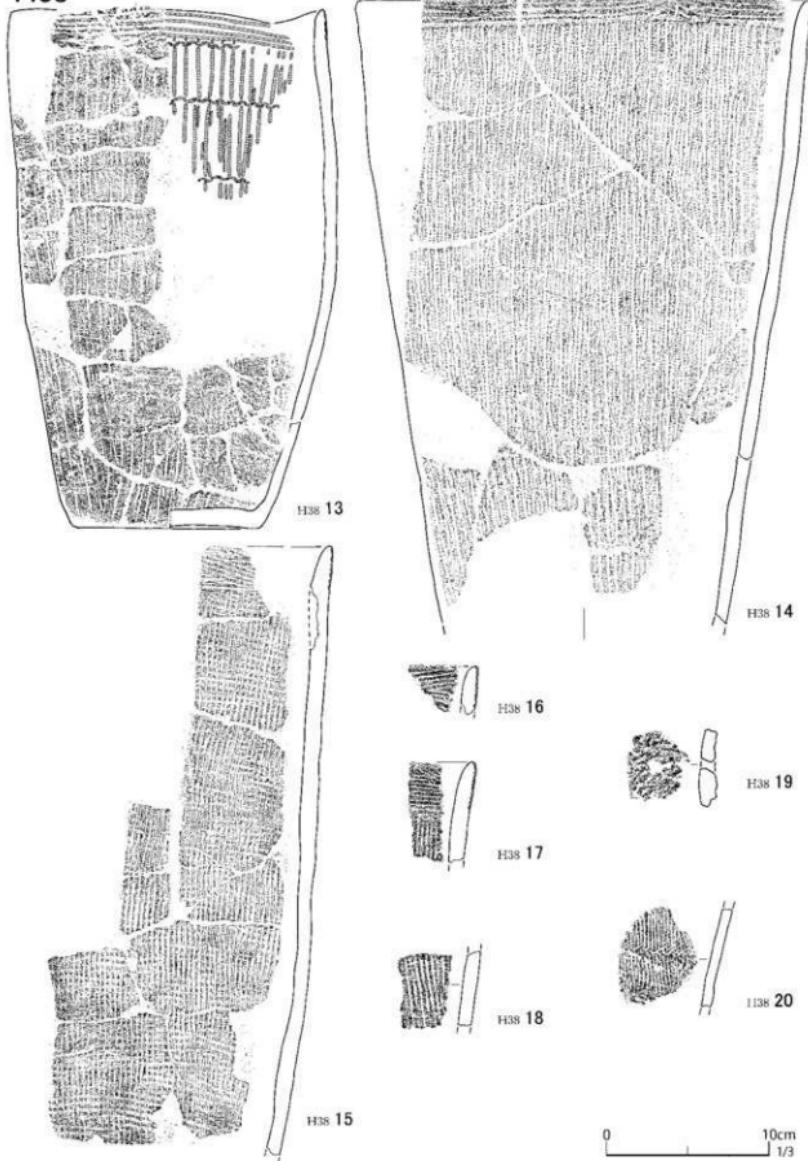
H38 11



H38 12
10cm
1/3

図 III-2-40 遺構出土土器 H38(10~12)

H38



図III-2-41 遺構出土土器 H38(13~20)

0 10cm
1/3

H39：H39は円筒下層c式の頃の住居と思われ、円筒下層c式が複数個体復元されている。覆土最下位でのまとまりNo.40(64)、No.41(63)が床面出土に近い状況である。42・47が覆土上位から下位にかけて出土した破片が接合あるいは同一個体と思われた。この二個体はむしろ上位のものが多いことから、この家は円筒下層c式の時期に掘り込まれて廃絶した可能性を考えた。42や覆土上位から出土した43(覆土上位No.19)の方が古いことになる。流入と考える。覆土下位主体に出土した円筒下層d1式新段階はこの住居の廃絶直後のまとまりと考える。

出土する円筒下層d1式新段階についてはで口縁部文様帶に繩線で直線構成の山形ないしは菱形文を施す段階である。円筒下層d2式により近い時期である。これらと円筒下層d2式が出土する。

円筒下層d2式が復元個体では2・3・7・11・15~18・20~26・28・29・55・56他に1・4・5・9・12~14・30。円筒下層d1式新段階d2式への過渡期段が復元個体では19・27・31・32・34・35他に6。円筒下層d1式新段階が復元個体では33・41・49~53、他に40。円筒下層d1式最古段階の範疇のものとして46・60。円筒下層d1式の範疇のものとして36~39・54。円筒下層d式の範疇のものとして8。円筒下層c式が復元個体では42・43・63~65他に44・45・47・57~59・61・62。円筒下層式期のものは10の焼成粘土塊である。

円筒下層d1式土器53について、H21覆土7層中央出土遺物がH39出土遺物と接合した。H39は覆土上位から下位にかけての接合である。

1は覆土最上部点取りNo.22である。同一個体だが、磨滅が著しく復元に至らなかった。多軸絡条体地文。口縁部には繩線で直線構成の文様。

2は覆土2層直下出土遺物を中心に覆土7最上位、上位の遺物が接合した。また覆土下位東側に遺物とも接合した。覆土2層直下の遺物は主に覆土上位の遺物と接合するが、下位については東側のものと接合、あるいは共通するものがある。今回も覆土東側下位の遺物と接合した。肩部に押し引きを連続。繩線により直線構成の文様か。口唇部欠損。単軸絡条体地文。

3は覆土最上部出土、点取りNo.22を主体として、主に覆土最上位の遺物が接合した。円筒下層d2式である。肩部に円形刺突が連続。多軸絡条体地文。口縁部に短い繩線の連続による円筒下層d1式新段階風の施文。

4は覆土最上位の遺物が接合した。類似するものは覆土南側および住居と同調査区のM2-2から出土している。単軸絡条体第4類による地文。

5はH39覆土上位遺物を中心に接合したものである。同一個体の可能性のあるものは周辺のM2盛土やH62からも出土している。M2起源のM1出土遺物とも接合した。円筒下層d2式である。波頂部に対応する四つの刺突が特徴的である。

6は覆土上位から、点取りNo.18である。同一個体と思われる破片は覆土最上位からも出土している。自縋自巻と結束第一種羽状繩文で多段の帶。口縁部には繩線による施文。やや曲線味を帯びる。

7は覆土上位、点取りNo.7が主体となって接合した。円筒下層d2式である。サルボウ条痕横走施文後、単軸絡条体地文。口縁部には複節の繩線による施文。やや曲線味を帯びる。

8は再生土製品である。8は覆土上位から出土した円筒下層d2式である。多軸絡条体地文の胴部破片の縁辺を円形に成形したものである。

9は覆土上位出土点取りNo.8である。口径の割に口縁部文様帶の幅が狭く、口縁部文様帶直下に結節の回転が見られる事から古段階のものと考える。繩線を二つ折りにして曲面を対向させる。

10は焼成粘土塊である。点取りNo.13に混在していた。No.13は覆土上位は掲載番号32の土器復元の主となった点取り遺物である。繊維・砂粒を含むため円筒下層式土器の胎土が焼けたものと考える。

11・12は覆土上位、点取りNo.2である。11は矢羽繩線によって平行線文様を施す。多軸絡条体地文。12は覆土上位から出土した円筒下層d2式の底部である。

13は住居北側のトレンチでまとまっていたものがM2.62T区からの出土遺物と接合した。同一個体の可能性があるものは覆土上位、覆土1層から出土している。

14は覆土上位、点取りNo.6である。15は覆土上位、点取りNo.5である。円筒下層d2式の底部である。多軸絡条体地文で上げ底である。

16は覆土上位出土遺物が接合した。点取りNo.16を主体とする。口縁部文様には繩線により山形文、連続する繩線で充填する。所々結束第一種羽状繩文施文で多段の帯。

17は覆土最上部出土、点取りNo.23である。口縁部文様は繩線により菱形基調の文様を連続して施す。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を継走。

18は覆土上位、点取りNo.3である。ほかにM1の遺物が接合した。多軸絡条体地文。肩部に半截竹管によるC字形刺突を連続。口縁部文様には2本一組の繩線で直線構成の文様。

19は覆土上位の遺物および東側覆土下位の遺物が接合した。覆土上位の点取りNo.17・No.18・No.21が接合している。口縁には繩線によって鋸歯状文、間隙を波状文や繩線押圧の連続で充填する。自縄自巻と結束第二種羽状繩文で多段の帯。

20は覆土2層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕施文後、自縄自巻を継走。口縁部には菱形基調の文様。

21は覆土上位出土、点取りNo.16を主体として接合した。口縁部には繩線によって山形文を鋸歯状に連続。多軸絡条体地文。

22は覆土上位、点取りNo.1である。繩線によって山形ないしは菱形文を連続。単軸絡条体地文。

23は覆土上位、点取りNo.11である。口縁部には繩線を平行に走らせる。多軸絡条体地文。

24は覆土上位、点取りNo.9とNo.10が接合、復元の主となる。口縁部には繩線を平行させる。区画となる肩部にはC字状の圧痕を連続する。木目状撚糸地文である。

25は覆土上位出土点取りNo.12を主体として接合した。口縁部には絡条体側面圧痕で山形文を推定四單位で施す。多軸絡条体地文。

26は覆土2層直下から出土、点取りNo.25である。繩線で山形文を推定四單位で施す。単軸絡条体地文。

27は覆土上位、点取りNo.14を主体とする。他に覆土下位、点取りNo.26、および覆土2層直下のものが接合した。口縁部には繩線で波状文を施し、間隙には複数の繩線押圧で充填する。サルボウ条痕施文後、自縄自巻と結束第二種羽状繩文で多段の帯。

28は覆土上位から最上位にかけての遺物を主体に接合した。点取りNo.24を含む。口縁部から底部にかけて、磨滅して不明瞭だが、条痕施文後、木目状撚糸文地文を施す。胎土と器壁の厚さから円筒下層d2式とした。

29は覆土上位でまとまっていた。多軸絡条体地文施文後、サルボウ条痕横走。地文および胎土から、円筒下層d2式の小型深鉢とした。

31は覆土北側上位出土遺物である。点取りNo.12が接合した。円筒下層d2式胴部下半である。自縄自巻と結束第二種羽状繩文によって多段の帯。30としたのは同時に出土した口縁部破片である。地文の撚りの向き等から判断して別個体であるが、同時期の可能性が高い。32は覆土上位、点取りNo.13を主体として接合した。覆土2層直下、覆土下位の遺物も接合している。円筒下層d2式である。口縁部には繩線によって山形文の連続。多軸絡条体地文。33は覆土上位、点取りNo.20である。自縄

自巻地文の胴部下半分である。円筒下層 d1 式新段階に相当するものと考える。34 は覆土 2 層直下の遺物を主体として、60R 区の M 2-2 と接合した。口縁部は繩線押圧の連続で 2 ないし 3 段の押圧列を形成する。地文は単軸絡条体と 2 段の結節回転の組み合わせで多段の帯にする。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層 d2 式を思わせる。文様と口径に対して長い胴部により古い要素を持つ。35 は覆土 2 層直下、M 3 的な土層であるが、この遺物を主体として、覆土上位遺物が接合したものである。口縁部は繩線により山形文を連続する。胴部はサルボウ条痕施文後、自縄自巻地文。明瞭な肩部と器壁の厚さが、円筒下層 d2 式を思わせる。文様により古い要素を持つ。

36~39 は円筒下層 d1 式の胴部破片を短冊状に振り切ったもの、あるいはその残片である。36~38 は短冊形である。36・37 は覆土南側から出土している。39 は覆土 1 層から出土している。38 は覆土上位から出土している。

40 は覆土上位、点取り No.13 である。磨滅した円筒下層 d1 式である。口縁部には繩線によって鋸歯状文が施される。所々に縦区画として円形刺突があしらわれる。絡条体地文と結束第二種羽状繩文で多段の帯。41 は覆土 2 層直下の遺物を主体として覆土上位遺物と接合した。サルボウ条痕横走後、自縄自巻施文。円筒下層 d1 式新段階の胴下半部である。42 は覆土上位の遺物を主体として接合した。点取り No.24 を含む。ただし接合状況をみると、覆土上位～下位また平面的にも広い範囲の遺物が接合した。口縁部にはサルボウ条痕を横走、繩文地文。43 は覆土上位、点取り No.19 である。口縁部には矢羽繩線を水平方向に密に施文する。円形刺突を押し引く隆帶により区画。合撫を縱走する地文。円筒下層 c 式新段階である。

44 は覆土南側から出土した。口縁部には反撫り繩線と繩文を施す。45 は覆土南側から出土している。円筒下層 c 式でも古手のものである。口縁部は繩文施文、区画は繩線、地文は単軸絡条体。

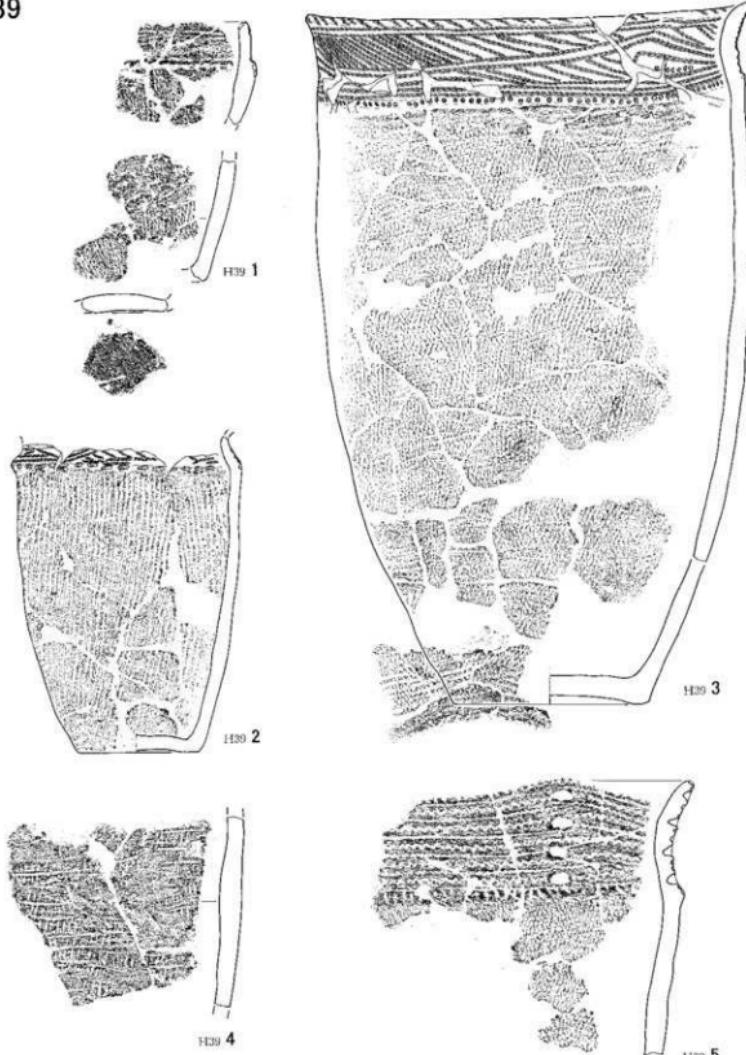
46 は覆土上位の点取り No.17・18・21 が接合した。口縁部文様は磨滅によって不明瞭。自縄自巻と結節回転の組み合わせで多段の帯。円筒下層 d1 式だが、器形と口縁部文様帯の幅から円筒下層 c 式に近い土器と考える。47 は覆土上位出土点取り No.24 である。類する破片は覆土の東側を中心に上位、下位の差なく出土した。このような時期に堅穴住居が掘り込まれた可能性がある。口縁部には直前段反撫り繩文、地文は単軸絡条体地文。48 は覆土上位出土遺物が接合した。中には点取り No.15 が混じる。繩線で鋸歯状文を描く。サルボウ条痕施文後、単軸絡条体地文。

49 は覆土下位出土、点取り No.35 である。口縁部には繩線で菱形文様の連続。地文には自縄自巻地文。区画には押し引き気味の刺突列を持つ隆帶。台付きの鉢である。50 は覆土下位出土点取り No.31 である。繩線により山形文の連続。サルボウ条痕横走後、自縄自巻を縱走。

51 は覆土中位出土、点取り No.32 である。口縁部には繩線で波状文。サルボウ条痕を横走後、自縄自巻を縱走。

52 は覆土下位出土、点取り No.26 である。口縁部には結束第一種羽状繩文と繩線で施文。サルボウ条痕施文後、自縄自巻。53 は覆土下位出土遺物、特に点取り No.33 を主体とし、覆土上位～下位にかけての遺物が出土した。H21 の覆土 7 層上面の遺物 1 点とも接合している。繩線押圧を矢羽状に並べ、対向させる。区画は押し引きによる二列の刺突列。自縄自巻地文。54 は覆土下位出土であり、覆土下位出土の点取り No.42 が同一個体と考えられる。単軸絡条体地文の底部。55 は覆土下位出土、点取り No.28 を主体とし、No.37 の 2 点と接合した。自縄自巻地文の底部。56 は覆土下位出土、点取り No.39 を主体とする。口縁部に結節回転と繩線を施す。二種類の直前段反撫り繩文による地文。57 は覆土下位出土で点取り No.30 である。単軸絡条体回転および結束第一種羽状繩文回転をくみあわせたものを口縁部および胴部地文に施す。隆帶上には押し引きを連続する。胎土と器壁から、円筒下層 c 式

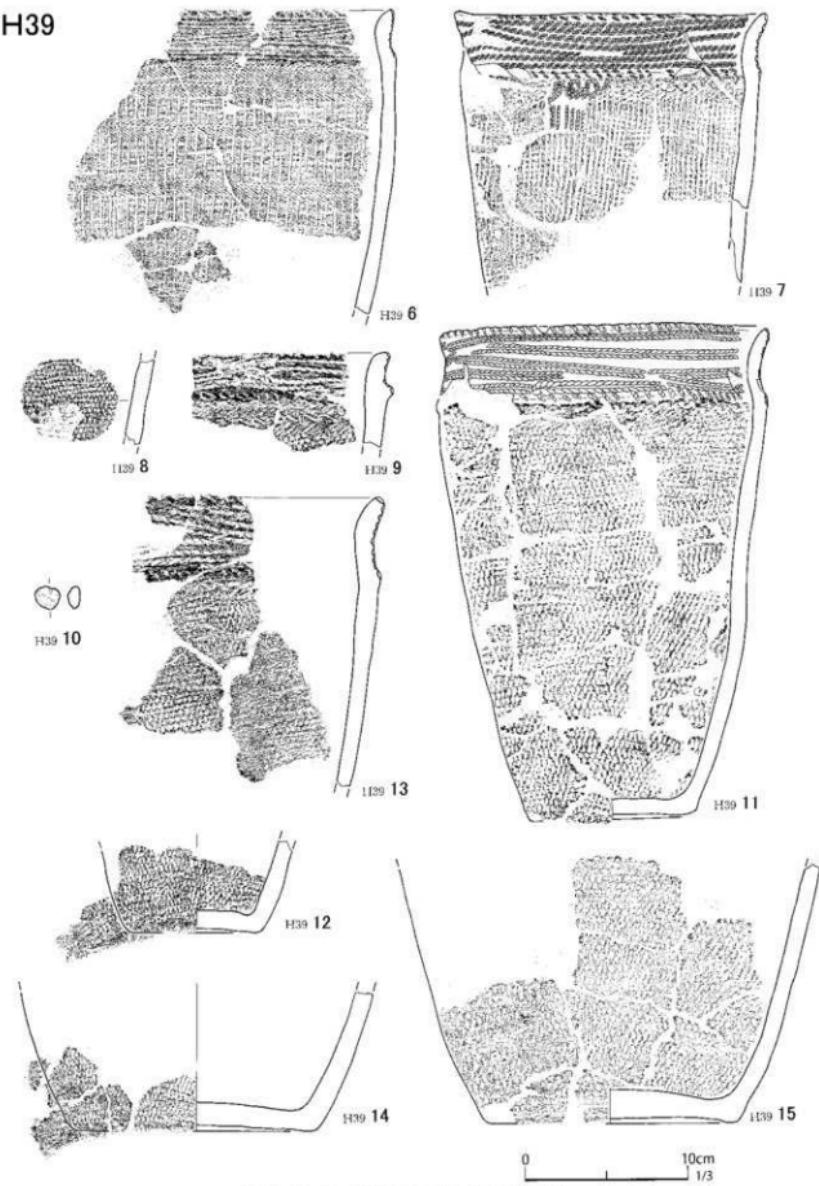
H39



0 10cm
1/3

図III-2-42 遺構出土土器 H39(1~5)

H39

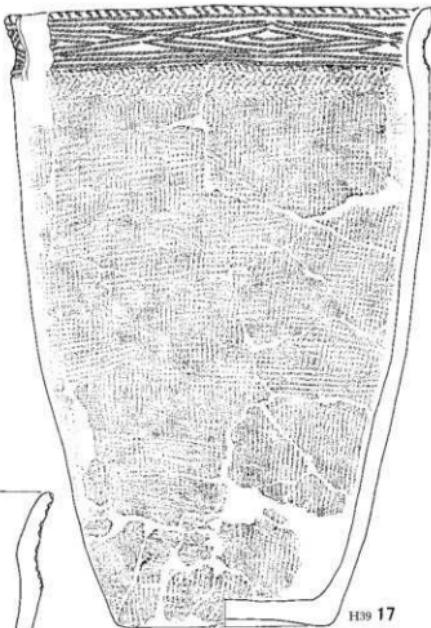


図III-2-43 造構出土土器 H39(6~15)

H39



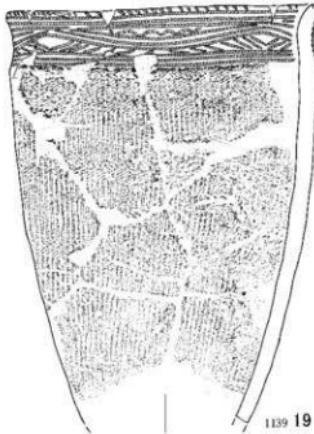
H39 16



H39 17



H39 18



H39 19

0 10cm
1/3

図 III-2-44 遺構出土土器 H39(16~19)

H39

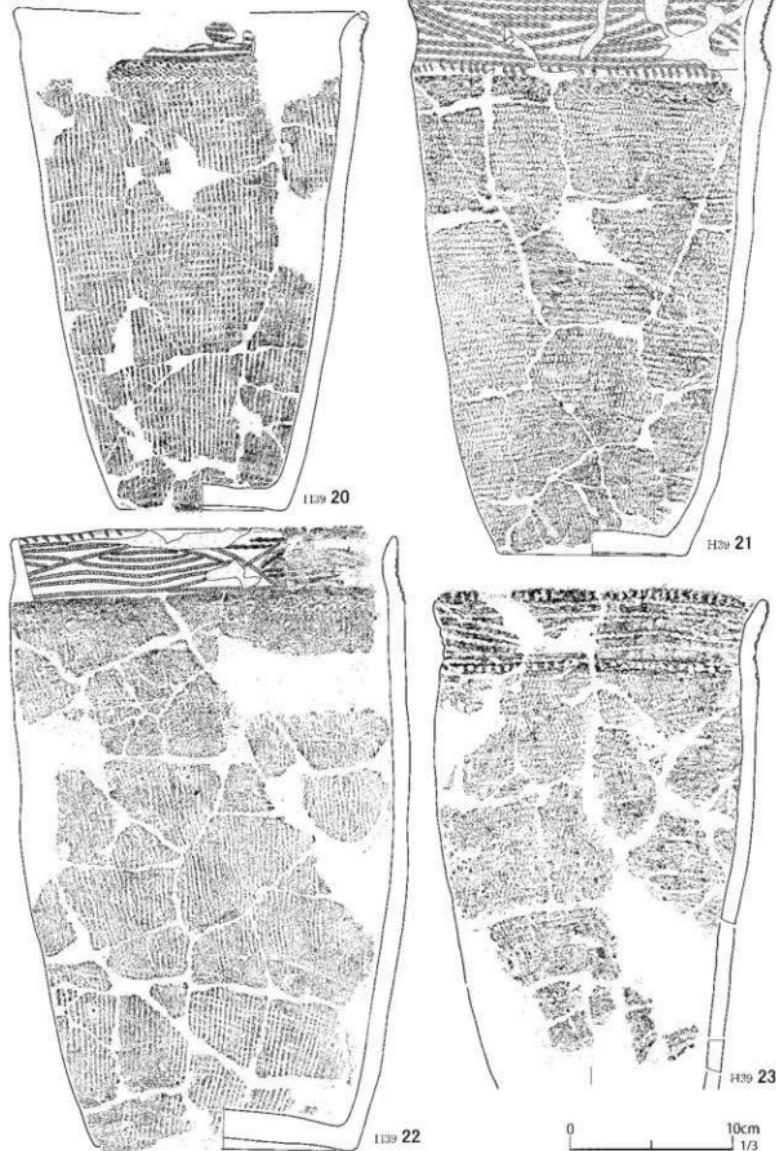
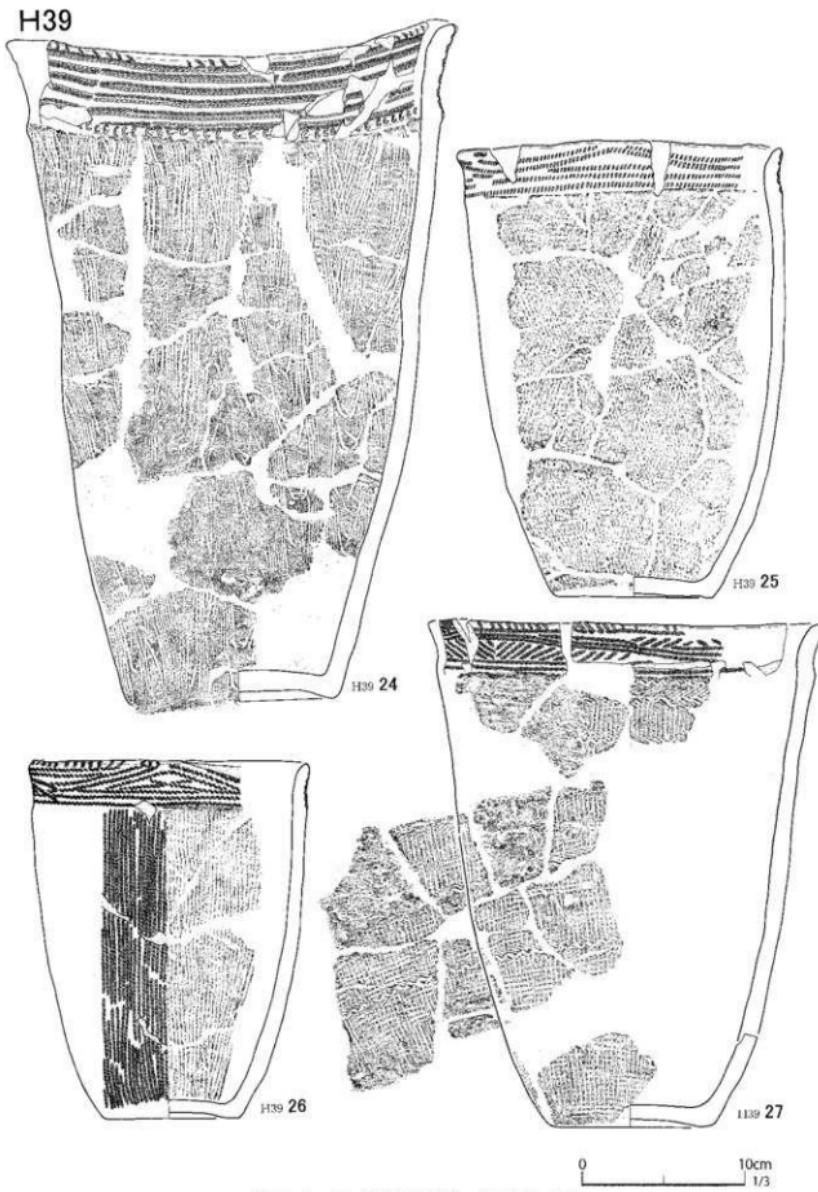


図 III-2-45 遺構出土土器 H39(20~23)



図III-2-46 遺構出土土器 H39(24~27)

H39

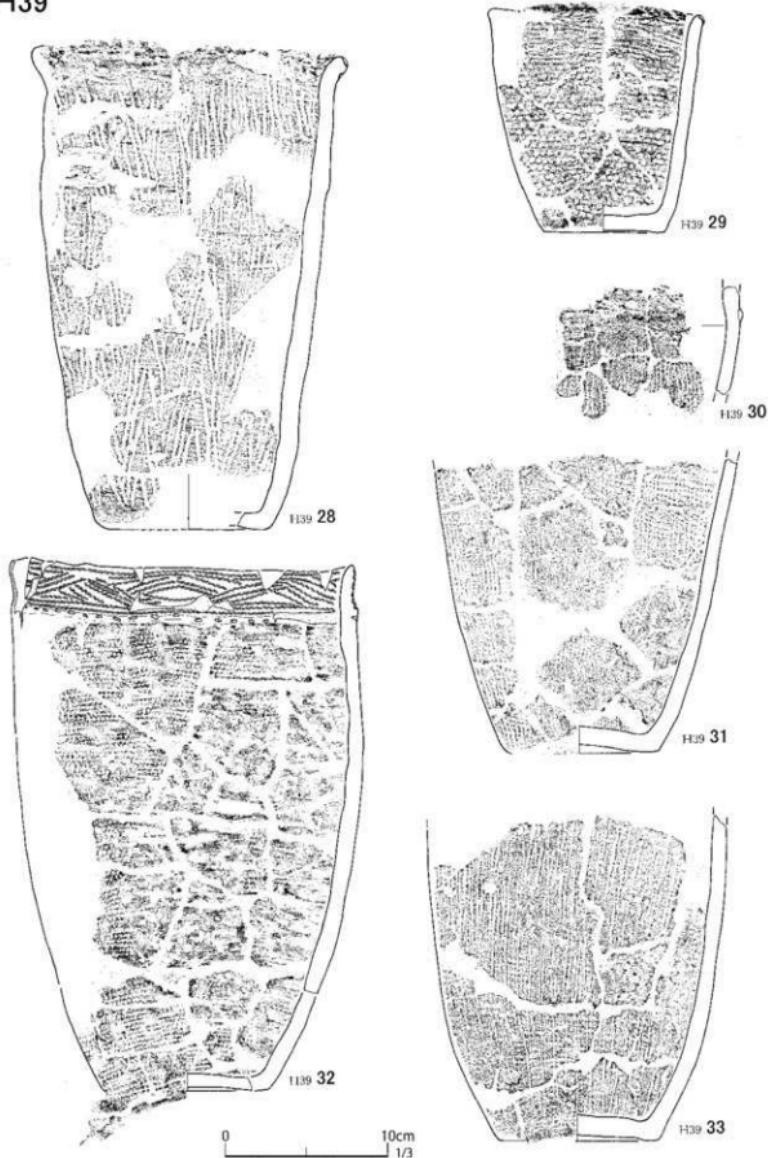
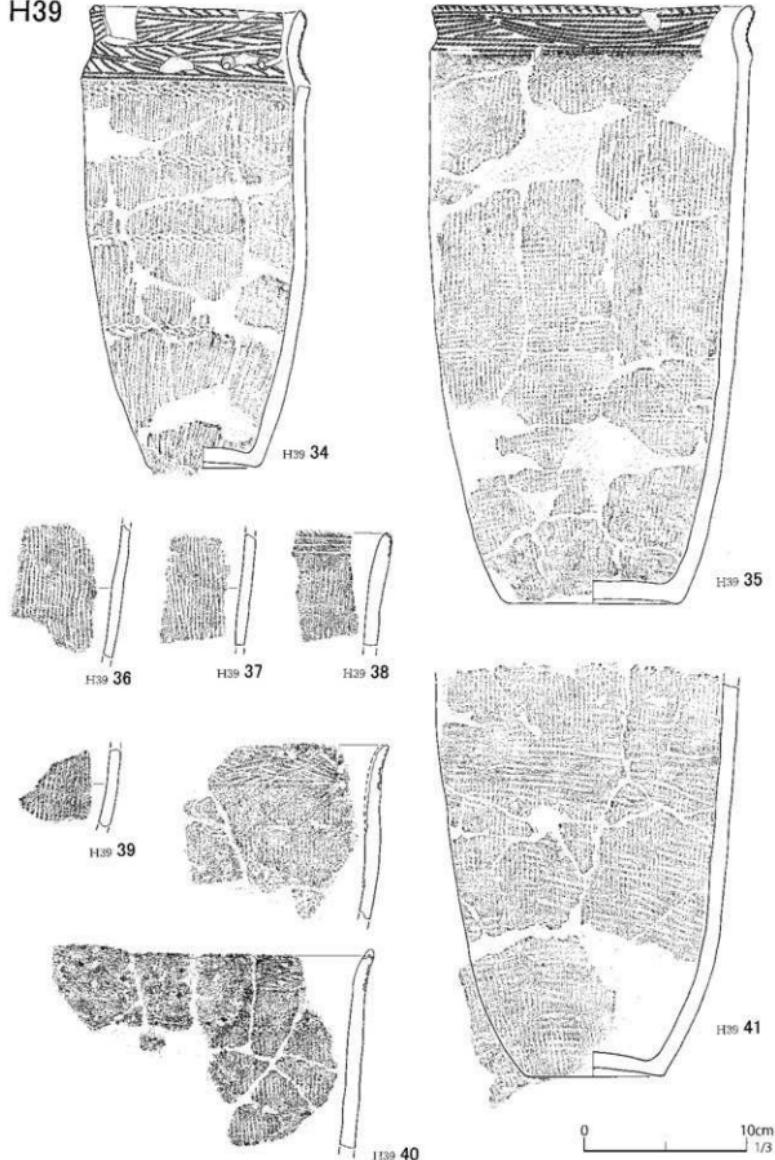


図 III-2-47 遺構出土土器 H39(28~33)

H39

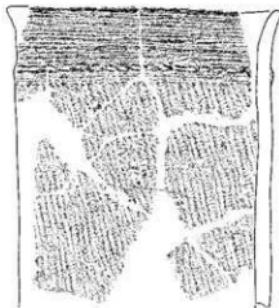


図III-2-48 遺構出土土器 H39(34~41)

H39



H39 42



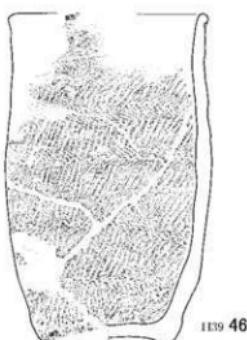
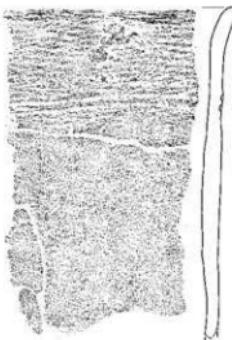
H39 43



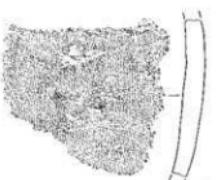
H39 44



H39 45



H39 46

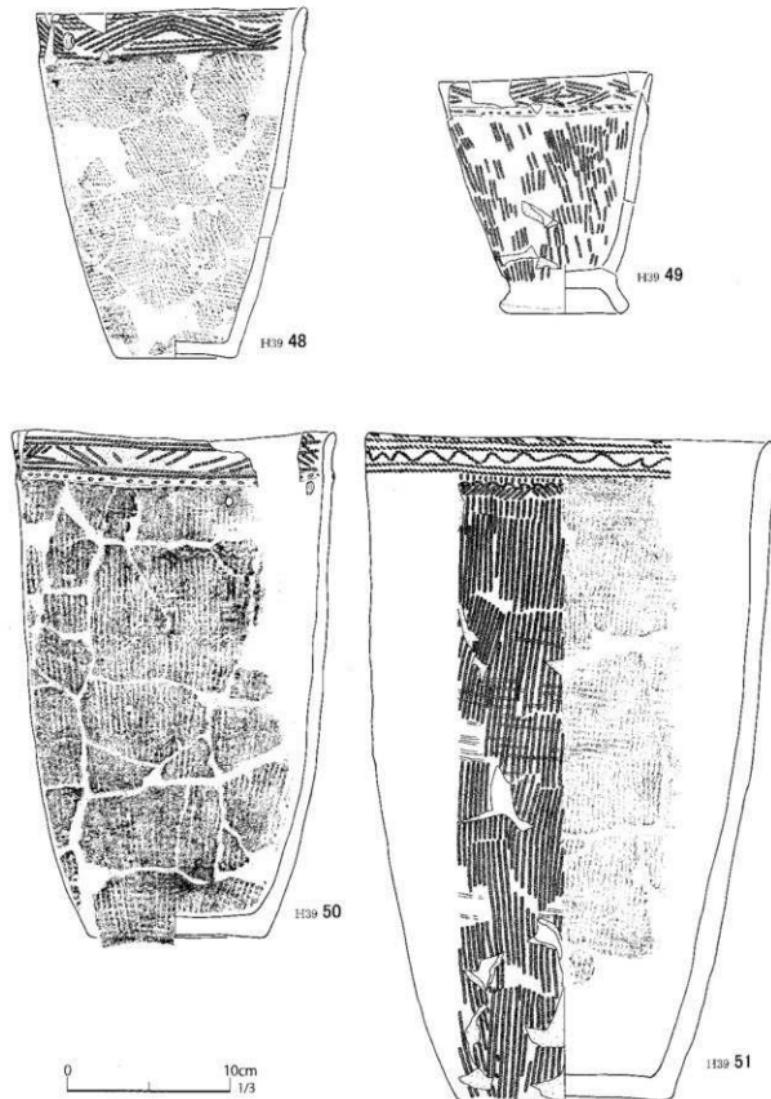


H39 47

0
10cm
1/3

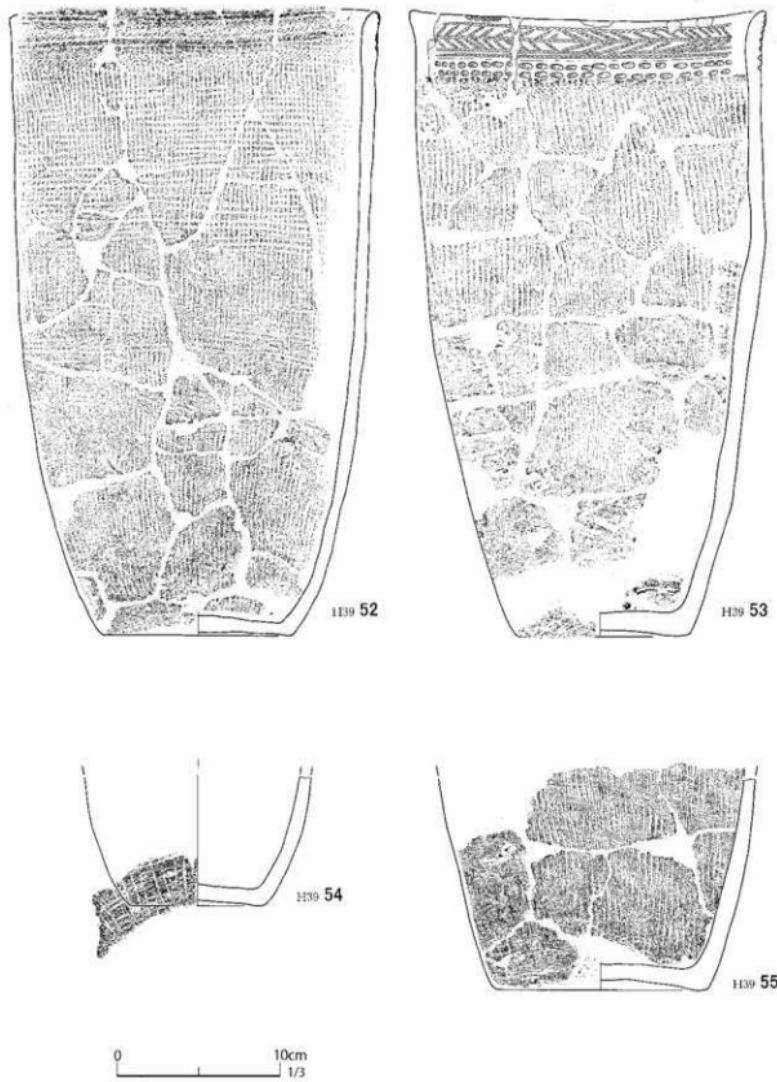
図 III-2-49 遺構出土土器 H39(42~47)

H39



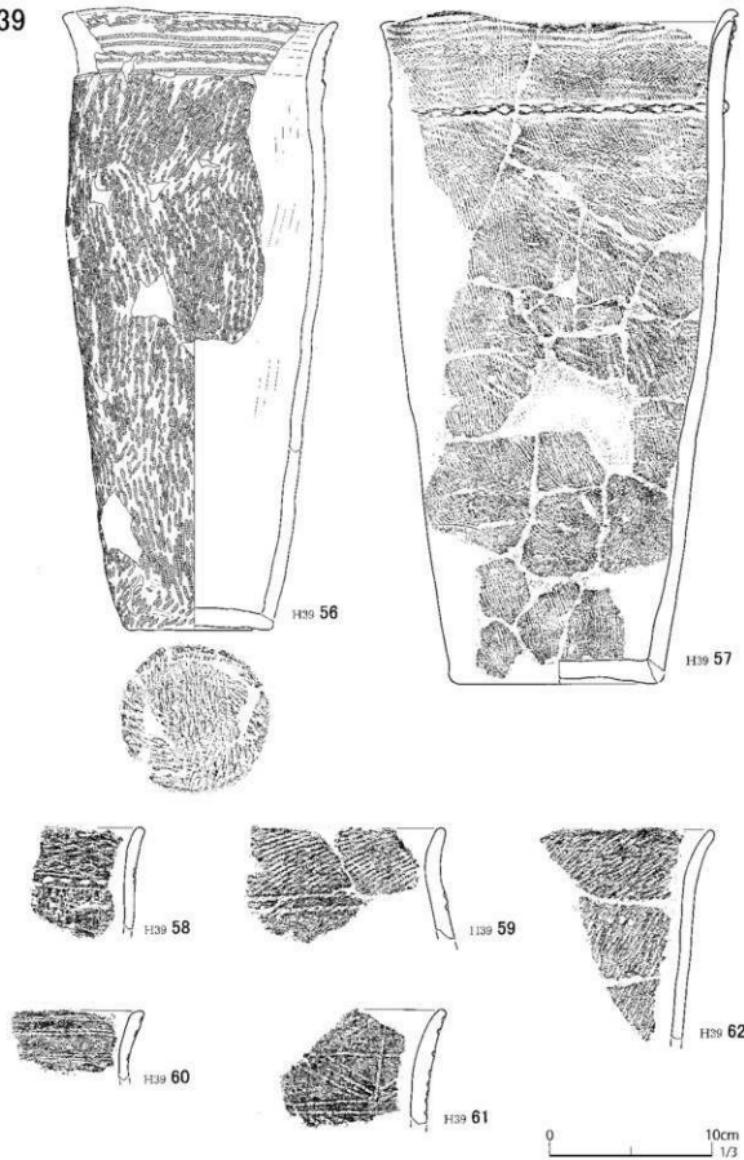
図III-2-50 遺構出土土器 H39(48~51)

H39



図III-2-51 遺構出土土器 H39(52~55)

H39



図III-2-52 遺構出土土器 H39(56~62)

と考える。文様要素として連続刺突を持つ隆帯が円筒下層 b2 式的、そして地文の組み合わせが円筒下層 d1 式的である。

58~62 は円筒下層 c 式である。58・60・61 は覆土東側から、59 は覆土下位から、62 は覆土上位から出土した。61 は絡条体側面圧痕により文様の正中線が波頂部に対応していると思われる菱形文様を口縁部に施す。58 は結節回転文を口縁部文様帶に持つ。60 は 2 本一組の繩線で無文時地の口縁部に文様を描く。円筒下層 d1 式に近い文様である。62 は直前段反撫り地文の土器である。接合破片に点取り No 18 を含むまた類似した破片が覆土下位東側からも出土している。59 は内弯する口縁部形態と繩文地文の口縁部文様帶、二本の繩線による区画。58 もその古い文様要素から円筒下層 b2 式段階まで下る可能性もある。

63 は覆土下位出土、点取り No 40 を主体とする。脇の No 41 のうち 2 点とも接合した。口縁部は反撫り繩文横走、胴部は反撫り繩文縱走。肩部には繩線が 2 本施される。64 は覆土下位出土、点取り No 41 である。口縁部には反撫り繩文を横走、胴部には反撫り繩文を縱走。口縁部には結束第一種羽状繩文の原体と思われる繩線を押圧する。

65 は大きくなっている。65 は覆土下位の点取り No 42 と No 38 が接合した。そこに覆土下位出土遺物が散点的に接合した。結束第一種羽状繩文により口縁部を施文する。単軸絡条体地文である。

H40：磨滅した土器のみ出土。胎土、器壁の厚さから、いずれも円筒下層 b1 式あるいはその後の円筒下層 b 式の古手のものと考える。1 は覆土 1 層と覆土 2 層の遺物が接合した。2 は床面出土である。点取り No 3 である。いずれも調整等は不明である。胎土に纖維・砂・海面骨針を含む。

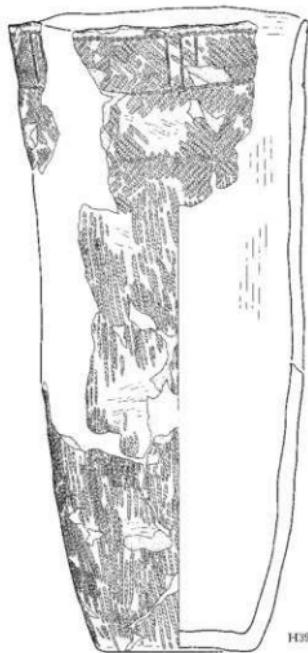
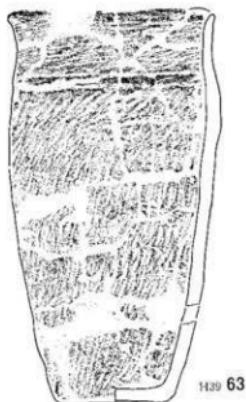
H41：1~7 は復元個体である。1・3~6 はベルト覆土上位からの出土である。2 はトレンチから、7 はベルト覆土下位からの出土である。1~3・5・7 は円筒下層 b2 式の範疇と考える。4・6 は円筒下層 b2~c 式と考える。

1・2 は単軸絡条体地文。1 の口縁は斜行、胴部は縱回転。2 の口縁は横走、胴部は縱走。1 は外反する口縁部とすぼまる底部を持つ。2 は筒状の深鉢。3 の口縁は単軸絡条体第 4 類横回転、多軸絡条体地文。肩部から若干窄まる口縁部形態を持つ。器形と地文から、円筒下層 b2 式でも新段階に近い要素を持つ。4 の口縁部には二種類の繩線を施し、隆帯上にはヘラによる連続刺突を施す。単軸絡条体地文である。底部から口縁部にかけてよく外反する器形である。5 は 1 に類似した器形である。口縁部に結束第一種羽状繩文を施し、胴部には単軸絡条体地文を持つ。6 は複節の繩線を 4 段施し、単軸絡条体地文を持つ。隆帯上には円形刺突が連続する。竹管によるものか、所々 C 字状の押圧になっている。7 は口縁部に単軸絡条体第 5 類横回転、胴部には単軸絡条体地文を施す。底部から外反して口縁部に至るが、4 よりは筒状に近い。

8・10~12 はトレンチからまとめて出土した。9 は覆土南側とベルト覆土下位から出土したもののが接合した。8 は単軸絡条体地文で口縁は横方向、胴部は縱方向である。9 の口縁部は繩文施文、区画の隆帯には円形刺突が連続。単軸絡条体地文。10 の口縁部は結節回転と絡条体側面圧痕による。地文は単軸絡条体第 5 類回転。11・12 は絡条体地文の底部。11 は縱回転に近い斜行。12 は縱回転および底面際に横回転の帶。いずれも円筒下層 b2 式である。9 は新段階。トレンチやベルトなど住居覆土の堆積中央に近いところにまとまっていた。廃絶後の堅穴住居の凹みに廃棄したものと考える。

13 はニシンの椎骨が原体と思われる、魚骨回転文のついた繩文時代早期の土器である。東側路 IV 式とした。トレンチからの出土で盛土以前のものが掘りあがったものと考える。

H39

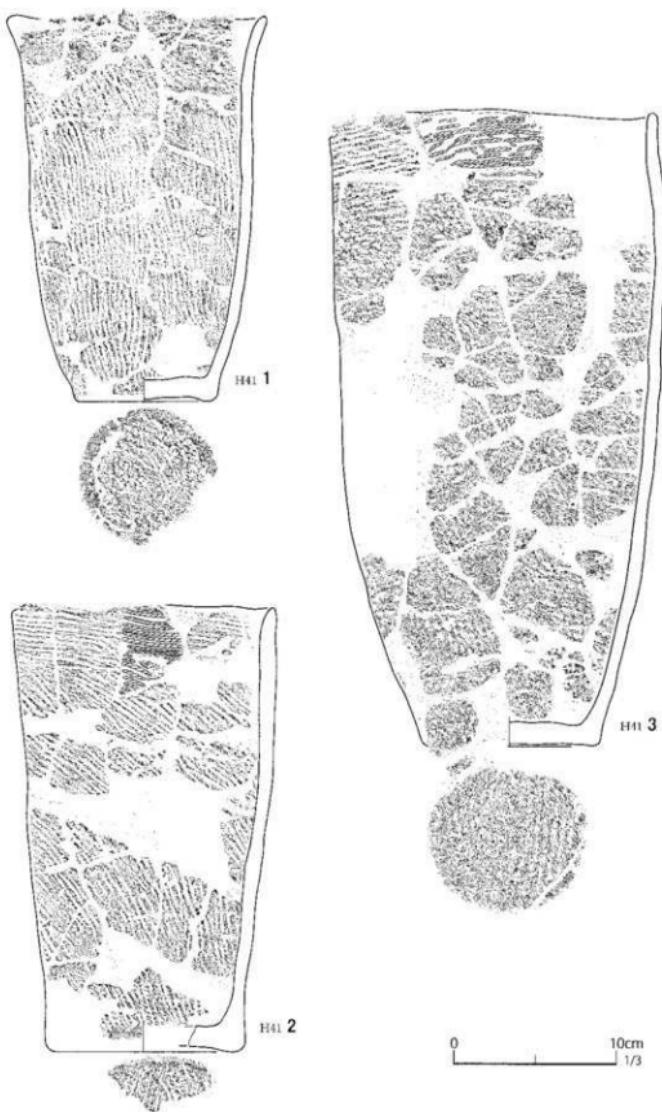


H40



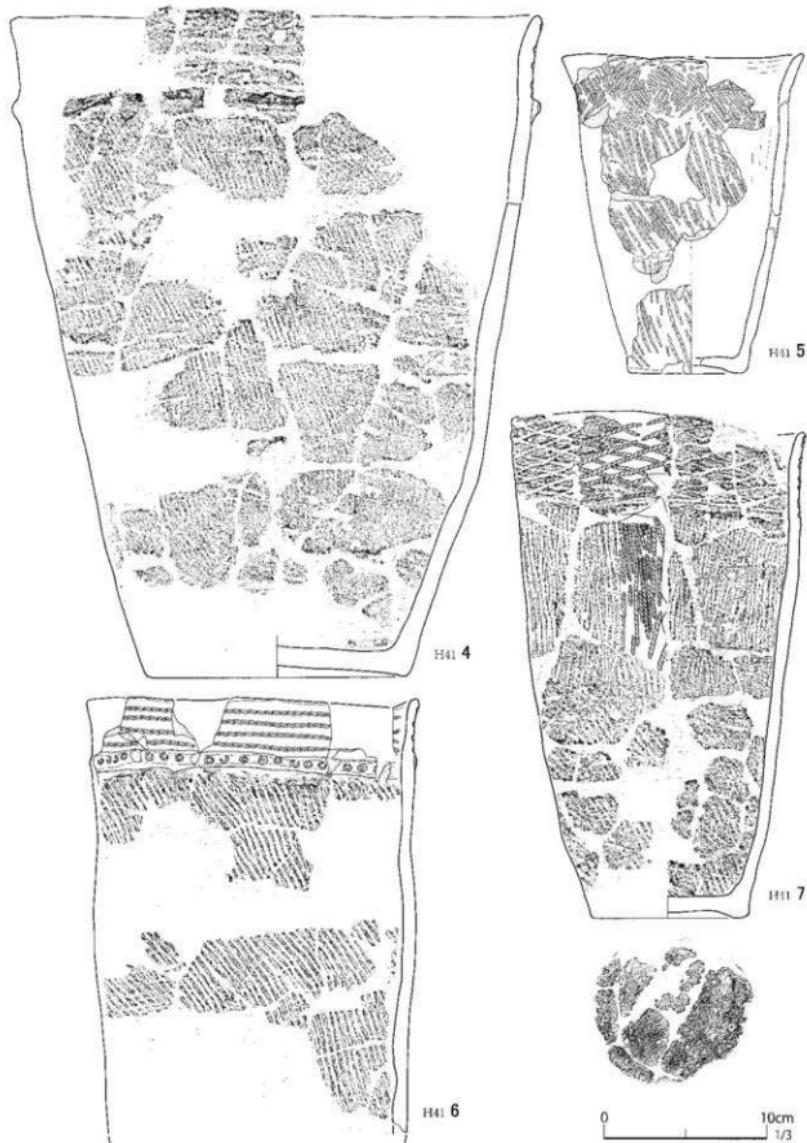
図III-2-53 遺構出土土器 H39(63~65)・H40(1・2)

H41



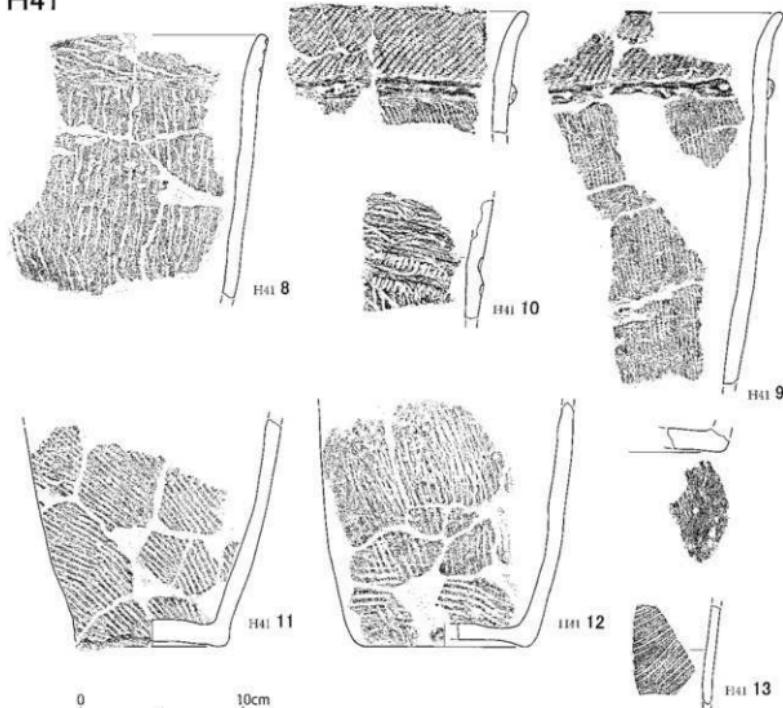
図III-2-54 遺構出土土器 H41(1~3)

H41



図III-2-55 遺構出土土器 H41(4~7)

H41



図III-2-56 遺構出土土器 H41(8~13)

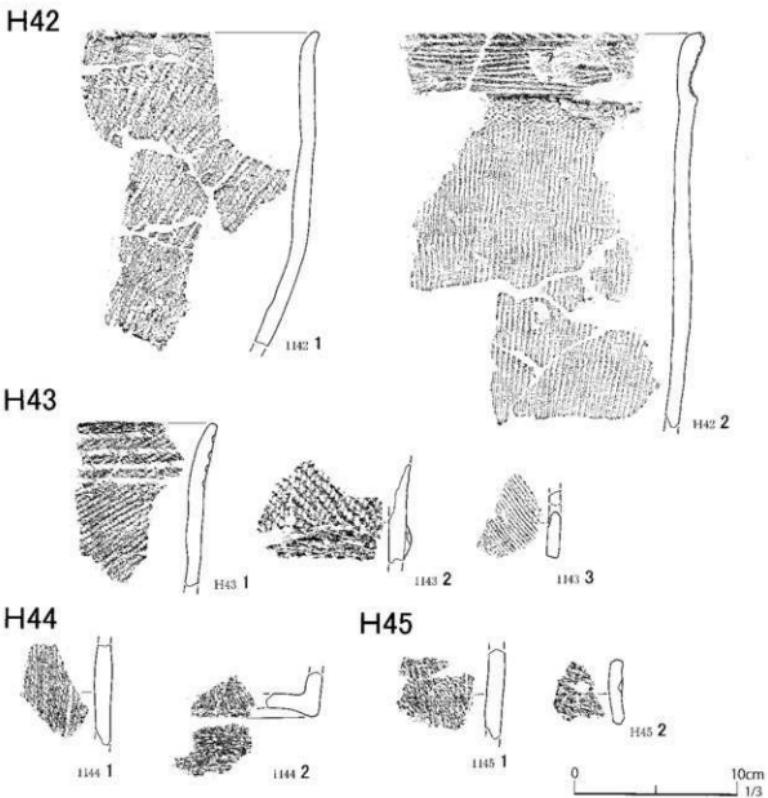
H42：覆土から円筒下層 b 式と円筒下層 d2 式の破片が出土している。大型の土器破片を点取りした。No.1～3は円筒下層 d2 式で、覆土下半の覆土 2 層から出土している。No.7は円筒下層 b2 式で、床面より上の黒色土、覆土 4 層から出土する。

1は覆土 4 層出土で点取り No.7 と覆土出土のものが接合した。円筒下層 b2 式である。

2は覆土 2 層出土点取り No.1～3 と覆土出土点取り No.8 が接合したものである。円筒下層 d2 式である。住居廃絶後の廃棄である。

H43：1は覆土 2 層から出土した。口縁部には複数の縄線、そして縄文地文。円筒下層 b2～c 式である。2は覆土 1 層から出土した。口縁部には縄文。区画には隆帯。円筒下層 b 式である。

3は床面から出土した円筒下層 b2 式である。点取り No.6 である。単軸絡条体地文の胴部破片の縁辺をほぼ円形に打ち欠き、中央に穿孔する。



図III-2-57 遺構出土土器 H42(1・2)・H43(1~3)・H44(1・2)・H45(1・2)

H44：覆土および床面から円筒下層b式が出土する。床面遺物からのみ抽出した。

1と2は床面出土、1は点取りNo.25、縞条体回転地文。2は点取りNo.16、縞文地文で底部破片。いずれも磨滅著しいが、胎土、地文などから円筒下層b式の範疇と考える。

H45：覆土、周溝、炉から磨滅した円筒下層b式が出土する。同一個体のまとまりは無い。

1は周溝覆土1層出土、点取りNo.11である。縞条体地文。2はHF-1覆土2層出土、点取りNo.18である。磨滅が著しく、穿孔途中らしき痕跡があるが判然としない。再生土製品の可能性もある。いずれも円筒下層b式の範疇である。

H46：覆土でまとまっていた点取り番号No 14とM4並行の覆土上部からまとまって出土した土器片群（遺物番号 31）が1である。円筒下層 b2～c式である。同じくNo 14に混在していた土器片と覆土出土の土器片が接合して2となった。1・2共にかなり近い時期と考える。いずれも円筒下層 b2～c式段階とするのが妥当と判断した。

3は覆土壘際出土遺物と覆土下位出土遺物が接合した。単軸絡条体回転地文。指頭圧痕により口縁部を区画。円筒下層 b2～c式と考える。

4・5は覆土出土遺物と住居が立地する調査区の盛土出土遺物と接合した。4はM4-3, 61T区、5はM4-3, 61S区出土遺物である。4は縄文地文で隆帯が口縁部を区画する。5は単軸絡条体第5類地文である。6はHP-7出土遺物と覆土壘際、覆土下位出土遺物が接合した。複節縄文が縱走する。7は床面出土、点取りNo 3とNo 7が接合した。単軸絡条体地文である。8は覆土上位遺物である。絡条体回転地文。縁辺に成形の可能性がある。再生土製品と考える。9はHP-5 覆土出土遺物である。縄文地文の底部破片である。7が床面、9が付属造構 HP-5出土。4～9は円筒下層 b2式の範疇である。

H47：覆土から円筒下層 b式が出土している。円筒下層 b1式から円筒下層 b2式古段階の流入と考える。1・2は覆土から出土した。1は口縁部に結節回転を施す。2は縄文地文。

H48：覆土から円筒下層 b式が出土している。特に円筒下層 b2式の破片が目立つ。同一個体のまとまりは無い。床面のものと付属造構 HP-2出土のものを抽出した。1は床面から出土した。点取りNo 1である。合撫りか。2はHP-2の覆土から出土した。結束回転か。いずれも不明瞭である。円筒下層 b1式か円筒下層 b2式古段階である。

H49：覆土から磨滅した円筒下層 b式から下層 c式と思われる土器破片が出土する。1は覆土1層出土、複節縄文を地文とする。円筒下層 b式とした。

H50：覆土から円筒下層 b式土器が出土する。いずれも磨滅しており同一個体のまとまりは無い。1は覆土出土、縄文地文である。円筒下層 b式である。

H51：円筒下層 b式から円筒下層 c式までが出土する。床面からは円筒下層 b式のみが出土する。覆土から円筒下層 c式の同一個体がまとまっていたが、復元には至らなかった。円筒下層 b式の同一個体のまとまりは無かった。

1・3～5は円筒下層 c式とした。1・3は覆土西側、4・5はベルト部分の覆土である。

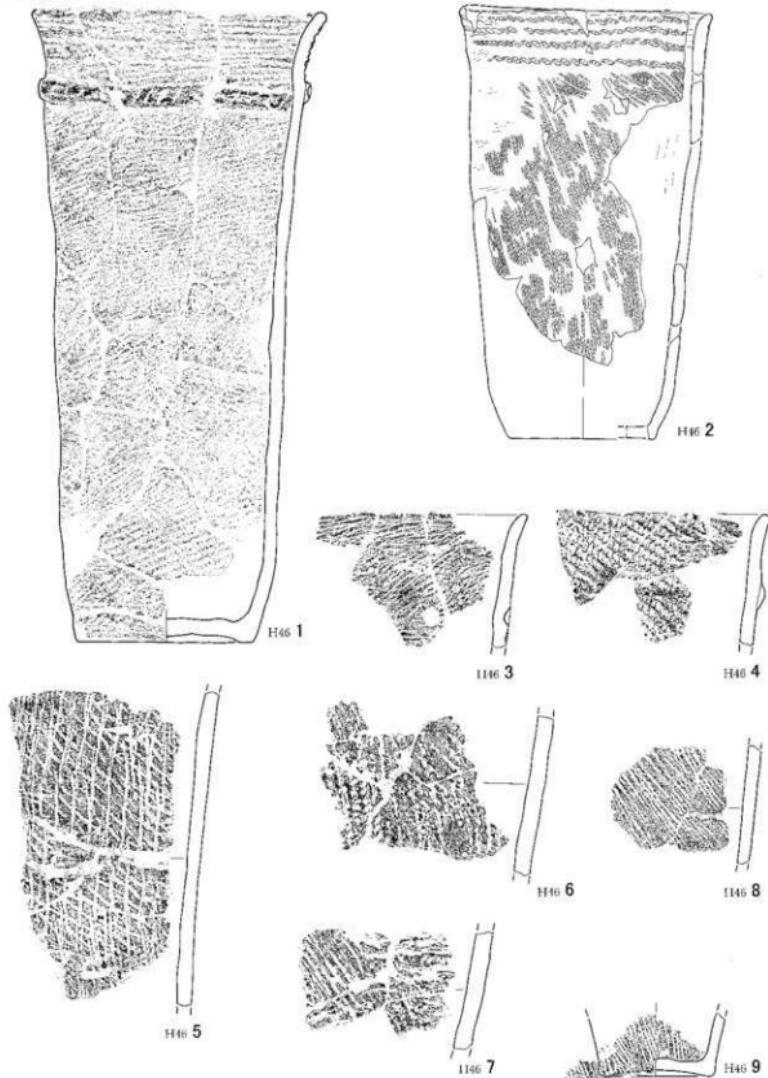
は絡条体側面圧痕による口縁部文様、直前段反撲り地文。3の口縁部は直前段反撲り地文を横走、胴部は縱走、間に結束第一種羽状縄文を帶状に施す。口縁部には継区画として結束第一種羽状縄文、および縄線縦に押圧する。円筒下層 d1式に近いが口縁部文様帶の幅広さから c式とした。4は口縁部に縄線を押圧し、縄文地文。5は直前段反撲り地文。口縁に屈曲を持つ。

2は覆土東側出土。口縁部は単軸絡条体第4類横回転である。隆带上には円形刺突が連続する。直前段反撲り R R L縄文地文。口縁部と隆帶に古い要素があるものとし、円筒下層 b2～c式とした。

6は覆土西側出土、焼成粘土塊である。繊維を含む。

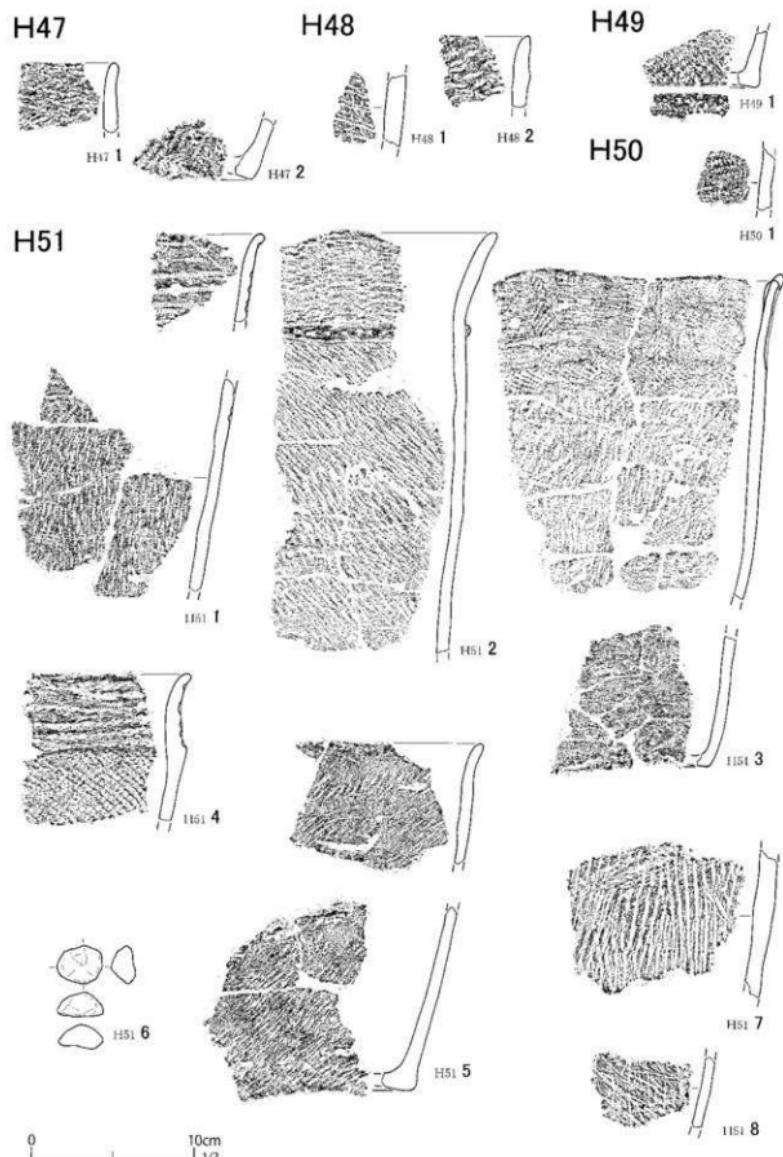
7・8は円筒下層 b2式の胴部破片と考える。7は床面出土、点取りNo 13である。単軸絡条体地文である。8はHP-5 覆土から出土した。単軸絡条体による網目状地文である。

H46



図III-2-58 遺構出土土器 H46(1~9)

0 10cm
1/3



図III-2-59 遺構出土土器 H47(1・2)・H48(1・2)・H49(1)・H50(1)・H51(1~8)

H52：円筒下d1式古段階である1が一個体分として復元できた。覆土1層と2層から出土した土器が接合した。覆土および床面から円筒下層b式から円筒下層c式のころと思われる破片が出土している。1は円筒下層d1式古段階である。ゆるやかな五單位の波頂部を持つ。全体に直前段反撃り地文を施した後、口縁部に、結束第一種羽状繩文を帶状に2段施す。地文から円筒下層c式に近い段階のものと考える。2は覆土1層から出土した。円筒下層d1式のまとまりに混在していた。口縁部には水平方向に複数段繩線が施される。単軸絡条体地文。文様構成から円筒下層c式と考える。口縁部文様帶の幅、および器壁の薄さ等は円筒下層d1式古段階に近い。

H53：HF-1 覆土2層出土の点取り土器については円筒下層b式から下層c式と思われる土器碎片である。覆土からも下層b式から下層c式にかけての土器片が流入している。円筒下層b式が主体であり、円筒下層c式の可能性があるものについても円筒下層b2式に近い古手のものである。

1～3は覆土1層から出土した。1・2は円筒下層b式、3は繩文時代早期の土器である。1は円筒下層b2式の底部である。単軸絡条体地文である。2は口縁部に隆帯を持つ。その上下に結節回転文を施す。単軸絡条体地文である。円筒下層b2式で古い要素を持つものと考える。3は繩文時代早期後半、コッタロ式相当の土器と考える。紐圧痕の連続、あるいは撫りの向きが異なる二種類の繩文を器面に施し、微隆起線を持つ。

H54：床面、覆土いずれからも円筒下層b式の碎片が出土している。

1・2は覆土2層出土である。いずれも繩文地文が継走する。隆帯上には連続刺突がある。胎土の粗さから円筒下層b1式の可能性がある。3は床面出土である。絡条体地文である。円筒下層b2式で、胎土の粗さから古段階の可能性がある。

H55：覆土から円筒下層b式から円筒下層d1式にかけての碎片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

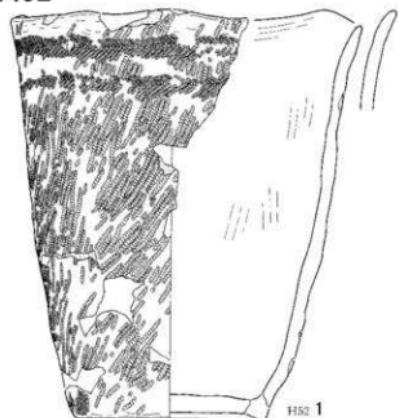
1～3は覆土1層から出土、点取りNo.16である。1は円筒下層b2式新段階である。多軸絡条体地文である。2は円筒下層b式である。単軸絡条体第5類、網目状地文である。3は円筒下層d1式である。単軸絡条体地文と結束第一種羽状繩文で多段の帶。

H56：覆土最上部に円筒下層c式がまとまって廃棄されていた。1～3・6の四個体が復元可能であった。床面近くで、底部が欠損した円筒下層b式の新段階のものが出土している。

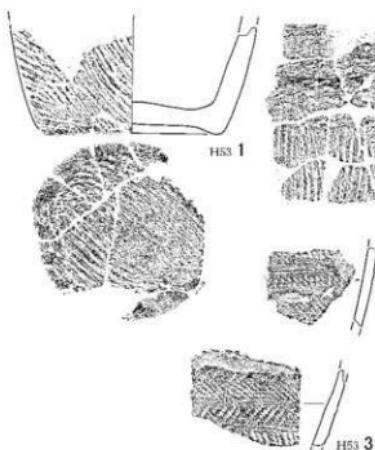
最上部は円筒下層d1式が出土している。復元個体としてH38-7がある。これにH56 覆土最上部遺物が1点出土している。

1は覆土最上位出土、点取りNo.1である。口縁部には直前段反撃り繩文横走。区画には結束第一種羽状繩文、地文は直前段反撃り繩文と結束第一種羽状繩文で多段の帶。口縁部文様帶の幅が広い事と器形から円筒下層c式としたが、文様的には、円筒下層d1式古段階に近い。2は覆土最上位出土、点取りNo.4である。口縁部には繩線によって菱形基調の文様を施す。地文は斜行繩文。3は覆土最上位出土、点取りNo.3である。結束第一種羽状繩文横回転を口縁部に施す。粗い胎土の厚手の器壁であるが、口縁部文様帶の下から胴上半部にかけて、羽状繩文を連続して綴回転させる。4は覆土最上位出土である、点取りNo.3に混在していた口縁部破片である。口縁部には直前段反撃りを横走。胴部には矢羽状の単軸絡条体回転を施す。区画には右に引くような連続刺突。5は覆土下位出土、点取りNo.

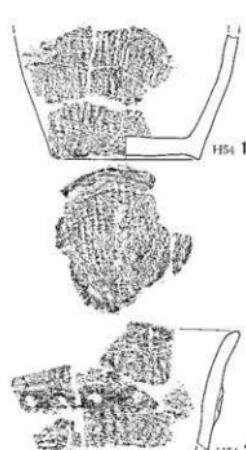
H52



H53



H54



H55

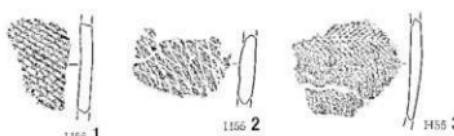
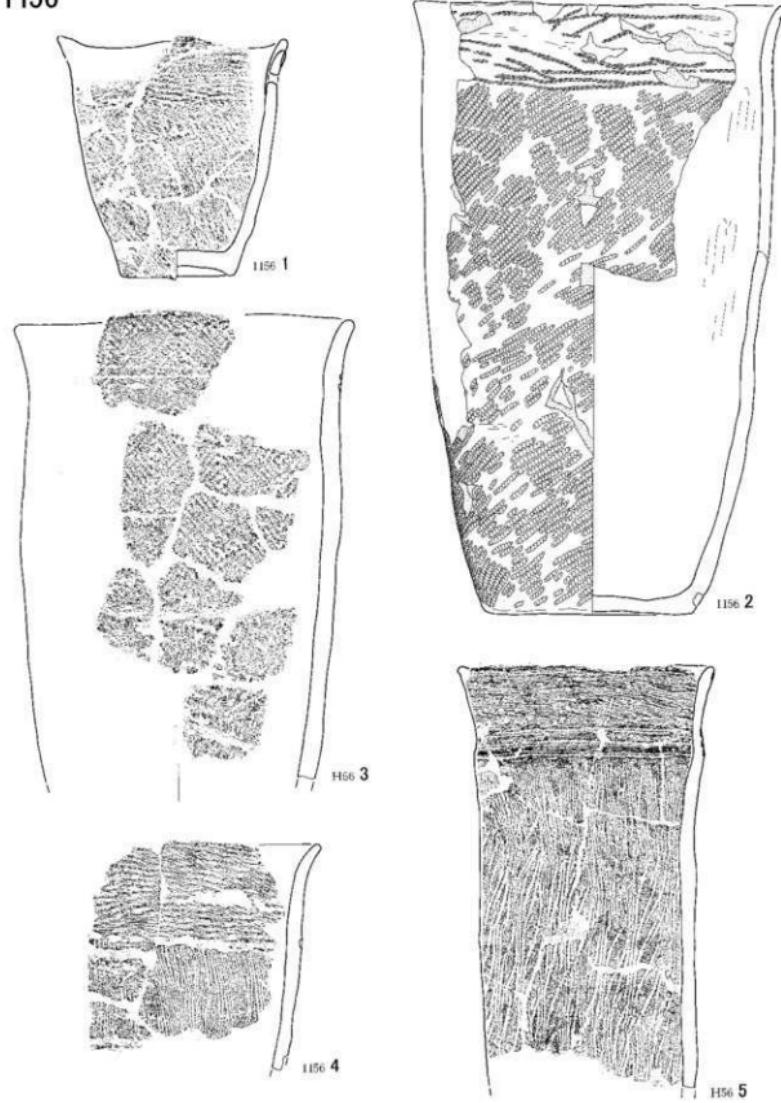


図 III-2-60 遺構出土土器 H52(1・2)・H53(1~3)・H54(1~3)・H55(1~3)

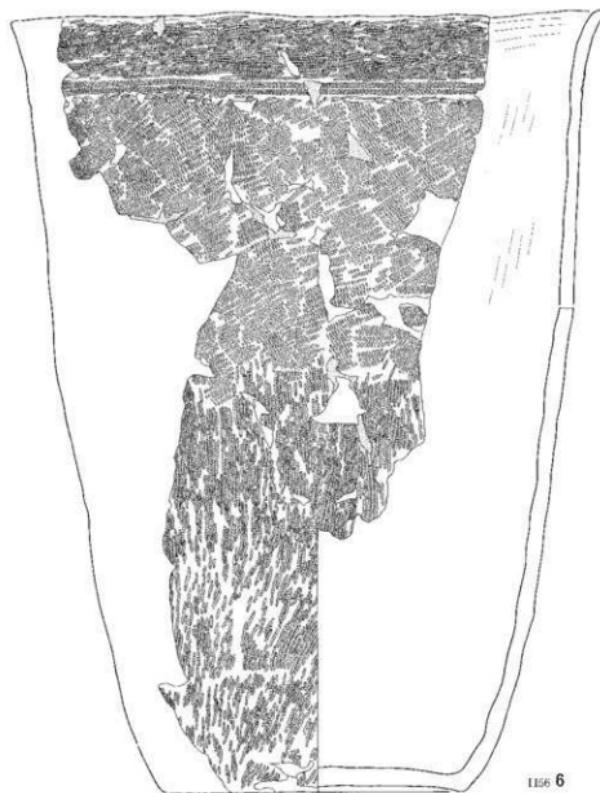
0 10cm 1/3

H56

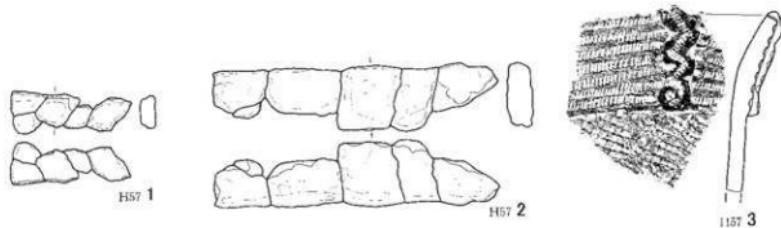


図III-2-61 遺構出土土器 H56(1~5)

H56



H57



図III-2-62 遺構出土土器 H56(6)・H57(1~3)

5である。住居の切りあい部分から出土したためか底部を見つけることが出来なかった。薄い器壁を持ち、造形が丁寧である。単軸絡条体第1類の原体について巻く間隔を途中から広げることで網目状に類する地文を呈する。口縁部横回転。胴部縱回転。隆帯には2本一組の繩線を三組押圧する。円筒下層b2式で、新段階ないしはb2～c式期と考えるが調査範囲内で類例が無い。6は覆土最上位出土、点取りNo.2である。大型の円筒下層c式である。底部の半分ほどはH29 覆土北側(H56と切り合う側)から出土遺物と接合。口縁部に直前段反撫り繩文を横走、胴部上半は多軸絡条体、下半は直前段反撫り繩文を縱走。区画には繩線と押し引き気味の刺突列。

H57：付属遺構HP-3から円筒下層d2式の最新ないしは円筒上層a式最古段階の深鉢が出土し、覆土下位から中位および周辺包含層の破片が接合、円筒上層a式最古段階の浅鉢となった。

1・2は覆土から出土したものである。もとは一塊で、同じ板状の焼成粘土塊であったものである。破損が著しく、それ以上の情報は無かった。接合して図化に耐えうるもののみ図示した。胎土には海綿骨針と織維を含む。

3は覆土1層と覆土2層そして住居がある85P区のⅢ層から出土した。円筒上層a式である。口縁部文様帶は肥厚し、鋸歯状に垂下する隆帯を持つ。絡条体側面压痕で加飾する。地文はL R繩文を縱回転。

4は付属遺構HP-3から出土したものである。円筒上層a式最古段階のものである。四単位の波頂部を持つ。波頂部は双頭気味で、中央に突起を持つ。頸部より上には繩線が施される。胴部上半はR L繩文、下半はL R繩文地文である。

5と6は覆土から出土したもので、口縁部を持つ土器片の縁辺を掠り切って短冊状に成形したものである。5は円筒下層b式、6は円筒上層a式の口縁部から胴部にかけての破片である。6は石斧の正面観を思わせる形状である。

7は覆土下位から出土したものである。把手が三単位の波頂部に対応する。肥厚する口縁部文様帶には繩線で加飾される。L R繩文地文。円筒上層a式最古段階の浅鉢である。

H58：覆土中で視覚的にまとまっていた土器を一括土器①～⑩として取り上げた。まず一括土器それぞれの出土遺物状況・接合状況を述べる。

一括土器①は遺物番号125である。円筒上層a式の上半分のさらに半身で摩滅が著しく図化出来なかつた。

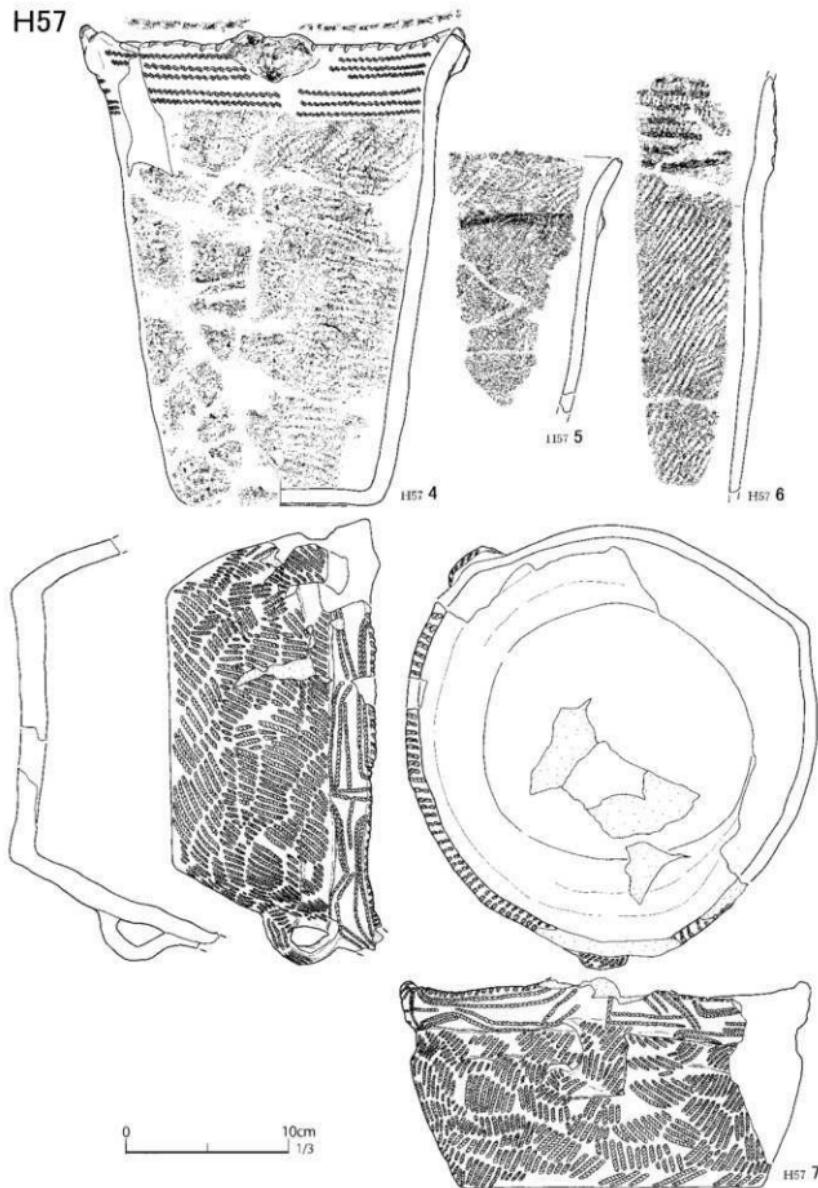
一括土器②は遺物番号124である。サイベ沢Ⅶ式を思わせる、繩文地文に隆帯装飾の少ない円筒上層a式の小型深鉢である。23となつた。丸く膨らむ胴部と波頂部の中央に円形の貼り付けを持つ。

一括土器③は遺物番号162である。円筒上層a式が縱割りでおおよそ半分まとまっていた。底部は無かつた。11である。左右非対称の突起を持つ。繩文地文。

一括土器④は遺物番号163である。円筒上層a式の上半分のさらに半身が主である。覆土出土遺物(主に遺物番号2)と接合して19となつた。波頂部から2本の隆帯を垂下し、口縁部区画の隆帯部分にボタン状の突起を持つ。繩文地文である。もう一つは円筒上層a式新段階で、縦半分のみ残存していたが、著しく破壊している。復元不可能であった。またもうひとつは円筒上層a式一個体分である。13である。小型の深鉢で、波頂部から8の字形の貼り付けを垂下するように貼り付ける。

一括土器⑤は遺物番号167である。円筒上層a式の一個体分である。8である。波頂部から鋸歯状に垂下させた隆帯を持つ。口縁部区画と接する位置でこれを挟み込むようにボタン状貼り付けを二つ

H57



図III-2-63 遺構出土土器 H57(4~7)

配する。混在している破片には4と接合したものもある。4は一括土器⑥が主体で、⑩も一部接合した

一括土器⑥は遺物番号238である。円筒上層a式の破片について、大型の深鉢破片は6となった。被熱により、破碎著しい。一括土器⑧が主体である。同一個体であった。もう一つ、円筒上層a式の小型深鉢が復元できた。一部包含層Ⅲ層の遺物が接合した。7である。底部は見つからなかった。

一括土器⑦は遺物番号120である。5になった。一部、覆土上位一括土器⑫、Ⅲ層出土遺物が接合した。隆帯等、粘土紐貼付による飾りの無い地文のみの大型深鉢である。縄文地文。円筒上層a式である。

一括土器⑧は遺物番号165である。6である。被熱による破碎が著しかった。大型の個体。一括土器⑥が一部接合した。線対称ではない装飾を持つ波頂部を持つ。中央にはボタン状貼り付けを持つ。円筒上層a式である。

一括土器⑨は遺物番号237である。円筒上層a式の深鉢を一個体復元できた。9である。線対称の文様構成である。波頂部から垂下した隆帯を口縁部区画部でふたつのボタン状突起で挟み込むようにする。縄文地文。

一括土器⑩は遺物番号235である。主に円筒上層a式新段階一個体分である。1である。出土破片中から一部が12に接合した。1は覆土上部から出土した。一括土器⑩がほとんどで、⑫とⅢ層のものが若干接合した。円筒上層a式最新段階である。1と2は胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帶上および隆帶区画内の施文が細かい。円筒上層a式の範疇で周開より新しい段階とした。12は覆土上位出土一括土器⑫を主体とする。⑩が2点のみ接合した、円筒上層a式である。当初は口縁部文様が単純なため円筒下層d2式の可能性を考えていたが、下層d2式に平口縁に突起様の波頂部がつくものがない事と全体の縄押圧による文様構成からより新しいと判断した。

一括土器⑪は遺物番号239~240である。円筒上層a式の大型のものが縦半分あった。16として復元した。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。一点だけ一括土器⑫が接合した。大型の深鉢で、波頂部は線対称ではない。弯曲した突起を波頂部からの垂線上、口縁部文様区画と交差する部分に施す。結束を持つ縄文地文で、波頂部の垂線上に結束部を縦回転、文様を垂下する。掲載番号3に一部が接合した。円筒上層a式である。これは主に⑫が主体である。波頂部から2本の隆帯を平行して垂下させる。口縁部区画の隆帯部分でボタン状に隆起させる。

一括土器⑫は遺物番号232~234である。主体となったものは円筒上層a式のもので平口縁に突起が付く。12である。一括土器⑩と接合した。他に、円筒上層a式古段階の口縁部があったが磨滅著しく図化出来なかった。さらに円筒上層a式最新段階、やや小型の深鉢が一個体混在していた。2とした。1と同様、胎土に砂が多く、赤く発色しており、隆帶上および隆帶区画内の施文が細かいため円筒上層b式を考えた。しかし、隆帶文様が横位のレンズ状貼り付け、例えば図III-2-78・F82-12の様な円筒上層b~d式特有の施文となっていない。縦区画を基調とする口縁部文様のため、円筒上層a式の範疇で周開より新しい段階とした。一括土器⑫遺物番号234のうち7点は5と接合した。これは一括土器⑦を主体とする。加えて円筒上層a式の碎片が混在している。これらのうち掲載土器に少量だが接合したものがある。1・3・5・10・16である。1は円筒上層a式最新段階である。覆土上部出土一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。3・5・10・16は円筒上層a式である。3は⑪を主体として⑫が少量接合した。5は⑦を主体として⑫が少量接合した。10は包含層で散点的に出土したもののが接合した。そこに⑫が少量接合した。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1点だけ一括土器⑫が接合した。円筒上層a式である。

一括土器⑬から、四分の一ほど残存する円筒上層a式が混在していた。4である。4は⑬が主体であり、ほぼ一個体分がまとまっていた。一括土器⑤と⑬も一部接合した。波頂部正面観の形状は線対称ではない。器壁は厚い。20は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。円筒上層a式小型深鉢である。三角形の突起様波頂部を持ち、対応する把手が対応して施されている。22は⑬の遺物点数115点のうち7点である。混在していた小型深鉢である。底部は見つからなかった。残存する突起について、形状が異なっている。円筒上層a式小型深鉢である。

一括土器⑭は遺物番号169である。接合後、一個体復元できた。14、円筒上層a式である。他に円筒上層a式二個体分の破片があったが、復元、図化に至らなかった。

一括土器⑮は遺物番号7である。復元出来たのは小型深鉢で、18となった。円筒上層a式である。底部は見つけられなかった。同時期で別個体の破片が3点入っていた。

一括土器⑯は遺物番号168である。まとまっていたのは白色味の強い器壁をした円筒上層a式である。これは4であり、一括土器⑤と⑬も一部接合した。円筒上層a式一個体分20が混在していた。20は覆土中位から上位にかけての遺物が散点的に接合した。そこに⑬と⑯が一部接合した。加えて、円筒上層a式の土器破片が混在していた。

以上十六か所のまとめりは、覆土1層から2層にかけて出土した。1と2を円筒上層a式としたことで、復元個体については円筒上層a式古段階、同新段階、円筒上層a式最新時期にかけての土器が混ざった状態で出土した。H57-4や7のような円筒上層a式最古段階について出土が無かった事から、より後の廃棄場所と考えられる。

調査区壁面に覆土1-4層～覆土2層～覆土4層にかけて土器片が壁面にささって出土していた。これらをNo.1～4まで番号をつけて取り上げた。いずれも円筒上層a式で層位的な差異はなかった。このうちNo.2が復元個体と接合した。エレベーション図でいうと一括土器⑩と同じ位置、調査範囲北側壁面、覆土4層から取り上げた。No.2そのものは、円筒上層a式の同一個体のまとめりはない破片群である。そのうち比較的まとまっていたもので、一括土器④と接合したものが19となった。

次に掲載遺物それぞれについて述べる。1・2は円筒上層a式最新段階である。1は覆土上部から出土した。一括土器⑩を主体として⑫とⅢ層のものが接合した。円筒上層a式最新時期である。2は覆土上位出土一括土器⑭、円筒上層a式最新時期である。

3・8・9・14・19は波頂部から垂下する隆帶と口縁部文様帶との接点においてボタン状貼り付けを二組持つ、円筒上層a式である。

3は一括土器⑪と⑫をはじめとする覆土上位の遺物が接合した。8は覆土出土一括土器⑤が主体である。9は覆土中位出土一括土器⑨である。胎土・器壁は4に類する。14は覆土中位出土、一括土器⑩である。19は覆土の遺物が接合、復元されたものである。その中には一括土器③が含まれる。

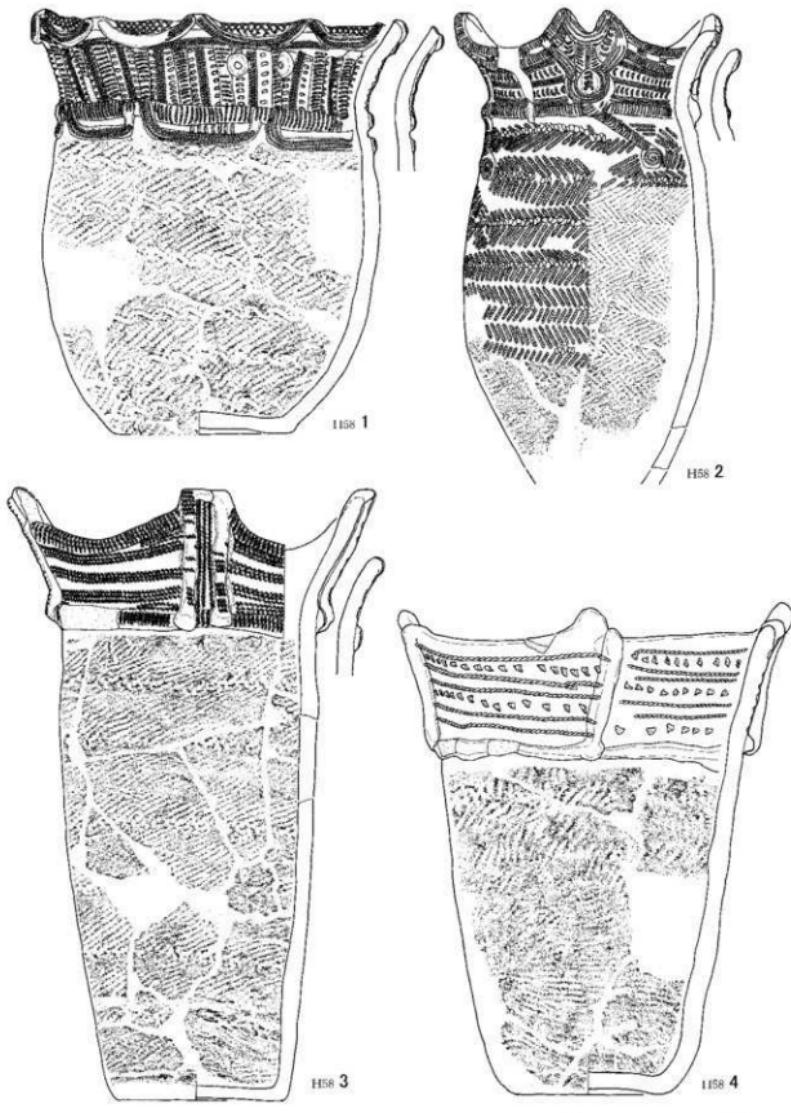
4・6・11・16・17・22は正面観について線対称ではない形状を持つ円筒上層a式である。

4は一括土器⑩に一括土器⑤と⑬および覆土上位から下位にかけてのものが接合した。器面は白く発色する。6は覆土から出土した。一括土器⑧である。円形・ボタン状の貼り付けを波頂部中央に持つ。11は覆土から出土した。一括土器③である。16は覆土上位出土一括土器⑪を主体とする。1点だけ一括土器⑭が接合した。17は覆土からまとめて出土した。円筒上層a式である。22は覆土中位から出土した。一括土器⑬である。

5・15は円筒上層a式であるが隆帶・粘土紐貼り付けによる加飾が乏しいものである。

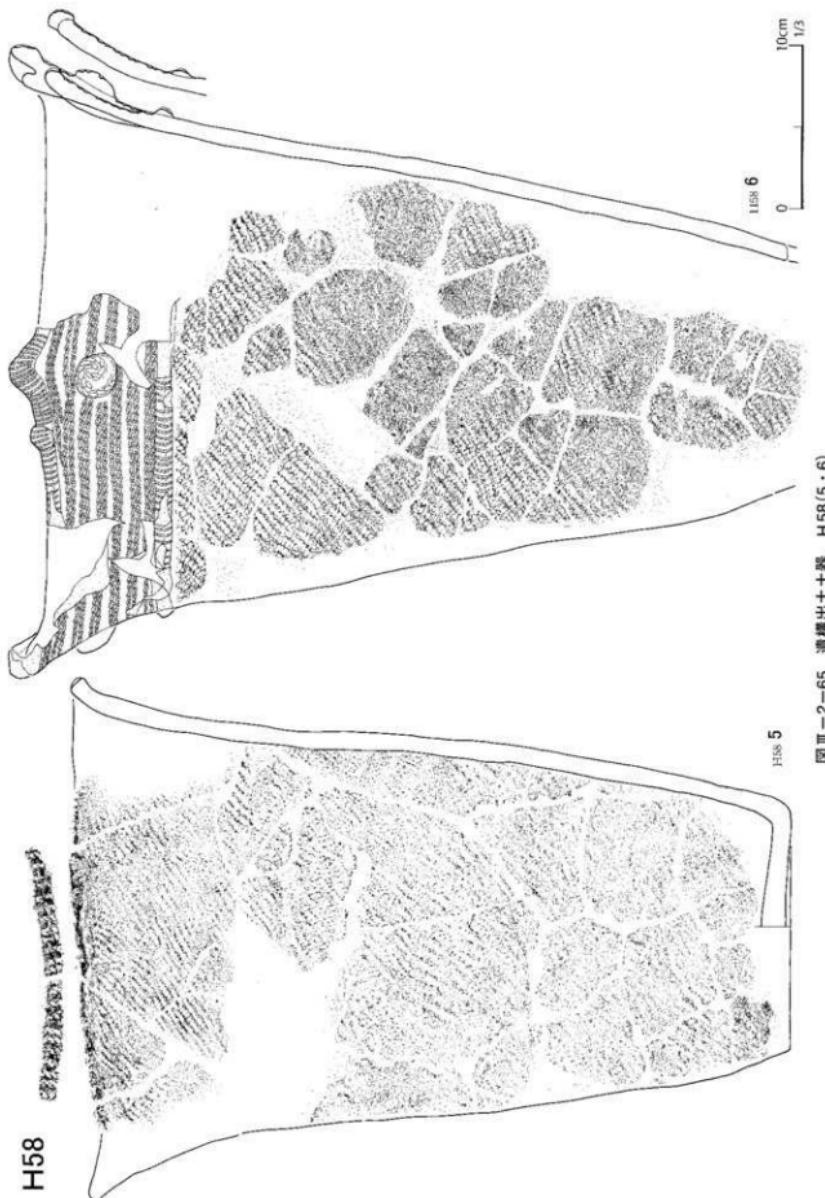
5は覆土出土、一括土器⑦を主体とする。加えて覆土上位一括土器⑭、Ⅲ層出土遺物が接合した。15は覆土にまとまっていた小型深鉢である。23は覆土出土一括土器②である。円環状の貼り付けを

H58

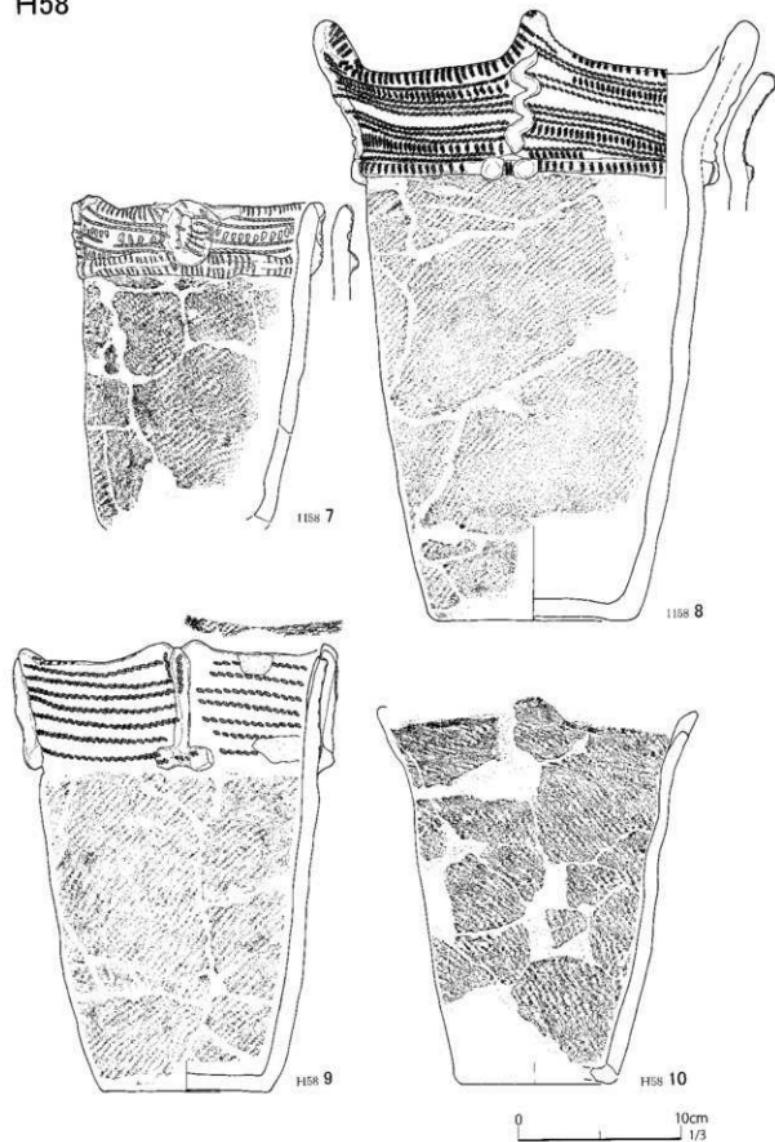


図III-2-64 遺構出土土器 H58(1~4)





H58



図III-2-66 造構出土土器 H58(7~10)

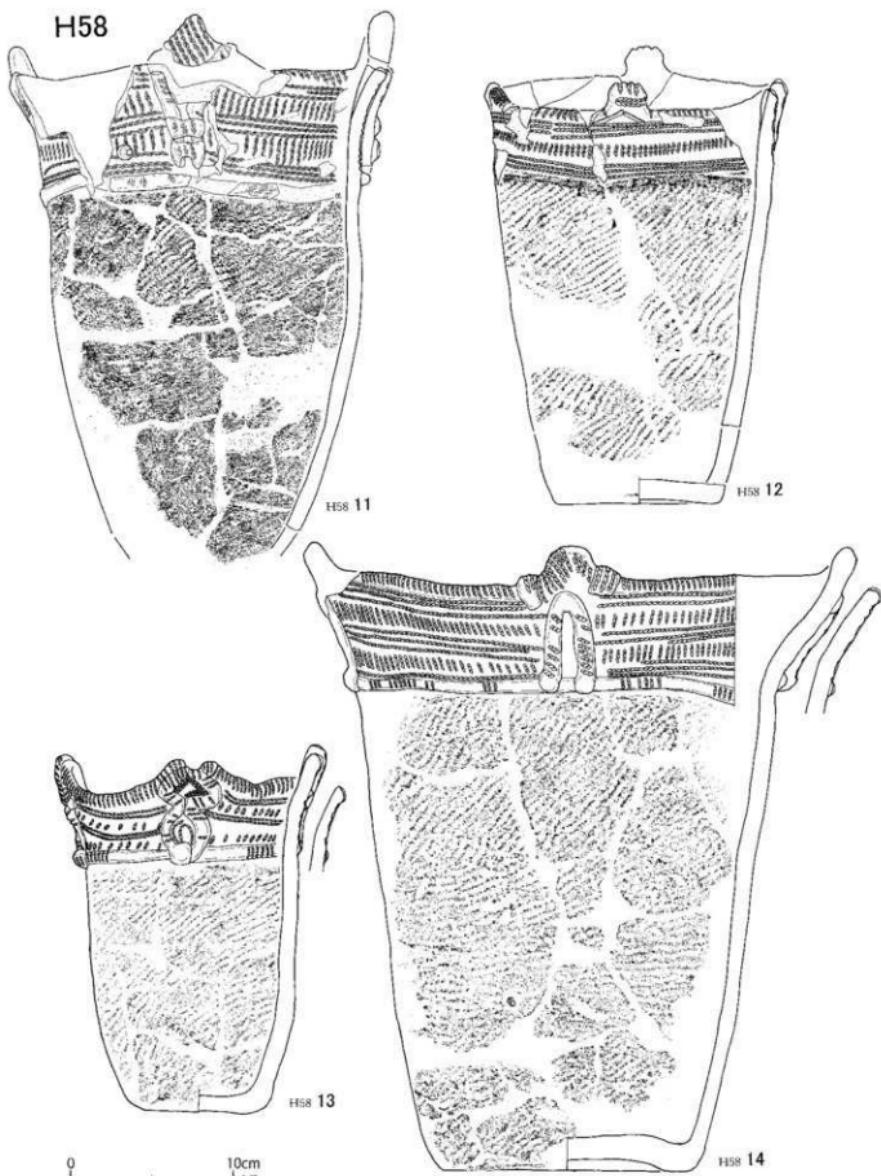
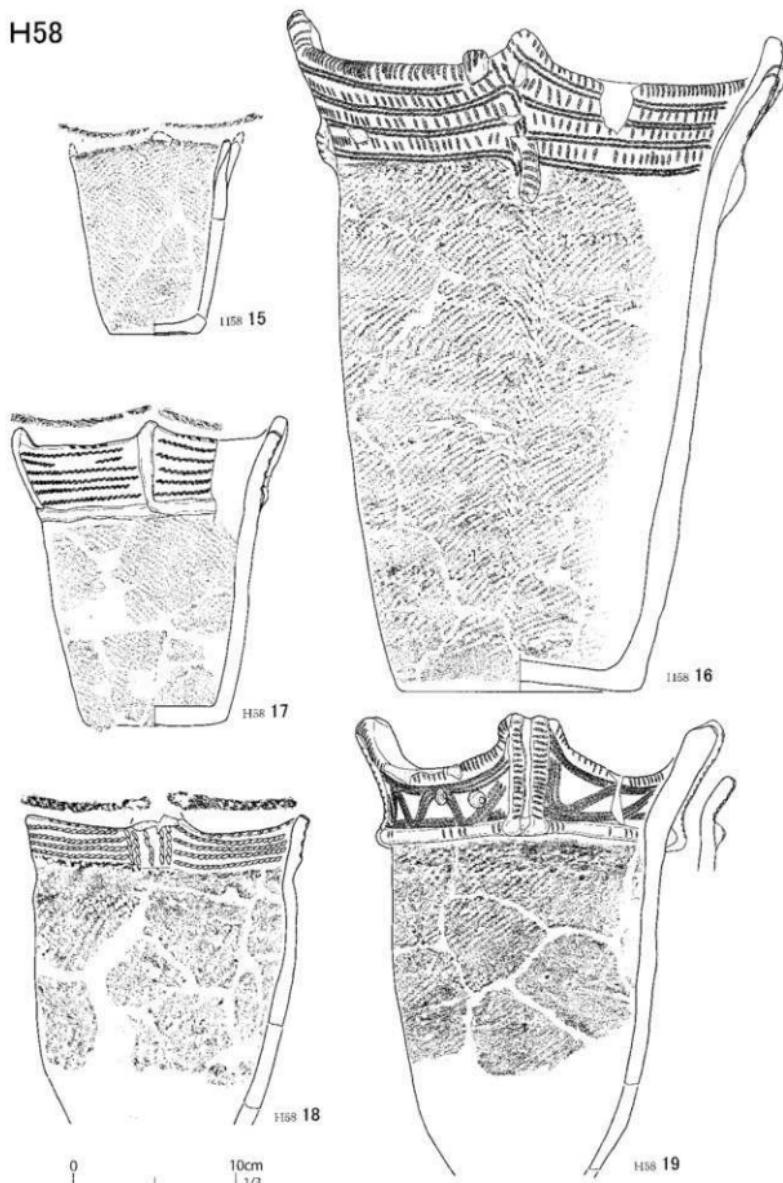


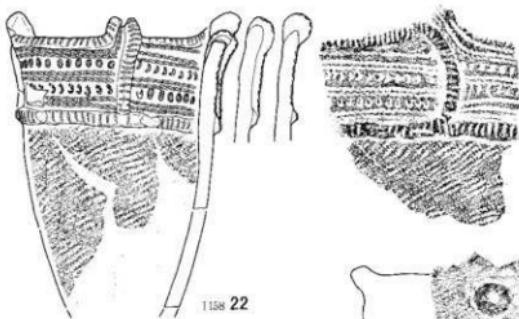
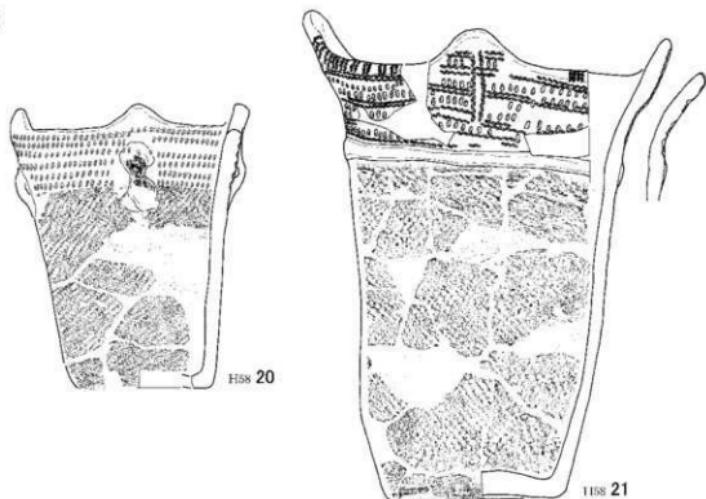
図 III-2-67 遺構出土土器 H58(11~14)

H58



図III-2-68 遺構出土土器 H58(15~19)

H58



H59



図 III-2-69 遺構出土土器 H58(20~23)・H59(1)

持つ。7・13は、隆帶および縄の押圧で口縁部文様帯を作り出し、そこに、波頂部と対応した環状あるいはそれに類した貼り付けを持つ円筒上層a式である。

7は覆土出土、一括土器⑥を主体とする。加えてⅢ層の遺物が接合した。13は一括土器④である。8の字状の貼り付けである。

10・21は器壁が白色味が強く、胎土のきめが細かい円筒上層a式である。10はⅢ層出土遺物が接合した。加えて、覆土上位出土、一括土器⑫である。21は覆土上位出土。12・20は平口縁に突起状の波頂部を持つ円筒上層a式である。12は覆土上位出土一括土器⑫を主体として、⑩が接合した。20は覆土中位から出土した。一括土器⑬や⑭も接合した。中央に把手を持つ。

18は覆土中位からまとまって出土した、円筒上層a式で口縁部の文様要素から円筒下層d2式に近いものである。

H59：覆土から、磨滅した円筒下層b式が出土した。1は覆土出土、円筒下層b式である。単軸絡条体地文で、底部際でも同一原体で帶状に横回転する。

H60：円筒下層c式から下層d1式の出土が無い。1・2・4・5・6は覆土から出土した。

1は口縁部が単軸絡条体横回転、胴部は継回転。2は隆帶により口縁部を区画し、口縁部は単軸絡条体斜め回転、胴部は継回転。4は胴部破片で単軸絡条体第1類継回転を主とするが、底部際は単軸絡条体第5類回転により網目状。5は底部で、単軸絡条体第1類地文。底面も同じ原体で施文。6は隆帶による口縁部文様を区画。直下には結節回転が数段巡る。M2, M2-2, M4-3, M4-6から出土した遺物と接合あるいは同一個体である。

3は61Q区のM4-6が主体だが、H60覆土出土のものと接合した。口縁部には結節回転を施す。地文は合撫地文で胴部上半と下半で異なる。単軸絡条体による回転が胴部中央に帶状に施される。

7は床面から出土した。点取りNo.26である。円筒下層b2式古段階である。7は単軸絡条体地文。全体に胴部の帶状文や口縁部区画直下の文様帯など古い要素を持ち、胎土も粗い。円筒下層b2式古段階の遺物が主に流れ込んでいると考える。

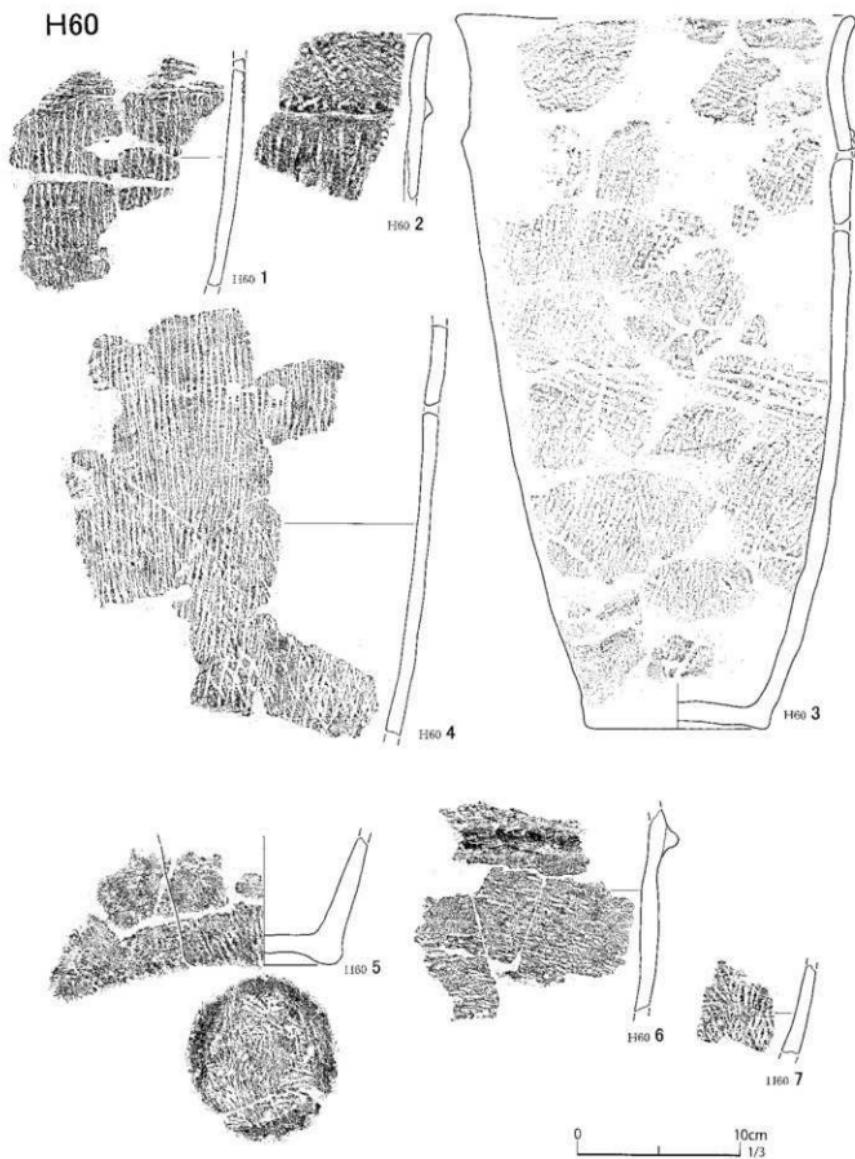
H61：覆土から円筒下層c式から下層d2式が混在して出土している。いずれも磨滅著しい。あるいは碎片のため、図化できなかった。

H62：覆土から円筒下層d2式新段階と円筒下層b式が出土する。円筒下層d2式は覆土上位からの出土で周囲の盛土出土遺物と接合する。床面からは円筒下層b式が出土する。

1は覆土出土のものと住居が位置する調査区の包含層の遺物が接合した。円筒下層d2式である。水平方向に並ぶC字状圧痕の連続によって口縁部文様帯が二段口縁風となる。胴部上半は結束第一種羽状繩文が多段に施され、下半は多軸絡条体地文である。2は覆土出土のものと住居が位置する調査区の盛土と包含層の遺物が接合した。口縁部は繩線による直線構成の文様、多軸絡条体地文。いずれも円筒下層d2式である。

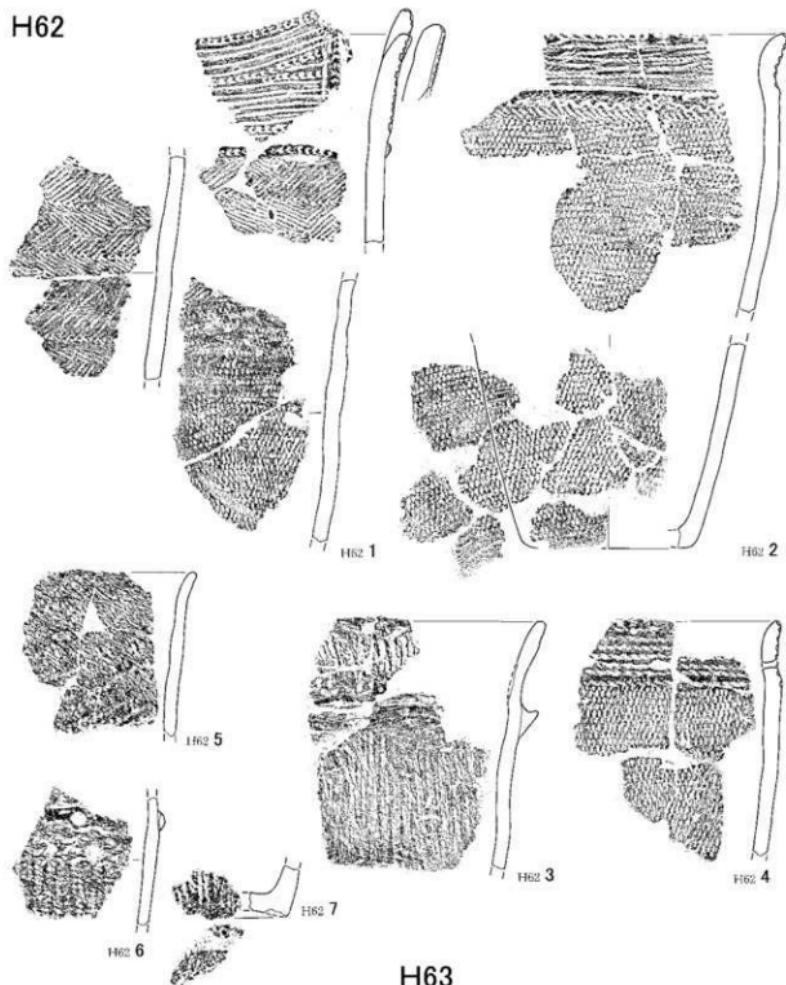
3・4は覆土出土である。3は隆帶によって口縁部を区画される。口縁部胴部ともに単軸絡条体継回転地文。円筒下層b2式古段階とした。

4は口縁部に繩線文を施し、焼成前の穿孔を持つ。多軸絡条体地文。円筒下層d2式とした。M4-3から類する遺物が出土した。



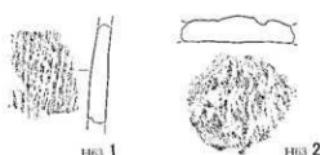
図III-2-70 遺構出土土器 H60(1~7)

H62



H63

0 1 10cm
1/3



図III-2-71 遺構出土土器 H62(1~7)・H63(1・2)

5～7は床面出土遺物である。5は点取りNo.19である。反撲りと合撲りを撲ったものか、複雑な地文を持つ。6は点取りNo.16である。隆帶上に指頭圧痕を連続、隆帶直下には結節回転が施される。7は点取りNo.23である。単軸絡条体地文を持つ底部破片である。いずれも円筒下層b2式古段階、6などは円筒下層b1式の可能性がある。

H63：1・2は床面出土である。1は点取りNo.27、単軸絡条体地文。2はNo.13。上げ底の底面に単軸絡条体で施文する。いずれも円筒下層b2式とした。

H64：覆土や床面から円筒下層b式が出土する。円筒下層b式の時期。H64はH63よりも古い。

1・3は床面出土で、点取りNo.50とNo.63である。2は覆土1層出土である。1・2は上げ底で、単軸絡条体地文。3は口縁部に結節回転文を施す。いずれも円筒下層b2式である。

H65：床および覆土から円筒下層b式から下層d1式にかけてが出土している。

1は床面出土、点取りNo.9である。多軸絡条体地文で、円筒下層b2式新段階である。2は覆土1層出土である。口縁部に繩線を多段に施す。円筒下層c式である。3の左側図は覆土出土である。口縁部には矢羽状繩線で加飾する。区画間に押し引きの連続を施す。胴部には結束第一種羽状繩文と単軸絡条体回転を施す。円筒下層d1式である。3の右側図は住居のある調査区42W区の出土である。M6-2およびH66床面出土の土器片と同一個体の可能性がある。42Y区出土遺物にも類例がある。

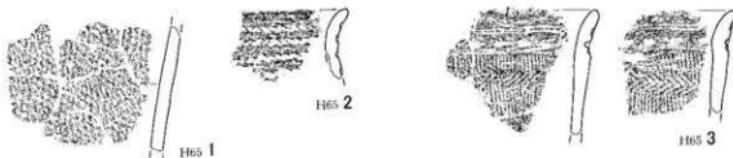
H66：覆土から円筒下層b式のみ出土し、床面からは円筒下層b式から円筒下層d1式が出土している。そのうち円筒下層d1式についてはH65覆土中とM6-1、42W区の土器片と同一個体の可能性が高い。円筒下層d1式が出土しているが、M6盛土より古いので混在の可能性がある。柱穴覆土から円筒下層b式が出土している。1は床面出土、点取りNo.7である。H65-3と同一個体と考える。円筒下層d1式である。2は付属遺構HP-1覆土2層から出土した。複節繩文地文の胴部破片である。円筒下層b2式である。

H67：床面および付属遺構HP-1から出土した破片が接合し、円筒下層b式が一個体復元できた。1は床面と付属遺構から出土した土器が接合した。床面出土点取りNo.65とNo.66、付属遺構HP-1覆土1層出土No.67が接合した。口縁部および胴部中央に帯状に結節回転、地文は単軸絡条体地文である。胎土、器形から円筒下層b2式段階だが胴部中央に帯を持つなど古い要素を併せ持つ。

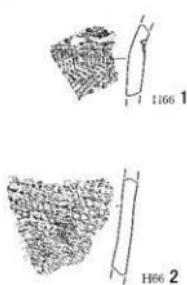
H64



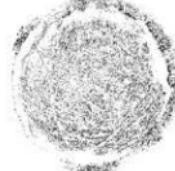
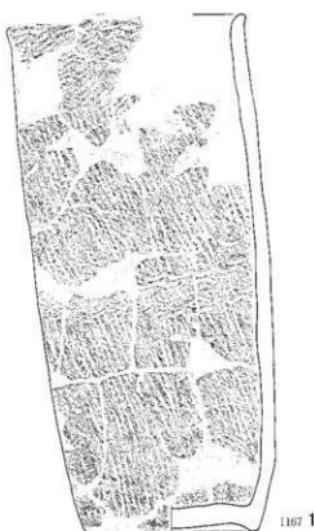
H65



H66



H67



図III-2-72 遺構出土土器 H64(1~3)・H65(1~3)・H66(1・2)・H67(1)

(2) 土坑

P45：1は覆土中の一破片に加えて、63R区M2-2が中心となって接合した。器壁は薄く焼成が良い。口縁には、二対で二種類の波頂部を持つと思われる。調査範囲内に類例が無い、異質な土器である。層位、文様要素等、出土状況から円筒下層d2式とした。

2は覆土出土遺物63T区と63Q区のM2盛土出土遺物が接合した。口縁部には矢羽縄線で直線構成の文様を施す。単軸絡条体第4類を地文に持つ。円筒下層d2式土器である。

P47：1は覆土2層から出土した、Ⅲ群a類、円筒上層d式である。波頂部中央に把手を持つ。器面を細い粘土紐で加飾する。

P54：1は底面から出土した。潰れたようにひとまとまりになっていた。口縁部には反燃り縄文、胴部地文は単軸絡条体回転、底面には縄文施文。円筒下層b2式である。

P55：1は底面出土、点取りNo.6で示した点を中心として直径20cm範囲内に分散していた。この遺物を主体として、覆土出土遺物が他に7点接合した。口縁部には、単軸絡条体横回転、胴部は縦回転、底面にも同原体を回転させた痕跡。

P56：1は底面から出土した。点取りNo.9とNo.10である。底部で同一個体と考えるが、接点は無かつた。意図的に土器を打ち欠いて、底部を外した可能性がある。口縁部には縄線と円形刺突列。胴部には単軸絡条体地文。口縁部の区画には円形刺突を連続した隆帶。底面には縄文を施す。

2～4は土坑底面から出土した。点取りNo.9に混在していた土器である。2はNo.10も接合した。口縁にはサルボウ条痕を横走させる。隆帶で口縁部文様を区画する。胴部は単軸絡条体地文である。3はNo.6も接合した。3と4は磨滅が著しいが、多軸絡条体を地文に持ち、同一個体の可能性がある。円筒下層b2～c式である。

P60：1は覆土のものと、造構がある調査区の隣、81P区、81Q区出土遺物が接合した。隆帶・粘土紐による加飾は無い。縄文地文。円筒上層a式と考える。

(3) Tピット

TP7：1～3のいずれも覆土出土遺物と造構がある82P区の遺物が接合した。1は82P区包含層、2・3はH58覆土出土遺物が接合した。1は波頂部にボタン状の貼り付けを持つ。2には突起様の波頂部から連続するボタン状の貼り付けがある。底部には意図的にあけられた穴がある。3はR L R縄文地文でL R結節縦回転。いずれも円筒上層a式である。

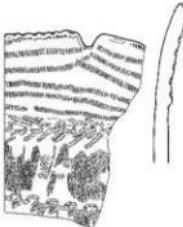
(4) 焼土

盛土のトレンチ調査で確認した焼土F66～78については、検出面と遺物出土状況について、本文は第1分冊第Ⅲ章1項・図は第Ⅱ章に、遺物そのものの説明は第3分冊第Ⅳ章1項と表に記載した。

P45



P45 1



P47

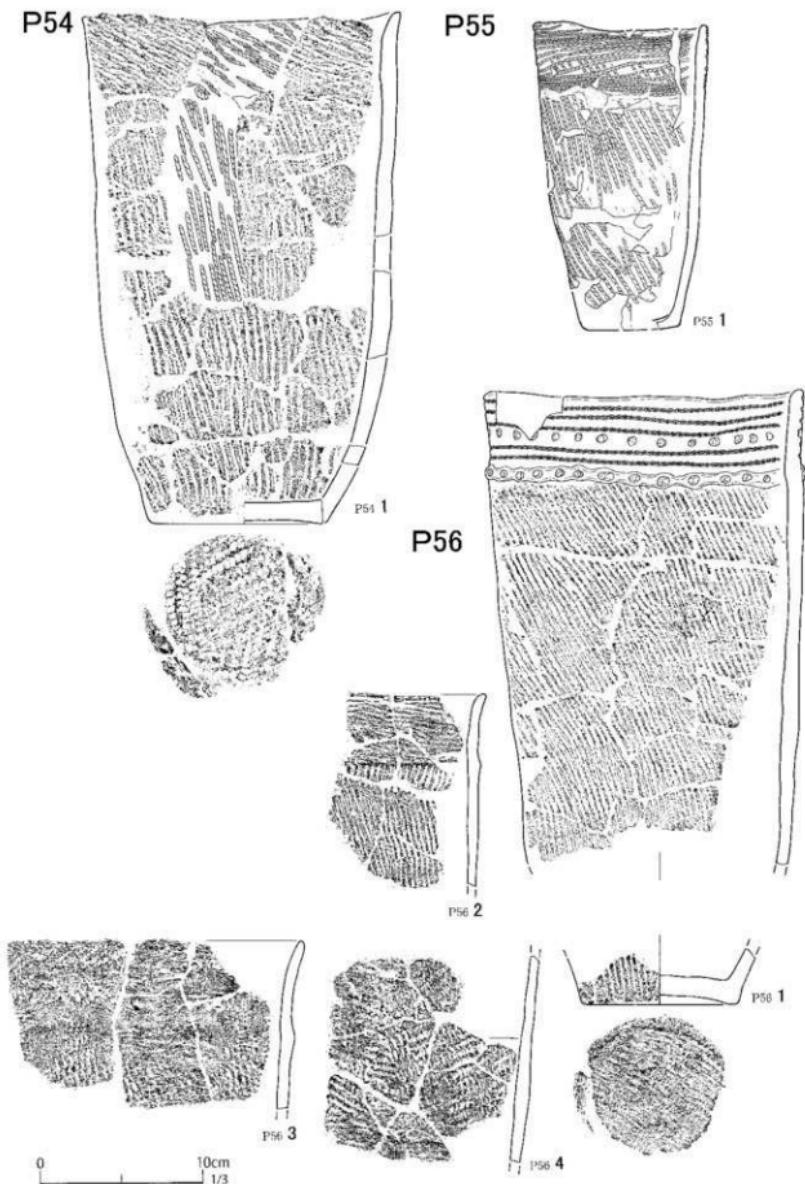


P45 2

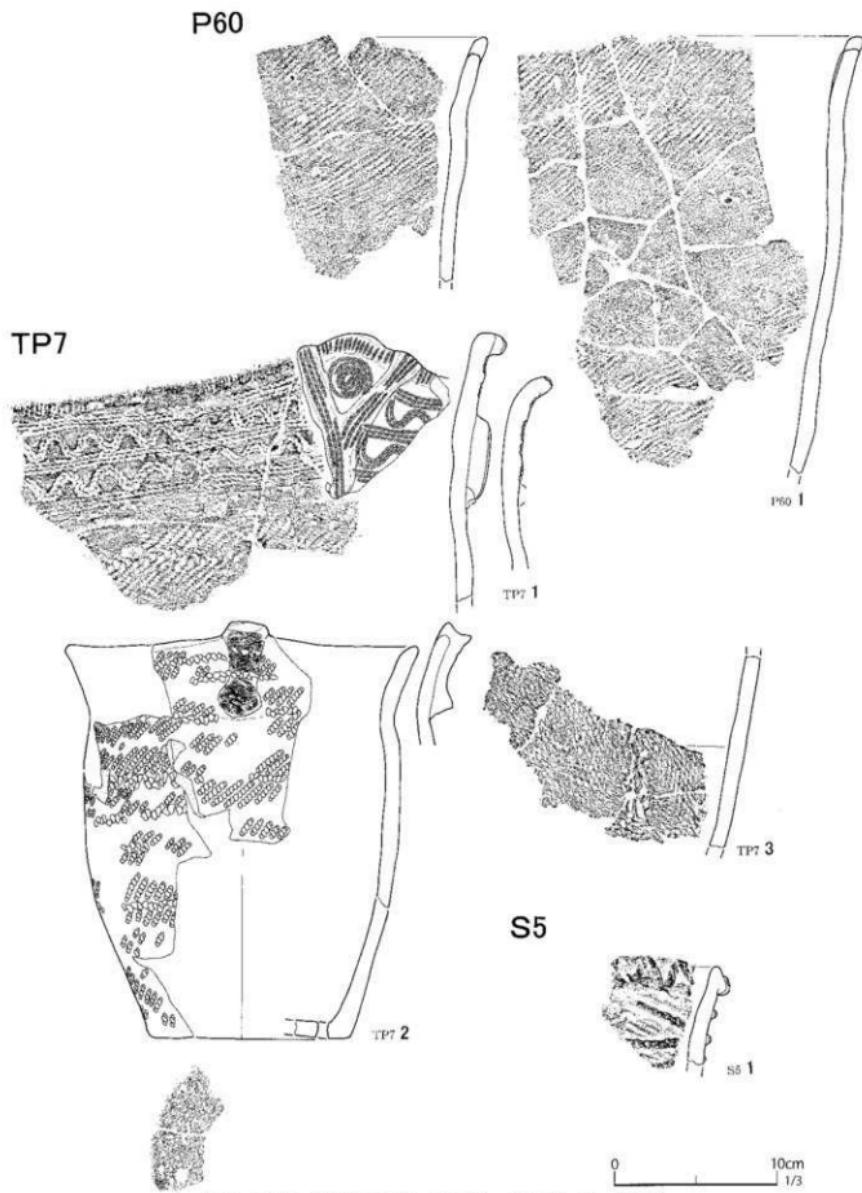


0 10cm
1/3

図III-2-73 遺構出土土器 P45(1・2)・P47(1)

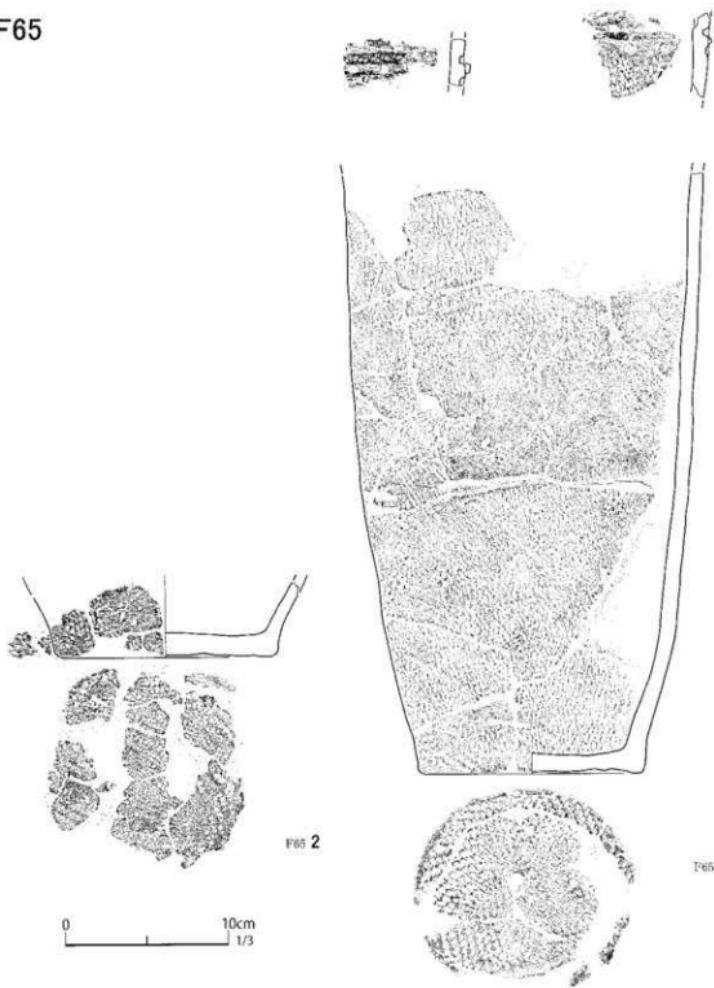


図III-2-74 造構出土土器 P54(1)・P55(1)・P56(1~4)



図III-2-75 遺構出土土器 P60(1)・TP7(1~3)・S5(1)

F65



図III-2-76 遺構出土土器 F65(1・2)

F69はH21堅穴住居廃絶後の窪み、F78はH29堅穴住居廃絶後の窪みに位置する焼土である。F69は円筒下層d1式新段階、F78は円筒下層d2式のまとまった廃棄を伴う。いずれも焼土の下位に円筒下層d1式古段階、焼土の上に円筒下層d2式のまとまった廃棄が確認された。F69とH21、F78とH29の層位別出土遺物の変遷については第VI章2項にまとめた。F69とH21については図VI-2-5～6、F78とH29については図VI-2-1と図VI-2-4に示した。F77は基底部の焼土M4-6相当である。この項ではそれ以外の焼土関連遺物について記載する。

2 遺構出土の土器・土製品

F65：周辺から出土した遺物を図化した。1は76R区の風倒木と思われる攪乱から出土した土器である。風倒木に入り込んでいた土器である。据え置いた後に、木の根が入り込んだ可能性があった。口縁部が大きく欠損しており接合しなかった。残存する破片から、口縁部区画の隆帯があり、その上下に円形刺突を持つ。多軸絡条体地文の筒型をした深鉢である。底面にも同様の原体で施文する。円筒下層b2～c式と考える。取り上げ時に土器の下から礫が出土したが、使用痕などなくV層より下位の礫層起源のものと考える。

2は木の根に据えられて、あるいは入り込んでいた土器底部である。縄文地文で、底面にも同様の原体で施文する。76Q区のabcd（図III-1-129）で開んだ範囲から出土した。円筒下層b2～c式と考える。

F82：1・3・6・7・9・11～14・16・26は覆土1層出土である。5・8・15・17～19は覆土2層出土である。2・9・20～22・24・25・27・33は沢1層出土である。4・10は沢1層と覆土1層の遺物が接合した。

1～11・13～32はサイベ沢Ⅶ式と考える。規格がわかるものとして、口径9～22cm、器高12～20cm、底径4～9cmと小型の深鉢で構成される。また6のような中空の台付鉢や、29のように丸底に形成した浅峰に台をこしらえた痕跡がある。台部分は見つけられなかった。

12はほぼ同時期の遺物と考えるが、円筒上層c式由来のレンズ状文様を細い隆帯で施すため、円筒上層d式とした。口唇部あるいは波頂部中央の貼付以外に粘土紐による加飾を持つ個体はない。また、3や6のように沈線によって、レンズ文起源と思われる文様が直線化したものもあるが12とは異質のものである。また残存部分から口径は30cm前後、器高は40cmを大きく上回る大型深鉢と考えられる、意図的に割り、廃棄した可能性がある。

32はサイベ沢Ⅶ式の胴部片の縁辺を丸く加工し、中央に穿孔したものである。33は焼成粘土塊である。

(5) 集石

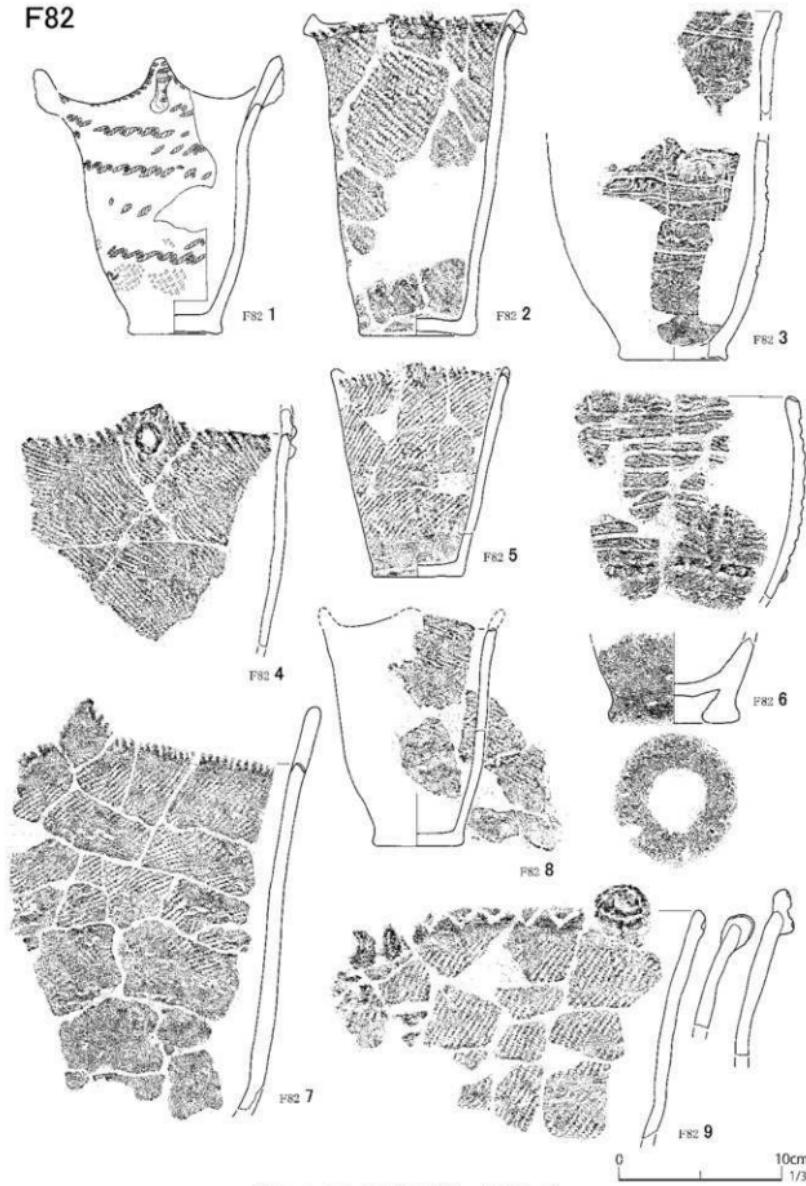
S5：1はS5と同一検出面から出土した。肥厚する口縁部を持つ。細い隆帯で器面を加飾後、縄文施文。

(6) 遺物集中

遺物集中について、抽出、図化した土器は無い。

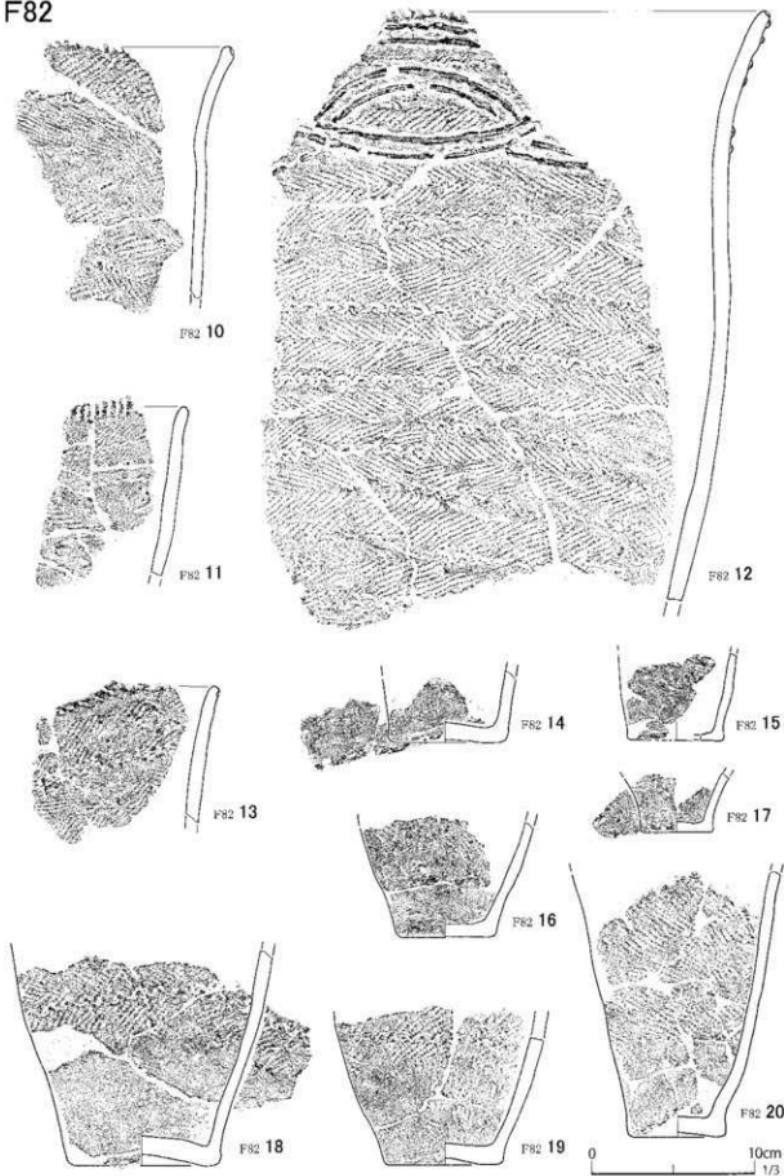
（大泰司）

F82



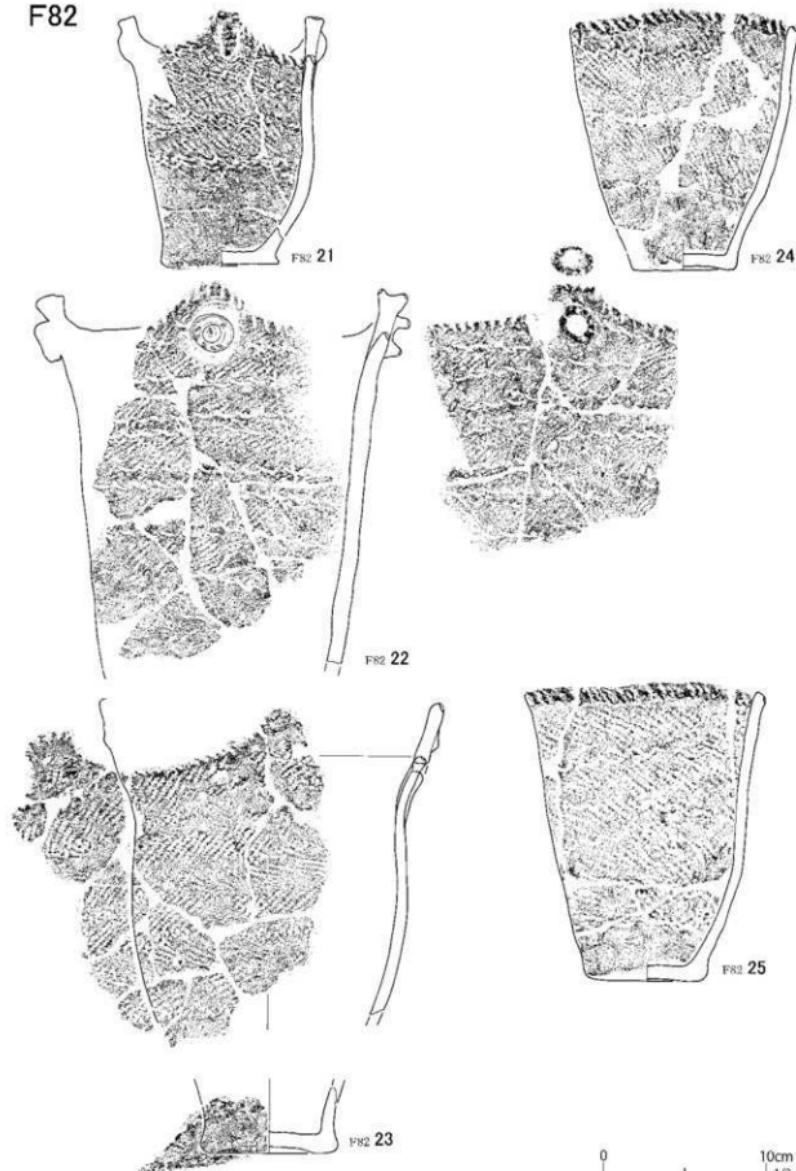
図III-2-77 遺構出土土器 F82(1~9)

F82



図III-2-78 遺構出土土器 F82(10~20)

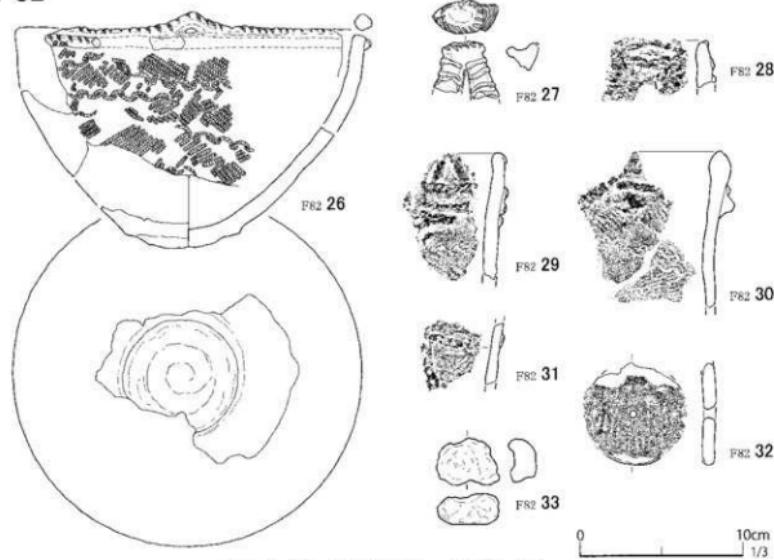
F82



図III-2-79 遺構出土土器 F82(21~25)

0 10cm
1/3

F82



図III-2-80 遺構出土土器 F82(26~33)

3 遺構出土の石器・石製品

この項に掲載した石器はいずれも縄文時代のものという可能性がある。大きさ、材質、出土位置は(表III-7 遺構出土石器一覧)に記した。出土位置がわかるものについては第1分冊Ⅲ章1項の遺構図で「掲載番号1の石器・石製品」ならば「石1」のように示した。

(1) 壴穴住居

H18: 1~7は覆土出土である。4・5・7は覆土1層、2は覆土2層、1・6は覆土3層、3はトレチからの出土である。8・10は床面出土、9はHP-5、11はHP-11、12はHP-18のそれぞれ覆土中からの出土である。1は頁岩の石核である。2の正面は打ち欠きによる調整が全体におよび、裏面は蝶面が残る砂岩である。石斧未成品と考える。3は頁岩の異形石器である。三か所の張り出し部分から構成される。4は流紋岩製の小型扁平打製石器である。頂部には両面からの打ち欠きによる成形がある。5は安山岩製の小型北海道式石冠である。全面に叩打成形がおよび持ち手は明瞭に作り出す。6は砂岩製の扁平打製石器である。縁辺には両面からの打ち欠きによる成形がおよび、両側縁はノツチ状になっている。7は凝灰岩製の石棒である。全面を叩打後ミガキにより、成形を施す。円柱状だが中央の径が太くなる。8は安山岩製の石皿片である。正面には皿状の凹み部があり滑らかになるまで使いこまれている。9は閃緑岩製の扁平打製石器である。両側縁に叩打による成形が加えられる。

H18

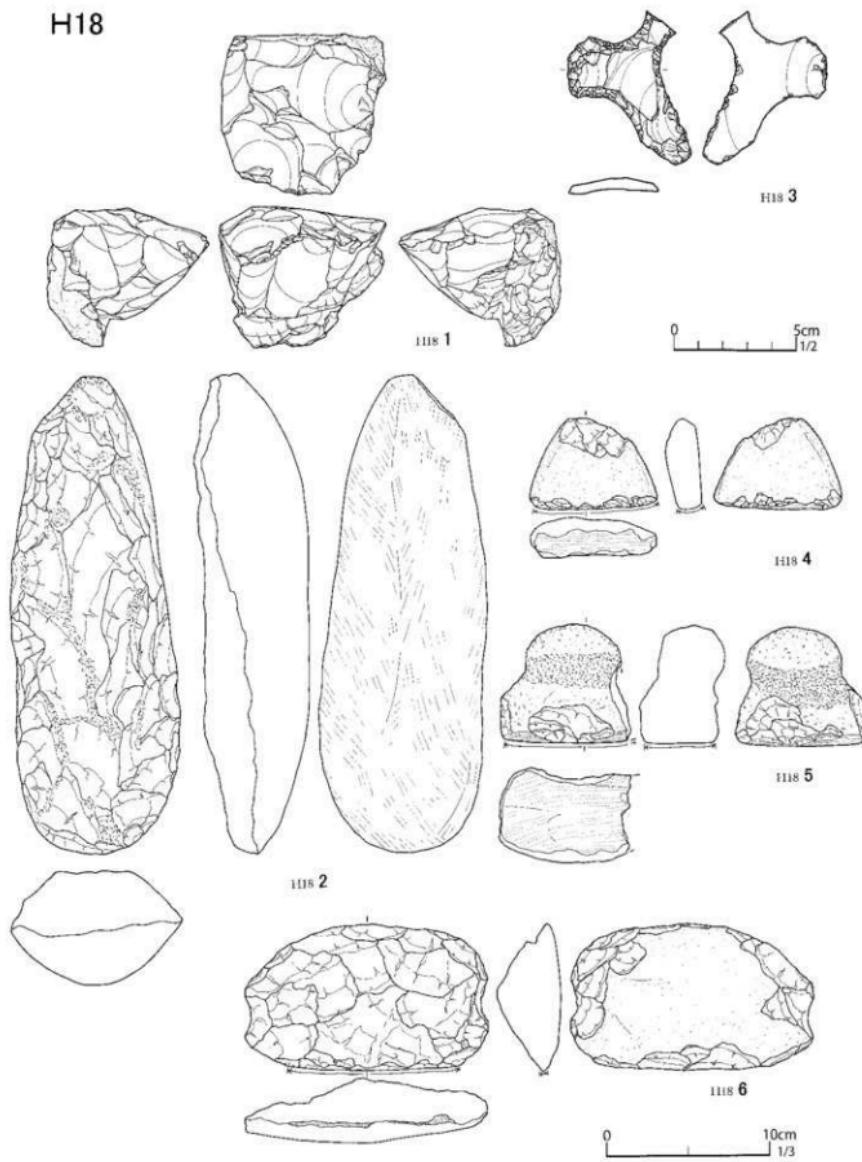
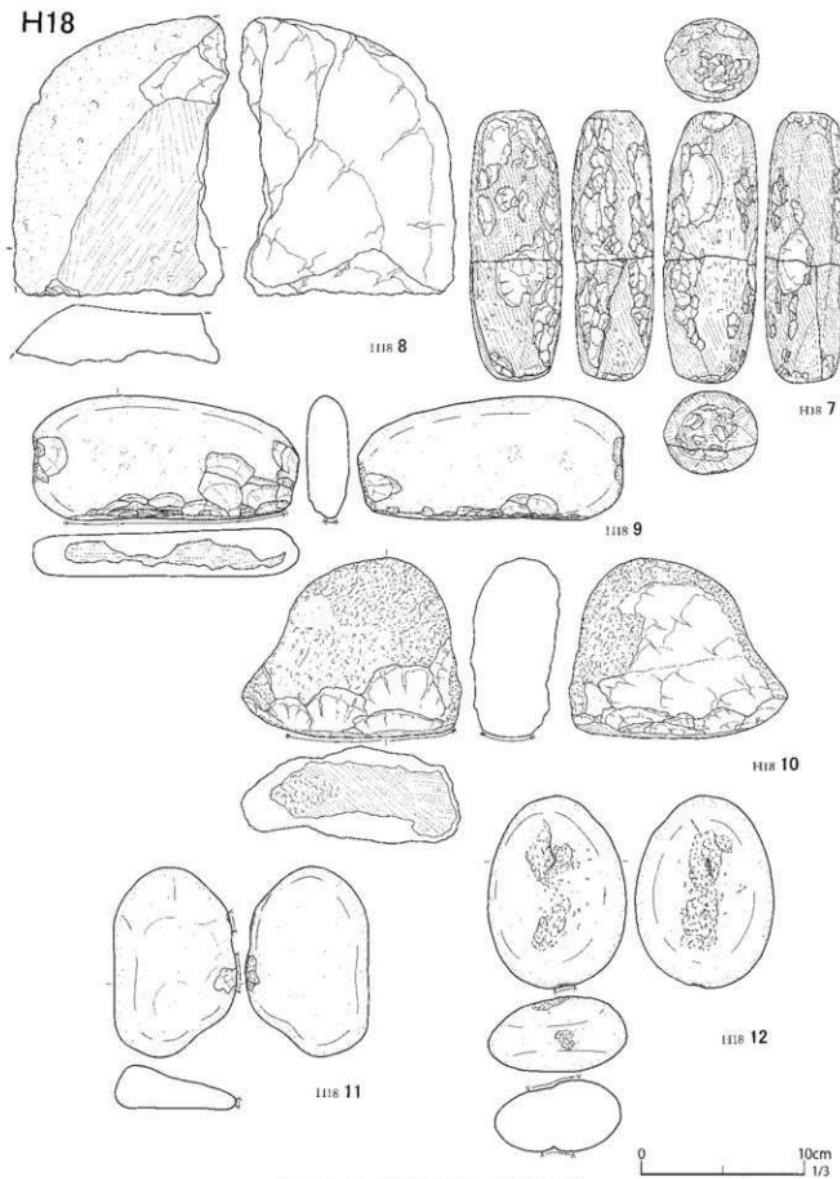
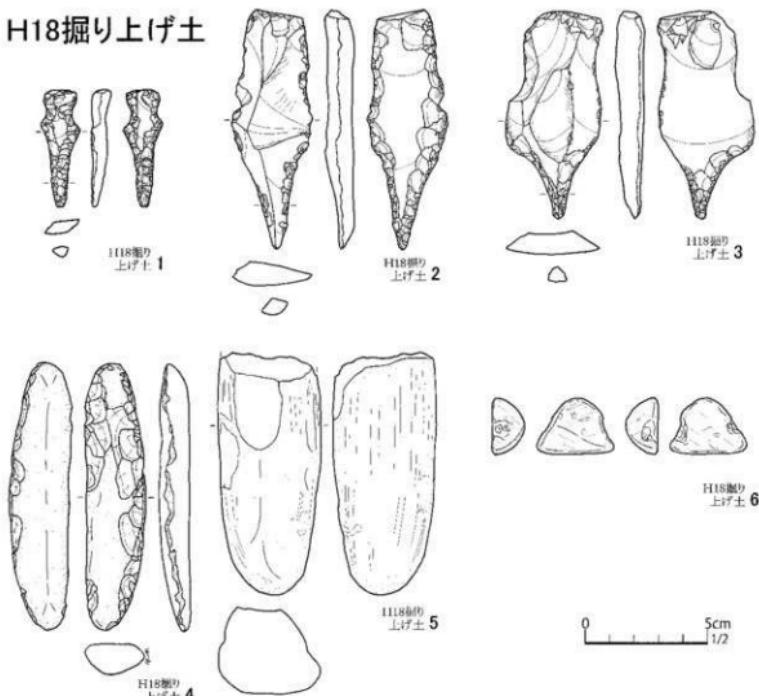


図 III-3-1 造構出土石器 H18(1~6)



図III-3-2 遺構出土石器 H18(7~12)

H18掘り上げ土



図III-3-3 遺構出土石器 H18掘り上げ土(1~6)

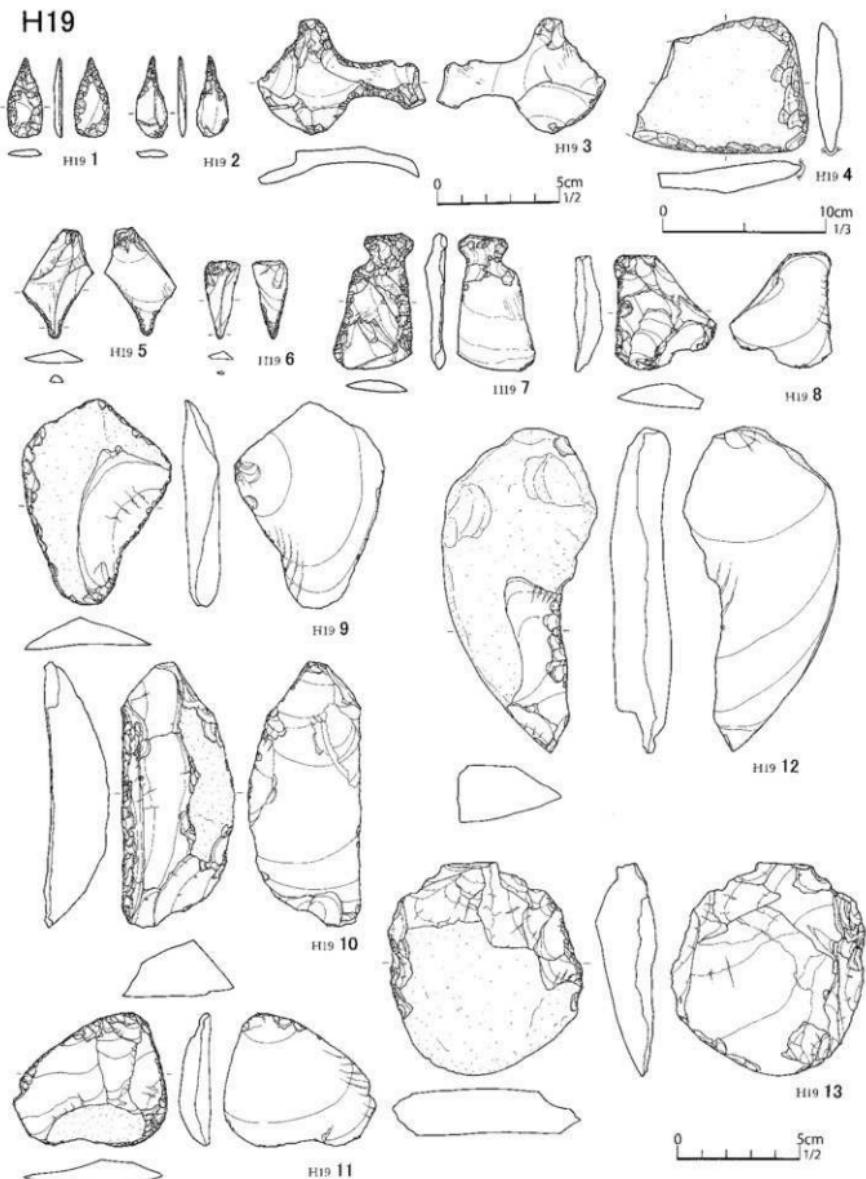
10は砂岩製の北海道式石冠である。全面に叩打を施して持ち手部分を作り出す。機能部は平滑になるまで使い込まれる。11は流紋岩のたたき石である。側縁の一部に叩打痕がある。12は砂岩の凹み石である。表裏対応する凹みが長軸上に二か所ある。

H18掘り上げ土：土器は円筒下層 b 式から下層 d 1 式の磨滅した破片の出土があった。石器は特徴的なドリルと石製品の出土があった。そこで石器を抽出、図化した。

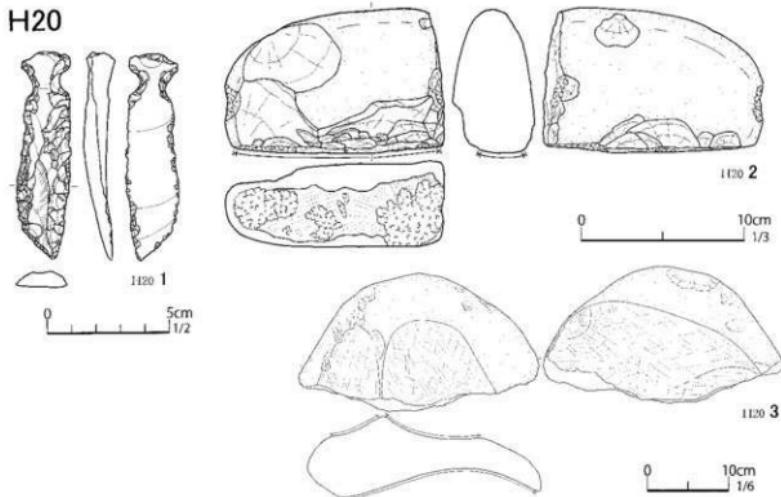
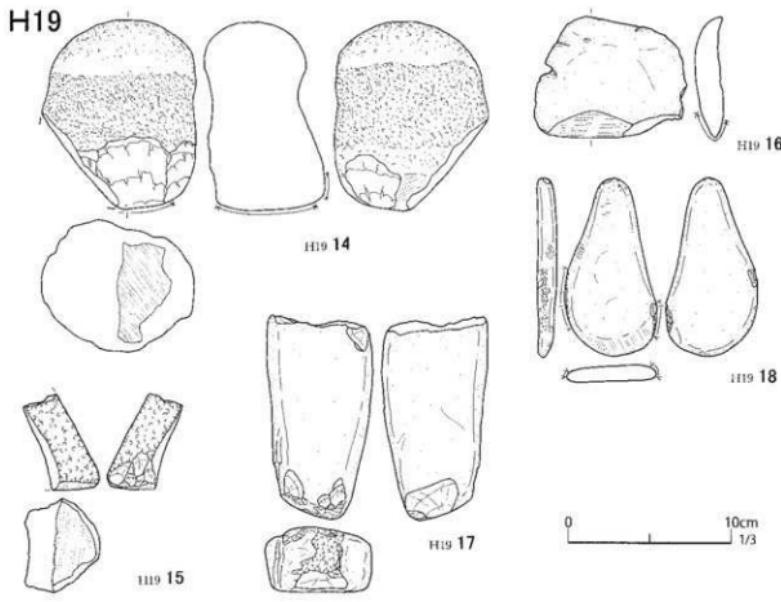
1～3は頁岩製のドリルである。いずれも長い錐部を両面調整によって作出し、基部は幅広く、線対称である。1はつまみ部分も作出する。4～6は石製品である。4は棒状の頁岩の片面を打ち欠き半対面の礫面を残す。側縁部は擦りによるものか磨滅している。5は折損した棒状の凝灰岩である。残存部分表面には研磨の痕跡がある。6は軽石の全面を研磨したものである。一面を平坦に作り出している。

H19：1～4は覆土2層からの出土、5・6・8～11・13～15・17・18は床面出土、7は周溝の覆土、12はHP-15の覆土、16はHP-18覆土1層からの出土である。

1・2は頁岩製石鏃である。円一平基で先端を細長く作出す。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものと考える。3は頁岩の異形石器であ



図III-3-4 遺構出土石器 H19(1~13)



図III-3-5 遺構出土石器 H19(14~18)・H20(1~3)

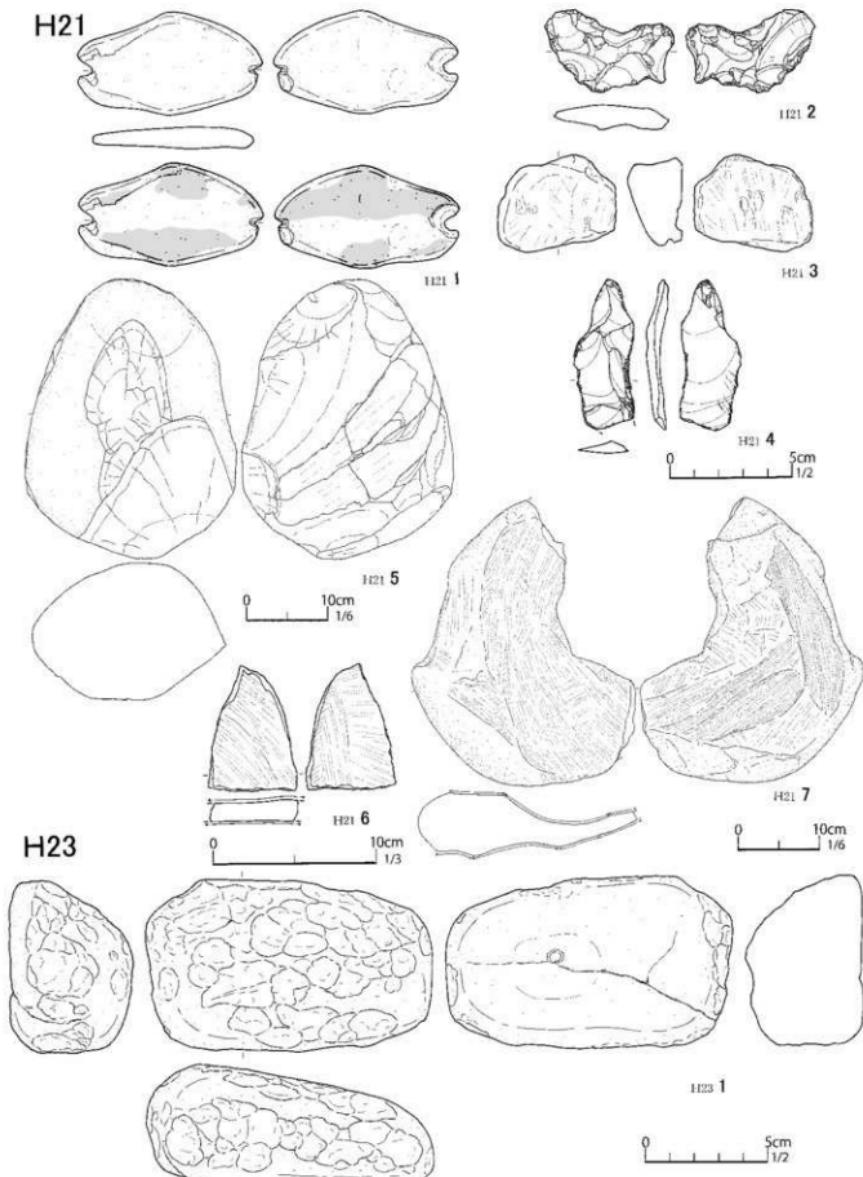
る。ふたつの張り出しを持ち、ひとつはつまみ様である。4は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺を微細な打ち欠きで成形し、石鋸として用いたものである。5・6は頁岩製のドリルである。もともと細長い張り出し部分を持つ剥片を選択し、微細な剥離で錐部に仕上げる。7は頁岩製のつまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つ。8～12は頁岩製のスクレイパーである。8は一側縁に片面調整による刃部が作出される。9は縁辺に浅い剥離が巡る。10は肉厚の素材の一側縁に急角度の刃部を持つ。11は縁辺に深い剥離が巡るが、正面右下が素材の厚みを生かして搔器様になっている。12は右側縁に深い剥離による刃部が作出される。13はほぼ円形をした頁岩の剥片素材に両面からの深い剥離を施したものである。両面調整石器に分類した。14・15は北海道式石冠である。14は安山岩で全面を叩打し、持ち手部分を作出する。機能部は平滑になるまで使い込まれ、割れによる欠損が著しい。15は閃緑岩で機能部側の破片と考えられる。全面に叩打調整があるものと考えられ、被熱した痕跡がある。16は砂岩の大型礫を打ち欠いた破片の縁辺の薄い部分をそのまま石鋸として用いたものである。17は棒状の砂岩の下端に叩打痕があるものである。18は撥型で、縁辺に叩打痕がある薄い緑色泥岩である。小型石斧の未成品という可能性もある。

H20：1～3は床面からの出土である。1は頁岩のつまみ付きナイフである。先端は切り出し形で両側縁に刃部を持つ。2は砂岩で、打ち欠いて幅広の機能面を底面に作出し、そこには叩打痕が顕著である。また残存する側縁には叩打による溝状の持ち手が作り出された痕跡がある。その溝は反対側剖面にも対応する叩打痕がある。不整な形状のため扁平打製石器に分類したが、北海道式石冠未成品の可能性もある。3は安山岩製の石皿片で皿状の凹みが表裏にある。表裏の凹み面の深い部分が対応する場所で割れている。

H21：1～3は覆土、4・6・7は床面、5はHP-11 覆土からの出土である。

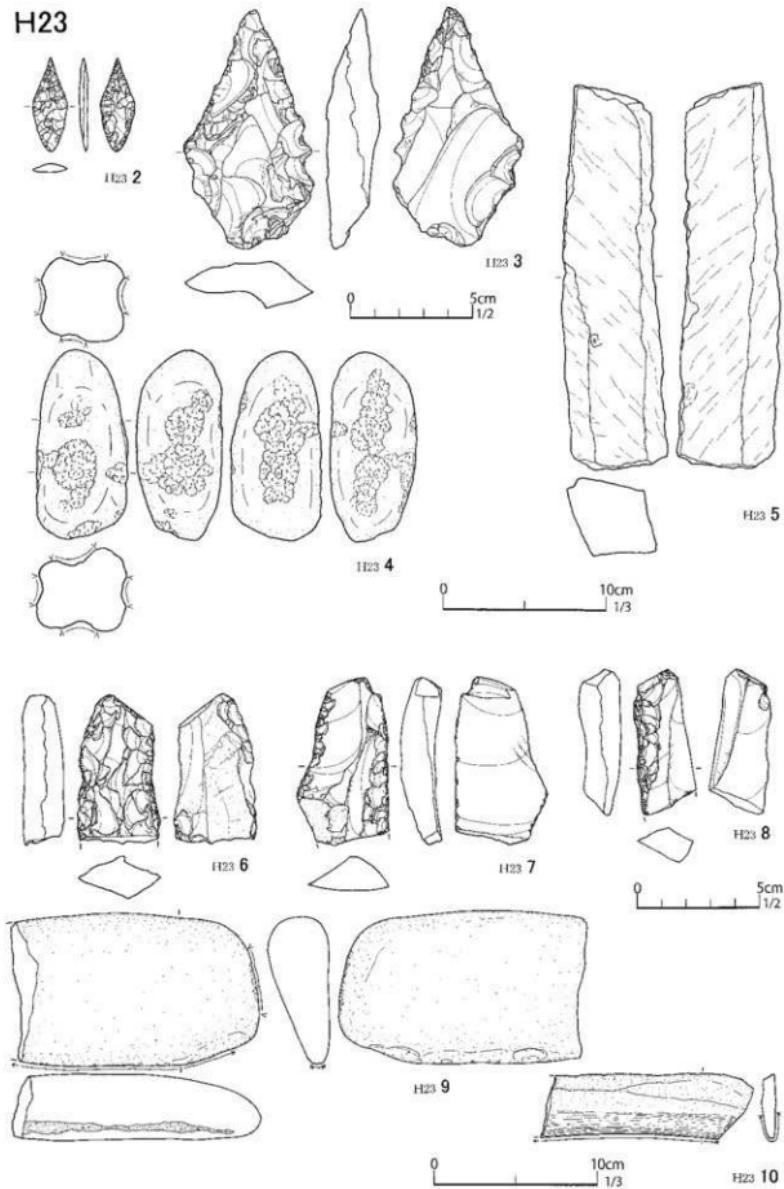
1は凝灰岩製の鍤である。打ち欠きと擦り切りで対応する装着部分の凹部を作出する。これは素材の長軸上に対応する。ほぼ全面に赤彩された痕跡があるが、この装着部と対応する長軸部分のみ無い。これは赤彩時に長軸上になにかが巻いてあったその上から赤彩が施されていた可能性がある。赤彩部は下図に網掛けで示した。2・3は石製品である。2は頁岩製異形石器である。3は軽石の全面を研磨したもので裏面には平坦面がとられている。4は頁岩製スクレイパーとした。剥片の縁辺に細かい剥離が巡る。6は砂質凝灰岩製の砥石片である。表裏に顕著な研磨痕跡がある。5は砂岩の台石である。両裏面に叩打痕がある。7は安山岩の石皿である。楕円形をした溝状の凹みが顕著なもので表面に大小1条ずつ。裏面に3条ある。表面の顕著な大型の溝の一番深い部分、石の一番浅い部分で割れている。

H23：1～5は覆土、6～10は床面からの出土である。1は安山岩製の石製品である。正面図とした側はほぼ全面に叩打が及ぶ。左側面図側には凹みが叩打で作られる。これに対応して、裏面図でわかるように、右側面にも小さな凹みが叩打で作出されている。底面とした側には溝状が叩打によって作出される。石冠様石器的な石製品の可能性がある。2は頁岩製石鎌である。尖基で先端が細長く作り出されている。3は頁岩の両面調整石器である。線対称の形状で縁辺は粗く打ち欠かれる。4は安山岩製の凹み石である。断面は正方形に近い表裏二面ずつに対応する二か所の凹みが長軸上に並ぶ。5は安山岩の棒状礫である。柱状節理を採取してきたものと考える。石棒的な意味合いを想定し、掲載した。6～8は頁岩製のスクレイパーである。6は正面について深い剥離が全面におよぶ裏面は右側縁のみ両面調整である。7は両側縁、8は片側縁に片面調整の刃部を作出する。9は砂岩製の扁平打



図III-3-6 遺構出土石器 H21(1~7)・H23(1)

H23



図III-3-7 遺構出土石器 H23(2~10)

製石器である。素材本来の形状を生かして利用しているが、残存する側縁には叩打痕が残る。成形痕跡か使用痕かは判然としない。10は安山岩の石鋸である。板状節理の幅が狭い部分を生かして石鋸機能部を作出している。

H24：1～3は床面、4は覆土2層からの出土である。1は頁岩製のドリルである。先端は丸まり使い込まれている。2・3は頁岩製スクレイパーである。2は、先端が平刀型で、その端部と平行な両側縁には整然と刃部が作出されている。折損しているため不明だがつまみ付きナイフだった可能性がある。3は縁辺に刃部が巡る。4は凝灰岩で、両端が折損している両側縁は急角度に打ち欠かれている。剖面である裏面中央には凹みがある。石棒や石冠に類する石製品の可能性を考える。

H25：1～4は覆土からの出土である。3が覆土1層ではかは覆土2層。5～7は床面からの出土である。

1・2は緑色泥岩の擦り切り残片である。いずれも四方向からの擦り切りが見受けられる。側縁の一部には連続する打ち欠きも認められる。3は凝灰岩の棒状礫について両側縁を急角度に打ち欠いたものである。石棒的な石製品の可能性を考えた。4は厚みのある楕円礫の長軸両端を打ち削って、表裏両面長軸上に叩打痕を持つ安山岩である。その大きさと形状から北海道式石冠未成品の可能性を考えた。5は頁岩製石槍又はナイフの先端部片である。尖基本葉形の可能性がある。6は頁岩製スクレイパーである。平行な両側縁には片面調整の刃部。端部には搔器様の刃部を持つ。7は砂岩製石皿である。両面に研磨面を持つ、正面側の凹みが顕著である。残存部から大型だった可能性があり石皿としたが砾石という可能性もある。

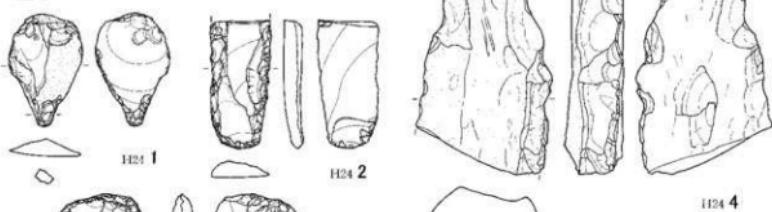
H26：1・2・4～7・9は床面からの出土、3はHP-16の覆土、8はHP-4の覆土からの出土である。

1は頁岩製石鎌である。尖基で先端を鉄角的に作り出す。2は頁岩製つまみ付きナイフである。正面右側縁に片面調整の刃部を作り出す。反対側面は礫面を残す。3は頁岩の石核である。4・5は緑色泥岩製の石斧である。4は片面のしのぎが顕著である。5は刃部が折損している。6は割れた安山岩礫片の頂部を打ち欠いて、下端両端を打ち欠いている。機能部が想定できる部分は未使用であるが、小型の扁平打製石器未成品の可能性がある。7は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁がノッチ状に打ち欠かれる。機能部は平滑になるまで使い込まれている。8は砂岩のたたき石である。下端部に叩打痕がある。9は安山岩の石皿である。楕円形の凹み石が表裏面にある。両面とも滑らかになるまで使い込まれている。

H27：1は覆土2層からの出土である。2・4・6～8は床面からの遺物出土である。3は周溝覆土からの出土である。5はHP-1覆土1層からの出土である。

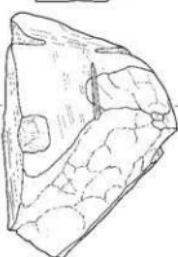
1は安山岩の凹み石である。亜円礫に表裏対応する二対の凹みを主としてまばらな凹み部を持つ。2は頁岩製の石槍又はナイフである。鋭い先端部を持つが、凸基有茎だが、正面觀は線対称ではない。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整の刃部を持つ。4は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損する。擦り切りと研磨によって成形された痕跡がある。5～7は扁平打製石器である。5・6は砂岩製。5は残存する側縁に両面からの調整が加わる。機能面は平滑になるまで使い込まれている。6は側縁に両面からの調整が加わる。上面は石鋸、仮面は密な叩打痕がある。7は安山岩の楕円礫の両端に両側からの調整が加わる。機能部は平滑になるまで使いこまれる。8は砂岩の台石である。両

H24



0 5cm
1/2

H25

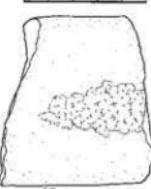
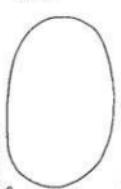
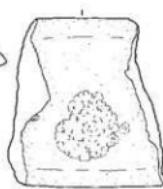


H25 1

H25 3

H25 2

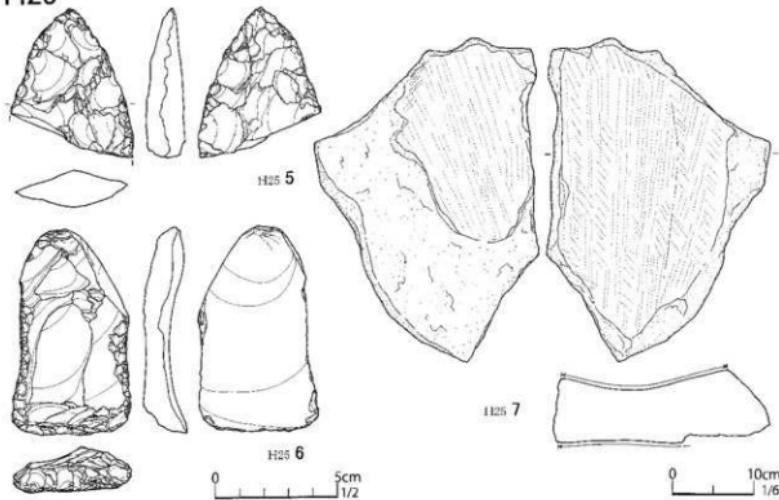
0 5cm
1/2



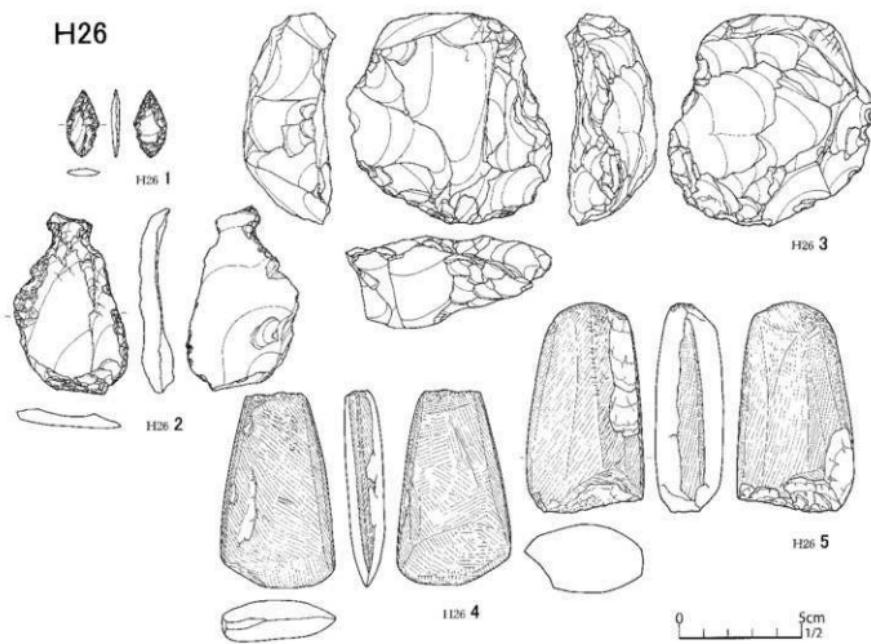
0 10cm
1/3

図Ⅲ-3-8 遺構出土石器 H24(1~4)・H25(1~4)

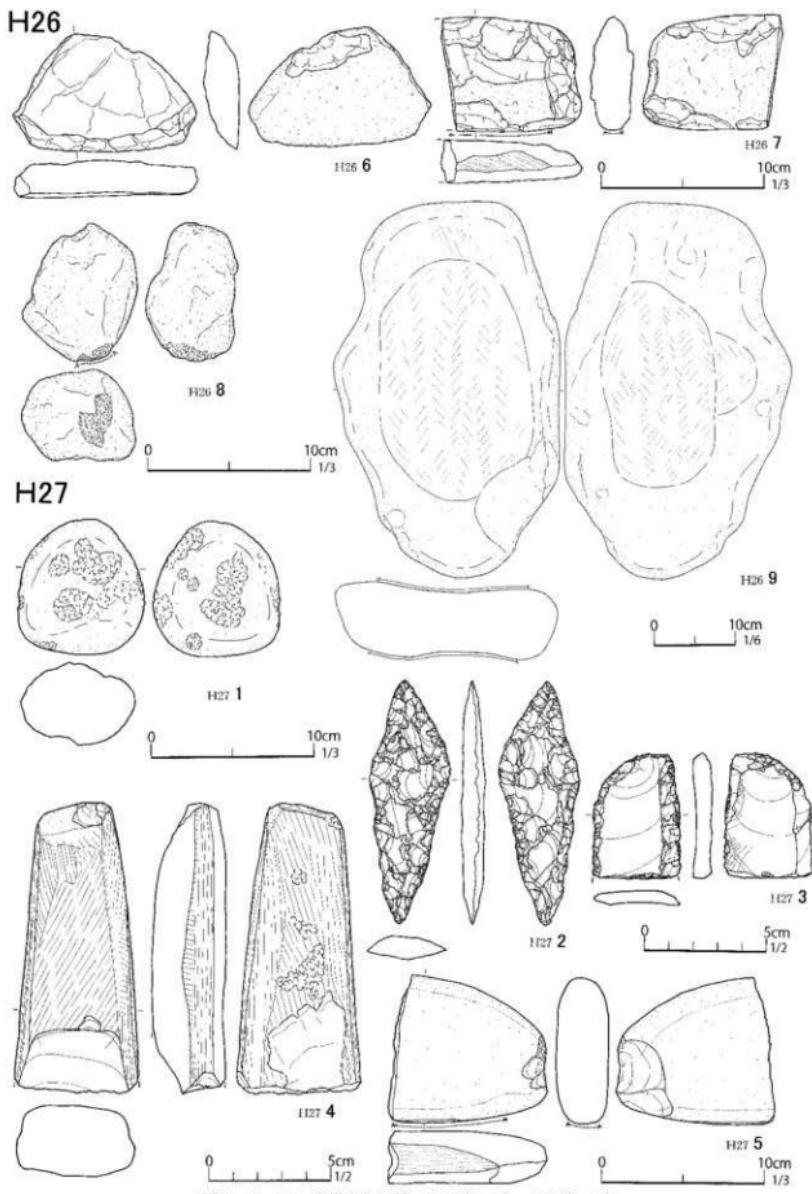
H25

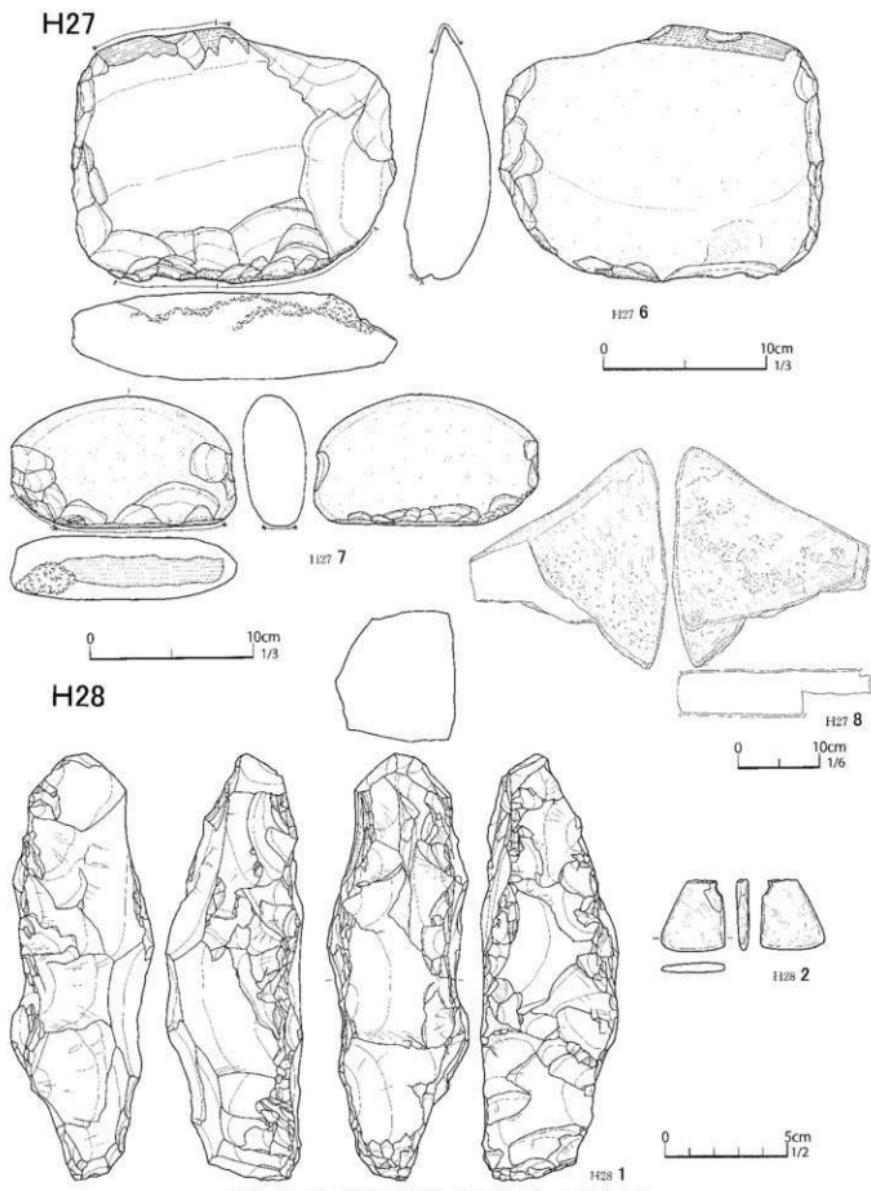


H26



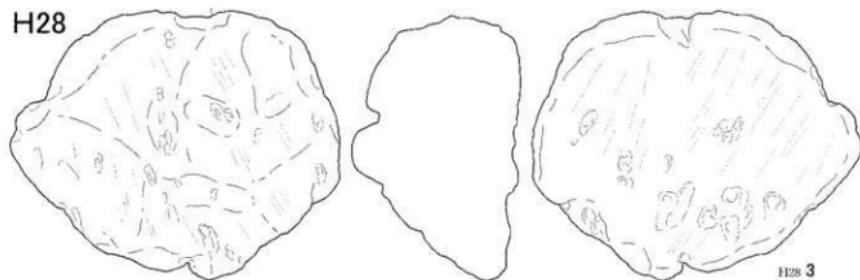
図III-3-9 遺構出土石器 H25(5~7)・H26(1~5)



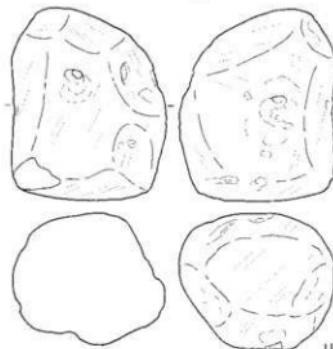


図III-3-11 遺構出土石器 H27(6~8)・H28(1・2)

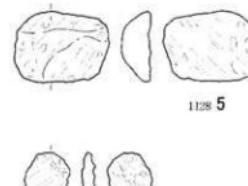
H28



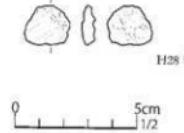
H28 3



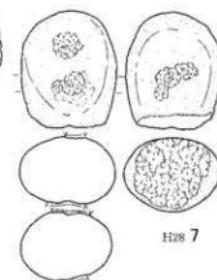
H28 4



H28 5



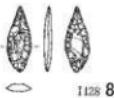
H28 6



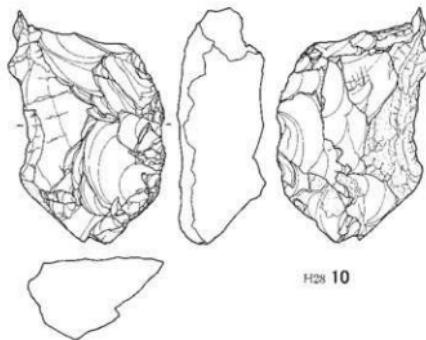
H28 7

0 5cm
1/2

0 10cm
1/3



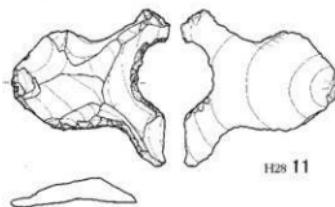
H28 8



H28 10



H28 9

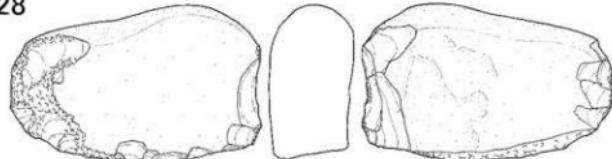


H28 11

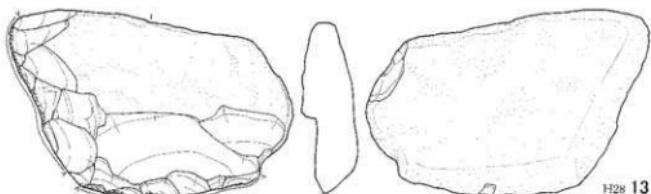
0 5cm
1/2

図III-3-12 遺構出土石器 H28(3~11)

H28



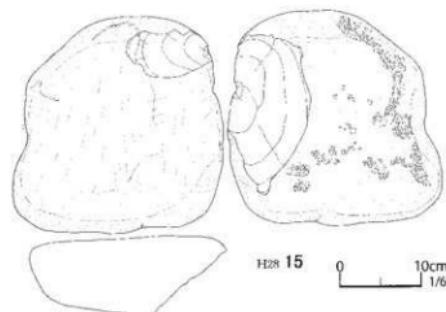
H28 12



H28 13



H28 14



H28 15



図III-3-13 遺構出土石器 H28(12~15)

面に叩打痕が残る。

H28 : 1 ~ 7 は覆土から、2 は覆土 1 層、1・4 ~ 6 は覆土 2 層、3・7 は覆土 3 層からの出土である。8 ~ 11・14 は床面、12・13 は周溝覆土、15 は HP-16 からの出土である。

1 は頁岩の石核である。船底型を思わせる。全面に調整がおよぶ。2 は滑石製玦状耳飾りである。三角形で溝部分から割れた片側である。3 ~ 6 は軽石の一部ないしは全面に研磨を加えたものである。石製品とした。7 は安山岩の凹み石で表裏対応する一对の凹みとそれに付随する数個の凹みからなる。

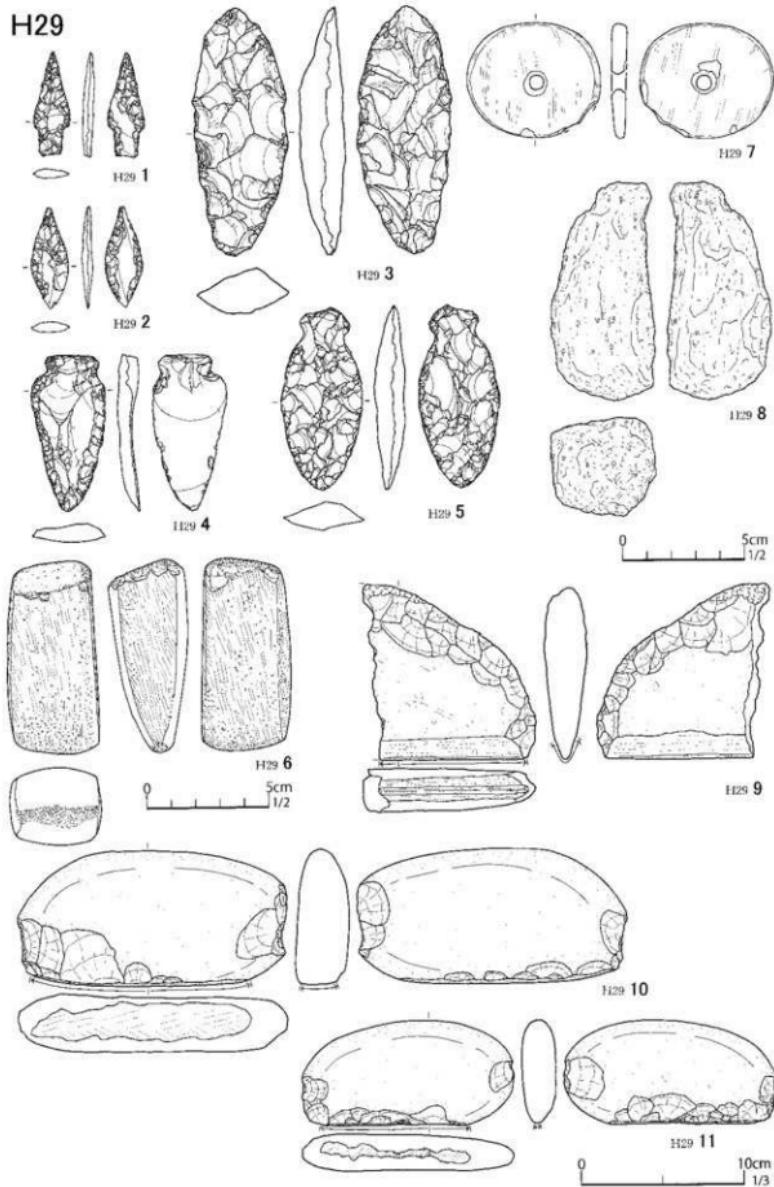
8は頁岩製石鎌である。尖基で先端を細長く作り出す。9は頁岩製のドリルである。つまみ付きナイフの下端に刺突部を作出したものである。10は両面調整石器である。頁岩の素材面を片側に残す。11は頁岩製の異形石器である。翼状の突起を二か所作とする。12~15はいずれも砂岩である。12は両側縁と底面の潰れ痕、叩き痕、そして全体の形状から、北海道式石冠の未成品と考える。13の正面観は機能部側がすぼまつて見えるが機能部の形状等から扁平打製石器と考える。機能部は底面から側縁にかけて連続する。14はたたき石で長軸に平行する両側縁に叩打痕を持つ。15は台石としたが、使用痕が不明瞭である。

H29：1~8は覆土、9~11・14~16は床面出土である。12はHP-29、13はHP-21のそれぞれ覆土から出土した。

1・2は頁岩製の石鎌である。1は平基有茎、2は尖基で先端を細長く作出するもの。3は頁岩製の石槍又はナイフで、尖基本葉形で両面調整。先端は尖らない。4・5は頁岩製つまみ付きナイフ。4は幅広の装着部を持ち、5は線対称だが先端が丸みをおびるので石槍とはしなかった。6は緑色泥岩製の石斧である。基部は折れている。折損部と刃部先端はたたき痕跡によって潰れている。7は凝灰岩製の石製品である。楕円形の環状で中央に円形の穿孔を持つ。表裏面はよく磨かれている。8は軽石製の石製品である。上端の作出部分は浮子を思わせる。9は安山岩製で扁平打石器を石鋸に転用している。10・11は扁平打製石器で、両側縁端部に両面調整がある。10は砂岩、11は閃綠岩。12は頁岩製つまみ付きナイフ、片面調整が両側縁および端部に及ぶ。13・14は砂岩のたたき石で、いずれも一側縁が潰れている。14はその側縁から端部にかけて潰れている。15は凝灰岩の石皿である。表裏面に溝状の凹みが2条ずつある。凝灰岩は長期間埋没したことが影響したためか、もろく崩れやすくなっている。16は安山岩の石皿である。表裏面に皿状の凹みを持つ。裏面とした側の凹み中央部には叩打痕がある。

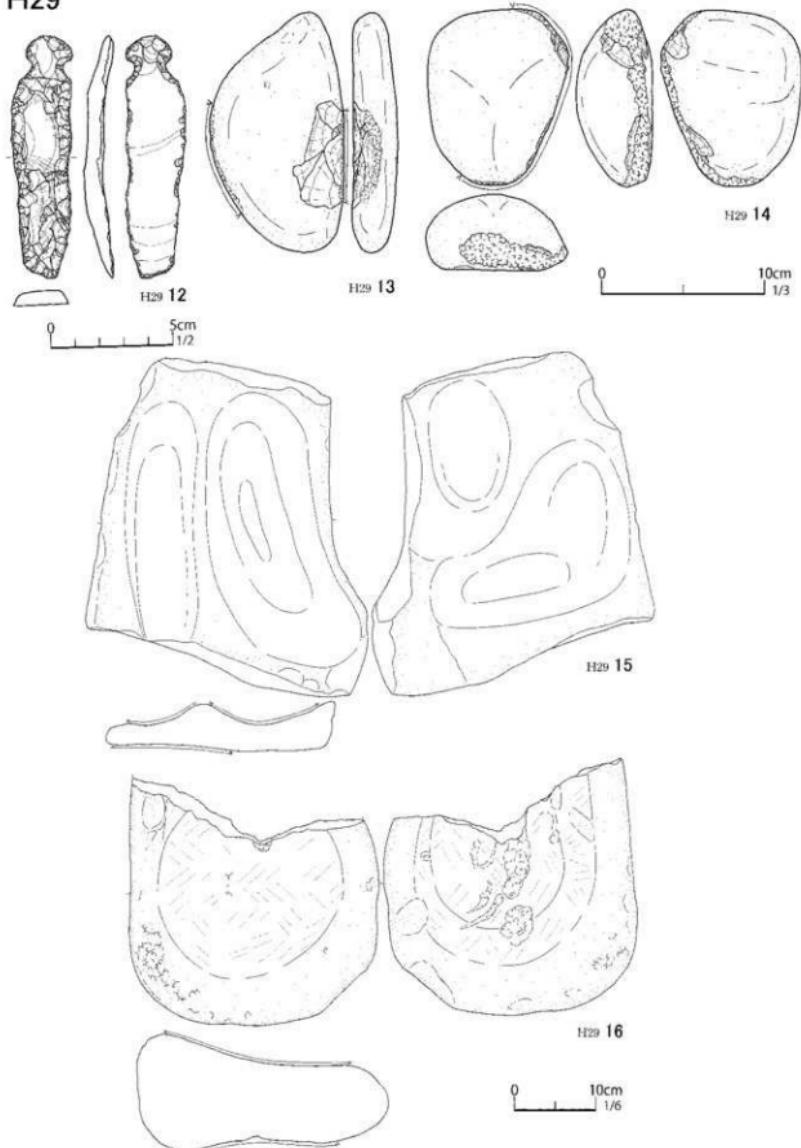
H30：1~8は床面出土である。1は頁岩製スクレイパーの刃部。一部調整が両面に及ぶ。つまみ付きナイフの端部の可能性がある。1・2は扁平打製石器である。安山岩製で両面調整が縁辺に及ぶ。3は砂岩製で両面調整が片側縁のみで、使用頻度がわずかなためか擦り面を形成するに及ばない。4・5・6はたたき石である。砂岩製で端部が潰れている。4・5は下端。6は上下端である。7は砂岩の台石である。表裏面に擦痕と叩打痕がある。8は安山岩の台石である。表面とした側の擦痕が顕著である。

H31：1・2は覆土1層、3・4・8~10は床面から、5~7は周溝覆土から出土した。1は頁岩の両面調整石器である。線対称な形状で先端は丸みをおびる。船底型を思わせる形状である。2は頁岩製の凹み石である。四面を持つ棒状で、二面ずつ表裏対応する凹みとその他の凹みによって構成される。3は頁岩製スクレイパーである。両側縁に片面調整のノッチ状の刃部を持つ。4は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎で線対称の形状である。両面に打ち欠きによる調整を持つ。5は頁岩の石核である。打面調整と思われる痕跡を縁辺に複数個所持つ。6は閃綠岩製の扁平打製石器である。楕円礫の長軸両端を打ち欠く。機能部は叩打によるものか大きく打ち欠かれている。7は安山岩の北海道式石冠である。楕円礫を短軸で削って、叩打によって持ち手の溝を形成する。機能部には叩打痕のみ見受けられ、未完成か、未使用の可能性がある。8は砂岩の砥石である。皿状に凹んだ砥石面が両面にある。9・10は砂岩のたたき石である。端部や側縁に叩打痕がある。9は正面観にも叩打痕があり、台石的な使用法も想定できる。

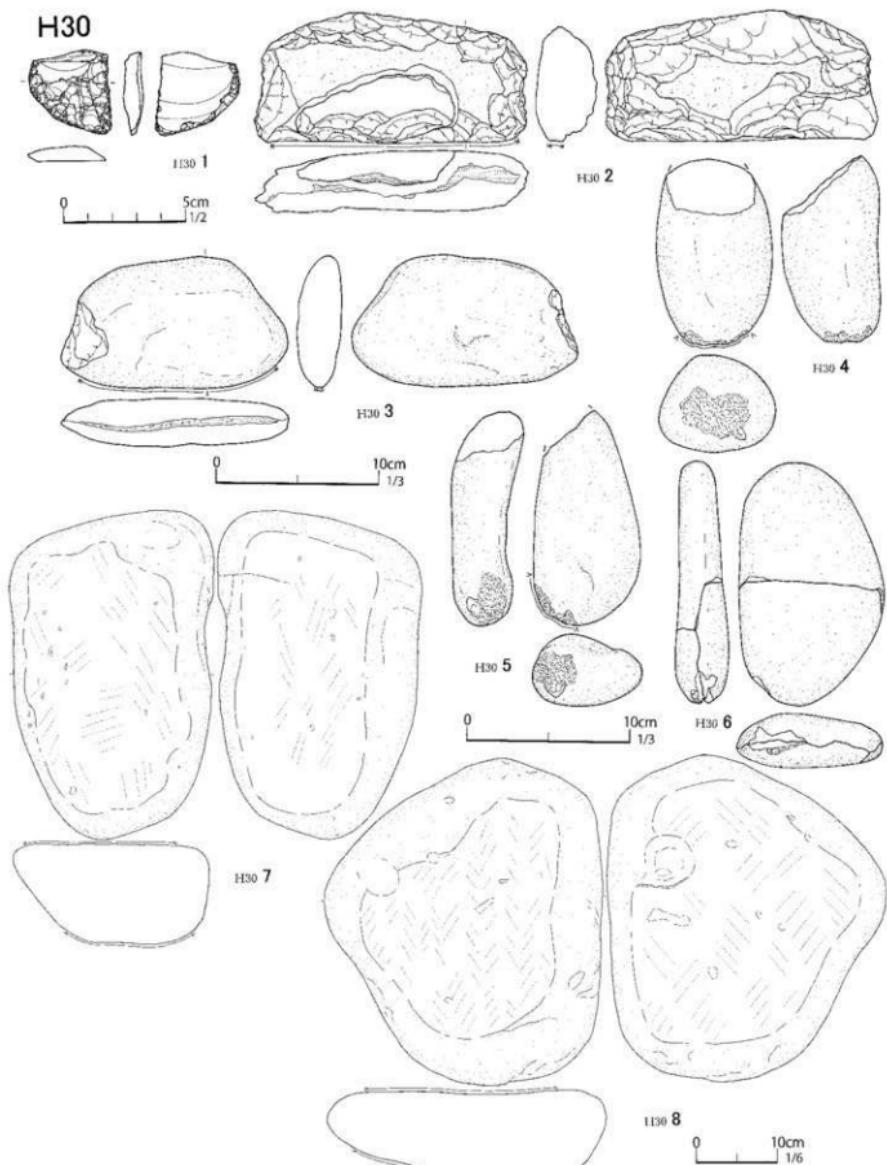


図III-3-14 造構出土石器 H29(1~11)

H29

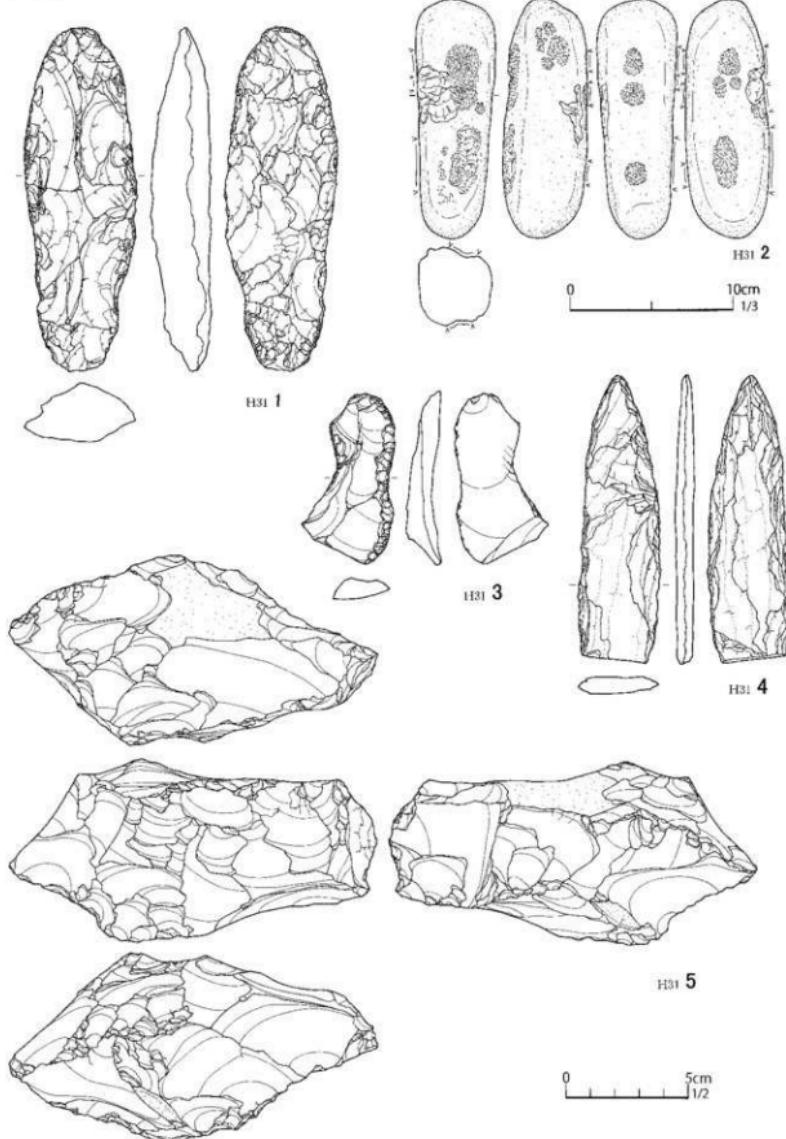


図III-3-15 遺構出土石器 H29(12~16)



図III-3-16 遺構出土石器 H30(1~8)

H31



図III-3-17 遺構出土石器 H31(1~5)

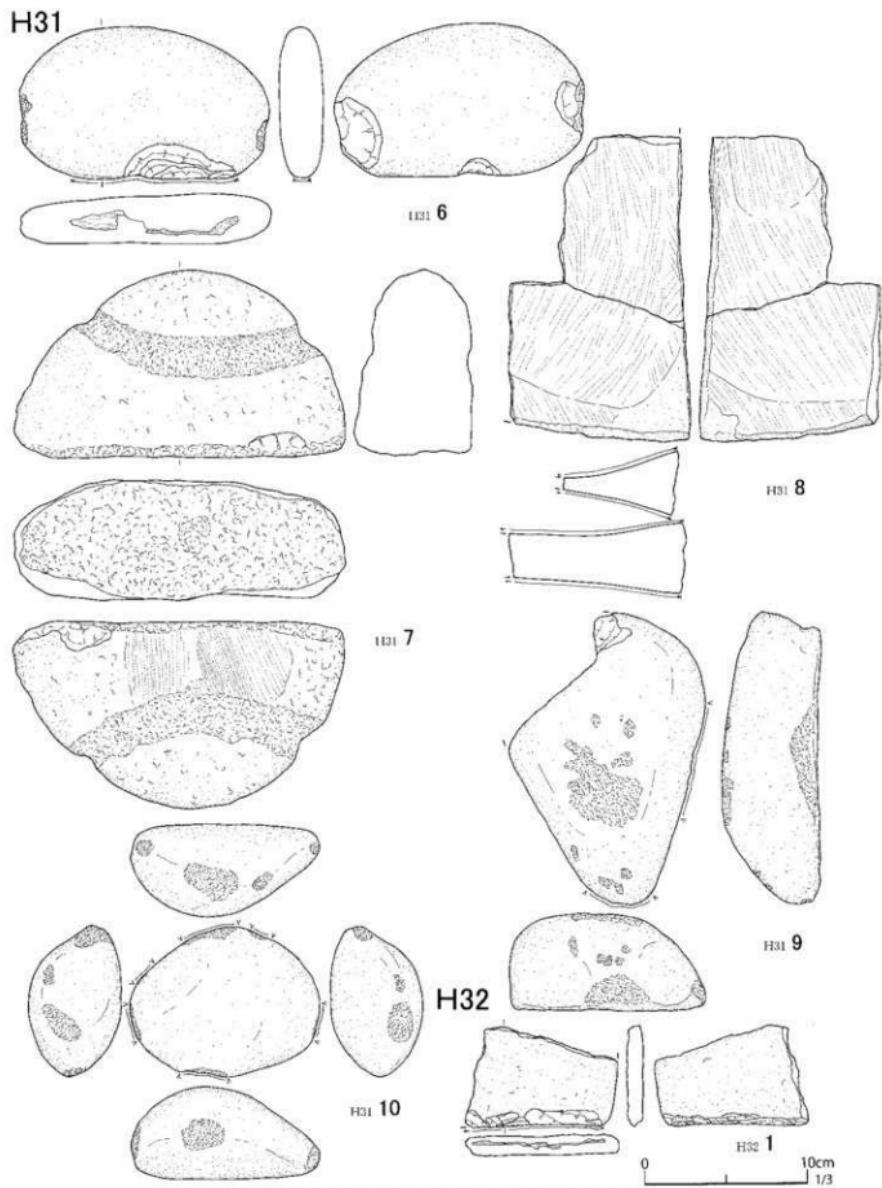
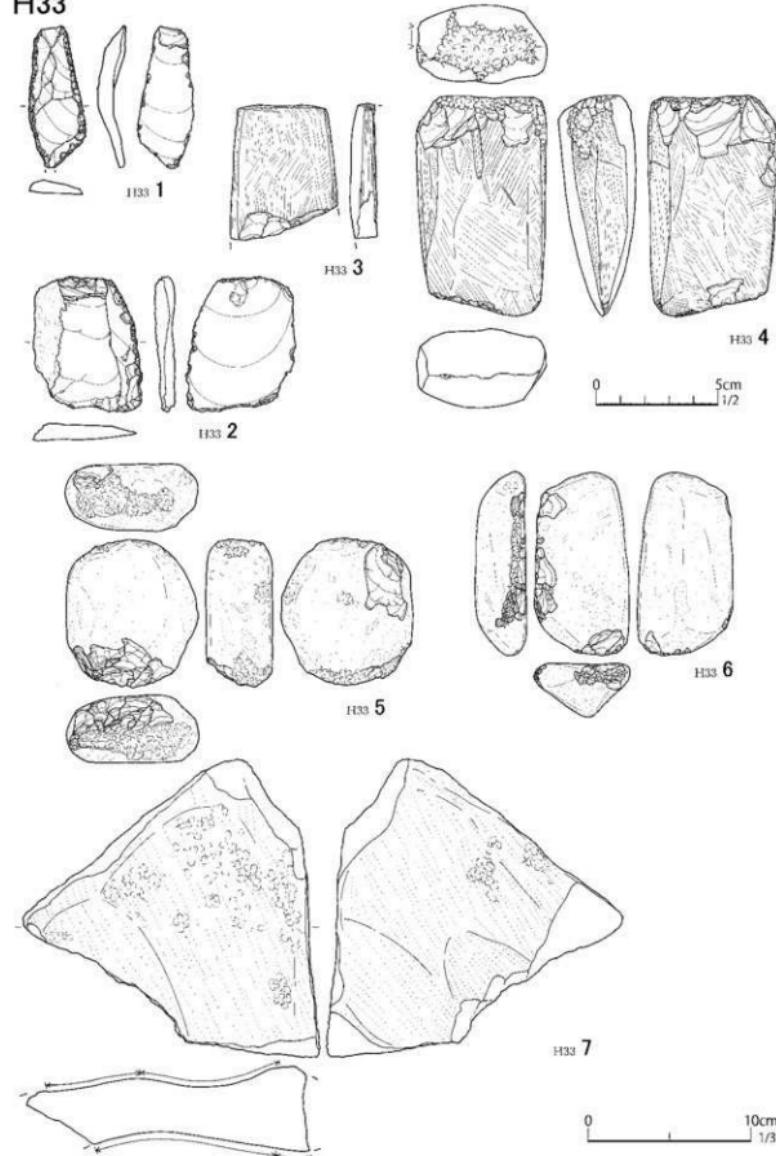


図 III-3-18 造構出土石器 H31(6~10)・H32(1)

H33



図III-3-19 遺構出土石器 H33(1~7)

H32：1は床面からの出土である。1は安山岩の扁平打製石器である。相対的、比較的厚さが薄い。

H33：4は覆土1層、他は床面からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパー。1は周縁に浅い片面調整が巡る。2は片側縁に片面調整がある。3・4は緑色泥岩の石斧である。3は基部が割れた片側縁。4は刃部破片。側面は叩き潰されている。5・6はたたき石。5はメノウで、両端が潰れている。6は砂岩で下端と片側側縁が潰れている。7は砂岩の砥石で、凹み面が両面にある。石皿片の可能性もある。

H34：1～6は覆土出土のものである。特に1・4・6は覆土4層からの出土である。1は頁岩製石鎌である。尖基で先端を細く作り出したものである。小型である。2・3は頁岩製の両面調整石器である。先端は丸く、全体の形状は靴ベラのように湾曲する。4は頁岩製のスクレイパーである。片側の側縁に片面調整の刃部がおよぶ。5は安山岩製の北海道式石冠ないしは扁平打製石器である。両側縁にのみ成形がある。底面には微妙な叩打痕があるが明瞭な使用痕はない。正面裏面にも微妙な叩打痕がある。調整が側縁のみのため厚みのある扁平打製石器とした。

H35：1～3は覆土1層下位からの出土である。1は安山岩の石皿である。残存部の表面には皿状の凹みがあり、滑らかになるまで使い込まれている。裏面には楕円形の溝状をした凹みが2条ある。2は砂岩の石皿である。割れており、もとの形状は留めていない。擦痕があり、皿状の機能部を想定できたので石皿としたが、台石の可能性もある。3は安山岩の台石である。叩打痕と擦痕がある。

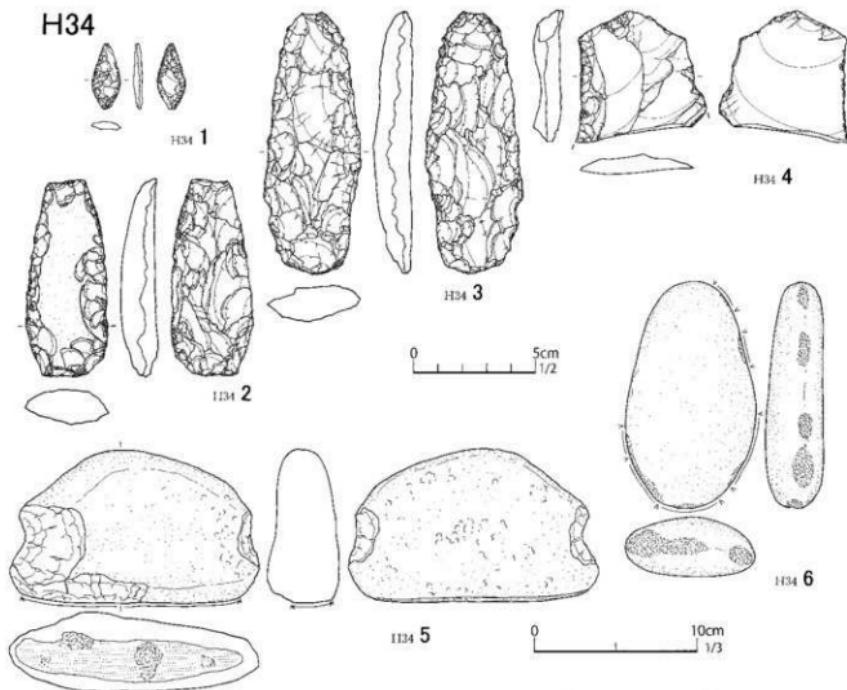
H36：1～3は覆土からの出土である。3は覆土4層のものである。

1は頁岩製石槍又はナイフである。基部先端に小型のつまみが付く。2は緑色泥岩製の石斧である。基部片と考える。研磨部分には焼けて黒色化した油分が付着している。3は安山岩の石皿片である。擦痕と叩打痕が顕著である。

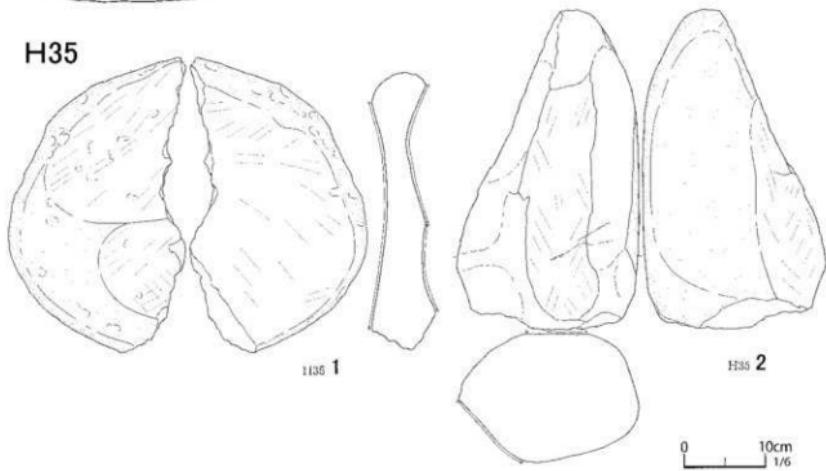
H37：1～3・10は覆土出土である。1・2は覆土1層3・10は覆土2層である。4・7・12～14は周溝覆土1層、5・6・8・9・11は床面出土である。1は頁岩製ドリルである。石鎌未成品からの転用なのか線対称である。平基無茎だが石鎌にしては全体に湾曲している。2は砂岩の砥石である。凹み面が表裏にある。石皿片の可能性もある。3は頁岩の凹み石である。表裏に凹みが対応する。4は頁岩製石鎌である。先端、基部ともに折損する。残存部から尖基で先を細く作り出しているもの可能性がある。5は頁岩製のドリルである。縁辺を深い剥離で調整する。6・7は頁岩製のスクレイパーである。6は片方の側縁に浅い剥離が巡る。7は端部に急角度の刃部が巡る。8は頁岩の両面調整石器である。9は頁岩の両面調整石器である。10は安山岩の扁平打製石器である。比較的厚みがあるが、小型である。11は凝灰岩製の扁平打製石器である。側縁は素材の礫の形状を生かす。上端に一部調整がある。12・13・14は砂岩のたたき石である。亜円礫の端部に叩打痕を持つ。

H38：1・2は床面、3～5は覆土出土である。1は北海道式石冠である。閃綠岩の楕円礫を割って機能面および持ち手部分の溝を成形する。機能部は平滑になるまで使いこまれている。2は頁岩製の石鎌である。基部のみ残存する。その形状から尖基で先を細く尖らせたタイプの石鎌という可能性がある。3は頁岩製のドリルである。つまみが付き、線対称の形状である。4は砂岩の石鎌である。大型の円礫を打ち欠いた破片を利用している。5は安山岩の石皿片である。凹み面が表裏にあり、対応する。

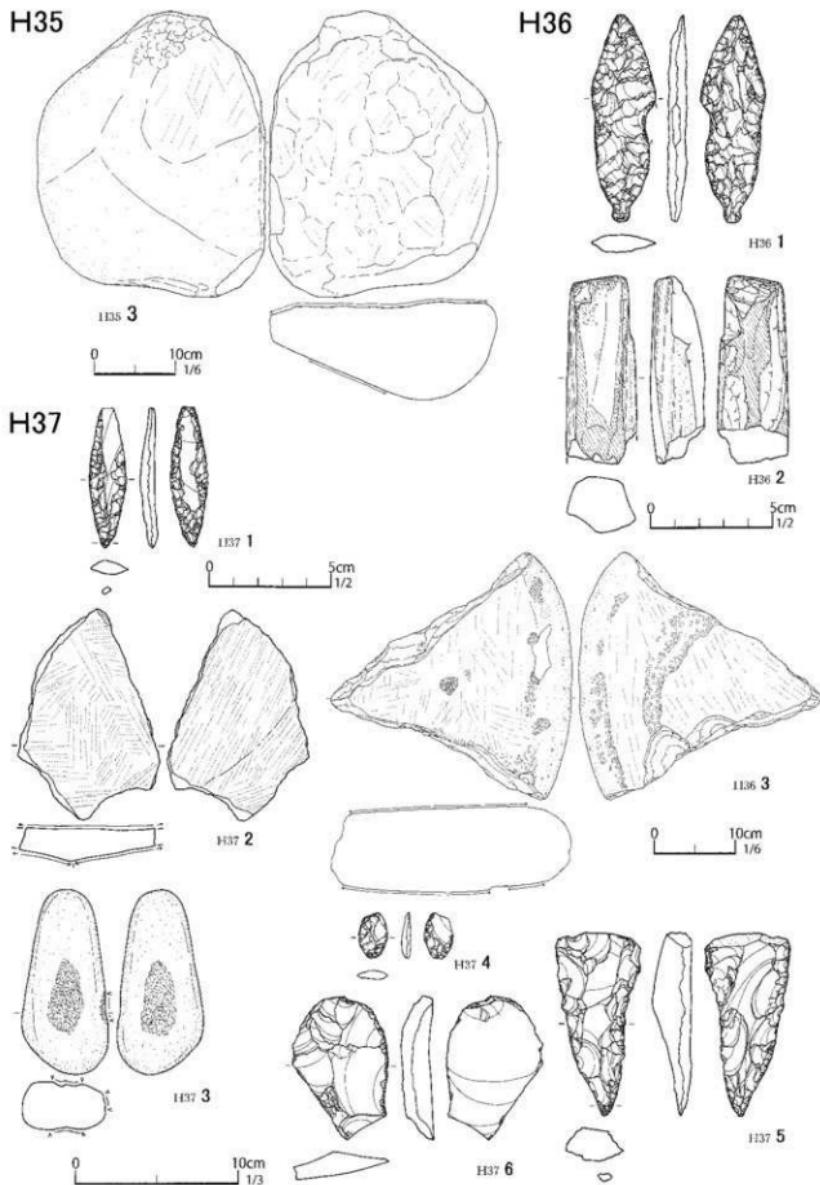
H34



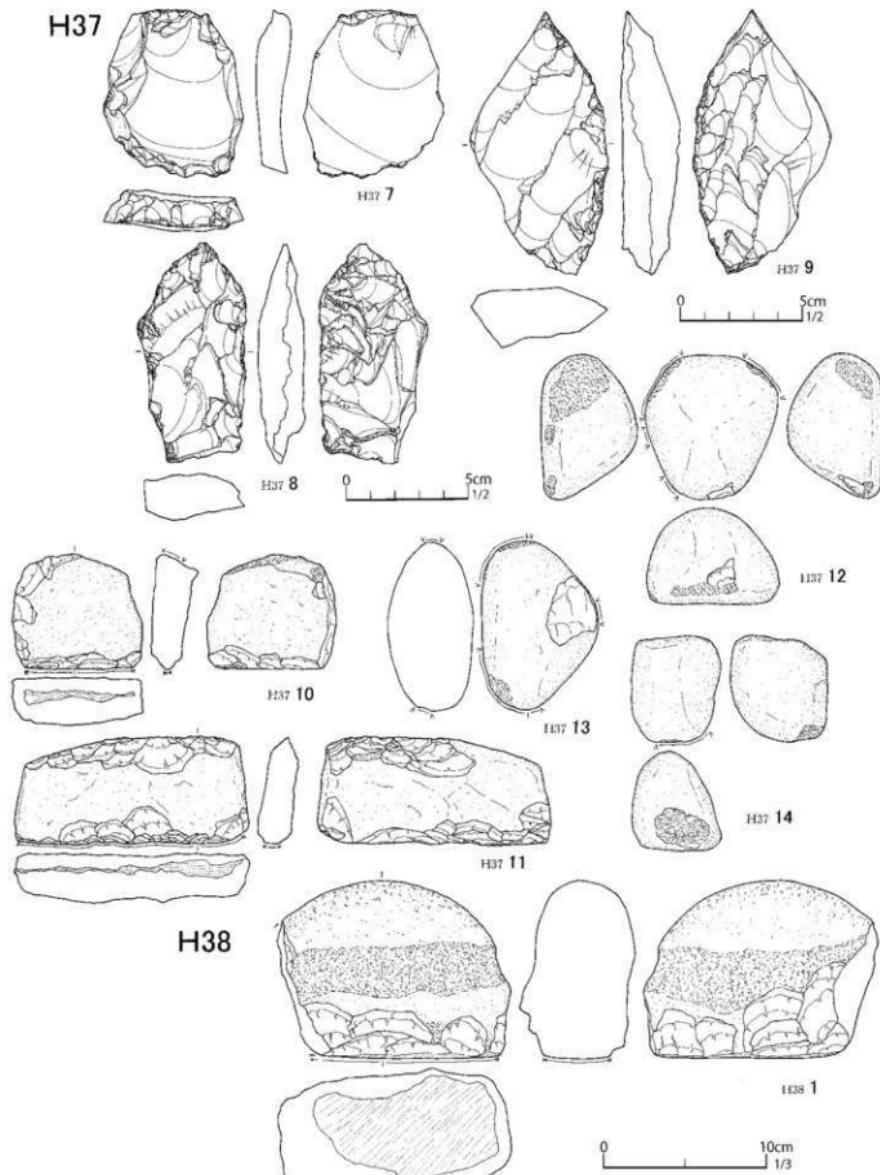
H35



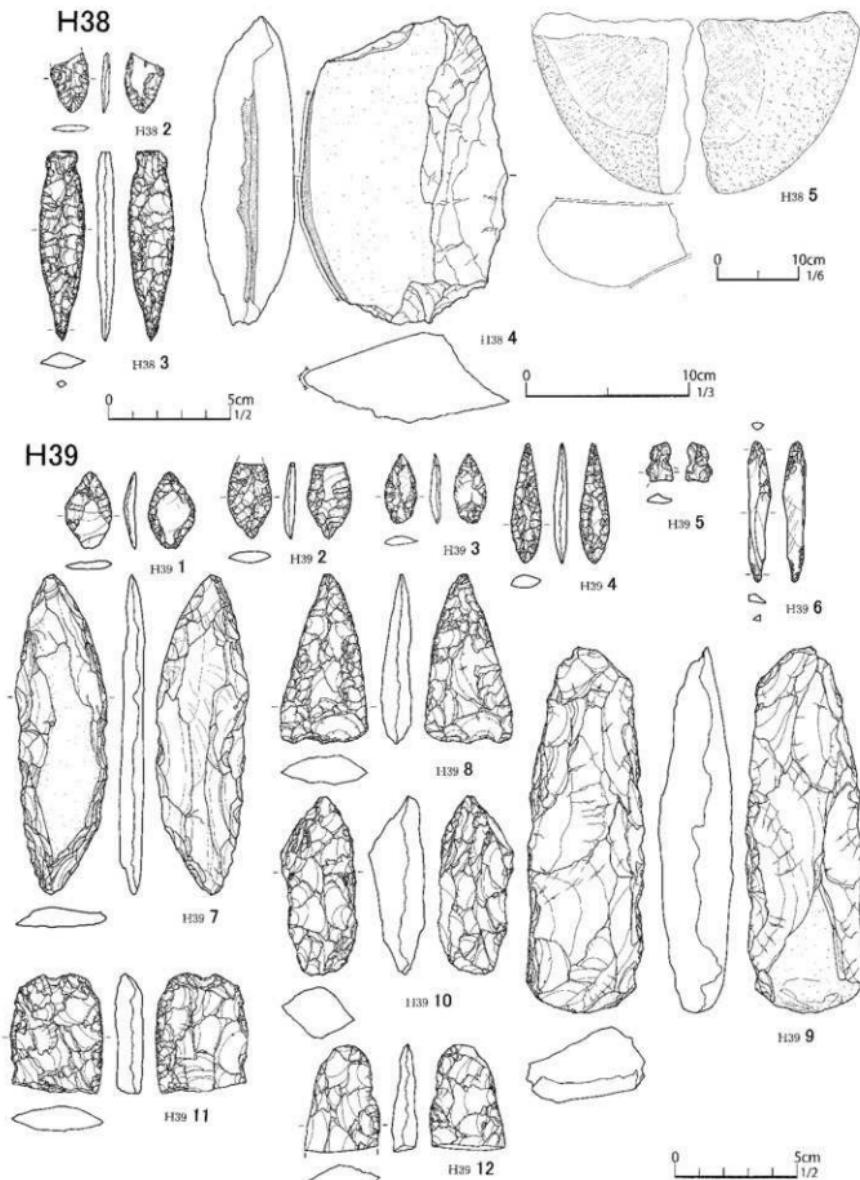
図III-3-20 遺構出土石器 H34(1~6)・H35(1・2)



図III-3-21 遺構出土石器 H35(3)・H36(1~3)・H37(1~6)

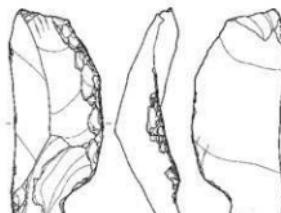
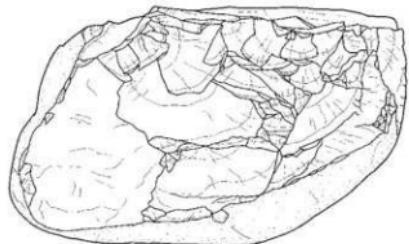
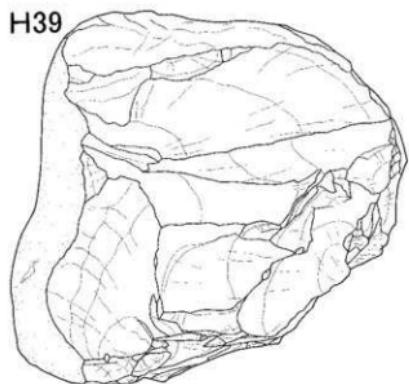


図III-3-22 遺構出土石器 H37(7~14)・H38(1)

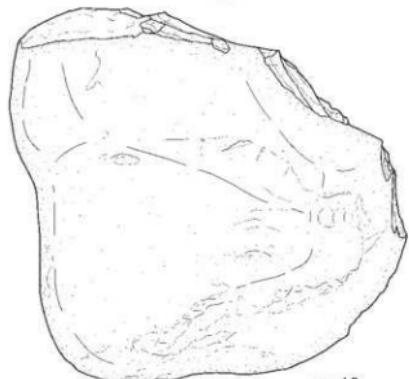


図III-3-23 遺構出土石器 H38(2~5)・H39(1~12)

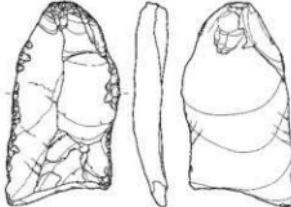
H39



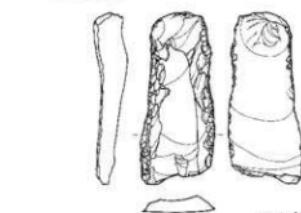
H39 13



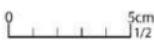
H39 16



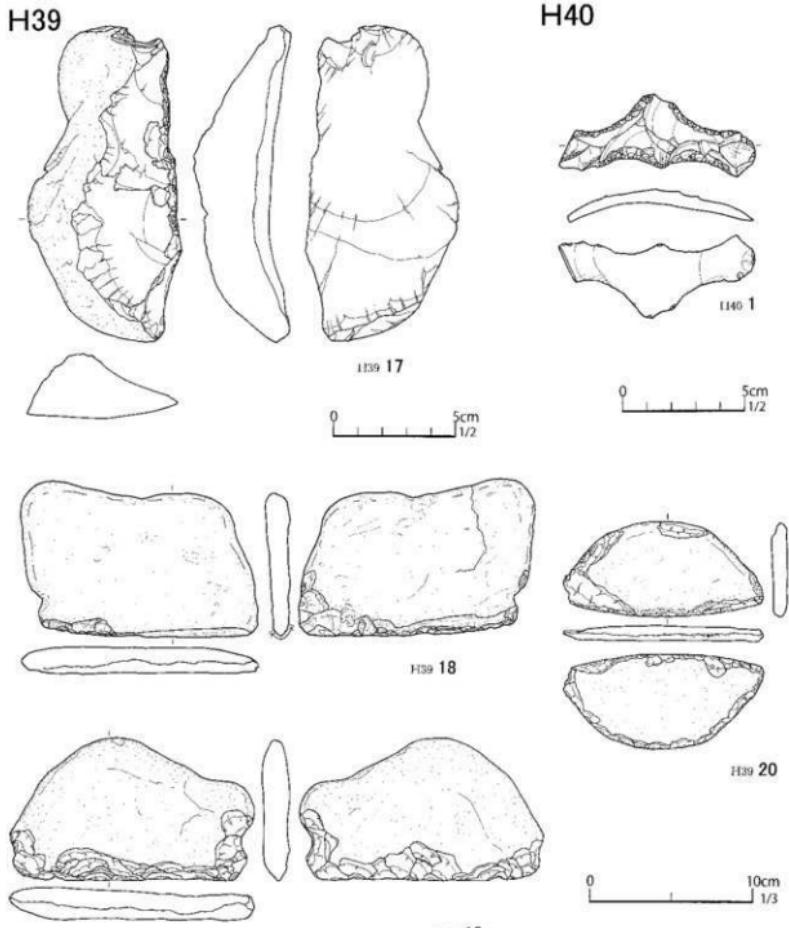
H39 14



H39 15



図III-3-24 遺構出土石器 H39(13~16)



図III-3-25 遺構出土石器 H39(17~20)・H40(1)

点取りNo.2である。

H39: 1は床面、3~20は覆土からの出土である。1~4は頁岩製の石鎚である。1は成形が全面におよんでいないことから未完成品の可能性がある。2の先端が折損しているものの、いずれも尖基で先端を細く作り出す形状のものに近い。5は黒曜石製のつまみ付きナイフ等のつまみ部分である。小型であることから石鎚の可能性がある。6は頁岩製のドリルである。棒状の素材の両端に錐を作出する。7・8は石槍又はナイフである。7は片岩製で両面打ち欠きによって成形される。尖基で木葉形で

ある。8は平基無茎で三角形をしている。頁岩で調整が両面全面におよぶ。9は頁岩の両面調整石器である。裏面下端に礫面を残すがほぼ両面全面に調整がおよぶ。打製石斧を思わせる形状だが下端両面にそれらしい使用痕はない。10~15は頁岩製のスクレイバーである。覆土南側から出土した。10~12は両面全面調整のものである。10は比較的厚みがある。11・12は折損している。13~15は片面調整である。13は一側縁に、14・15は両側縁に刃部を成形する。15は両側縁がおよそ平行な素材に、急角度の刃部を成形する。16は頁岩の石核である。大きく礫部分を残す。17は頁岩のスクレイバーである。礫面を残す厚めの素材の一側縁に刃部を成形する。18は安山岩製の扁平打製石器を石鋸に転用したものと考える。19は安山岩の扁平打製石器である。両側縁はノッチ状に打ち欠いて成形する。20は粘板岩製の扁平打製石器である。素材のもとの形状を生かして、半円形の形状に全体を成形し、機能部は直線的である。

H40：1は覆土からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ様の張り出し部が二か所線対称に展開する。

H41：1~5は覆土出土、6・7は床面からの出土である。1・2は頁岩製スクレイバーである。1は両側縁に急角度の刃部を持つ。2は一側縁に片面調整の刃部を持つ。3は黒曜石のつまみ付きナイフのつまみ部分である。明瞭な刃部はないが、刃部に相当する部分に潰れ痕がある。4・5は同じ場所から出土した石核である。6は頁岩製の両面調整石器である。肉厚の大型尖頭器が折損したかのような形状である。7は安山岩製の石皿片である。表裏に皿面があり、被熱する。

H43：1~3は床面出土である。1は頁岩製のドリルである。つまみを持ち、線対称な形状である。2は珪岩製のスクレイバーである。一側縁に剥離が並び、鈍い刃部を持つ。3は頁岩の石核である。

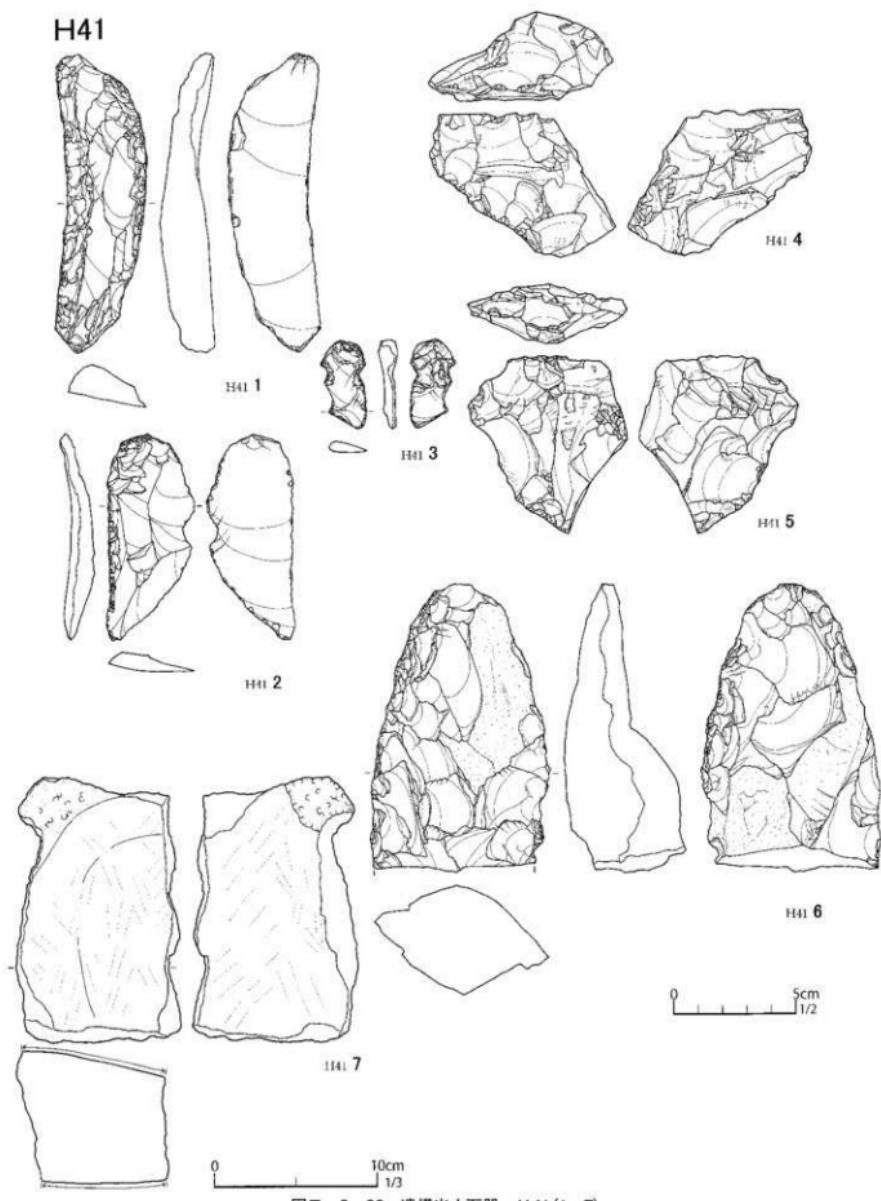
H44：1~3は床面出土である。1は頁岩製の石槍又はナイフである。両方の先端が折損している。全面に調整が及ぶ。2は頁岩の石核である。3は砂岩製の扁平打製石器である。楕円礫の両端に打ち欠きがある。素材が肉厚なため幅広い機能面を持つ。

H45：1・2はHF-1 覆土2層からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は折損して無い。2は安山岩製の扁平打製石器である。残存する側縁と頂部について両面から調整がおよぶ。

H46：1は床面からの出土である。1は頁岩の石核である。円礫の端を割りそこから剥片を打ち剥がす。打面の転移が見られる。

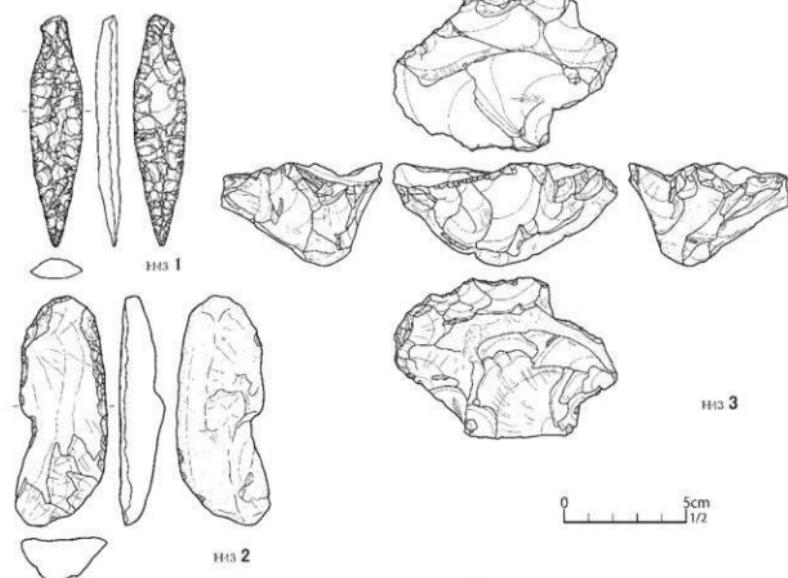
H49：1は覆土1層からの出土である。1は頁岩製の異形石器である。つまみ状の張り出しがある。

H51：1・2は覆土からの出土である。3~8は床面からの出土である。1は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で木の葉型である。調整は両面全面におよぶ。2は線刻礫片である。正面図に示したのは割れる前、礫の形状に対しての正中線を施した可能性を考える。裏面の擦痕は洗浄時のブラシ痕の可能性がある。もうい凝灰岩である。3・4は砂岩のたたき石である。礫の端部に叩き痕を持つ。3が上下端、4が下端である。5・6は扁平打製石器である。5は砂岩製で両側縁に叩打による成形がある。

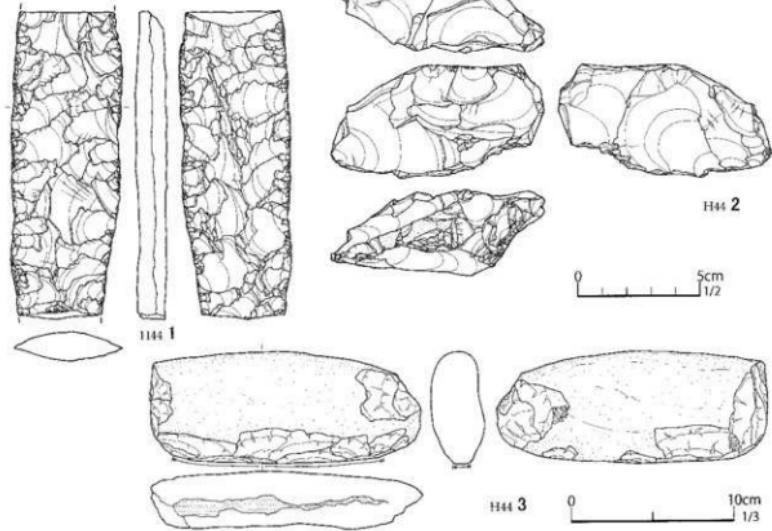


図III-3-26 遺構出土石器 H41(1~7)

H43

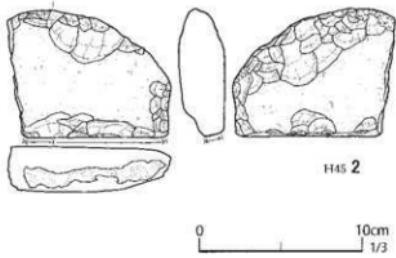
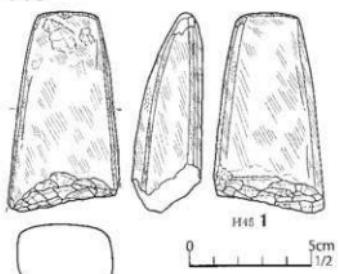


H44

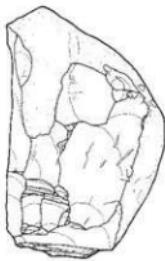
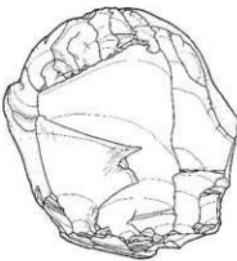
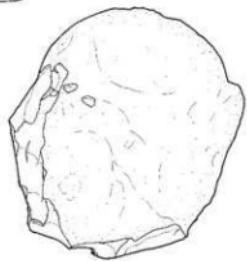


図III-3-27 遺構出土石器 H43(1~3)・H44(1~3)

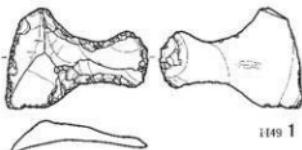
H45



H46



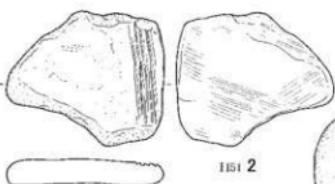
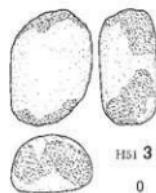
H49



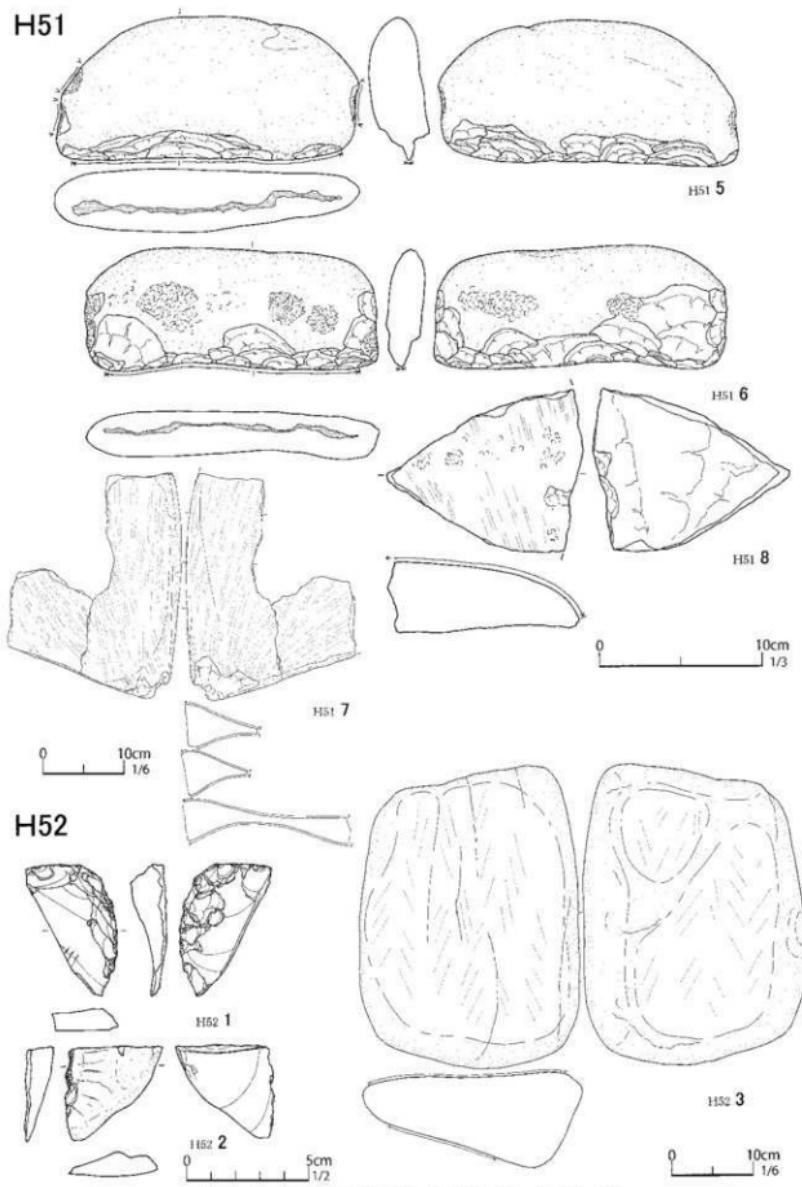
H46 1

0 5cm
1/2

H51

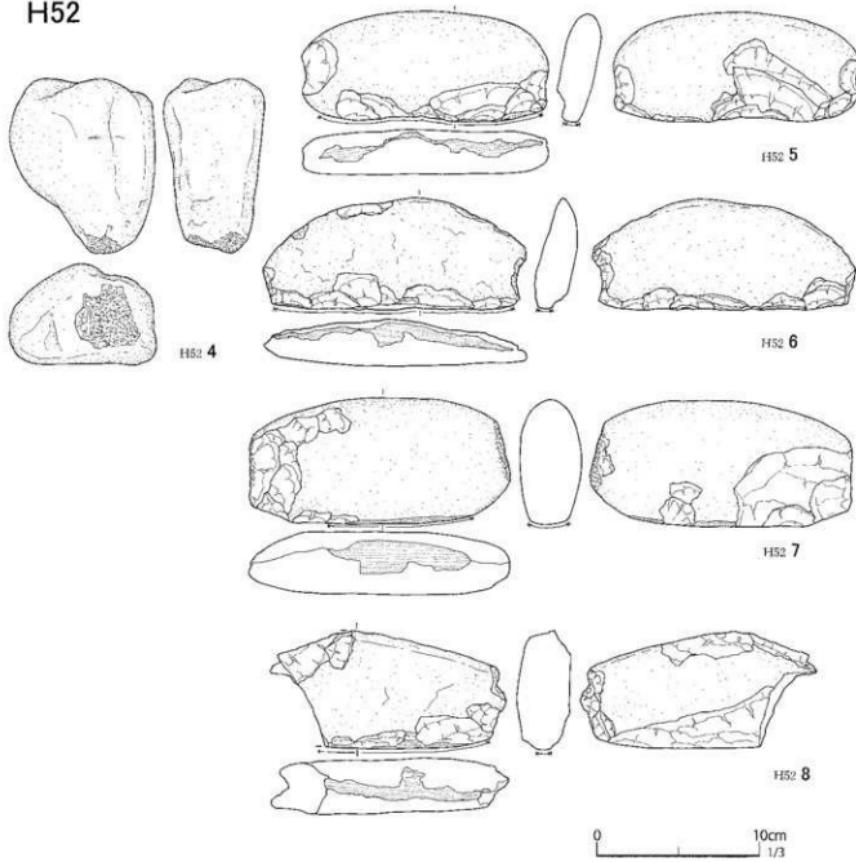
0 5cm
1/20 10cm
1/3

図III-3-28 造構出土石器 H45(1・2)・H46(1)・H49(1)・H51(1~4)

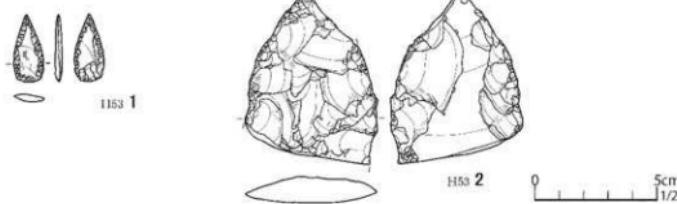


図III-3-29 遺構出土石器 H51(5~8)・H52(1~3)

H52



H53



図III-3-30 遺構出土石器 H52(4~8)・H53(1・2)

3 遺構出土の石器・石製品

6は凝灰岩製で両側縁に両面からの打ち欠き調整がある。表裏面に、ほぼ対応した敲打による凹みがある。7は安山岩製の石皿である。凹みのある皿面を両面に持つ。砥石的な使用も考えられる。8は砂岩の台石片である。縁辺の一か所に叩打痕がある。叩き石として破片を用いた可能性がある。

H52：1～8は床面からの出土である。1・2は頁岩製のスクレイバーである。1は両面調整、2は片面調整である。3は砂岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は砂岩のたたき石である。下端に叩打痕を持つ。5～8は扁平打製石器である。5～7は閃緑岩製で、両側縁に両面からの打ち欠きによる成形がある。8は砂岩製で、残存する側縁と頂部に両面からの打ち欠きによる成形がある。

H53：1は覆土1層、2は覆土2層からの出土である。1は頁岩製の石鎌である円～平基で先端を細く尖らせて作り出す。基部形態が不整であることから、尖基で同形の先端部を持つ型が典型的であるが、それに近いものと考える。2は頁岩製の石槍又はナイフである。尖基で残存部から木葉形のものと考える。

H54：1～3は覆土2層からの出土。4は床面からの出土、5はHF1 覆土2層からの出土である。1は安山岩製の凹み石。表裏対応する凹みが縦の長軸に並んで二対ある。2は安山岩の石皿である。梢円形をした溝状の凹みが表面に1条、裏面2条ある。表面には叩打による顕著な凹みが複数個所観察できる。3は安山岩の台石である。表裏面に擦痕がある。4は断面五角形の棒状縄である。安山岩で、その形状から、縄選択時に石棒の意味合いを求めて持ってきた可能性がある。5は頁岩製の異形石器である。折損しているが、つまみが二対ついた形状を思わせる。

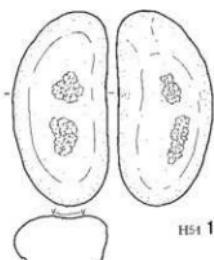
H55：1～5は覆土1層からの出土で扁平打製石器である。1・2は閃緑岩。3は安山岩、4・5は流紋岩である。1・2・4は両側縁に、3は両側縁の可能性があり、5は片面縁に両面調整の成形がある。3は幅の厚みが顕著である。

H56：1・2は覆土からの出土、3は床面からの出土である。1・2は安山岩製の台石である。1は両面に叩打痕がある。2は被熱によるものか割れている。3は頁岩製スクレイバーである。正面両側縁に片面調整の刃部がある。

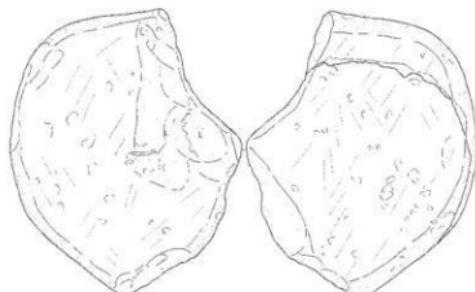
H57：1・2は床面、3は覆土からの出土である。1は安山岩の台石である。表面は平滑部分が顕著であり、裏面は被熱の為か赤色化している。2は安山岩製の石皿で両面の凹部が顕著である。3は滑石製の玦状耳飾りである。三角形のもので抉り部分から割れた片側である。

H58：1～3は覆土からの出土である。4・6・7は床面からの出土である。5はHP-1 覆土4層からの出土である。1は軽石製石製品。北海道式石冠の模造品の可能性もあるが、浮子を思わせる形状でもある。2は頁岩製つまみ付きナイフ。横長で装着部の幅が広い。3は緑色泥岩製の石斧を転用したたたき石である。両端にたたき痕がある。刃部は折損後潰されている。4・5は北海道式石冠である。叩打調整が全面におよび、持ち手を形成する。4は安山岩製で機能部は平滑になるまで使いこまれている。5は閃緑岩製で、被熱により割れている。6・7は頁岩製スクレイバーである。刃部は浅い調整で、潰れている

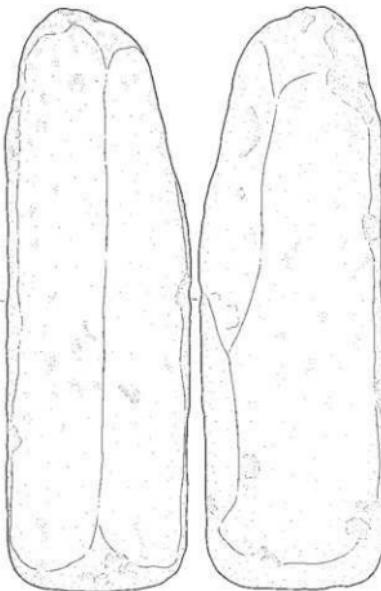
H54



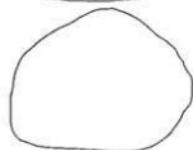
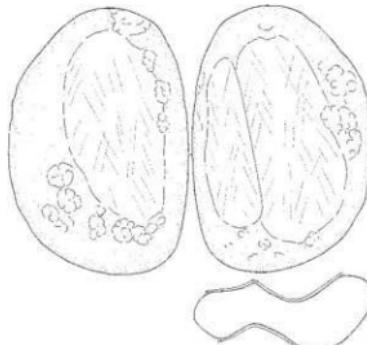
H54 1

0 10cm
1/3

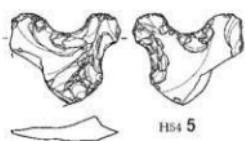
H54 2



H54 4

0 10cm
1/3

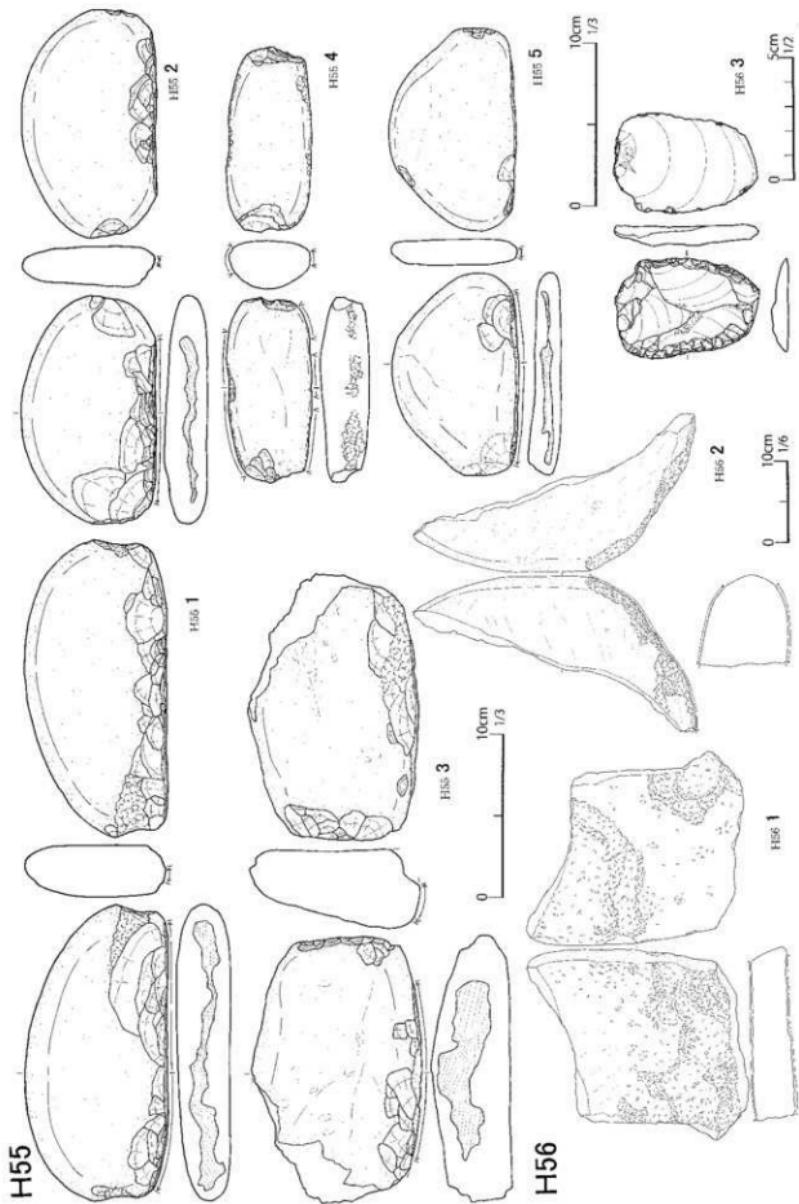
H54 3

0 10cm
1/6

H54 5

0 5cm
1/2

図III-3-31 遺構出土石器 H54(1~5)



図III-3-32 遺構出土石器 H55(1~5)・H56(1~3)

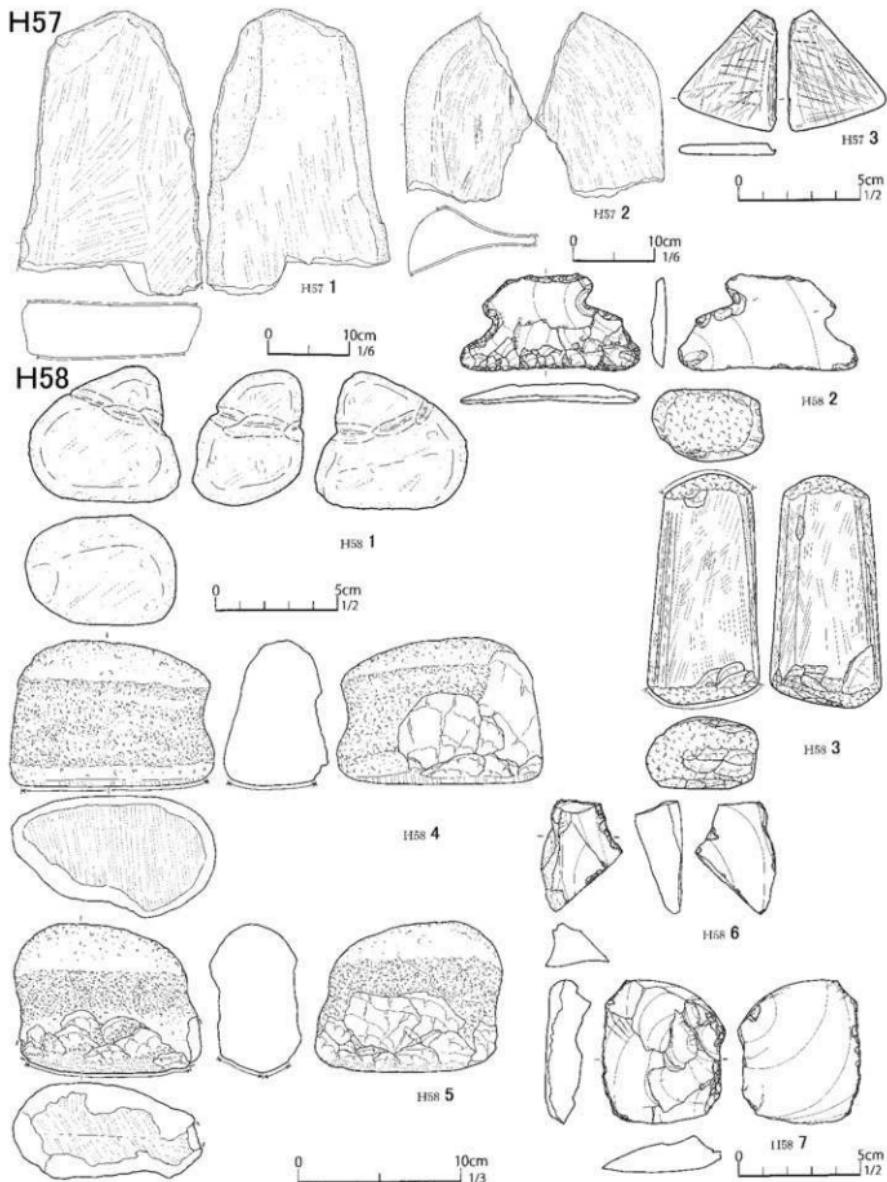
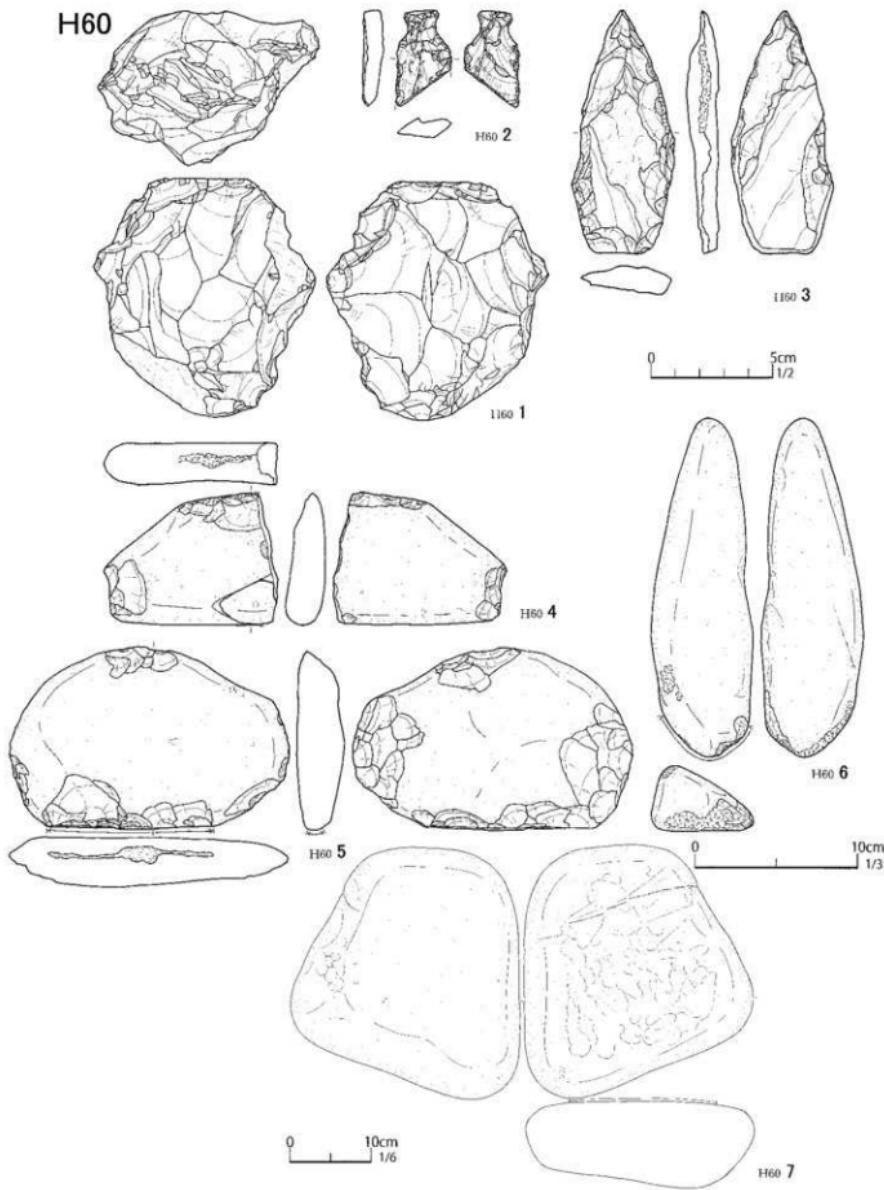


図 III-3-33 遺構出土石器 H57(1~3)・H58(1~7)



図III-3-34 遺構出土石器 H60(1~7)

H60：1・5・6は周溝からの出土、2・3は覆土からの出土、4は中央砂部分、7は床面からの出土である。1は頁岩の石核。二回ほど打面の転移が見受けられる。2は黒曜石製のつまみ付きナイフ。刃部の調整は浅く細かい。3は片岩製の石槍又はナイフである。平基無茎。両面に打ち欠きによる調整がある。4・5は扁平打製石器。4は流紋岩製で残存する側縁と上端に潰れ痕ができるほどの両面調整。下面に機能部を想定したが削面と連続する剥離がある。未使用と考える。5は流紋岩製。両側縁と上端に両面からの調整。6は砂岩のたたき石。長い蝶の下端に潰れ痕がある。7は砂岩の台石である。叩打痕がある。

H62：1・2・4は覆土からの出土である。3は床面からの出土である。5はHP-4覆土からの出土である。

1は頁岩製の異形石器。翼形の張り出しが作出される。2は片岩製の石槍又はナイフ。凹基無茎で打ち欠き調整が両面に及ぶ。3は頁岩の石核である。打面を一か所持つ。4は黒曜石製のつまみ付きナイフである。刃部は微妙な潰れ痕があるのみで不明瞭である。

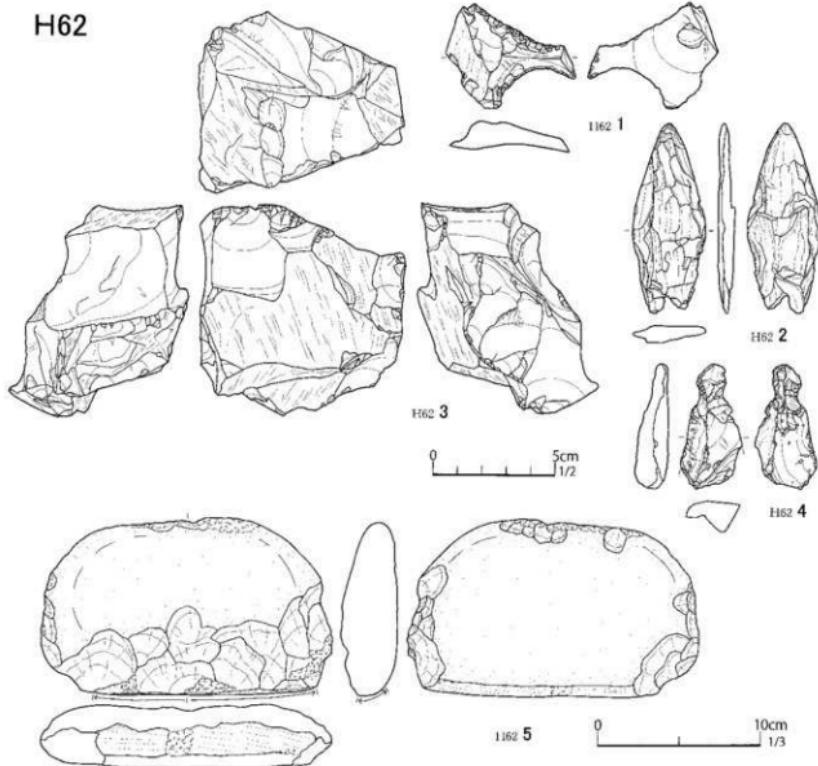
H63：1は床面からの出土で、安山岩製の石皿である。北海道式石冠によるものか、溝状の擦り面が両面全面に及ぶ。一か所両面からの溝底面が重なっている部分が、貫通して孔となっている。

H64：1～3は床面からの出土である。4はHP-5覆土1層からの出土である。1・2は頁岩製スクレイパーである。1は一側縁に明瞭な片面調整の刃部を持つ。2は端部が搔器となっている。3は頁岩の石核である。4は安山岩で、両側縁と底面の調整痕と全体的な形状から北海道式石冠の未成品と考える。

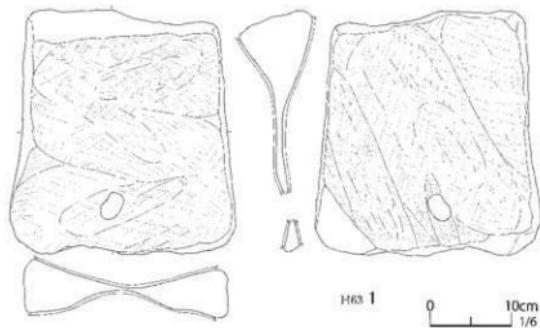
H65：1は床面からの出土で、砂岩製扁平打製石器である。両側縁と頂部に両面調整の成形がある。

H66：1～5は床面からの出土である。1～3は頁岩製のスレイパーである。1は片側縁に両面調整の刃部を持つ。2・3は両側縁に片面調整の刃部を持つ。1・2は刃部を持つ面について調整が全面に及ぶ。4は安山岩の台石である。片面に顕著な擦痕がある。5は砂岩の台石である。叩打痕がある。

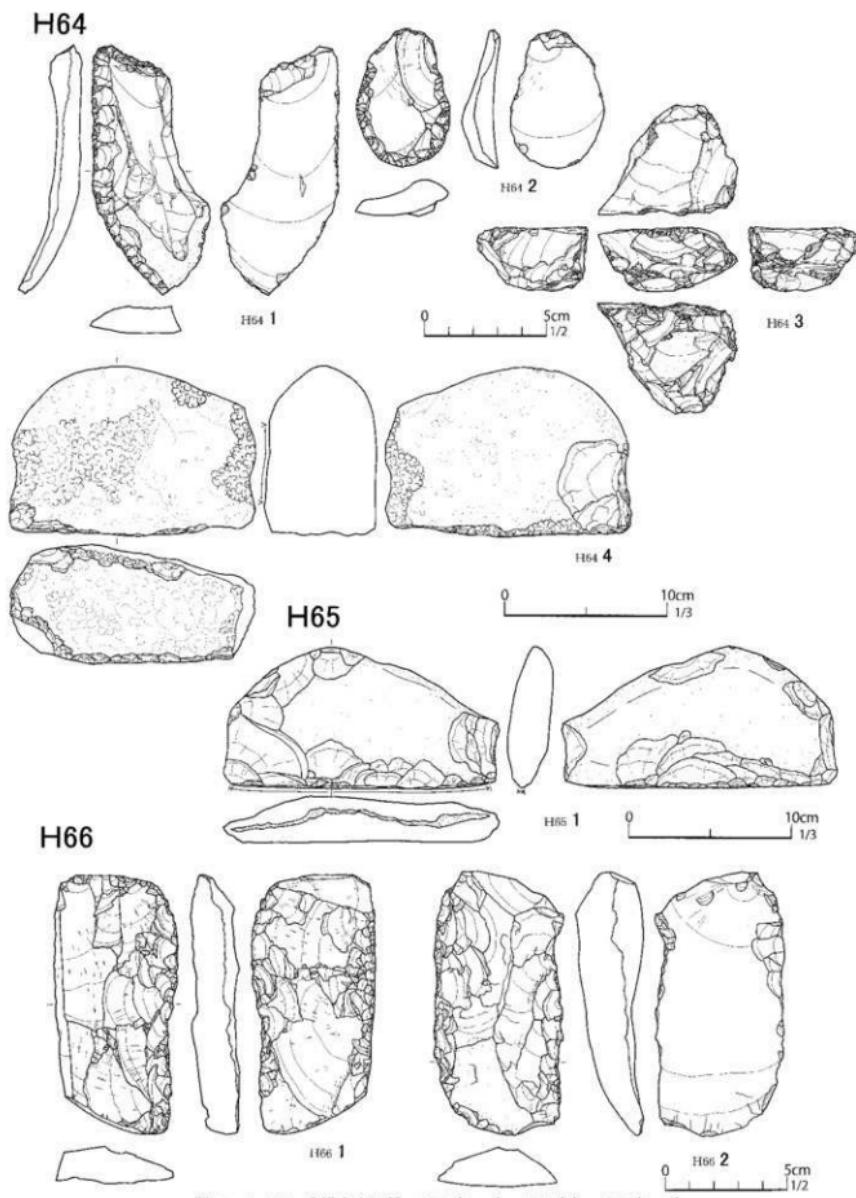
H67：1～8・10・11は床面からの出土である。9はHF-1覆土1層からの出土である。1は頁岩製の石鋸である。石槍又はナイフの片側側縁に石鋸特有の擦り面を持つ。2・3は頁岩製スクレイパーである。いずれも短いながら両面調整の刃部を持つ。4は頁岩製つまみ付きナイフである。両側縁に刃部を持つが片側の剥離が長い。5は緑色泥岩製の石斧基部である。打ち欠きと研磨によって成形した痕跡がある。6は顕著な使用痕が表裏面にある安山岩である。どちらの面にも不規則に3条ほど幅広く梢円形の凹みが溝状にある。研磨の際砥石として用いたか、北海道式石冠ないしは扁平打製石器に対応する石皿として用いたものと考える。7・8は砂岩の台石である。叩打痕がある。9は凝灰岩製の線刻蝶である。片面にかすかだが正中線を意識した線の集中がある。10・11は扁平打製石器である。10は安山岩製である。残存する側縁に両面からの打ち欠き成形がある。11は砂岩である。上端に両面からの成形があるが、機能部は片面のみの成形で叩打痕は蝶の下面全面にはおよばず縁辺のみである。



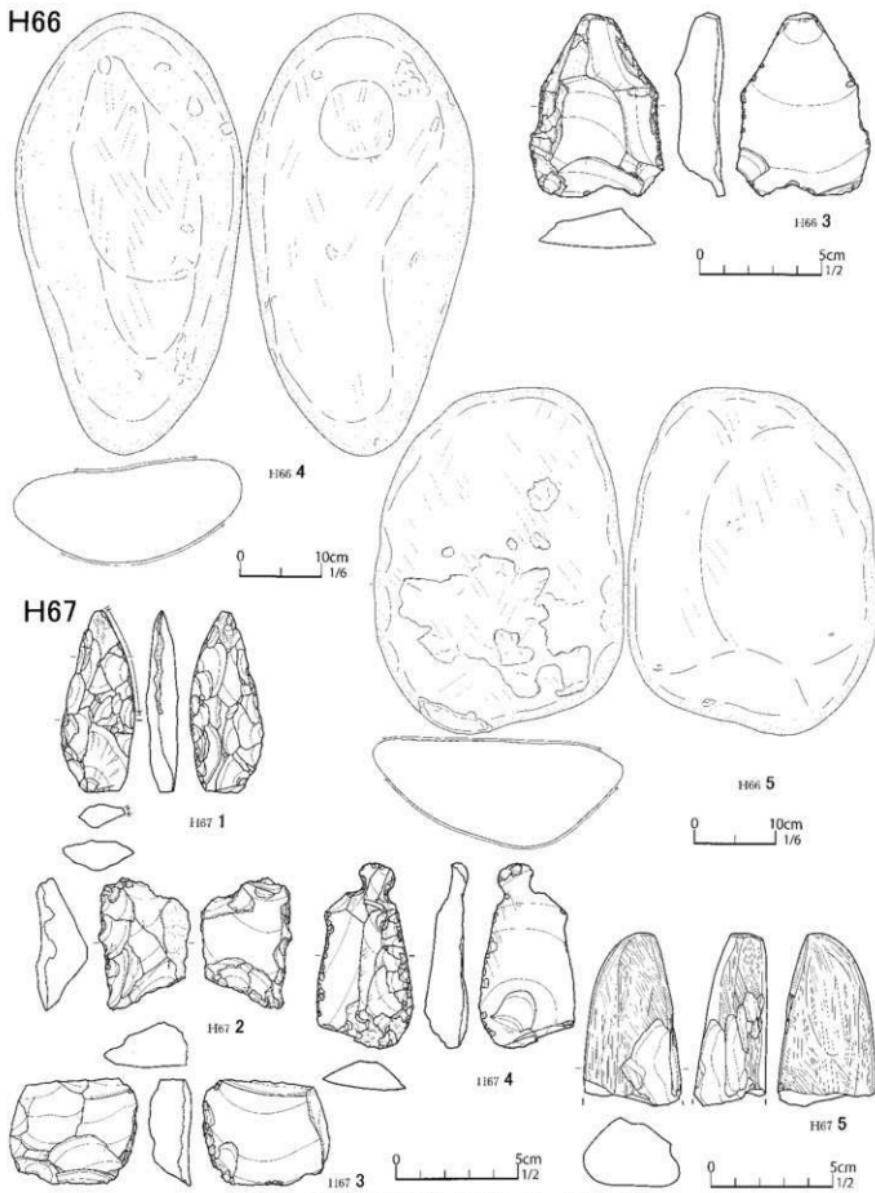
H63



図III-3-35 遺構出土石器 H62(1~5)・H63(1)

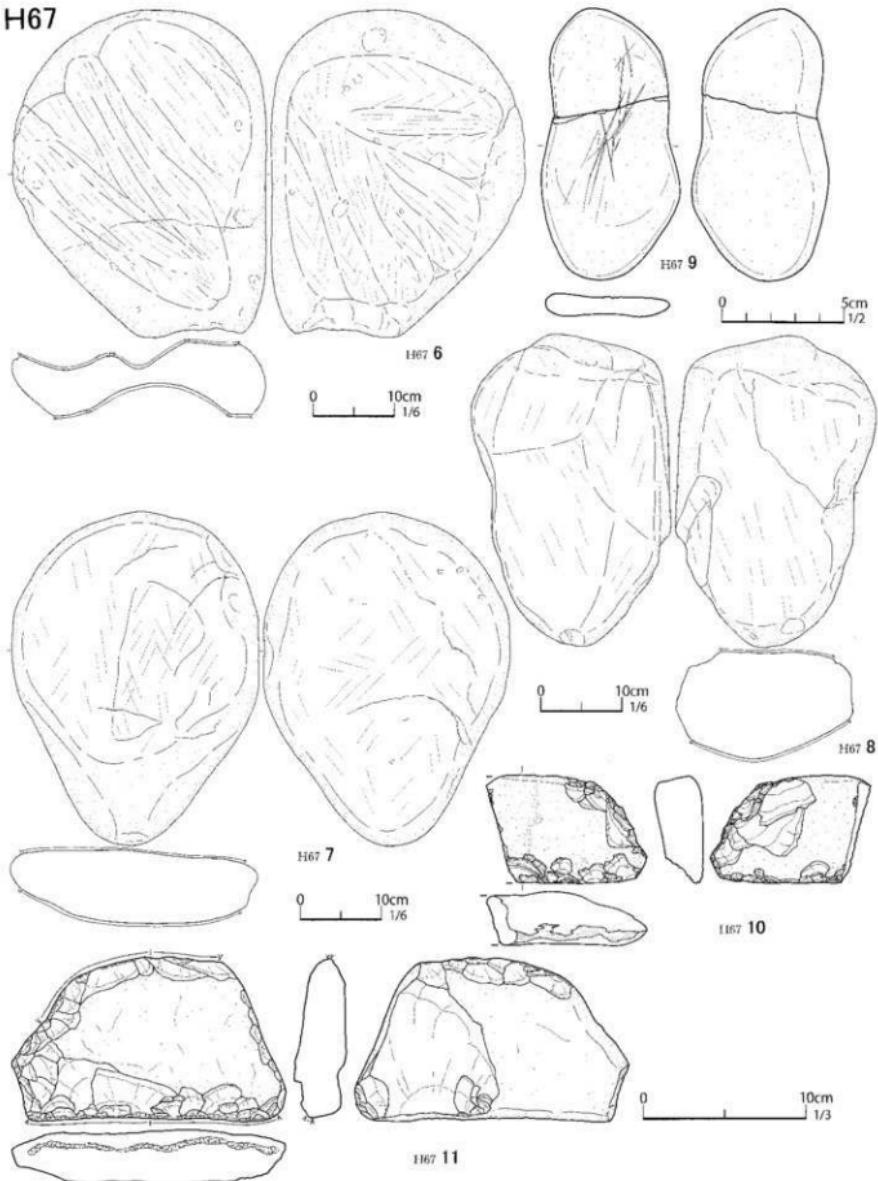


図III-3-36 遺構出土石器 H64(1~4)・H65(1)・H66(1・2)



図III-3-37 遺構出土石器 H66(3~5)・H67(1~5)

H67



図III-3-38 造構出土石器 H67(6~11)

(2) 土坑

P43：1～17はいずれも覆土2層下位出土の、頁岩製石鎌である。1・2が凸基有茎。1はあぐが特に張り出す。ほかは尖基で先端を細長く作り出すものである。8・10・14は菱形に近い。

P51：1～3は覆土から出土した。1は頁岩製ドリルである。石鎌未成品からの転用か、凸基有茎を思わせる。上下端に錐部を持つ。2は緑色泥岩製の石斧である。全面に研磨がおよび片側のしのぎが顕著である。3は頁岩の異形石器である。不整な張り出し部を三か所持つ。

P55：1～4は土坑底面からの出土である。1は緑色泥岩製の石斧である。刃部は片面にしのぎが顯著で偏刃である。2は頁岩製の石槍又はナイフである。凸基有茎で先端はするどく線対称である。3・4は頁岩製つまみ付きナイフである。いずれも両側縁に刃部を持つ。4の剥離は長い。

P56：1～14は覆土出土、15～19は土坑底面からの出土である。1・2は石槍又はナイフである。1は頁岩製、2は片岩製である。1は凹基無茎であり、あぐが非対称である。2は両面に打ち欠きがおよび線対称ではない。3は緑色泥岩製の石斧の刃部である。残存部全面研磨で成形され、刃部は叩打痕で潰れている。4は緑色泥岩の擦り切り残片である。数面に顯著な擦り切り痕跡が残る。5は頁岩の石製品である。全面に研磨がおよび面取りがなされている。6～11・16は扁平打製石器である。11・16が流紋岩で、側縁に打ち欠きによる成形を持つ。他は砂岩で縁辺に打ち欠きによる成形がある。11は機能部が想定できる部分に使用痕が無く未成品である。12・15はたたき石。12は砂岩で、側縁に複数の使用痕がある。15は珪岩で、端部に一か所使用痕がある。13は凝灰岩製の砥石片である。碎片なので石皿の可能性もある。凹んだ皿部の破片である。14は砂岩の砥石である。三面の砥石面を持つ。17は頁岩製のスクレイパーである。円形にめぐる刃部正面觀を持つ。18と19は厚みのある長楕円礫、ないしは短い棒状礫である。いずれも石棒的意味合いを持つ可能性がある。18は安山岩、19は砂岩である。18は正面とした側の中央に叩打痕がある。

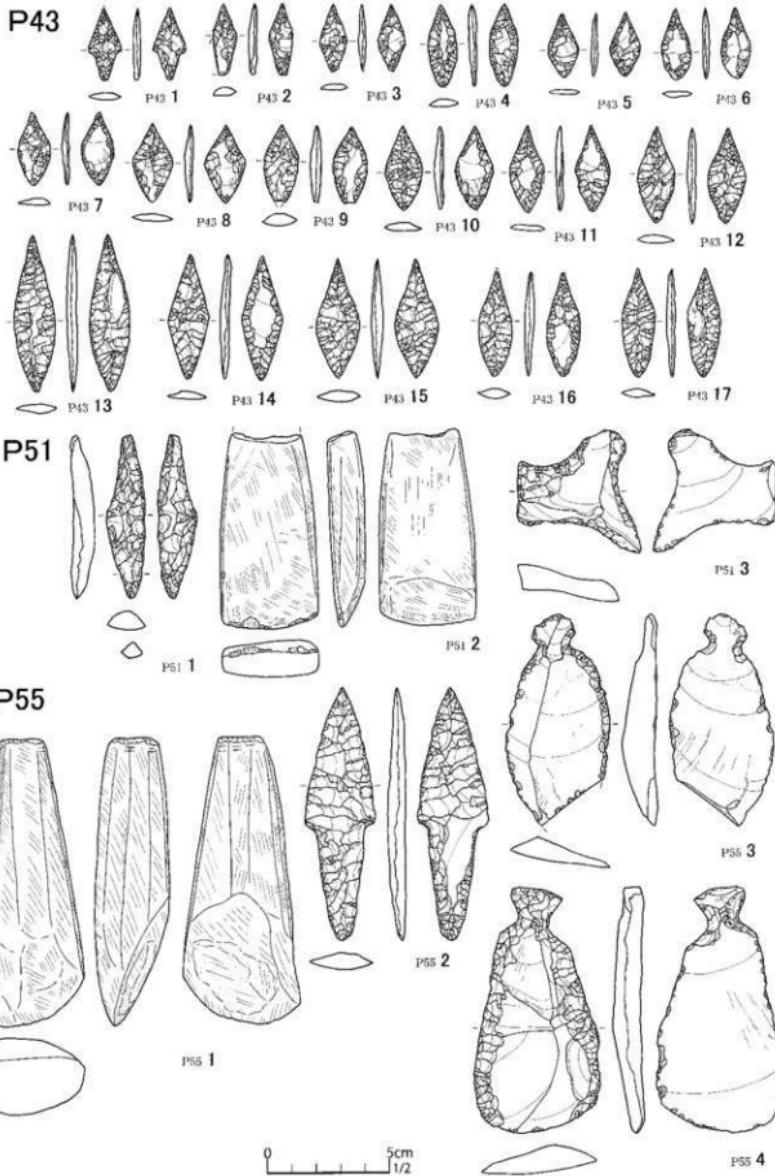
(3) Tピット

Tピットについて、抽出、図化した石器類は無い。

(4) 焼土

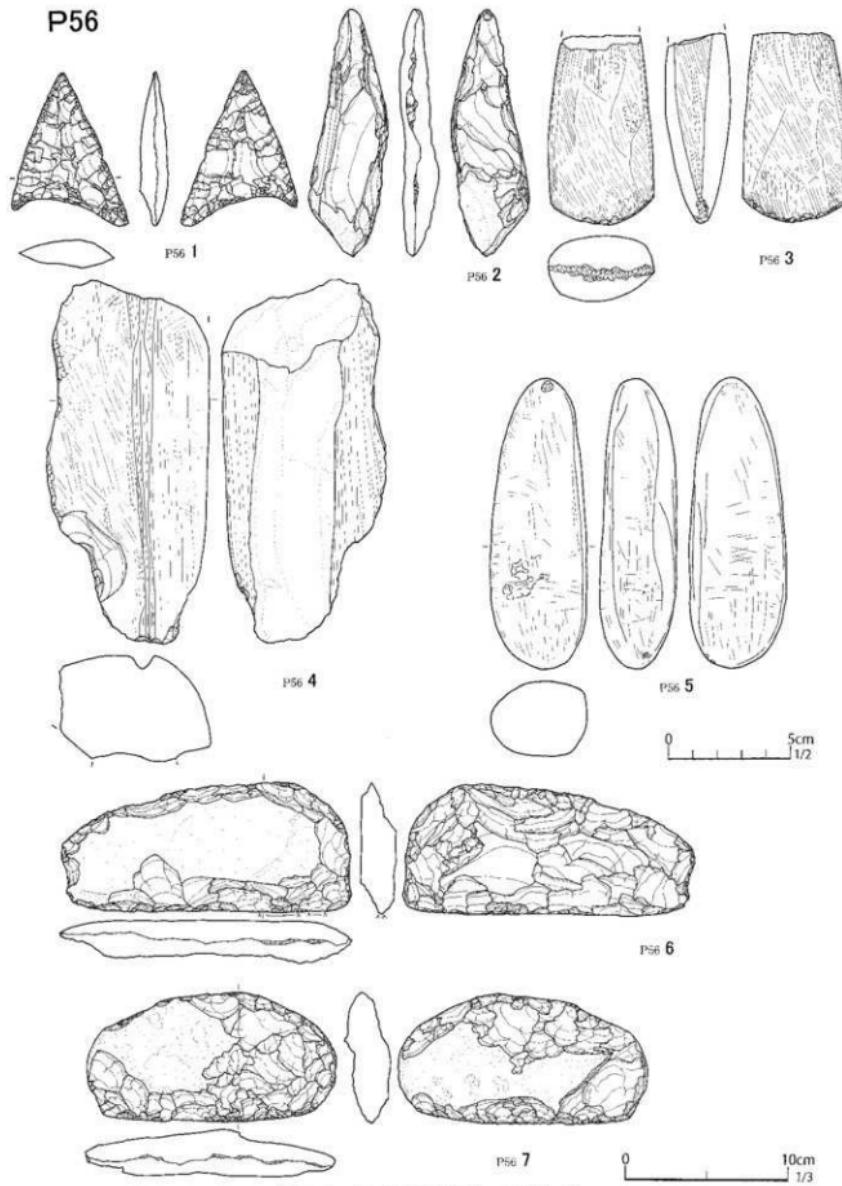
F79：1～3はF79と同一検出面であるH19覆土からの出土である。1は覆土1層、2・3は覆土3層からの出土である。1は安山岩で、底面そして頂部にかけて残る叩打調整と大きさから北海道式石冠の未成品と考える。2は閃綠岩製の北海道式石冠である。全面に叩打調整がおよび、平坦な頂部と溝状の持ち手を有する。3は砂岩のたたき石である。一端が叩打によって潰れる。

F82：1・2は沢1層、3は覆土1層からの出土である。1は流紋岩製の扁平打製石器である。縁辺を両面から成形し、比較的小型である。H57、H58付近から出土しているものと思われる。2は安山岩製の北海道式石冠である。叩打による溝を頂部と持ち手に施す。3は凹み石である表裏対応する一对の凹みを持つ。

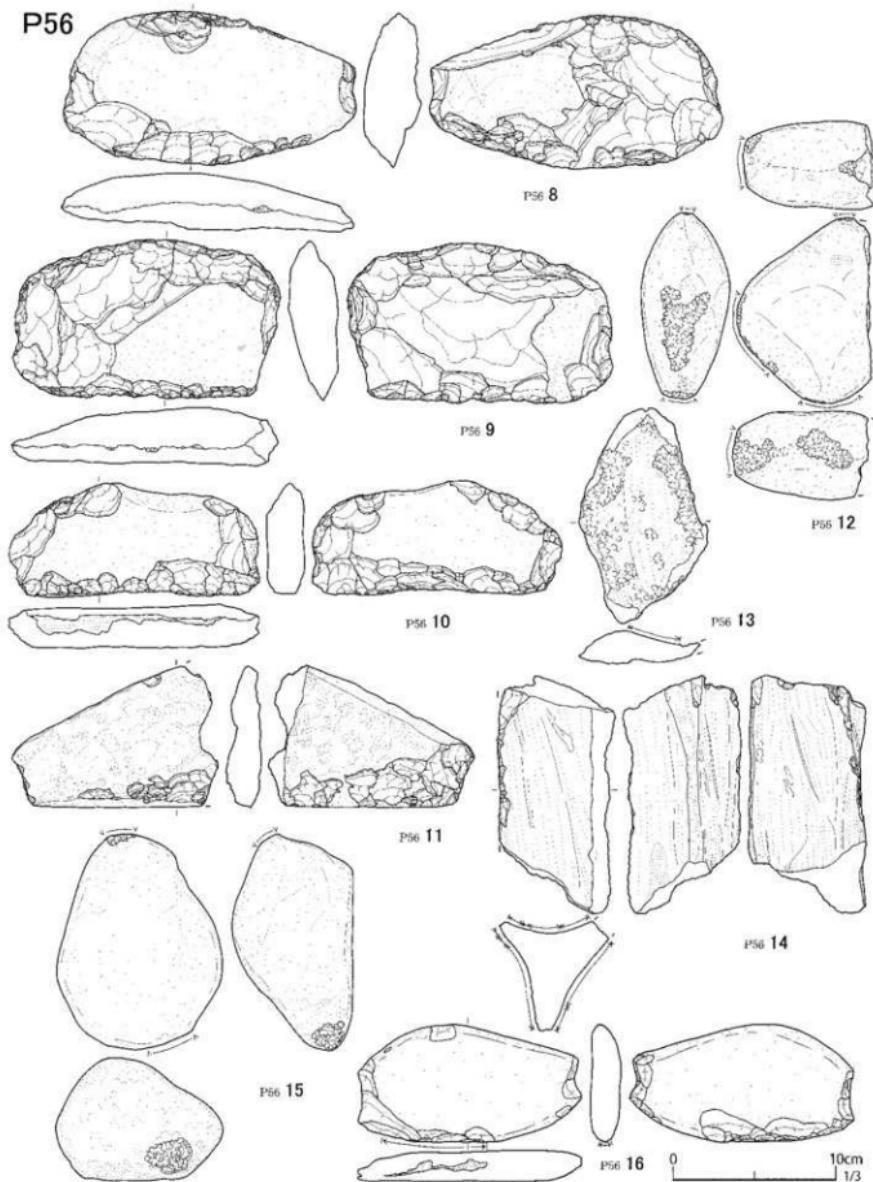


図III-3-39 遺構出土石器 P43(1~17)・P51(1~3)・P55(1~4)

P56



図III-3-40 遺構出土石器 P56(1~7)

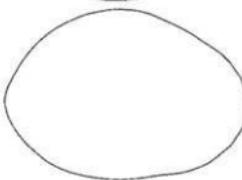


図III-3-41 造構出土石器 P56(8~16)

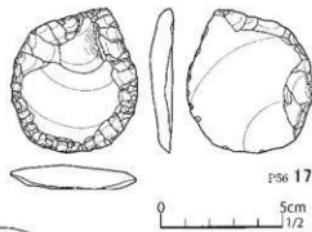
P56



P56 18



P56 19



P56 17

0 5cm
1/2

図III-3-42 遺構出土石器 P56(17~19)

(5) 集石

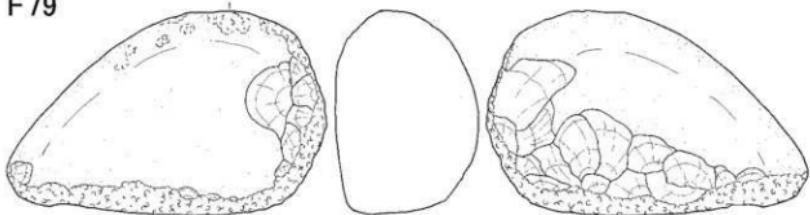
S5：1は覆土1層からの出土で、砂岩の台石である。叩打痕がある。

(6) 遺物集中

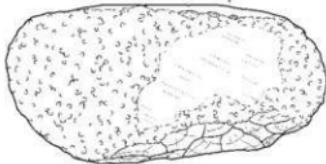
遺物集中について、抽出、図化した石器類は無い。

(大泰司)

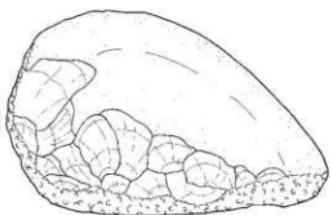
F79



F79 1



F79 1



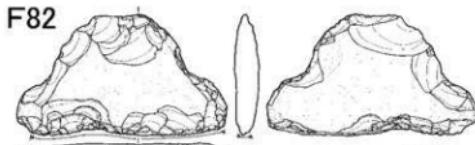
F79 3

0 10cm
1/3

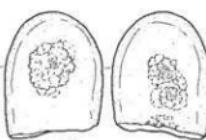
F79 2



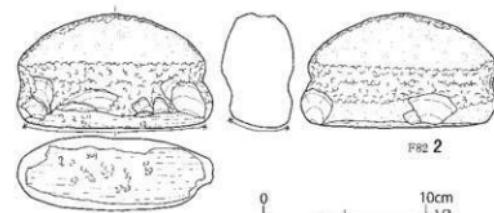
F82



F82 1

F82 3
0 10cm
1/3

S5



F82 2

0 10cm
1/3

ss 1

0 10cm
1/6

図III-3-43 遺構出土石器 F79(1~3)・F82(1~3)・S5(1)

表三-4 遺構出土揭露復元土器一覽

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

4 表

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

4 表

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

4 表

表III-5 遺構出土揭露復元土器接合破片一覧

遺構- 発掘 順番 番号	出土地点	取り 上げ日	接合 部数	第一 個体 部数	合計 部数	区分	備考	遺構- 発掘 順番 番号	出土地点	取り 上げ日	接合 部数	第一 個体 部数	合計 部数	区分	備考
H10-1 367	H10 露土上位 067	805	6	10	10	住居遺構	3670と接合	H0-5 508	H0 露土上位 057(実際は露土)	928	1	6	98	住居遺構	
H10-1 367	H10 露土上位 070	801	4	10	10	住居遺構	508と接合	H0-4 427	H0 露土上位 12(実際は露土)	928	105	7	115	住居遺構	
H10-2 236	H10 露土上位 085	807	19	16	75	住居遺構		H0-4 427	H0 露土上位 11(実際は露土)	928	1	15	15	住居遺構	
H10-4 348	H10 露土上位 096	914	45	45	100	住居遺構		H0-5 431	H0 露土上位 14(実際は露土)	928	2	15	15	住居遺構	
H10-9 499	H10 露土上位 202	928	112	12	125	住居遺構		H0-6 502	H0 露土上位 10(実際は露土)	928	23	10	30	住居遺構	
H20-1 408	H20 露土上位 094	908	55	51	119	住居遺構		H0-6 502	H0 露土上位 11(実際は露土)	928	5	30	30	住居遺構	
H20-1 409	H20 露土上位 208	914	8	119	119	住居遺構		H0-7-1 348	H0 露土上位 36	917	50			住居遺構	
H20-1 409	H20 露土上位 203	911	1	119	119	住居遺構		H0-7-2 358	H0 露土上位 111	911	35			住居遺構	
H20-1 409	H20 露土上位 205	911	4	119	119	住居遺構		H0-7-2 358	H0 露土上位 140	907	13	4	54	住居遺構	
H20-2 241	H20 露土上位 242	918	76	2	78	住居遺構		H0-7-2 358	H0 露土上位 162	907	1	1	14	住居遺構	
H20-3 381	H20 露土上位 241	913	69	7	122	住居遺構		H0-7-2 358	H0 露土上位 180	912	6			住居遺構	
H20-3 381	H20 露土上位 243	911	2	122	122	住居遺構		H0-7-2 358	H0 露土上位 137	912	4			住居遺構	
H20-3 381	H20 露土上位 244	909	34	31	122	住居遺構		H0-8-1 304	H0 露土上位 30	929	48	2	64	住居遺構	明らかに既存土器の内 下限にて既存土器が共伴した
H20-3 381	H20 露土上位 245	918	78	24	123	住居遺構		H0-8-1 304	H0 露土上位 30	928	9			住居遺構	
H20-3 381	H20 露土上位 246	915	12		123	住居遺構		H0-8-1 304	H0 露土上位 30	916	4			住居遺構	
H20-4 163	H20 露土上位 132	918	19		123	住居遺構		H0-8-1 304	H0 露土上位 30	929	1			住居遺構	
H20-1 130	H20 露土上位 059	911	51	11	62	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 4	916	65	2	67	住居遺構	
H20-1 130	H20 露土上位 060	911	54	3	60	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 1	916	72			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 069	911	22	1	80	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 134	916	69			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 073	911	22	1	80	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 139	916	11			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 074	911	26		26	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 151	916	15	10	21	住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 075	911	55		57	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 151	917	2			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 076	911	2		57	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 158	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 077	911	2		57	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 246	917	4			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 078	911	11		57	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 250	916	66			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 079	911	118	9	124	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 30	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 080	915	165	99	263	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 32	916	41	14	212	住居遺構	1枚の内筒下部に式部 標記が付いた。
H20-1 116	H20 露土上位 081	915	165	99	263	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 35	916	40	8	48	住居遺構	1枚の内筒下部に式部 標記が付いた。
H20-1 116	H20 露土上位 082	911	107	8	127	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 34	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 083	911	8		127	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 39	916	11			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 084	911	55		127	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 111	916	15	10	21	住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 085	911	2		127	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 112	916	47	74	125	住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 086	911	118	9	124	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 128	916	41	14	212	住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 087	915	165	99	263	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 130	916	40	8	48	住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 088	911	107	8	127	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 134	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 089	911	8		127	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 139	916	11			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 090	915	52	10	87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 146	917	2			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 091	900	2		87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 150	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 092	900	2		87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 152	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 093	900	4	1	87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 153	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 094	905	4	1	87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 157	916	3			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 095	900	1		87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 160	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 096	911	15		87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 163	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 097	911	4		87	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 166	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 098	915	125	3	128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 168	916	2			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 099	911	7		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 170	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 100	915	3		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 171	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 101	915	3		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 172	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 102	911	3		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 173	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 103	911	2		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 174	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 104	915	3		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 175	916	3			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 105	911	15		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 176	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 106	911	4		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 177	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 107	911	89		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 178	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 108	911	69	39	128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 179	916	1			住居遺構	
H20-1 116	H20 露土上位 109	901	42	4	128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 180	916	15			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 110	915	2		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	40			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 111	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	14	4	30	住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 112	921	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 113	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 114	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 115	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 116	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 117	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 118	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 119	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 120	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 121	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 122	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 123	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 124	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 125	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 126	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 127	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 128	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 129	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 130	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 131	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 132	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 133	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 134	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 135	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 136	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 137	903	1		128	住居遺構		H0-8-2 27	H0 露土上位 186	916	1			住居遺構	
H20-3 372	H20 露土上位 138	903													

4 表

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

4 表

造様名-番号	復元番号	出土地点	取上げ日	復合	同一 個体か 判別	合計 頭数	区分	備考	造様名-番号	復元番号	出土地点	取上げ日	復合	同一 個体か 判別	合計 頭数	区分	備考
H68-20	447	H68土上位34PH16 -植土跡等	1028	1	21	住居土 -植土跡等			F92-20	247	F92R1層46T1	1102	26	26	壤土		
H68-20	447	H68土上位34Q10 -植土跡等	1028	2	7	21	住居土 -植土跡等		F92-21	344	F92R1層58T05	1014	13	18	壤土		
H68-21	13	H68土上位33Q127 -植土跡等	1023	44	61	住居土 -植土跡等			F92-21	345	F92R1層46T2	1102	7	3	0	壤土	
H68-21	13	H68土上位33Q166 -植土跡等	1024	2	61	住居土 -植土跡等			F92-22	366	F92R1層45T5	1102	36	16	55	壤土	
H68-21	13	H68土上位33Q168 -植土跡等	1023	1	61	住居土 -植土跡等			F92-24	201	F92R1層103	1102	29	1	30	壤土	
H68-21	13	H68土上位33Q169 -植土跡等	1008	9	61	住居土 -植土跡等			F92-25	202	F92R1層106	1102	29	29	壤土		
H68-21	13	H68Q6	1008	1	61	住居土 -植土跡等			F92-26	351	河原 45T61	1031	4			河地形	
H68-21	13	H68Q7	1109	4	61	住居土 -植土跡等			F92-26	351	F92土上1層8	1102	1			壤土	
H68-22	452	H68土上位33Q6 -植土跡等	1027	1	7	7	壤土	-植土跡等	F92-26	351	F92土上2層8	1102	3			壤土	
H68-23	260	H68土上位14-植土跡②	1022	25	9	34	住居土 -植土跡等		F92-26	351	F92土上2層38	1102	1			河地形	
H68-3	287	AM-6 61Q2 (H68土46と接合)	1023	71	38	164	壤土		F92-26	351	河原 45M62	1031	3			河地形	
H68-3	287	AM-6 61Q12	1026	2	164	壤土											
H68-3	287	AM-3 61Q13	1021	2	2	164	壤土										
H68-3	287	AM-6 61Q20	1022	17	18	164	壤土										
H68-3	287	H68土49	1026	13	1	164	住居土										
H67-1	519	H68底66	1106	33	4	55	住居底面										
H67-1	519	H68底80	1104	14	25	50	住居底面										
H67-1	519	H68底101(壁±67)	1106	19	21	50	住居底面										
H65-1	164	M2-2 63R28	902	8	2	37	壤土										
P45-1	164	M2-2 63R32	902	5		37	壤土										
P45-1	164	M2-2 63R33	831	1		37	壤土										
P45-1	164	M2-2 63R21	831	13		37	壤土										
P45-1	164	M2 63Q5	817	3		37	壤土										
P45-1	164	M1 62Q11	806	1		37	壤土										
P45-1	164	M7 63S10	804	1		37	壤土										
P45-1	164	P46土2	904	1		37	壤土										
P54-1	5	P54底1	1108	127		130	土状底面 土器										
P54-1	5	P54底3	1104	6		130	土状底面										
P55-1	340	PS1底面6	1029	71	9	95	土状底面										
P55-1	340	PS1底面7	1028	4	1	95	土状底面										
P56-1	371	PS1底面9	1031	92	56	160	土状底面										
P56-1	371	PS1底面10	1031	7		160	土状底面										
P56-1	371	PS1底面14	1031	5		160	土状底面										
T91-2	442	TP1(底±1)	1028	10	3	25	TP1(底±1)										
T91-2	443	TP1(底±4)	1023	5	1	25	TP1(底±4)										
T93-1	443	H68土上位(P7)	1022	4	2	25	住居底面										
T95-1	269	Ⅲ埋1 79R(F65底面)	809	37	18	98	埋乱										
T95-1	269	Ⅲ埋2 79R(F65底面)	809	7	3	98	埋乱										
T95-1	269	Ⅲ埋2 79R2	819	2	16	98	埋乱										
T95-1	269	Ⅲ埋1 79R1	819	1	16	98	埋乱										
T95-2	313	Ⅲ埋1 79Q1(F65底面)	824	23	3	98	埋乱 土器 入り込み。										
F92-1	230	F92土上位17	1102	2		10	壤土										
F92-1	230	91±45T61	1031	8		10	河地形										
F92-2	352	F92土上位11	1102	25	11	36	壤土										
F92-3	350	F92土上位17	1102	10	1	23	壤土										
F92-3	350	F92土上位17	1102	2		23	壤土										
F92-3	350	F92土上位17	1102	1	1	23	壤土										
F92-3	350	F92土上位17	1102	1		23	壤土										
F92-3	350	F92土上位17	1031	4	3	23	河地形										
F92-3	350	F92土上位17	1031	1		23	河地形										
F92-3	350	F92土上位17	1031	4		18	壤土										
F92-3	350	F92土上位17	1031	8		18	河地形										
F92-3	358	F92土上位36	1032	13		12	壤土										
F92-4	336	F92土上位17	1102	4		4	壤土										
F92-5	346	F92土上位20	1102	5		6	壤土										
F92-5	346	F92土上位17	1102	1		6	壤土										
F92-6	337	F92土上位17	1102	2		2	壤土										
F92-7	339	F92土上位36	1102	3		3	壤土										
F92-8	332	F92土上位36	1102	8		12	壤土										
F92-8	332	91±45T61	1031	7		12	河地形										
F92-9	335	F92土上位36	1102	1		4	壤土										
F92-10	335	F92土上位17	1102	2	1	4	壤土										

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

表III-6 遗址出土揭截土器破片拓影化一覽

4 / 6

固有番号	遺構番号	埋蔵位置番号	型式名称	拓本整理番号	分類(算と類等)	層位	接合点数	同一個体か(未接合)	合計点数	区分	特徴
国三-2-16	H24-2	7	大安在右式	H24-10	IIb	H24-2土層142	4	5	19	住居遺土	白色小石を含む、内面3カ所を調査、L記録文編成、北端と東側によって加厚、南側上、北側間に削割れ。
国三-2-16	H24-2	10	大安在左式	H24-10	IIb	H24-2土層134	2	4	5	住居遺土	H24-2土層134
国三-2-16	H24-2	11	大安在左式	H24-10	IIb	H24-2土層176	4		4	住居遺土	H24-2土層176
国三-2-16	H24-8	8	円錐下層d式	H24-2	IIb	H24-8土層98	9		10	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む、内面3カ所を調査、地盤は砂質で、縫隙充填を確認、良好な土成形。
国三-2-16	H24-8	9	円錐下層d式	H24-3	IIb	H24-8土層148	1		1	住居遺土	H24-8土層148
国三-2-16	H24-10	10	円錐下層d式-下層c式	H24-11	IIb	H24-10土層98	1		1	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む、内面3カ所を調査、地盤は砂質で、縫隙充填を確認、良好な土成形。
国三-2-16	H24-10	11	円錐下層d式	H24-1	IIb	H24-10土層98	2		3	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む、内面3カ所を調査、地盤は砂質で、縫隙充填を確認、良好な土成形。
国三-2-17	H25-2	2	円錐下層c式	H25-1	IIb	H25-2土層86	5		6	住居遺土	口徑30cm、縫隙・海綿骨針合む。内部3カ所を調査、底部削れ、内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、底盤は砂質で、縫隙充填を確認、良好な土成形。
国三-2-17	H25-2	3	円錐下層c式	H25-2	IIb	H25-2土層88	3		3	住居遺土	H25-2土層88
国三-2-17	H25-4	4	円錐下層c式	H25-3	IIb	H25-4土層89	2		2	住居遺土	H25-4土層89
国三-2-17	H25-5	5	タイプ式	H25-6	IIb	H25-5土層85	1		1	住居遺土	H25-5土層85
国三-2-17	H25-6	6	円錐下層c式	H25-4	IIb	H25-6土層88	21	6	27	住居遺土	H25-6土層88
国三-2-17	H25-7	7	円錐下層b式-下層c式	H25-5	IIb	H25-7土層87	2		2	住居遺土	H25-7土層87
国三-2-17	H25-8	8	円錐下層d式	H25-6	IIb	H25HP2土層111	2		2	付属遺構遺土	口徑15cm、縫隙・海綿骨針合む、内面3カ所を調査、地盤は砂質で、縫隙充填を確認、良好な土成形。
国三-2-17	H25-9	9	円錐下層d式又はかぶ群a形土層	H25-8	IIb	H25HP2土層28	1		1	石室HP2土層28	石室HP2土層28
国三-2-17	H25-10	10	円錐下層d式	H27-1	IIb	H25-10土層1	1		1	住居遺土	H25-10土層1
国三-2-21	H27-3	3	円錐上層c式	H27-5	IIIa	H27-3土層111	1		1	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む、内面3カ所を調査、地盤は砂質で、縫隙充填を確認、良好な土成形。
国三-2-21	H27-4	4	円錐下層d式最古(cに近い)	H27-2	IIb	H27-4土層111	3		3	住居遺土	H27-4土層111
国三-2-21	H27-5	5	透視點土塊	H27-6	IIb	H27-5土層161	1		1	住居遺土	H27-5土層161
国三-2-21	H27-6	6	円錐下層b式新規層	H27-3	IIb	H27-6土層160	23		23	住居遺土	H27-6土層160
国三-2-21	H27-7	7	円錐下層c式	H27-4	IIb	H27-7土層111	5		5	住居遺土	H27-7土層111
国三-2-21	H27-8	8	円錐下層d式	H27-1	IIb	H27-8土層163	5		5	住居遺土	H27-8土層163
国三-2-22	H28-3	3	透視點土塊	H28-7	IIb	H28-3土層139	1		1	住居遺土	H28-3土層139
国三-2-22	H28-4	4	円錐下層c式	H28-9	IIb	H28-4土層40	17		17	住居遺土	H28-4土層40
国三-2-22	H28-5	5	円錐下層d式	H28-4	IIb	H28-5土層164	2		2	住居遺土	H28-5土層164
国三-2-22	H28-6	6	円錐下層b式新規層	H27-3	IIb	H28-6土層129	13	1	19	住居遺土	H28-6土層129
国三-2-22	H28-7	7	円錐下層c式	H28-6	IIb	H28-7土層139	5		5	住居遺土	H28-7土層139
国三-2-22	H28-8	8	円錐下層d式	H28-7	IIb	H28-8土層130	8	1	13	住居遺土	H28-8土層130
国三-2-22	H28-9	9	円錐下層b式新規層	H28-5	IIb	H28-9土層130	4		4	住居遺土	H28-9土層130
国三-2-22	H28-10	10	円錐下層d式b式	H28-8	IIb	H28-10土層201	18		18	住居遺土	底盤は12cm、縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H28-11	11	円錐下層c式	H28-10	IIb	H28-11土層137	1		1	住居遺土	H28-11土層137
国三-2-22	H28-12	12	円錐下層d式b式	H28-11	IIb	H28-12土層181	1		1	住居遺土	H28-12土層181
国三-2-22	H28-13	13	円錐下層d式b式	H28-12	IIb	H28-13土層129	1		1	住居遺土	H28-13土層129
国三-2-22	H28-14	14	円錐下層d式古規層 新	H29-4	IIb	H28-14土層129	24	11	38	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-10	15	円錐下層d式	H29-20	IIb	H29-10土層32	15	1	16	住居遺土	H29-10土層32
国三-2-22	H29-16	16	円錐下層d式	H29-2	IIb	H29-16土層17	3	3	6	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-17	17	円錐下層d式古規層 新	H29-3	IIb	H29-17土層129	12		12	住居遺土	H29-17土層129
国三-2-22	H29-18	18	円錐下層d式	H29-19	IIb	H29-18土層32	9	3	12	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-19	19	円錐下層d式	MT3 63S7D絆削部	I	H29-19土層129	1		2	遺土	口徑15cm、縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-20	20	円錐下層d式	H29-8	IIb	H29-20土層32	15	1	16	住居遺土	H29-20土層32
国三-2-22	H29-21	21	円錐下層d式	H29-1	IIb	H29-21土層17	3		3	住居遺土	H29-21土層17
国三-2-22	H29-22	22	円錐下層d式	H29-11	IIb	H29-22土層288	1		1	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-23	23	円錐下層d式	H29-13	IIb	H29-23土層135	10	9	19	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-24	24	円錐下層d式	H29-10	IIb	H29-24土層284	3		3	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-25	25	円錐下層d式	H29-11	IIb	H29-25土層16	2		5	住居遺土	H29-25土層16
国三-2-22	H29-26	26	円錐下層d式	H29-10	IIb	H29-26土層17	3		5	住居遺土	H29-26土層17
国三-2-22	H29-27	27	円錐下層d式古規層 吉	H29-1	IIb	H29-27土層280	17	1	18	住居遺土	縫隙・海綿骨針合む。内面3カ所を調査、縫隙充填を確認、内面3カ所を調査、L記録文編成。
国三-2-22	H29-28	28	円錐下層d式古規層 吉	H29-6	IIb	H29-28土層337	1		1	住居遺土	H29-28土層337

4 表

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

固査番号	追査番号	埋設番号	型式名称	桿本登録番号	分類 (算と規 格)	部位	接合 点数	同一 個体か (未接合)	合計 点数	区分	特徴
国Ⅲ-2-49	H39	47	円筒下層c式	H39-14	II b	H39層土上位24	6	1	32	住居層土	口径22cm、織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ、口縫縫、網眼方角、直筋丸反折のLRL網、縫締によつて口縫部を区切る。区面内には直筋反折のLRL網を回転、縫走させる。幅22cm。
						H39層土下位166	1			住居層土	
						H39層土上位150	1			住居層土	
						H29層土上位19	1			住居層土	
						H39層土上位15	1			住居層土	
						H39層土上位118	1			住居層土	
						H39層土上位161	2			住居層土	
						N2-6273	2			住居層土	
						H39層土上位108	11			住居層土	
						H39層土上位22	2			住居層土	
						H39層土上位152	4			住居層土	
						H39層土上位201	1			住居層土	
国Ⅲ-2-51	H39	54	円筒下層d式	H39-16	II b	H39層土上位152	8	11		住居層土	直径10cm、織縫・合む。海綿骨針少含む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成。
						H39層土下位41	3			住居層土	側壁上部。
国Ⅲ-2-52	H39	57	円筒下層c式	H39-25	II b	H39層土下位30	26	2	28	住居層土	口径40cm、織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅26cm。
国Ⅲ-2-52	H39	58	円筒下層c式	H39-18	II b	H39層土下位366	1	1	1	住居層土	口径40cm、織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅26cm。
国Ⅲ-2-52	H39	59	円筒下層c式	H39-20	II b	H39層土下位156	3	3	3	住居層土	口径40cm、織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅26cm。
国Ⅲ-2-52	H39	60	円筒下層c式鳥古 (e式に近い)	H39-19	II b	H39層土氣側261	1	1	1	住居層土	口径17cm、織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅17cm。
国Ⅲ-2-52	H39	61	円筒下層c式	H39-17	II b	H39層土氣側261	1	1	1	住居層土	口径17cm、織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅17cm。
国Ⅲ-2-52	H39	62	円筒下層c式	H39-21	II b	H39層土上位18	1	4	4	住居層土	口径17cm、織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅17cm。
						H39層土上位338	2			住居層土	
						H39層土下位366	1			住居層土	
国Ⅲ-2-53	H40	1	円筒下層b式	H40-1	II b	H40層土1766	1	3	3	住居層土	織縫・合む。馬蹄鉄針合む。内面少含む。内面ニガリ。
国Ⅲ-2-53	H40	2	円筒下層b式	H40-2	II b	H40層土77	2		2	住居層土	織縫・合む。
国Ⅲ-2-55	H41	8	円筒下層b式2	H41-4	II b	H41レンチ70	5	5	5	住居層土	織縫・合む。馬蹄鉄針合む。内面少含む。内面ニガリ。
国Ⅲ-2-55	H41	9	円筒下層b式新規形	H41-6	II b	H41層土下位146	10	9	87	住居層土	織縫・合む。馬蹄鉄針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走させる。幅14cm。
						H41ベルト土下位46	2	60		住居層土	5cm。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転、縫走する。
国Ⅲ-2-55	H41	10	円筒下層b式2	H41-3	II b	H41レンチ70	1	2	3	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走する。
国Ⅲ-2-55	H41	11	円筒下層b式2	H41-2	II b	H41レンチ70	25	2	27	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走する。
国Ⅲ-2-55	H41	12	円筒下層b式2	H41-1	II b	H41レンチ70	23	23	23	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走する。
国Ⅲ-2-55	H41	13	東側斜面b式	H41-5	II b	H41西レンチ71	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走する。
国Ⅲ-2-56	H42	1	円筒下層b式2	H42-1	II b	H42層土15	9	15	25	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面少含む。内面ニガリ。口縫縫方向、網眼方角、直筋丸反折のLRL網を回転、縫走する。
						H42層土4-7	1			住居層土	
						H42層土15	5	23	47	住居層土	
						H42層土2-1	1	11	12	住居層土	
						H42層土2-2	2	9	9	住居層土	
						H42層土2-3	7	1	8	住居層土	
						前59V	2			前食槽	
国Ⅲ-2-56	H43	1	円筒下層b式～c式	H43-1	II b	H43層土下位27	3	3	3	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。LRL網又反折。口縫縫にLRL網を回転。
国Ⅲ-2-56	H43	2	円筒下層b式	H43-2	II b	H43層土下位26	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。口縫縫を捲り直す。
国Ⅲ-2-56	H43	3	円筒下層b式2	H43-3	II b	H43層土6	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。再生木板。縫合端内に形成。中央穿孔。
国Ⅲ-2-56	H44	1	円筒下層b式2	H44-1	II b	H44層土25	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。口縫縫を捲り直す。
国Ⅲ-2-56	H44	2	円筒下層b式2	H44-2	II b	H44層土16	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。LRL網又反折。縫合端にLRL網を回転。
国Ⅲ-2-56	H44	3	円筒下層b式2	H44-3	II b	H44層土27	3	21	21	壁土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。LRL網又反折。縫合端にLRL網を回転。
国Ⅲ-2-56	M4-1	2	61T38	M4-2	II b	M4-3 61R27	3			壁土	縫合端にLRL網を回転。縫合端にLRL網を回転。
国Ⅲ-2-57	H46	5	円筒下層b式2	H46-5	II b	H46層土2	3	4	4	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-57	H46	6	円筒下層b式2	H46-6	II b	H46層土下位92	3	2	6	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。口縫縫は直筋縫。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-57	H46	7	円筒下層b式～c式	H46-4	II b	H46層土下位63	1	4	4	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。口縫縫は直筋縫。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
						H46層土下位62	2	1	3	住居層土	
						H46層土下位70	1			住居層土	
国Ⅲ-2-57	H46	8	円筒下層b式	H46-3	II b	H46層土8	6	3	11	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。再生木板。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-57	H46	9	円筒下層b式2	H46-7	II b	H46層土上位30	3	3	3	壁土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H47	1	円筒下層b式	H47-1	II b	H47層土1	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H47	2	円筒下層b式	H47-2	II b	H47層土1	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H47	3	円筒下層b式	H47-3	II b	H47層土1	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H48	2	円筒下層b式	H48-2	II b	H48P層土2-16	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H49	1	円筒下層b式	H49-1	II b	H49層土1层1	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H50	1	円筒下層b式	H50-1	II b	H50層土4	1	1	1	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H51	1	円筒下層c式	H51-2	II b	H51層土西28	8	6	6	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。
国Ⅲ-2-58	H51	2	円筒下層b式～c式	H51-5	II b	H51層土東29	12	19	31	住居層土	織縫・海綿骨針合む。内面ニガリ。地盤はLRL網の单繩縫合体組成回転。

三 遺構の調査と出土遺物

4 表

表Ⅲ-7 造構出土石器一覧

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-1	H18	1	覆土3層	石核	頁岩	4169	5.80	6.80	6.60	260.00
図Ⅲ-3-1	H18	2	覆土2層	石斧未成品	砂岩	2956	19.60	6.90	4.65	750.50
図Ⅲ-3-1	H18	3	覆土49Vトレンチ	石製品	異形石器 頁岩	4459	6.29	5.10	0.52	10.40
図Ⅲ-3-1	H18	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	1155	5.60	7.80	2.00	114.70
図Ⅲ-3-1	H18	5	覆土1層	北海道式石冠	小型 安山岩	1043	7.25	8.00	4.70	398.60
図Ⅲ-3-1	H18	6	覆土3層	扁平打製石器	砂岩	4229	8.90	14.90	3.95	542.70
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	438	5.60	16.60	5.05	538.10
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	407	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	7	覆土1層	石製品	石棒 凝灰岩	408	同上	同上	同上	同上
図Ⅲ-3-2	H18	8	床	石皿片	安山岩	4304	(17.00)	(13.30)	(3.60)	(1340.00)
図Ⅲ-3-2	H18	9	HP-5覆土	扁平打製石器	閃緑岩	4385	7.60	16.30	2.90	597.70
図Ⅲ-3-2	H18	10	床	北海道式石冠	被熱 砂岩	4306	10.90	13.50	5.20	1090.30
図Ⅲ-3-2	H18	11	HP11覆土	たたき石	流紋岩	4418	11.60	7.60	2.60	312.50
図Ⅲ-3-2	H18	12	HP8覆土	たたき石	砂岩	4412	11.80	8.50	4.60	620.70
図Ⅲ-3-3	H18リフア土	1	ホリアゲ土-49V	ドリル	頁岩	167	4.80	1.60	0.60	3.00
図Ⅲ-3-3	H18リフア土	2	ホリアゲ土-52S	ドリル	頁岩	34①	9.80	3.30	1.15	28.90
図Ⅲ-3-3	H18リフア土	3	ホリアゲ土-52S	ドリル	頁岩	34②	8.50	3.84	1.13	31.40
図Ⅲ-3-3	H18リフア土	4	ホリアゲ土	石製品	打ちたきあり 頁岩	100	10.95	2.45	1.25	34.00
図Ⅲ-3-3	H18リフア土	5	ホリアゲ土-53T	石製品	凝灰岩	131	(9.95)	(4.25)	(3.80)	(173.00)
図Ⅲ-3-3	H18リフア土	6	ホリアゲ土-52R	石製品	軽石	19⑤	2.30	3.15	1.33	1.50
図Ⅲ-3-4	H19	1	覆土2層	石鏟	頁岩	346	3.24	1.40	0.32	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	2	覆土2層	石鏟未成品	頁岩	347	3.28	1.23	0.28	1.10
図Ⅲ-3-4	H19	3	覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	398	4.70	6.90	0.98	18.70
図Ⅲ-3-4	H19	4	覆土2層	石鏟	砂岩	370	(8.25)	(10.70)	1.65	(171.00)
図Ⅲ-3-4	H19	5	床面	ドリル	頁岩	146	4.45	2.90	0.50	6.00
図Ⅲ-3-4	H19	6	床面	ドリル	頁岩	94	3.20	1.50	0.30	1.40
図Ⅲ-3-4	H19	7	周溝覆土1層	つまみ付きナイフ	頁岩	182	5.55	3.20	0.80	11.70
図Ⅲ-3-4	H19	8	床面	スクレイパー	頁岩	96	4.80	4.20	1.10	15.60
図Ⅲ-3-4	H19	9	床面	スクレイパー	頁岩	92	8.50	6.20	1.55	43.70
図Ⅲ-3-4	H19	10	床面	スクレイパー	頁岩	84	10.90	4.70	2.40	120.80
図Ⅲ-3-4	H19	11	床面	スクレイパー	頁岩	93	5.50	6.30	1.35	35.30
図Ⅲ-3-4	H19	12	HP15覆土1層	スクレイパー	頁岩	143	13.30	6.40	2.40	179.70
図Ⅲ-3-4	H19	13	床面	両面調整石器	頁岩	26	8.70	8.00	2.40	165.80
図Ⅲ-3-5	H19	14	床面	北海道式石冠	安山岩	67	(11.60)	(9.50)	7.80	1041.90
図Ⅲ-3-5	H19	15	床面	北海道式石冠片	閃緑岩	16	(5.90)	(4.60)	(5.50)	(116.80)
図Ⅲ-3-5	H19	16	HP18覆土1層	石鏟	砂岩	240	7.40	9.35	1.55	139.30
図Ⅲ-3-5	H19	17	床面	たたき石	砂岩	66	12.50	6.50	3.95	527.90
図Ⅲ-3-5	H19	18	床面	たたき石	緑色泥岩	18	10.90	5.63	1.15	101.00
図Ⅲ-3-5	H20	1	床面	つまみ付きナイフ	頁岩	11	8.50	2.20	1.10	16.40
図Ⅲ-3-5	H20	2	床面	扁平打製石器	本州の北海道式石冠 砂岩	4	8.90	13.45	5.10	951.00
図Ⅲ-3-5	H20	3	床面	石皿	安山岩	12	16.80	29.50	8.60	4200.00
図Ⅲ-2-5	8-1-2B-2011-18-8II	床上	英土屋屋-1号H0017へ	I群b類器 中茶路式	446②	6.10	6.55	0.67	30.50	

図版番号	遺構番号	場所番号	部位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-6	H21	1	覆土	石錐	凝灰岩	276	4.21	7.55	0.85	28.10
図Ⅲ-3-6	H21	2	覆土西側	石製品	異形石器 貝岩	68	3.40	5.30	1.00	15.70
図Ⅲ-3-6	H21	3	覆土東側下位	石製品	軽石	113⑤	4.00	4.85	2.20	7.40
図Ⅲ-3-6	H21	4	床面	スクレイバーパー	貝岩	1	(6.20)	2.50	0.65	6.80
図Ⅲ-3-6	H21	5	HP-11覆土	台石	砂岩	327	34.10	26.00	16.70	17500.00
図Ⅲ-3-6	H21	6	床面	砾石	砂質凝灰岩	11	(7.70)	(5.50)	1.35	66.20
図Ⅲ-3-6	H21	7	床面	石皿	安山岩	27	34.80	(27.40)	7.50	6000.00
図Ⅲ-3-7	H23	1	覆土	石製品	安山岩	61	7.10	11.80	5.00	586.90
図Ⅲ-3-7	H23	2	覆土	石錐	貝岩	97	3.84	1.39	0.35	1.40
図Ⅲ-3-7	H23	3	覆土	両面調整石器	貝岩	76	9.80	5.35	2.15	72.20
図Ⅲ-3-7	H23	4	覆土	たたき石	凹み石 安山岩	176	11.60	5.60	5.30	388.70
図Ⅲ-3-7	H23	5	覆土	石製品	棒状錐 安山岩	213	23.50	6.50	4.65	861.10
図Ⅲ-3-7	H23	6	床面	両面調整石器	貝岩	20	(6.60)	3.40	1.70	38.60
図Ⅲ-3-7	H23	7	床面	スクレイバーパー	貝岩	39	(6.90)	3.80	1.45	30.50
図Ⅲ-3-7	H23	8	床面	スクレイバーパー	貝岩	44	(6.00)	2.60	1.70	19.70
図Ⅲ-3-7	H23	9	床面	扁平打製石器	砂岩	51	9.30	(15.30)	4.00	850.60
図Ⅲ-3-7	H23	10	床面	石錐	安山岩	30	3.90	13.00	0.95	74.60
図Ⅲ-3-8	H24	1	床面	ドリル	貝岩	82	4.65	3.05	0.70	10.80
図Ⅲ-3-8	H24	2	床面	スクレイバーパー	貝岩	65	(5.30)	2.60	0.70	12.20
図Ⅲ-3-8	H24	3	床面	スクレイバーパー	貝岩	17	7.40	4.60	1.15	37.70
図Ⅲ-3-8	H24	4	覆土2層	石製品	凝灰岩	126	(8.10)	(5.60)	(2.35)	(109.90)
図Ⅲ-3-8	H25	1	覆土2層	石斧未成品	緑色泥岩	140	7.05	5.50	3.10	144.00
図Ⅲ-3-8	H25	2	覆土2層	石斧未成品	緑色泥岩	111	10.10	7.20	5.20	402.40
図Ⅲ-3-8	H25	3	覆土1層	石製品	凝灰岩	75	10.50	4.60	2.60	110.90
図Ⅲ-3-8	H25	4	覆土2層	北海道式石刃未成品	安山岩	138	10.40	9.60	6.60	1005.00
図Ⅲ-3-9	H25	5	床面	石椎又はナイフ	貝岩	24	(6.10)	5.10	1.60	34.10
図Ⅲ-3-9	H25	6	床面	スクレイバーパー	貝岩	9	8.45	4.90	1.85	55.20
図Ⅲ-3-9	H25	7	床面	石皿	砂岩	21	19.80	13.80	4.10	1320.00
図Ⅲ-3-9	H26	1	床面	石錐	貝岩	47	2.80	1.40	0.40	1.00
図Ⅲ-3-9	H26	2	床面	つまみ付きナイフ	貝岩	55	7.55	4.70	1.30	29.60
図Ⅲ-3-9	H26	3	HP-16覆土1層	石核	貝岩	68	8.60	8.50	3.70	266.00
図Ⅲ-3-9	H26	4	床面	石斧	緑色泥岩	50	8.00	4.70	1.65	93.50
図Ⅲ-3-9	H26	5	床面	石斧	緑色泥岩	21	8.60	4.80	2.85	191.60
図Ⅲ-3-10	H26	6	床面	扁平打製石器未成品	安山岩	43	7.30	11.20	2.20	205.70
図Ⅲ-3-10	H26	7	床面	扁平打製石器	安山岩	31	7.00	(8.65)	2.70	215.20
図Ⅲ-3-10	H26	8	HP-4覆土1層	たたき石	砂岩	69	8.40	7.00	5.60	389.00
図Ⅲ-3-10	H26	9	床面	石皿	安山岩	13	45.90	27.80	8.60	19500.00
図Ⅲ-3-10	H27	1	覆土2層	たたき石	凹み石 安山岩	156	8.30	7.80	4.95	395.80
図Ⅲ-3-10	H27	2	床面	石椎又はナイフ	貝岩	9	10.00	3.40	1.00	27.80
図Ⅲ-3-10	H27	3	周溝覆土1層	スクレイバーパー	貝岩	39	(5.10)	(4.60)	(0.80)	15.10
図Ⅲ-3-10	H27	4	床面	石斧	緑色泥岩	32	(11.90)	(5.10)	(3.00)	314.70
図Ⅲ-3-10	H27	5	HP-1覆土1層	扁平打製石器	砂岩	47	(9.00)	(9.70)	3.20	458.20
図Ⅲ-3-11	H27	6	床面	扁平打製石器	砂岩	6	15.70	19.90	5.30	2090.00

図版番号	遺構番号	揭露番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-11	H27	7	床面	扁平打製石器	安山岩	5	8.00	13.80	3.90	675.00
図Ⅲ-3-11	H27	8	床面	台石	砂岩	21	(27.00)	(25.20)	5.40	3298.00
図Ⅲ-3-11	H28	1	覆土2層	石核	頁岩	123	17.50	5.85	5.55	613.40
図Ⅲ-3-11	H28	2	覆土1層	石製品	块状耳飾 滑石	170	2.90	2.60	0.50	5.70
図Ⅲ-3-12	H28	3	覆土3層	石製品	鈍石	187	11.10	13.50	6.70	260.50
図Ⅲ-3-12	H28	4	覆土2層	石製品	鈍石	153	7.90	8.40	5.60	90.70
図Ⅲ-3-12	H28	5	覆土2層	石製品	鈍石	141①	2.90	3.90	1.20	3.70
図Ⅲ-3-12	H28	6	覆土2層	石製品	鈍石	141②	1.60	1.87	0.50	0.40
図Ⅲ-3-12	H28	7	覆土3層	たたき石	凹み石 安山岩	158	7.20	5.90	4.50	219.90
図Ⅲ-3-12	H28	8	床面	石鏃	頁岩	111	2.70	1.05	0.40	0.70
図Ⅲ-3-12	H28	9	床面	つまみ付きナイフ+ドリル	頁岩	91	8.70	2.05	1.00	11.80
図Ⅲ-3-12	H28	10	床面	両面調整石器	頁岩	84	9.55	6.50	3.50	196.80
図Ⅲ-3-12	H28	11	床面	石製品	異形石器 頁岩	66	6.40	6.50	1.20	22.10
図Ⅲ-3-13	H28	12	周溝覆土1層	北斎式石刃未成品	砂岩	34	9.70	15.30	5.50	1240.00
図Ⅲ-3-13	H28	13	周溝覆土1層	扁平打製石器	砂岩	26	11.40	17.40	4.10	885.00
図Ⅲ-3-13	H28	14	床面	たたき石	砂岩	75	12.00	8.30	5.40	566.20
図Ⅲ-3-13	H28	15	HP6覆土1層	台石	砂岩	106	26.40	26.00	10.50	10500.00
図Ⅲ-3-14	H29	1	覆土上位	石鏃	頁岩	152	4.30	1.55	0.40	2.20
図Ⅲ-3-14	H29	2	覆土下位	石鏃	頁岩	161	4.15	1.60	0.45	2.40
図Ⅲ-3-14	H29	3	覆土北側	石槍又はナイフ	頁岩	253	10.15	3.90	1.85	66.50
図Ⅲ-3-14	H29	4	覆土	つまみ付きナイフ	線対称 頁岩	297	6.45	3.05	0.85	15.20
図Ⅲ-3-14	H29	5	覆土上位	つまみ付きナイフ	線対称 頁岩	148	7.50	3.40	1.25	26.50
図Ⅲ-3-14	H29	6	覆土	石斧	両端渕れる 緑色泥岩	299	7.90	3.70	3.20	158.20
図Ⅲ-3-14	H29	7	覆土南端	石製品	理凝灰岩	117	4.70	5.50	0.65	22.10
図Ⅲ-3-14	H29	8	覆土北トレチ	石製品	鈍石	186	9.00	4.30	4.00	134.40
図Ⅲ-3-14	H29	9	床面	石鏃	安山岩	37	(10.75)	(10.60)	(2.65)	(353.80)
図Ⅲ-3-14	H29	10	床面	扁平打製石器	閃綠岩	40	8.30	16.55	3.45	800.70
図Ⅲ-3-14	H29	11	床面	扁平打製石器	閃綠岩	46	6.40	13.00	2.30	306.10
図Ⅲ-3-15	H29	12	HP-29覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	385	9.95	2.50	0.80	20.80
図Ⅲ-3-15	H29	13	HP-21覆土	たたき石	砂岩	375	14.70	8.25	2.70	480.20
図Ⅲ-3-15	H29	14	床面	たたき石	砂岩	55	10.80	8.70	4.65	585.00
図Ⅲ-3-15	H29	15	床面	台石	凝灰岩	49	41.70	34.50	5.20	5500.00
図Ⅲ-3-15	H29	16	床面	石皿	輝石安山岩	50	(30.80)	30.90	14.00	16000.00
図Ⅲ-3-16	H30	1	床面	スクレイバー	頁岩	33	3.50	3.50	0.85	9.20
図Ⅲ-3-16	H30	2	床面	扁平打製石器	安山岩	28と29	8.00	16.80	3.70	548.50
図Ⅲ-3-16	H30	3	床面	扁平打製石器	砂岩	1	8.15	13.90	2.95	458.40
図Ⅲ-3-16	H30	4	床面	たたき石	砂岩	27	(11.40)	7.20	6.00	680.10
図Ⅲ-3-16	H30	5	床面	たたき石	砂岩	35	(13.10)	6.70	4.40	442.70
図Ⅲ-3-16	H30	6	床面	たたき石	砂岩	36と37	14.90	8.90	3.30	591.50
図Ⅲ-3-16	H30	7	床面	台石	砂岩	19	40.10	25.00	12.20	21000.00
図Ⅲ-3-16	H30	8	床面	台石	安山岩	25	39.90	34.20	10.80	22000.00
図Ⅲ-3-17	H31	1	覆土1層	両面調整石器	頁岩	92	14.10	4.60	2.40	139.90
図Ⅲ-3-17	H31	2	覆土1層	たたき石	頁岩	45	14.70	4.90	5.15	470.30

4 表

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
図Ⅲ-3-17	H31	3	床面	スクレイバー	頁岩	26	7.10	3.90	1.30	19.00	
図Ⅲ-3-17	H31	4	床面	石槍又はナイフ	片岩	5	11.90	3.40	0.75	41.00	
図Ⅲ-3-17	H31	5	周溝覆土1層	石核	頁岩	38	7.50	15.10	7.80	703.20	
図Ⅲ-3-18	H31	6	周溝覆土1層	扁平打製石器	閃綠岩	37	9.30	15.40	3.10	706.70	
図Ⅲ-3-18	H31	7	周溝覆土1層	北海道式石冠未成品	安山岩	39	11.60	20.40	7.35	2155.00	
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砾石	砂岩	4	(18.75)	(11.10)	4.20	920.00	
図Ⅲ-3-18	H31	8	床面	砾石	砂岩	31	同上	同上	同上	同上	
図Ⅲ-3-18	H31	9	床面	たたき石	砂岩	7	(17.90)	(12.00)	6.00	1450.00	
図Ⅲ-3-18	H31	10	床面	たたき石	砂岩	32	11.70	9.20	5.70	733.80	
図Ⅲ-3-18	H32	1	床面	扁平打製石器片	安山岩	4	(6.20)	(9.45)	1.20	90.40	
図Ⅲ-3-19	H33	1	床面	スクレイバー	頁岩	49	5.80	2.30	0.90	8.80	
図Ⅲ-3-19	H33	2	床面	スクレイバー	頁岩	48	5.50	4.50	0.80	19.50	
図Ⅲ-3-19	H33	3	床面	石斧	緑色泥岩	7	(5.50)	(4.40)	(1.10)	(47.90)	
図Ⅲ-3-19	H33	4	覆土1層	石斧	緑色泥岩	53	9.00	5.30	3.10	253.70	
図Ⅲ-3-19	H33	5	床面	たたき石	メノウ	12	9.00	8.10	4.10	481.70	
図Ⅲ-3-19	H33	6	床面	たたき石	砂岩	17	11.10	5.80	3.20	274.00	
図Ⅲ-3-19	H33	7	床面	砾石	砂岩	20	(18.20)	(18.20)	(5.20)	1710.00	
図Ⅲ-3-20	H34	1	覆土4層	石鎚	頁岩	20	2.70	1.20	0.40	0.90	
図Ⅲ-3-20	H34	2	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67②	8.10	3.40	1.50	41.10	
図Ⅲ-3-20	H34	3	覆土東側	両面調整石器	頁岩	67①	10.70	4.00	1.50	63.00	
図Ⅲ-3-20	H34	4	覆土4層	スクレイバー	頁岩	12	(5.40)	5.40	1.10	27.10	
図Ⅲ-3-20	H34	5	覆土西侧	扁平打製石器	北海道式石冠的	安山岩	78	9.50	15.40	4.85	780.90
図Ⅲ-3-20	H34	6	覆土4層	たたき石	砂岩	9	13.80	8.00	3.60	561.10	
図Ⅲ-3-20	H35	1	覆土1層下位	石皿	安山岩	25	36.00	21.70	7.60	5500.00	
図Ⅲ-3-20	H35	2	覆土1層下位	石皿	砂岩	24	38.90	22.40	15.60	17500.00	
図Ⅲ-3-21	H35	3	覆土1層下位	台石	安山岩	23	34.80	27.90	11.80	13500.00	
図Ⅲ-3-21	H36	1	覆土西側	石槍又はナイフ	頁岩	111	8.50	2.70	0.80	16.50	
図Ⅲ-3-21	H36	2	覆土東側	石斧片	油ぬって燒	緑色泥岩	40	(7.70)	2.95	2.30	80.70
図Ⅲ-3-21	H36	3	覆土4層	石皿	安山岩	15	30.00	29.40	10.50	8000.00	
図Ⅲ-3-21	H37	1	覆土1層	ドリル	石錐転用	頁岩	131	5.75	1.60	0.60	4.80
図Ⅲ-3-21	H37	2	覆土2層	砾石	砂岩	141	12.90	8.70	1.90	130.00	
図Ⅲ-3-21	H37	3	覆土2層	たたき石	凹み石	頁岩	143	11.25	5.30	2.95	207.90
図Ⅲ-3-21	H37	4	周溝覆土1層	石鎚	頁岩	114②	1.90	1.20	0.40	0.80	
図Ⅲ-3-21	H37	5	床面	ドリル	頁岩	76	7.50	3.50	1.70	31.50	
図Ⅲ-3-21	H37	6	床面	スクレイバー	頁岩	119	5.95	4.00	1.20	23.40	
図Ⅲ-3-22	H37	7	周溝覆土1層	スクレイバー	振器	頁岩	118	6.70	5.75	1.55	67.50
図Ⅲ-3-22	H37	8	床面	両面調整石器	頁岩	25	9.05	4.50	1.90	78.10	
図Ⅲ-3-22	H37	9	床面	両面調整石器	頁岩	44	10.80	5.80	2.40	115.90	
図Ⅲ-3-22	H37	10	覆土2層	扁平打製石器	安山岩	142	7.00	8.00	2.90	219.20	
図Ⅲ-3-22	H37	11	床面	扁平打製石器	凝灰岩	62	6.70	14.40	3.00	289.80	
図Ⅲ-3-22	H37	12	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	117	8.90	8.15	5.85	555.10	
図Ⅲ-3-22	H37	13	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	115	10.30	7.70	5.25	496.00	
図Ⅲ-3-22	H37	14	周溝覆土1層	たたき石	砂岩	121	6.50	5.50	6.10	313.10	

図版番号	遺構番号	場所番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-22	H38	1	床面	北海道式石冠	閃綠岩	16	10.90	(14.40)	7.50	1729.00
図Ⅲ-3-23	H38	2	床面	石蹴	頁岩	19②	(2.50)	1.65	0.30	1.10
図Ⅲ-3-23	H38	3	覆土南北トレーナー	ドリル	つまみ付き 頁岩	109	7.80	1.90	0.80	9.40
図Ⅲ-3-23	H38	4	覆土最下位	石のこ	砂岩	140	12.60	18.90	5.70	1230.00
図Ⅲ-3-23	H38	5	覆土上位	石皿	安山岩	2	(22.20)	(19.80)	10.10	4900.00
図Ⅲ-3-23	H39	1	床面	石蹴未成品	頁岩	43	3.13	1.90	0.40	2.00
図Ⅲ-3-23	H39	2	覆土下部	石蹴	頁岩	393	(1.12)	1.76	0.48	2.70
図Ⅲ-3-23	H39	3	覆土東側	石蹴	頁岩	90	2.90	1.40	0.40	1.50
図Ⅲ-3-23	H39	4	覆土東西トレーナー西側	石蹴	頁岩	413	4.90	1.25	5.50	3.00
図Ⅲ-3-23	H39	5	覆土上部ベルト	つまみ付きナイフ片	黒曜石	249	(1.60)	(1.10)	(0.37)	(0.60)
図Ⅲ-3-23	H39	6	覆土南側	ドリル	頁岩	345	5.75	0.90	0.30	2.20
図Ⅲ-3-23	H39	7	覆土壁際	石核又はナイフ	片岩	291	13.10	3.80	1.00	55.40
図Ⅲ-3-23	H39	8	覆土東側	石核又はナイフ	頁岩 無茎	241	6.90	3.60	1.30	16.60
図Ⅲ-3-23	H39	9	ベルト覆土下位	両面調整石器	打製斧頭 頁岩	147	15.00	4.90	3.10	229.80
図Ⅲ-3-23	H39	10	覆土南側	スクレイパー	頁岩	344③	7.40	3.20	2.30	44.70
図Ⅲ-3-23	H39	11	覆土南側	スクレイバー	頁岩	344⑤	4.90	3.85	1.15	28.30
図Ⅲ-3-23	H39	12	覆土南側	スクレイバー	頁岩	344⑥	(4.40)	3.20	1.10	11.70
図Ⅲ-3-24	H39	13	覆土南側	スクレイバー	頁岩	344①	8.80	3.90	2.05	50.80
図Ⅲ-3-24	H39	14	覆土南側	スクレイバー	頁岩	344②	8.40	4.70	1.30	41.10
図Ⅲ-3-24	H39	15	覆土南側	スクレイバー	頁岩	344④	7.00	3.10	1.20	21.20
図Ⅲ-3-24	H39	16	覆土南側	石核	頁岩	351	9.80	15.80	15.30	3040.00
図Ⅲ-3-25	H39	17	覆土南北トレーナー北側	スクレイバー	頁岩	224	13.00	6.40	3.30	221.70
図Ⅲ-3-25	H39	18	覆土壁際ベルト	石蹴	扁平打製石器転用 安山岩	386	9.80	14.50	1.65	265.40
図Ⅲ-3-25	H39	19	覆土下位	扁平打製石器	安山岩	307	8.70	15.00	2.00	297.70
図Ⅲ-3-25	H39	20	覆土ベルト下位	扁平打製石器	粘板岩	255	5.85	12.20	1.00	84.30
図Ⅲ-3-25	H40	1	覆土南側	石製品	頁岩	28	3.40	8.05	0.85	10.30
図Ⅲ-3-26	H41	1	覆土西トレーナー	スクレイバー	頁岩	86①	12.20	3.80	1.90	78.60
図Ⅲ-3-26	H41	2	覆土西トレーナー	スクレイバー	頁岩	86②	8.40	3.60	1.05	22.50
図Ⅲ-3-26	H41	3	覆土南側	Rフレイク	つまみ付き石器転用 粘板岩	61	3.60	1.90	0.80	3.50
図Ⅲ-3-26	H41	4	覆土ベルト	石核	頁岩	41①	5.95	7.60	3.60	98.90
図Ⅲ-3-26	H41	5	覆土ベルト	石核	頁岩	41②	7.28	6.57	2.41	75.30
図Ⅲ-3-26	H41	6	床面	両面調整石器	頁岩	1	(11.80)	7.30	4.70	295.50
図Ⅲ-3-26	H41	7	床面	石皿	安山岩	5	16.20	10.20	8.00	2010.00
図Ⅲ-3-27	H43	1	床面	ドリル+つまみ付きナイフ	頁岩	2	9.40	2.20	0.90	18.10
図Ⅲ-3-27	H43	2	床面	スクレイバー	珪岩	20	9.40	3.80	1.85	55.90
図Ⅲ-3-27	H43	3	床面	石核	頁岩	14	4.20	9.70	6.55	186.30
図Ⅲ-3-27	H44	1	床面	石核又はナイフ	頁岩	11	(12.60)	4.60	1.30	90.10
図Ⅲ-3-27	H44	2	床面	石核	頁岩	15②	4.60	8.80	3.50	133.20
図Ⅲ-3-27	H44	3	床面	扁平打製石器	砂岩	18	6.80	16.60	3.40	599.20
図Ⅲ-3-28	H45	1	HF-1覆土2層	石斧	緑色泥岩	20	(8.20)	(4.60)	(2.80)	(166.60)
図Ⅲ-3-28	H45	2	HF-1覆土2層	扁平打製石器	安山岩	21	7.85	10.00	2.80	287.40
図Ⅲ-3-28	H46	1	床面	石核	頁岩	12	10.30	9.70	6.50	794.00
図Ⅲ-3-28	H49	1	覆土1層	石製品	頁岩	6	4.10	5.85	0.92	14.50

図版番号	遺構番号	掲載番号	部位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-28	H51	1	覆土東側	石槍又はナイフ	頁岩	61①	9.15	4.80	1.25	54.60
図Ⅲ-3-28	H51	2	覆土ベルト	石製品	縫刻禮 泥灰岩クサレ	33④	5.50	6.40	1.05	17.30
図Ⅲ-3-28	H51	3	床面	たたき石	砂岩	9	7.10	5.00	3.60	183.90
図Ⅲ-3-28	H51	4	床面	たたき石	砂岩	11	9.80	8.50	6.70	608.40
図Ⅲ-3-29	H51	5	床面	扁平打製石器	砂岩	8	8.80	18.60	3.80	783.60
図Ⅲ-3-29	H51	6	床面	扁平打製石器	泥灰岩	4	7.50	18.00	2.70	494.70
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	16	27.20	29.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	7	床面	石皿	安山岩	17	27.20	29.70	5.10	2020.00
図Ⅲ-3-29	H51	8	床面	台石片	砂岩	7	10.00	12.10	4.30	560.20
図Ⅲ-3-29	H52	1	床面	スクレイバ一	頁岩	44	3.90	4.00	1.10	12.80
図Ⅲ-3-29	H52	2	床面	スクレイバ一	頁岩	19	5.50	3.80	1.45	18.80
図Ⅲ-3-29	H52	3	床面	台石	砂岩	38	36.80	27.00	11.40	17500.00
図Ⅲ-3-30	H52	4	床面	たたき石	砂岩	28	10.75	8.90	6.20	749.40
図Ⅲ-3-30	H52	5	床面	扁平打製石器	閃綠岩	33	6.75	15.10	2.75	407.30
図Ⅲ-3-30	H52	6	床面	扁平打製石器	閃綠岩	37	6.90	16.10	2.90	365.80
図Ⅲ-3-30	H52	7	床面	扁平打製石器	閃綠岩	34	7.70	16.00	3.80	685.40
図Ⅲ-3-30	H52	8	床面	扁平打製石器	砂岩	26	7.20	14.50	3.30	454.40
図Ⅲ-3-30	H53	1	覆土1層	石盤	頁岩	13	2.77	1.22	0.27	0.90
図Ⅲ-3-30	H53	2	覆土2層	石槍又はナイフ片	頁岩	27	(7.10)	(5.45)	(1.05)	(39.70)
図Ⅲ-3-31	H54	1	覆土2層	たたき石	凹み石 安山岩	54	11.95	5.85	4.15	377.30
図Ⅲ-3-31	H54	2	覆土2層	台石	安山岩	42	34.80	28.30	13.00	15000.00
図Ⅲ-3-31	H54	3	覆土2層	石皿	安山岩	21	32.50	22.00	8.10	7500.00
図Ⅲ-3-31	H54	4	床面	碌	石棒的 安山岩	1	35.60	11.40	9.40	5500.00
図Ⅲ-3-31	H54	5	HF-1覆土2層	石製品	異形石器 頁岩	14	(3.75)	(4.55)	1.05	13.70
図Ⅲ-3-32	H55	1	覆土1層	扁平打製石器	閃綠岩	9①	8.75	18.15	3.30	835.70
図Ⅲ-3-32	H55	2	覆土1層	扁平打製石器	閃綠岩	9②	8.25	13.95	2.62	462.80
図Ⅲ-3-32	H55	3	覆土1層	扁平打製石器	安山岩	12①	(10.50)	(16.35)	(4.85)	(1065.00)
図Ⅲ-3-32	H55	4	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12③	5.25	11.30	3.00	233.60
図Ⅲ-3-32	H55	5	覆土1層	扁平打製石器	流紋岩	12②	7.80	12.40	1.85	228.90
図Ⅲ-3-32	H56	1	覆土西側	台石	安山岩	17	26.90	23.40	5.10	3730.00
図Ⅲ-3-32	H56	2	覆土西側	台石片	安山岩	19	(34.50)	(19.20)	(10.90)	5000.00
図Ⅲ-3-32	H56	3	床面	スクレイバ一	頁岩	16	5.90	4.10	0.85	21.80
図Ⅲ-3-33	H57	1	床面	台石	安山岩	9	34.90	22.50	6.50	7880.00
図Ⅲ-3-33	H57	2	床面 HP11	石皿	安山岩	10	(22.90)	(15.60)	6.20	2563.00
図Ⅲ-3-33	H57	3	覆土-85P	石製品	块状耳飾 滑石	39	(4.92)	(4.00)	(0.47)	(12.20)
図Ⅲ-3-33	H58	1	覆土中位-84Q	石製品	北海道式石冠風 絆石	81	5.60	6.20	4.50	45.30
図Ⅲ-3-33	H58	2	覆土-83Q	つまみ付きナイフ	頁岩	130	4.00	7.32	0.78	20.40
図Ⅲ-3-33	H58	3	覆土-83Q	石斧	両端渦れる 緑色泥岩	133	9.45	4.55	2.95	248.50
図Ⅲ-3-33	H58	4	床面	北海道式石冠	安山岩	1	9.00	12.60	7.40	1062.10
図Ⅲ-3-33	H58	5	HP-1覆土4	北海道式石冠	閃綠岩	274	9.20	11.60	5.75	830.10
図Ⅲ-3-33	H58	6	床面	スクレイバ一	頁岩	5②	4.60	3.30	2.00	21.00
図Ⅲ-3-33	H58	7	床面	スクレイバ一	頁岩	5①	5.90	5.10	1.80	46.80
図Ⅲ-3-34	H60	1	周溝	石核	頁岩	18	9.80	9.10	6.30	505.20

図版番号	遺構番号	揭露番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-34	H60	2	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	30	(3.95)	(2.30)	0.80	(6.10)
図Ⅲ-3-34	H60	3	覆土	石槍又はナイフ	片岩	31	9.95	4.20	1.35	47.60
図Ⅲ-3-34	H60	4	中央砂部分	扁平打製石器片	流紋岩	59	(8.10)	(10.65)	(2.50)	(279.40)
図Ⅲ-3-34	H60	5	周溝	扁平打製石器	流紋岩	24	11.25	17.10	3.00	689.40
図Ⅲ-3-34	H60	6	周溝	たたき石	砂岩	14	20.70	6.30	4.00	559.10
図Ⅲ-3-34	H60	7	床面	台石	砂岩	4	30.90	28.10	10.50	13000.00
図Ⅲ-3-35	H62	1	覆土-南北トレンチ	石製品	異形石器 真岩	60	4.30	5.35	1.10	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	2	覆土	石槍又はナイフ	磨製 片岩	51	7.80	3.00	0.69	14.90
図Ⅲ-3-35	H62	3	床面	石核	真岩	26	8.65	8.45	7.20	447.50
図Ⅲ-3-35	H62	4	覆土	つまみ付きナイフ	黒曜石	112	(5.15)	(2.55)	(1.20)	(10.60)
図Ⅲ-3-35	H62	5	HP-4覆土	扁平打製石器	安山岩	103	10.90	17.90	3.85	1015.00
図Ⅲ-3-35	H63	1	床面	石皿	安山岩	33	30.00	27.70	8.60	6500.00
図Ⅲ-3-36	H64	1	床面	スクレイバーバー	真岩	43	10.20	4.80	1.10	55.70
図Ⅲ-3-36	H64	2	床面	スクレイバーバー	種器 真岩	1②	5.65	3.83	1.45	18.80
図Ⅲ-3-36	H64	3	床面	石核	真岩	20	2.60	5.70	4.50	68.20
図Ⅲ-3-36	H64	4	HP-5覆土1層	北南道式石臼未成品	安山岩	75	10.40	15.10	6.90	1380.00
図Ⅲ-3-36	H65	1	床面	扁平打製石器	砂岩	10	8.70	16.90	2.80	496.80
図Ⅲ-3-36	H66	1	床面	スクレイバーバー	真岩	8	10.65	5.10	1.80	116.90
図Ⅲ-3-36	H66	2	床面	スクレイバーバー	真岩	15	10.85	5.30	2.75	142.10
図Ⅲ-3-37	H66	3	床面	スクレイバーバー	真岩	39	7.50	5.50	2.00	64.50
図Ⅲ-3-37	H66	4	床面	台石	安山岩	45	53.80	27.80	11.60	26500.00
図Ⅲ-3-37	H66	5	床面	台石	砂岩	46	42.30	30.60	12.70	23000.00
図Ⅲ-3-37	H67	1	床面	石槍又はナイフ	真岩	23	7.45	3.00	1.30	24.10
図Ⅲ-3-37	H67	2	床面	スクレイバーバー	真岩	32	5.40	3.70	2.00	32.00
図Ⅲ-3-37	H67	3	床面	スクレイバーバー	真岩	57	4.30	5.20	1.70	38.40
図Ⅲ-3-37	H67	4	床面	つまみ付きナイフ	真岩	25	7.60	3.95	1.75	37.90
図Ⅲ-3-37	H67	5	床面	石斧片	緑色泥岩	75	(7.10)	(4.00)	(3.00)	(113.80)
図Ⅲ-3-38	H67	6	床面	砾石	安山岩	62	39.90	31.10	8.40	12500.00
図Ⅲ-3-38	H67	7	床面	台石	砂岩	64	40.70	30.30	8.90	16500.00
図Ⅲ-3-38	H67	8	床面	台石	砂岩	58	38.00	24.50	13.00	17000.00
図Ⅲ-3-38	H67	9	HF-1覆土1	石製品	線刻理 泥灰岩	68	11.10	5.70	1.00	87.20
図Ⅲ-3-38	H67	10	床面	扁平打製石器	安山岩	18	6.60	(9.80)	3.00	(248.30)
図Ⅲ-3-38	H67	11	床面	扁平打製石器	砂岩	28	10.10	16.80	3.25	656.10
図Ⅲ-3-39	P43	1	覆土2層	石鏃	真岩	15	(2.95)	1.33	0.30	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	2	覆土2層	石鏃	真岩	25	2.90	(0.95)	0.34	(0.90)
図Ⅲ-3-39	P43	3	覆土2層	石鏃	真岩	28	2.72	1.11	0.28	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	4	覆土2層	石鏃	真岩	23	3.35	1.18	0.32	1.20
図Ⅲ-3-39	P43	5	覆土2層	石鏃	真岩	27	2.60	1.23	0.23	0.60
図Ⅲ-3-39	P43	6	覆土2層	石鏃	真岩	26	2.91	1.19	0.23	0.70
図Ⅲ-3-39	P43	7	覆土2層	石鏃	真岩	17	2.98	1.30	0.28	0.90
図Ⅲ-3-39	P43	8	覆土2層	石鏃	真岩	18	3.20	1.62	0.31	1.10
図Ⅲ-3-39	P43	9	覆土2層	石鏃	真岩	21	(3.14)	1.40	0.46	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	10	覆土2層	石鏃	真岩	22	3.42	1.52	0.35	1.50

図版番号	遺構番号	掲載番号	層位	分類	備考と石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
図Ⅲ-3-39	P43	11	覆土2層	石鏃	頁岩	13	3.53	(1.40)	0.31	(1.10)
図Ⅲ-3-39	P43	12	覆土2層	石鏃	頁岩	19	3.90	1.53	0.33	1.50
図Ⅲ-3-39	P43	13	覆土2層	石鏃	頁岩	24	6.38	1.66	0.42	3.50
図Ⅲ-3-39	P43	14	覆土2層	石鏃	頁岩	14	5.10	1.62	0.33	2.20
図Ⅲ-3-39	P43	15	覆土2層	石鏃	頁岩	16	4.85	2.75	0.50	2.70
図Ⅲ-3-39	P43	16	覆土2層	石鏃	頁岩	20	(4.26)	1.40	0.40	(1.70)
図Ⅲ-3-39	P43	17	覆土2層	石鏃	頁岩	12	4.43	(1.34)	0.35	(1.50)
図Ⅲ-3-39	P51	1	覆土	ドリル	頁岩	5	6.70	1.60	0.85	8.20
図Ⅲ-3-39	P51	2	覆土	石斧	緑色泥岩	7	(8.05)	4.00	1.45	(91.20)
図Ⅲ-3-39	P51	3	覆土	石製品	異形石器 頁岩	6	5.00	5.10	1.05	20.10
図Ⅲ-3-39	P55	1	底面	石斧	緑色泥岩	1	11.80	4.80	3.10	232.00
図Ⅲ-3-39	P55	2	底面	石槍又はナイフ	頁岩	4	10.35	2.90	0.75	15.70
図Ⅲ-3-39	P55	3	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	2	(8.65)	4.30	0.85	(27.40)
図Ⅲ-3-39	P55	4	底面	つまみ付きナイフ	頁岩	3	10.10	5.20	1.10	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	1	覆土	石槍又はナイフ	頁岩	34	6.34	4.80	1.13	19.00
図Ⅲ-3-40	P56	2	覆土	石斧未成品	片岩	28	10.10	3.30	1.40	42.70
図Ⅲ-3-40	P56	3	覆土	石斧	緑色泥岩	30	(7.70)	4.30	2.70	(154.40)
図Ⅲ-3-40	P56	4	覆土	石斧未成品	緑色泥岩	29	(14.90)	(6.70)	(4.30)	(552.90)
図Ⅲ-3-40	P56	5	覆土	石製品	頁岩	42	11.95	4.00	3.15	201.10
図Ⅲ-3-40	P56	6	覆土	扁平打製石器	砂岩	38	7.90	17.90	2.20	436.90
図Ⅲ-3-40	P56	7	覆土	扁平打製石器	砂岩	39	7.90	15.40	2.40	168.20
図Ⅲ-3-41	P56	8	覆土	扁平打製石器	砂岩	20①	9.40	17.90	3.50	679.40
図Ⅲ-3-41	P56	9	覆土	扁平打製石器	砂岩	20②	9.70	16.40	3.10	694.80
図Ⅲ-3-41	P56	10	覆土	扁平打製石器	砂岩	20③	6.90	15.40	2.30	404.60
図Ⅲ-3-41	P56	11	覆土	扁平打製石器未成品	流紋岩	21	(8.60)	(12.70)	2.10	(272.60)
図Ⅲ-3-41	P56	12	覆土	たたき石	砂岩	41	11.30	(8.30)	5.40	(618.10)
図Ⅲ-3-41	P56	13	覆土	礫石	凝灰岩	40	(13.10)	(7.90)	(2.00)	(195.80)
図Ⅲ-3-41	P56	14	覆土	礫石	砂岩	19	(14.50)	(7.20)	(7.20)	(540.80)
図Ⅲ-3-41	P56	15	底面	たたき石	珪岩	3	13.20	10.20	7.50	1190.00
図Ⅲ-3-41	P56	16	底面	扁平打製石器	流紋岩	8	13.70	7.20	1.90	249.30
図Ⅲ-3-42	P56	17	底面	スクレイバー	頁岩	4	5.90	5.20	0.98	34.40
図Ⅲ-3-42	P56	18	底面	コウド痕のある縁	石製品か 安山岩	1	39.10	16.00	12.30	12500.00
図Ⅲ-3-42	P56	19	底面	コウド痕のある縁	石製品か 砂岩	2	29.70	14.90	10.50	6500.00
図Ⅲ-3-43	F79	1	(H19内)H19覆土1層	台石片	北海道式石臼未成品か 安山岩	H19-300	12.50	19.70	9.70	2900.00
図Ⅲ-3-43	F79	2	(H19内)H19覆土3層	北海道式石冠	閃綠岩	H19-303	8.90	13.10	6.00	1080.00
図Ⅲ-3-43	F79	3	(H19内)H19覆土3層	たたき石	砂岩	H19-294	14.00	9.40	4.30	925.60
図Ⅲ-3-43	F82	1	沢1層(4SS)	扁平打製石器	流紋岩	73	7.40	12.80	1.60	172.10
図Ⅲ-3-43	F82	2	沢1層(44S)	北海道式石冠	安山岩	94	7.00	11.90	4.50	439.00
図Ⅲ-3-43	F82	3	覆土1層	たたき石	凹み石 砂岩	24	7.80	6.05	4.05	232.00
図Ⅲ-3-43	S5	1	覆土1層	台石	砂岩	6	30.90	(18.50)	9.90	(7117.80)

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第327集

北斗市

館野 6 遺跡(2) 補償道路地区

-高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書-

平成28年 9月30日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

TEL (011)386-3231(代表) FAX (011)386-3238

印 刷 柏陽印刷株式会社

〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号

TEL (011)789-2377 FAX (011)789-2376

E-mail : info@hakuyo-print.jp <http://hakuyo-print.jp/>
